八里向山遺跡群

－八里台住宅団地造成事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－

２００４年３月

石川県小松市教育委員会

例　言

1. 本書は大洋不動産株式会社が施工する『八里台住宅団地造成』に伴って、小松市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査及び出土品整理は、大洋不動産株式会社の委託を受け、小松市教育委員会が行った。
3. 発掘調査の調査地、調査面積、調査期間、調査担当者は次のとおりである。

〔調　査　地〕石川県小松市上八里町向山20番地他

〔全調査面積〕約23,500㎡(A遺跡約10,000㎡、B遺跡約4,000㎡、C遺跡約2,000㎡、D遺跡約3,500㎡、F遺跡約3,000㎡、G遺跡約100㎡、H遺跡約200㎡、I遺跡約200㎡、J遺跡約500㎡)

〔全調査期間〕　平成5年10月25日～平成9年9月8日

A遺跡〔調査担当者〕樫田　誠、福海貴子　　〔調査期間〕平成8年4月13日～平成9年5月14日

B遺跡〔調査担当者〕樫田　誠　　〔調査期間〕平成7年4月10日～平成8年2月28日

C遺跡〔調査担当者〕樫田　誠　　〔調査期間〕平成6年4月20日～平成6年12月25日

D遺跡〔調査担当者〕樫田　誠　　〔調査期間〕平成5年10月25日～平成6年8月19日

F遺跡〔調査担当者〕樫田　誠　　〔調査期間〕平成7年10月20日～平成8年11月6日

G遺跡〔調査担当者〕樫田　誠　　〔調査期間〕平成7年5月31日～平成7年6月27日

H遺跡〔調査担当者〕樫田　誠、川畑謙二　　〔調査期間〕平成9年5月20日～平成9年9月8日

I遺跡〔調査担当者〕宮下幸夫、樫田　誠　　〔調査期間〕平成9年6月3日～平成9年8月14日

J遺跡〔調査担当者〕宮下幸夫　　〔調査期間〕平成9年4月14日～平成9年7月11日

4. 遺構の測量については、望月精司、津田隆志、坂下雅子、坂下義視、橋本正博、岩本信一、西田由美子、向井裕知、中田角矢、野水晃子、春名理史、室梅義彦、山田英昭、山口かなえの協力を得ている。また、航空測量は株式会社日本テクニカルセンター、デジタル測量に関してはアジア航測株式会社が実施した。
5. 出土品整理及び遺物実測・製図については、平成6年度から平成15年度にかけて、出土品整理臨時作業員を雇用し、樫田・望月・津田・川畑・宮田・下濱が担当した。
6. 本書の編集は下濱が担当し、望月・津田・川畑・宮田・下濱が執筆した。執筆分担は目次に表記した。
7. 本書内の弥生～古墳時代の鉄製品に関しては、樫田佐和子・下濱の協力を得て林　大智氏（財団法人　石川県埋蔵文化財センター所属）が担当し、第Ⅴ章第4節鉄製品については、同氏に玉稿をいただいた。記して感謝の意を表したい。
8. 土壌自然化学分析については、パリノ・サーヴェイ株式会社が実施し、B遺跡出土石器の石質鑑定については、関戸信次氏のご指導を受けた。
9. 写真撮影は、遺構を上記調査担当者が実施し、遺物を第Ⅲ章(宮田)、第Ⅳ章(下濱)、第Ⅴ章(津田・下濱)、第Ⅵ章（望月)、第Ⅶ章（川畑）が担当し、空中写真を株式会社日本テクニカルセンターに委託した。なお、第Ⅵ章遺構写真の一部は、望月個人スナップ写真を使用した。
10. 本書で示す方位は、全て真北であり、水平基準は海抜高（m）で示している。なお、調査区におけるグリッドは国土座標（旧座標）に基づき設定されている。
11. 本調査において出土した遺物を始め、遺構・遺物の実測図・写真等の資料は、小松市教育委員会が保管している。
12. その他、発掘調査から報告書の作成にいたるまで、以下の機関・団体・個人より御協力、御指導を賜った。記して感謝の意を表したい。(敬称略、五十音順)

赤澤徳明、浅野良治、諫山えりか、伊藤雅文、宇野隆夫、岡崎晋明、垣内光次郎、河合　忍、木立雅明、北野博司、楠　正勝、久保智康、小林正史、後藤建一、笹澤正史、塩田明弘、篠宮　正、須藤英之、高野陽子、高橋浩二、谷口恭子、出越茂和、中屋克彦、中山由美、錦田　剛、西田昌功、西野秀和、丹羽野　裕、布尾和史、信里芳紀、橋本達也、菱田哲郎、深澤芳樹、福島正実、藤原　学、古川　登、麻柄一志、三好孝一、向井裕之、森内秀造、森田喜久男、安　英樹、米田美江子、渡辺　一

目　次

第Ⅰ章　遺跡の位置と環境 ……（下濱）……1
第Ⅱ章　八里向山遺跡群の調査概要 ……（下濱）……4
第1節　調査に至るまでの経緯 ……4
第2節　調査概要 ……6
第Ⅲ章　旧石器～縄文時代 ……（宮田）……17
はじめに ……17
第1節　層位的所見と検出された遺構 ……17
第2節　遺物の出土状況 ……37
第3節　遺物 ……55
第4節　八里向山C遺跡　土壌自然科学分析結果 ……（パリノ・サーヴェイ㈱）……89
第5節　補遺 ……95
まとめ ……96
写真図版 ……97
第Ⅳ章　弥生時代後期～古墳時代前期 ……（下濱）……105
はじめに ……105
第1節　A遺跡の遺構と遺物 ……105
第2節　C遺跡の遺構と遺物 ……166
第3節　D遺跡の遺構と遺物 ……191
第4節　包含層等出土遺物と土器観察表 ……206
まとめ ……224
写真図版 ……227
第Ⅴ章　古墳時代中期 ……241
第1節　F遺跡中期古墳の概要 ……（津田）……241
第2節　遺構 ……（津田）……242
第3節　土器 ……（津田）……286
第4節　鉄製品 ……（林）……291
第5節　玉類 ……（津田）……321
写真図版 ……331
第Ⅵ章　飛鳥・奈良・平安時代 ……（望月）……341
第1節　八里向山遺跡群における当期の遺跡分布と周辺の状況 ……341
第2節　B遺跡Ⅱ区の宗教関連遺構と遺物 ……343
第3節　C遺跡の遺構と遺物 ……360
第4節　D遺跡の遺構と遺物 ……361
第5節　I遺跡の須恵器生産関連遺構と遺物 ……363
第6節　J遺跡の須恵器生産関連遺構と遺物 ……382
第7節　総括 ……407
写真図版 ……425
第Ⅶ章　鎌倉・室町時代 ……（川畑）……443
第1節　C遺跡の調査 ……443
第2節　F遺跡の調査 ……443
第3節　H遺跡の調査 ……456
第4節　出土遺物 ……513
第5節　総括 ……532
写真図版 ……541

第Ⅰ章　遺跡の位置と環境

八里向山遺跡群は、石川県小松市上八里町地内に位置する。現在は住宅団地が立ち並び、八里台と称する。

小松市は、石川県西南部に位置し、北西一帯は日本海に面し、南端は大日山を境に福井県勝山市に接している。白山前山丘陵を形成する能美・江沼丘陵から海岸部までを擁する南北に長い市域は、梯川等によって形成された沖積平野と、南側には加賀三湖（柴山潟、今江潟、木場潟）がみられ、三湖周辺には潟埋積平野、柴山台地、月津台地が存在する。小松市市域を貫流する主な河川は、梯川水系と手取川支流大日川水系であり、梯川は大日山の麓、鎗ケ岳に源流を発し、郷谷川、大杉谷川、滓上川、西俣川、鍋谷川を支流にもつ。山間部から日本海へと抜ける梯川の川道は、古くから交通の要所であったことを窺わせる。また天気の良い日では、梯川河口から、川が白山に通ずるかのごとく、白山は中央に聳え立ち、この地におけるランドマークと思わせる情景である。

第1図　小松市の位置

遺跡が所在する上八里町は、能美丘陵の縁辺、小松市域北縁に位置する。町域は南北に低丘陵を有し、農村は町の中央、東西に流れる鍋谷川の谷平野に広がっている。町域の中央に流れる鍋谷川は、源を揚原山に発し、西北に流れて寺畠に至った後、能美丘陵の支流と合流し西流して、千代にて梯川と合流し南下している。

「八里」の名の由来は、後一条天皇の長元以後は「八里村」と称しているとあるが、伝承でしかなく使用年は定かでない。ただ、文永七年五月　石清水文書に「弥里殿（いやさと）」の名がみえるのが、文献上ではもっとも古く「八里」と結びつくものである可能性が高い。「上八里」「下八里」の名称がみられるようになるのは、近世からであり、加賀国能美郡「上八里村」「下八里村」の村名が、明治22年「上八里」「下八里」となり、当初里川村に所属していたものが、明治40年からは国府村に所属し、「上八里」は国府村の中央に位置するため、村役場も設置されていたようである。

町域の北側に存する能美丘陵に話を移そう。八里向山遺跡群は、同丘陵縁辺部の尾根上（標高約35～40m）に立地する。遺跡の存する丘陵は、南は鍋谷川の谷平野、北は手取川扇状地で画され、行政区分上、能美郡寺井町、能美郡辰口町、小松市の3行政区にまたがる。丘陵裾部は耕地化が進み、丘陵と平野は明瞭に分かれているようにみえるものの、実際は、丘陵と平野の境は尾根続きの微高地が舌状に平野に張り出しており、小谷と複雑に入り組んだ地形を形成していたのであろう。小松市域（上八里町・下八里町）は、縁辺のみで、北は約40～50mの丘陵頂部にて能美郡寺井町と区画され、東は谷を挟み能美郡辰口町との境とする。

本章では、当遺跡の周辺に分布する遺跡について略述するものであり、詳細に関しては、各章の記述を参照されたい。以下、旧石器時代から順に周辺の遺跡を概観する。

本遺跡周辺に存在する遺跡は、後期旧石器時代からみられ高位段丘面に点在する。続いて、縄文時代中期以降、遺跡は丘陵周縁部に点在しており、縄文時代晩期～弥生時代後期前半間は沖積平野へと主体を移している。その後、丘陵部に遺跡がみられるのは、弥生時代後期後半からであり、平野に面した丘陵縁辺部に集落が営まれている。古墳時代には、梯川中流域両岸にて集落遺跡数は増加し、その集落を見渡すことのできる丘陵縁辺部では、多数古墳（能美古墳群）が作られている。古墳の築造は、この前期から終末期まで各期にわたり、ほぼ継続的になされているといえよう。なお、手取扇状地を見渡せる高所に面する丘陵の北側には、下開発茶臼山古墳群・荒屋古墳群が並び、平地を挟んだ向かいには独立小丘群（和田山・末寺山・寺井山・秋常山古墳群）がみられ、遺跡が存する南側は、八里向山F遺跡（古墳群）・河田山向山古墳群がみられ、鍋谷川の谷平野を挟み、河田山古墳群がみられる。しかし、古墳時代後期には丘陵に古墳がみられるものの、梯川中流域の遺跡からは遺物・遺

構とも急激な減少をみせ、平安時代に至るまで減少・縮小方向である。古代にはいり、当丘陵を特色づけるものとしては、7世紀から9世紀にかけて丘陵一帯に展開して主に須恵器生産した「能美窯跡群」があげられる。

8世紀後半に加賀地方では少数ながら初期荘園の開発が興るようで、9世紀には弘仁14年（823）加賀国が越前国より分離して立国する。国府が設置された場所として古府台地上が有力視されているが、周囲一帯における調査面積が少なく、確証は発見されていない。また、9世紀中頃から当丘陵では古代山林寺院（八里向山B遺跡）がみられるようになるのは、加賀国府近隣地であり、連動した動きである可能性が高い。9世紀後半から10世紀には、梯川中流域にて活動が再び活発となり、中世までこの傾向は続き、能美丘陵周辺では、中世にはいると経塚、墳墓が点在してみられるようになる。

引用参考文献

浅香年木他 1981『角川日本地名大辞典』17 石川県　角川書店

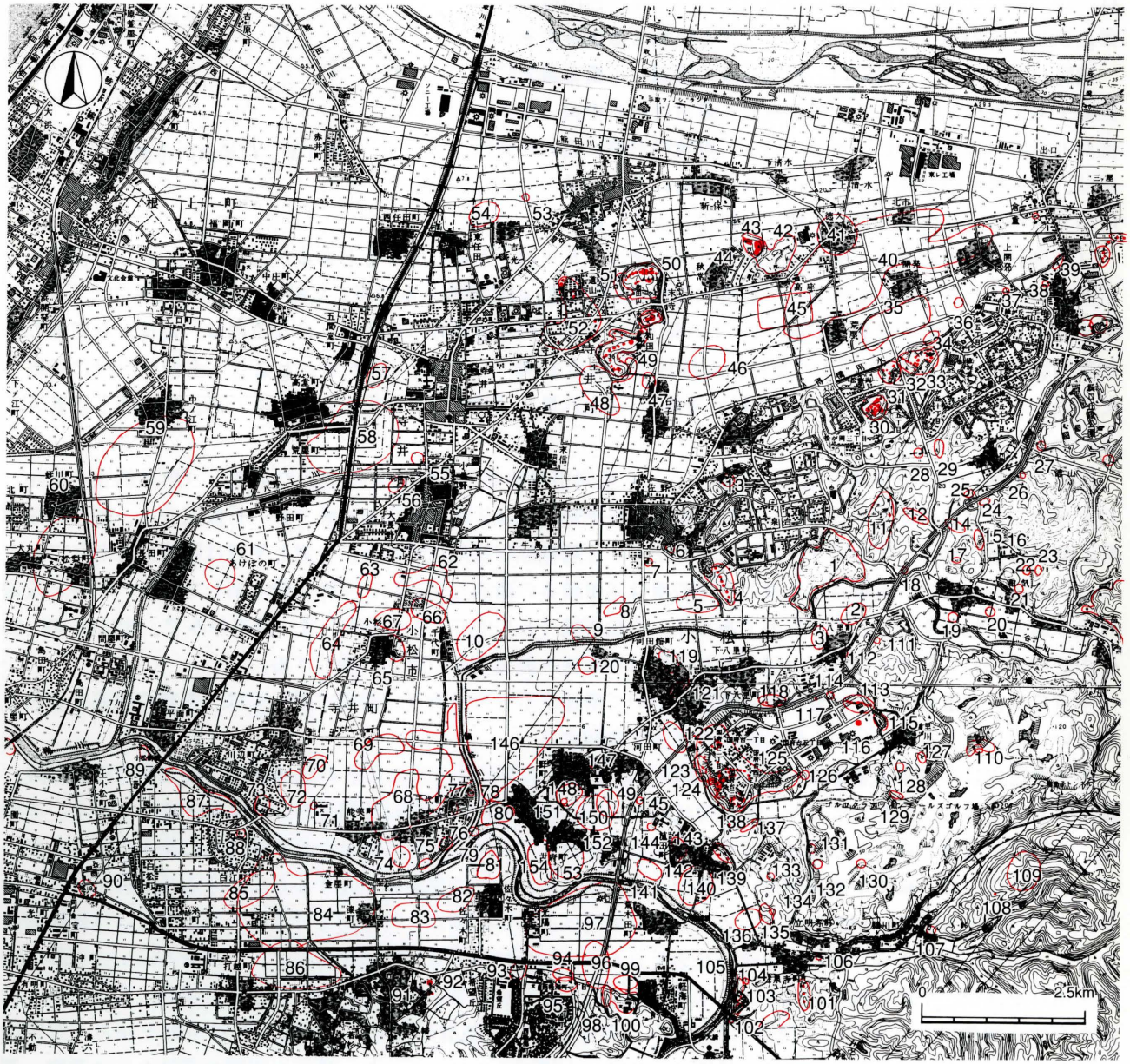
石川県教育委員会 1992『石川県地図』

国府村史編纂委員会 1956『国府村史』　国府村役場

㈶石川県埋蔵文化財センター 2001『小松市ブッショウジヤマ古墳』

㈶石川県埋蔵文化財センター 2002『小松市一針遺跡・一針C遺跡』

日置　謙他 1923『石川県能美郡誌』石川県能美郡役所



第2図　周辺の遺跡の分布（S＝1/50,000）

番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名
1	八里向山遺跡群（A・B・C・D・E・F・G・H・I・J）（旧石器～縄文・弥生後期～中世）	50	末寺山1～17号墳　（古墳）	103	仏生寺跡　（中世）
		51	末寺山下遺跡　（平安）	104	仏生寺塚　（中世）
2	上八里中世墓　（室町）	52	寺井山1～6号墳　（古墳）	105	遊泉寺遺跡　（縄文）
3	上八里A遺跡　（縄文・平安）	53	吉光一里塚　（江戸）	106	湧泉寺跡　（平安初期）
4	向山古墳群　（古墳）	54	吉光遺跡　（弥生・室町）	107	常徳寺跡　（室町）
5	河田向山下遺跡　（縄文・平安）	55	小長野遺跡　（不詳）	108	鵜川横穴　（古墳）
6	狭野神社前遺跡　（平安）	56	小長野B遺跡　（古墳）	109	鵜川堡跡　（古墳）
7	佐野B遺跡　（弥生末・古代・中世）	57	高堂四方堂遺跡　（弥生）	110	里川A遺跡　（不詳）
8	佐野八反田遺跡　（奈良・平安）	58	高堂遺跡　（弥生～中世）	111	上八里B遺跡　（奈良）
9	佐野A遺跡　（弥生）	59	中ノ江遺跡　（古墳）	112	上八里2号窯跡　（不詳）
10	牛島ウハシ遺跡（古墳前期・奈良・平安）	60	松梨遺跡　（弥生～中世）	113	上八里横穴墓群　（不詳）
		61	長田遺跡　（弥生末～古墳）	114	上八里C遺跡　（奈良）
11	和気1～3号窯跡　（平安・不詳）	62	牛島宮の島遺跡　（平安）	115	上八里D遺跡　（不詳）
12	下徳山金谷地遺跡　（奈良）	63	大長野B遺跡　（不詳）	116	上八里1号窯跡　（不詳）
13	湯谷遺跡　（古墳前期）	64	大長野A遺跡　（弥生後期～古墳前期）	117	穴場横穴　（古墳）
14	下徳山トモサダ遺跡　（不詳）	65	千代デジロB遺跡　（弥生・古墳・平安）	118	下八里横穴群　（中世）
15	和気和田見遺跡　（平安）	66	千代デジロC遺跡　（古墳・平安）	119	河田館遺跡　（縄文中期～中世）
16	和気和田見窯跡　（平安）	67	千代デジロA遺跡　（弥生・古墳・中世）	120	下出地割遺跡　（不詳）
17	和気近世窯跡　（近世）	68	千代オオキダ遺跡　（弥生・古墳～中世）	121	谷内横穴　（古墳）
18	和田下和気窯跡　（平安）	69	千代能美遺跡　（古墳・奈良～中世）	122	河田横穴　（不詳）
19	和気矢口A遺跡　（縄文中期）	70	一針C遺跡　（弥生後期）	123	河田C遺跡　（不詳）
20	和気公文屋敷跡　（不詳）	71	定地坊跡　（室町）	124	河田B遺跡　（奈良）
21	和気中和気窯跡　（平安）	72	一針B遺跡　（弥生中期～古墳前期）	125	河田山古墳群（弥生後期～古墳後期）
22	後山谷2号窯跡　（平安）	73	一針遺跡　（縄文）	126	河田山窯跡　（不詳）
23	後山谷1号窯跡　（平安）	74	千代マエダ遺跡　（古墳～平安）	127	里川B遺跡　（不詳）
24	下徳山御量山遺跡　（平安）	75	千代本村遺跡　（古墳）	128	里川G遺跡　（不詳）
25	下徳山D遺跡　（奈良末）	76	横地遺跡　（縄文）	129	里川C遺跡　（不詳）
26	下徳山杉谷窯跡　（奈良）	77	千代城跡　（室町）	130	里川D遺跡　（縄文中期）
27	下徳山B遺跡　（平安）	78	小野町遺跡　（古墳）	131	里川F遺跡　（平安）
28	下徳山A遺跡　（奈良末～平安）	79	フドンド遺跡　（平安）	132	里川E遺跡　（平安）
29	下徳山C遺跡　（不詳）	80	古府遺跡　（平安中期）	133	埴田塚　（中世）
30	荒屋1～8、17～20号墳（A支群）　（古墳）	81	佐々木アサバタケ遺跡　（弥生～中世）	134	隆明寺跡　（平安初期）
		82	佐々木ノテウラ遺跡　（弥生～中世）	135	遊泉寺・クボタA遺跡　（平安～中世）
31	荒屋9～16号墳　（B支群）（古墳）	83	佐々木遺跡　（弥生後期～古代）	136	遊泉寺・クボタB遺跡　（平安～中世）
32	下開発茶臼山1～28号墳　（古墳） 下開発茶臼山遺跡　（縄文・中世）	84	漆町遺跡　（弥生～中世）	137	埴田山1・2号墳　（古墳）
		85	白江念仏堂遺跡　（弥生～中世）	138	御菩提所古墳　（古墳）
33	茶臼山製鉄跡遺跡　（不詳）	86	打越遺跡　（弥生～中世）	139	埴田後山明神1・2・4号墳、埴田後山無常堂古墳　（古墳）
34	下開発クモンミヤ遺跡　（平安～中世）	87	白江梯川遺跡　（弥生・中世）		
35	下開発遺跡　（古墳後期～平安）	88	白江堡跡　（室町）	140	埴田遺跡　（奈良・平安）
36	上開発カワリダ遺跡　（中世）	89	平面梯川遺跡　（弥生後期）	141	埴田ウラムキ遺跡　（平安・中世）
37	上開発古墳　（古墳）	90	上小松遺跡　（平安）	142	埴田フルカワ遺跡　（古墳）
38	辰口ましじやま古墳　（古墳後期）	91	八幡2号墳　（古墳）	143	宮谷寺屋敷遺跡　（縄文・室町）
39	辰口本村遺跡　（古墳） 辰口八幡神社1・2号墳　（古墳）	91	八幡行者塚古墳　（古墳）	144	埴田ミヤンタン遺跡　（不詳）
		92	八幡大塚古墳　（古墳）	145	埴田ミヤケノ遺跡　（不詳）
40	徳久・荒屋遺跡　（縄文～中世）	93	大谷口遺跡　（弥生後期）	146	古府しのまち遺跡（古墳前期～中世）
41	徳久山上郷館跡　（不詳）	94	軽海遺跡　（弥生～近世）	147	十九堂山遺跡　（平安・中世）
42	西山横穴群　（古墳後期）	95	亀山玉造遺跡　（古墳前期）	148	小野窯跡　（江戸）
43	西山1～14号墳　（古墳）	96	軽海西芳寺遺跡　（縄文中期～中世）	149	小野スギノキ遺跡　（平安・中世）
44	秋常茶臼山1・2号墳　（古墳）	97	荒木田遺跡　（古墳～中世）	150	小野遺跡　（平安）
45	高座遺跡　（縄文・古墳・中世）	98	軽海中世墓群　（鎌倉末期～室町）	151	十九堂山中世墓群　（中世）
46	秋常遺跡　（平安）	99	西芳寺遺跡　（平安・中世）	152	古府横穴　（古墳）
47	石子遺跡　（中世）	100	軽海廃寺　（平安後期）	153	南野台遺跡　（縄文中期・古墳）
48	和田山下遺跡　（縄文・古墳）	101	宮の奥1～3号経塚　（平安～鎌倉）	154	古府シマ遺跡　（平安・中世）
49	和田山1～24号墳　（古墳）	102	ブッショウジヤマ古墳群　（古墳）		

第Ⅱ章　八里向山遺跡群の調査概要

第1節　調査に至るまでの経緯

八里向山遺跡群の発掘調査は、大洋不動産株式会社が実施した上八里・下八里地内団地造成に係るものである。大洋不動産株式会社の協議対象となる当概予定区域内は周知の遺跡である向山遺跡が存していたため、詳細分布調査が必要である旨を大洋不動産株式会社に回答を行う。その後、平成3年12月26日付けで大洋不動産株式会社より依頼を受けて、平成4年6月23日～12月20日の期間に、事業計画地219,922㎡を対象に詳細分布調査（試掘調査及び踏査）を実施。試掘トレンチは、養鶏場で削平されている部分を除き、約90本設定した。調査方法は人力による掘削及び人力による掘り下げが困難と思われる一部の地点については、重機を使用して行った。結果、当該予定区域内の尾根にはすべて遺跡が存在し、7ヶ所を数えるに至った。この7ヶ所の遺跡は「八里向山遺跡群」と総称し、それぞれを八里向山A、B、C、D、E、F遺跡、地蔵谷古窯跡と呼称することにした。これらの遺跡の保存について、事業者との協議の結果、最も規模が大きい八里向山E遺跡は現状保存する形とし、その他の遺跡に関しては、発掘調査による記録保存対応とした。

第3図は、試掘トレンチ（TT）のおおよその位置図である。以下には調査の所見および、大洋不動産株式会社に対する結果報告の一部を抜粋したものである。なお、（　）内は発掘調査報告時の名称である。

試掘トレンチの調査所見

A遺跡　「弥生時代終末期集落跡、表面は開拓により、全面削平されているが遺構は部分的に残存」

A－3TT　ピット2基検出

A－4TT　浅い溝状遺構（？）現況畑の溝か。須恵器甕1片。

A－5TT　整地面（？）にピット1基検出

A－7TT　表土直下の盛土層より石鏃出土。最下層に土器包含（**埋谷**）。

A－10TT　直径約40cm土坑（**SB01の柱穴**）炭層で土器出土。スケッチ後取り上げ。

A－12TT　黒褐色覆土もつ浅い掘り込み貼床状の面に直径約20～25cmの浅いピットが並んでいる（**道路状遺構**）竪穴プラン検出、底面貼床状で完形の壺出土（**SI01**）。

A－16TT　土坑検出、土器出土。

A－17TT　切り盛りされた整地面検出。盛土層下旧表土層直下に土器包含。

A－18TT　竪穴プラン、貼床面検出。土器多い（**SI02**）。

A－19TT　盛土による整地層。下底の旧表土層直下に土器包含。

A－21TT　盛土層下に土器包含。

A－22TT　斜面上にピット1基と土器出土。

B遺跡　「旧石器時代遺物散布、縄文時代集石遺構検出。石垣及び石列を確認、平安時代の寺院跡か？」

B－6TT　整地面（**テラスⅠ**）で石列検出、2箇所で土器出土。

B－8TT　整地面（**テラスⅡ**）で焼土面検出。土器出土。

B－9TT　土器出土。

B－11TT　焼壁土坑（**SK01**）と被熱礫の集石遺構（**SI01**）検出。縄文土器2片（**SK02**）。

B－13TT　ナイフ形石器出土。

B－15TT　縄文土器1片出土。

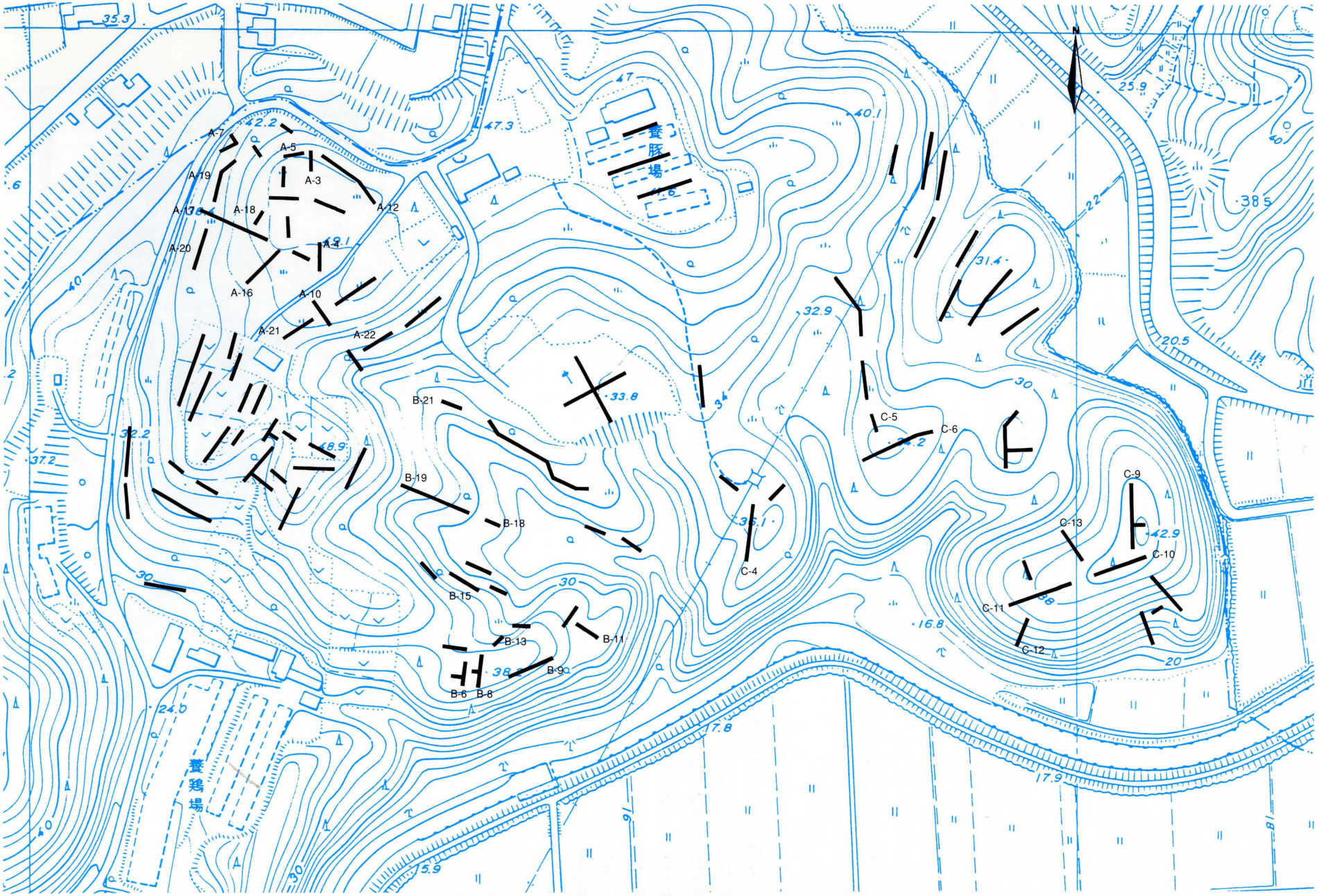
C遺跡　「縄文時代・弥生時代終末期遺物散布地」

C－4TT　縄文土坑（**SK01**）検出。中期初頭。

D遺跡　「縄文時代遺物散布、古墳前期と思われる溝を検出」

C－5TT　縄文石器かたまって出土。

C－6TT　周溝より完形高坏出土（**SX01**）。



第3図　八里向山遺跡群 試掘トレンチ位置図（S=1／2,500）

E 遺跡　「旧石器時代遺跡、弥生時代終末期集落、古墳、奈良時代建物跡等を確認」

C－9TT　竪穴状のプランと、方墳周溝検出。

C－10TT　竪穴状のプラン 3 箇所。うち 1 箇所より奈良時代須恵器多く出土。

C－11TT　旧石器出土。竪穴状プランあるも不明瞭。

C－12TT　旧石器出土。

C－13TT　竪穴住居または環濠の可能性あるプラン検出。表土直下層に土器がかたまって出土。

F 遺跡　「塚？古墳？」

「三叉谷」**（調査完了時に湧水点は「G 遺跡」に変更）**

B－18TT　須恵器出土。

B－19TT　湧水点への通路遺構か導水遺構？須恵器出土。

B－21TT　弥生土器散見。流れ込みか。

地蔵谷古窯跡（調査完了時に「J 遺跡」に変更）「7 世紀初頭須恵器窯 1 基、窯体残存、灰原は市道が分断」

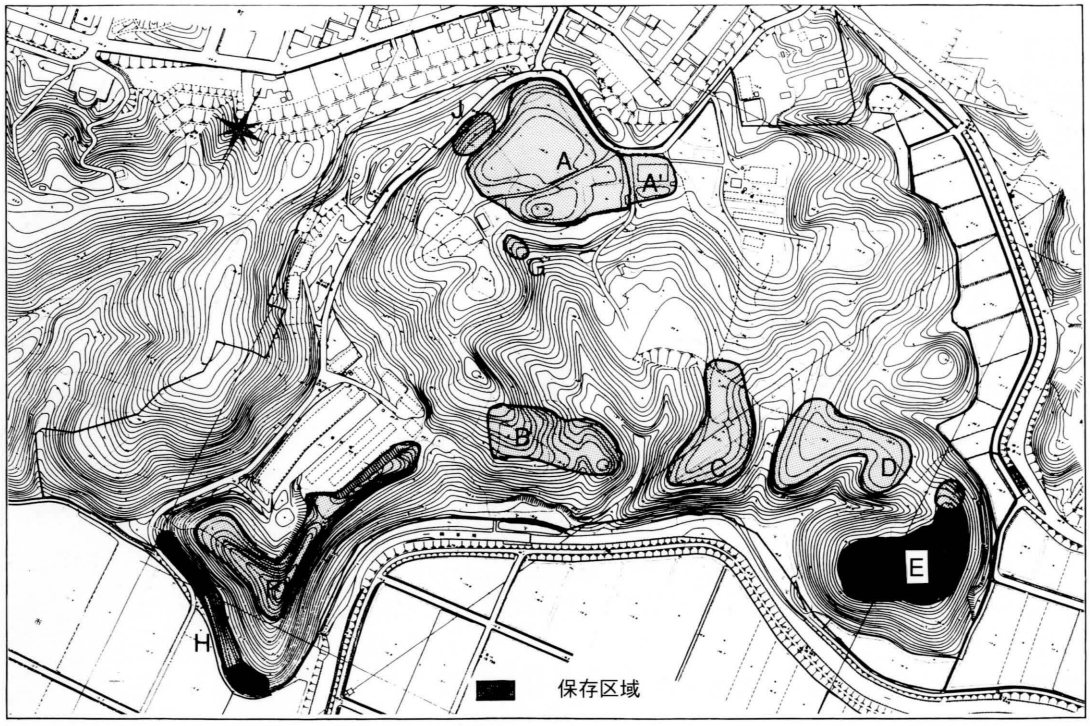
A－20TT　堅い粘土層の下に黒色土層、窯内埋土的。

市道法面　横穴状の凹み、黒土層に須恵器甕破片あり。

第 2 節　八里向山遺跡群の調査概要

第 1 項　調査概要

平成 5 年 8 月 27 日付けで発掘調査依頼が提出され、平成 5 年度から平成 8 年度にかけて約 3 年半という長期にわたる発掘調査の計画が、試掘調査の結果を基に立てられた。発掘調査は思いの外、遺跡が良好に残っており、重要性の高いものの出土が相次いだことと、新規の遺跡の発見（八里向山 G 遺跡、八里向山 H 遺跡、八里向山 I 遺跡）による調査面積の増加から、期間は大洋不動産株式会社の誠意ある対応を受け、延長することになった。最終年度に実施した八里向山 H 遺跡に関しては、休日なく調査を行ったが、石囲いの集積墓群は膨大な量であり、やむおえなく道路下での一部保存という例外的措置と工事にかからない一部は現状保存を行った。こうして発掘調査は、平成 9 年 9 月 8 日に終了した。



第4図　八里向山遺跡群　遺跡分布図（S=1／4,000）

第2項　各遺跡の全体概要

八里向山遺跡群は、旧石器、縄文、弥生、古墳、古代寺院、窯、中世の集石墓群と多岐にわたり、1遺跡内に重複する箇所がある。よって、各章における時期毎の報告に入る前に、全体概要を遺跡別に述べるものとする。その際に、時代の重複をみせる尾根上に展開する遺跡全体図を提示するものとし、第6図、第5図、第7図、第8図、第9図はそれぞれ、A遺跡、B遺跡、C遺跡、D遺跡、F遺跡に該当する。なお、遺構名は調査時の通し番号をそのまま報告時でも採用しているため、遺構名は遺跡毎に付くものである。

時期毎に説明される各章での遺跡・遺構配置等の確認に使用していただきたい。

八里向山A遺跡

・**調査期間**：平成8年4月13日～平成8年12月24日～冬季中断～平成9年2月24日～平成9年5月14日

・**調査面積**：約10,000㎡

・**調査担当者**：樫田　誠、福海貴子

・**概　要**：10,000㎡をこえる調査区は、標高地約50mと丘陵部の中ではもっとも高く、平坦面をもつ尾根である。見晴らしが良く、遺跡群全体を一望できる。調査区は植林等による土地利用のため、東側に関してはかなりの削平を受けていたものの、北側に関しては予想以上に良好な残りであった。尾根裾は急な傾斜をしており、一部道路に面する箇所は削平を受けている。なお、南側に位置する谷部は、削平した際の土が盛土されており、表土が残存している状況であった。硬化面は確認できなかったが、湧水地（G遺跡）への通路として利用されたものと思われる。西側斜面には地蔵谷と呼称される谷が存在し、その斜面中腹には7世紀中葉の窯跡（J遺跡）が1基確認されている。尾根上には、縄文時代の遺物の表採をはじめとして、弥生時代終末期の集落跡が主に展開し、時期不詳（古代～近世）の道路状遺構は複数にわたって遺跡内を横断している。当遺跡でみられる住居・建物跡は全て弥生時代のものであり、中小規模の竪穴住居はなく、竪穴住居（SI01、SI02）はいずれも直径10mを超える大型の円形住居である。SI01に関しては、3回の立て替えが行われ、焼失家屋として廃絶している。掘立柱建物跡は14棟確認され、そのうちの布堀建物であるSB06、07は2棟並んで、尾根上でも高い中央部に配置されている。なお、調査グリッドの設定は、国土座標に基づき、10m間隔のメッシュを設定している。x=47.460、Y＝－57.430をA－1とし、東西方向にアラビア数字、南北方向にアルファベットでグリッド表示している。遺物の取上げは、埋谷の一部を除いて地点とレベルを記入して取り上げている。

八里向山B遺跡

・**調査期間**：平成7年4月10日～平成8年2月28日

・**調査面積**：約4,000㎡

・**調査担当者**：樫田　誠

・**概　要**：調査区は、南側直下に鍋谷川を望む狭い尾根上に位置している。北西側がもっとも高く標高約40mを示し、東側にかけて尾根は伸び、ゆるやかに下がっている。遺跡内には旧石器、縄文早期・中期～晩期、平安時代初頭の寺院跡と複数にわたって展開している。Ⅰ区にはA丘、B丘と2つの高まりがあり、その中間にあたるゆるやかな谷地形の部分に縄文時代の集石遺構（SI01）がみられる。当初、A丘、B丘は古墳の可能性も考えられたが、周溝及び遺物等の検出はみられなかった。Ⅱ区には主に寺院跡が展開しており、尾根頂上に近い斜面には上下2段の広い平坦面が造成されている。下段にあたる北側のテラスⅡは、排水溝で区画された総柱建物跡1棟が配置され、重複して排水溝からはみ出した形でもう1棟総柱建物跡が建てられている。南側のテラスⅢには、同様に排水溝に区画された掘立柱建物跡が1棟配置されている。上段にあたるテラスⅠには、本堂と考えられる礎石建物跡（2間×5間）が配置されている。なお、調査グリッドの設定は、国土座標に基づき、10m間隔のメッシュを設定している。x=47.230、Y＝－57.310をA－1とし、東西方向にアラビア数字、南北方向にアルファベットでグリッド表示している。遺物の取上げは、地点とレベルを記入して取り上げている。

八里向山C遺跡

・**調査期間**：平成6年4月20日～平成6年12月25日

・**調査面積**：約2,000㎡

・**調査担当者**：樫田　誠

・**概　要**：調査区は、B 遺跡と D 遺跡との谷を挟んでちょうど中間に位置した尾根である。北側がもっとも高く標高 35m を示し、平坦面はゆるやかに南部に広がるものの、鍋谷川に向かうに従い、急な傾斜がみられる。調査区からは、旧石器、縄文、弥生時代終末期、古墳前期、奈良時代と複数の時代のものがみられる。北側のもっとも高い箇所には、全長 20m の前方後方墳が造成されている。調査区の中で古墳は 1 基のみあるが、調査区外にあたる南側の先端部には、方墳が 1 基存在する可能性もある。奈良時代の遺物は、SI02 周辺の鍋谷川へと続く谷から一部みられのみで、建物跡は不明である。尾根上には主に弥生時代終末期の遺構が広がり、南側の平坦面には掘立柱建物が 6 棟、傾斜に入る箇所に竪穴住居跡（SI01、SI02）が配置されている。また、前方後方墳の盛土下からは、溝に囲まれた掘立柱建物跡がみつかっている。この建物跡は、柱穴、溝内から弥生時代終末期の遺物がみられることから、1 つだけ離れて配置されているものの、尾根上の北側に展開する建物跡と同時期のものと思われる。なお、調査グリッドの設定は、国土座標に基づき、10m 間隔のメッシュを設定している。なお、遺物の取上げは、地点とレベルを記入して取り上げている。

八里向山 D 遺跡

・**調査期間**：平成 5 年 10 月 25 日～冬季中断～平成 6 年 4 月 15 日～平成 6 年 8 月 19 日

・**調査面積**：約 3,500 ㎡

・**調査担当者**：樫田　誠

・**概　要**：A 遺跡の次に平坦面を持つ尾根であり、C 遺跡と E 遺跡から谷を挟んだ間の尾根にあたる。標高地はもっとも高いところで、32m を示し、遺跡群の中では、もっとも低い尾根に相当する。尾根の形状から、鞍部を境に Ⅰ 区、Ⅱ 区と区分している。Ⅰ 区からは、旧石器、縄文時代の遺物及び弥生時代終末期の竪穴住居跡（SI02）、古墳時代前期の方墳 2 基（SX01、SX02）、奈良時代の竪穴住居跡（SI01）が検出している。Ⅱ 区は古墳の可能性を念頭に置き、調査を行ったが、周溝、遺物等は確認できなかった。また、SX01 からは棺跡が 3 基確認され、第 1 主体部、第 2 主体部からは副葬品として鉄製品が出土している。なお、調査グリッドの設定は、国土座標に基づき、10m 間隔のメッシュを設定している。x=47.340、Y＝－57.110 を A－1 とし、東西方向にアラビア数字、南北方向にアルファベットでグリッド表示している。

八里向山 E 遺跡

保存区域である。遺跡群の中では、削平を受けておらず、良好な状態を示す箇所である。遺跡範囲内の中央がもっとも高く、標高 41m を示し、南側は鍋谷川と面している。北～東側にかけては勾配が強く、現状では水田が尾根の形状に沿って広がっている。その斜面中腹には 1 基単独立地する窯跡（I 遺跡）がある。尾根上には、試掘調査の結果から、旧石器、弥生時代終末期の竪穴状プランと環濠、前期古墳数基、奈良時代の竪穴状プランを確認している。

八里向山 F 遺跡

・**調査期間**：平成 7 年 10 月 20 日～冬季中断～平成 8 年 4 月 13 日～平成 8 年 11 月 6 日

・**調査面積**：約 3,000 ㎡

・**調査担当者**：樫田　誠

・**概　要**：丘陵の南端部にあたり、遺跡群の中で上八里町に迫り出す尾根である。もっとも高い位置は迫り出す頂上にあたり、標高 41m を示す。ここからは八里向山遺跡群を背に、上八里、下八里の集落がパノラマ状に見渡せる。調査区はちょうど迫り出した部分から両端に伸び、西側の高い方を A 尾根、北東側の低い方を B 尾根と総称している。A 尾根には地下式坑 1 基、B 尾根の先端部には、縄文時代の落とし穴が確認されている。調査区の主体は古墳時代中期であり、A・B 尾根状に 10 基の円墳が配置されている。ただし尾根の形状が、地滑りによってかなり変形した痩せ尾根となっているためか、墳丘が形良く残るものは少なく、A 尾根に関しての各墳域は想定に近い。古墳群の中から、主体部は 5 基確認されており、鉄製品（刀子、剣、刀、斧、鋤先、鎌、鏃等）、玉製品（勾玉、小玉、丸玉等）等が副葬品として検出している。中でも、7 号墳は 2 基主体部が確認されており、第 1 主体部からは、横矧板鉄留の漆塗りの短甲がみつかっている。なお、10 号墳の上には、1 辺が 5m、高さが約 1.2m の大型の積石塚が造成されており、出土した遺物から、13 世紀後半に位置付けられるものと考えられる。また、A 尾根から B 尾根に面する斜面には、中世の積石塚（H 遺跡）が展開することから、これらとの関係か

らも有力的なものである可能性が高い。なお、調査グリッドの設定は、国土座標に基づき、10m 間隔のメッシュを設定している。なお、遺物の取上げは、地点とレベルを記入して取り上げている。

八里向山 G 遺跡（旧名称：八里向山 H 遺跡〕

・**調査期間**：平成 7 年 5 月 31 日～平成 7 年 6 月 27 日

・**調査面積**：約 100 ㎡

・**調査担当者**：樫田　誠

・**概　要**：A 遺跡から南下した谷部にあたり、谷筋は B 地区の方に低くなっている。現在でも水が湧き出ており、その水源範囲周辺から弥生時代終末期の土器が多数出土している。調査区からは、土坑 2 基、テラス面、湧水溝が見つかっており、いずれも A 遺跡とも同時期であることから、A 遺跡の居住者が水場利用していたものと考えられる。なお、調査グリッドの設定は任意で行う。遺物の取上げは、Ⅰ区、Ⅱ区、Ⅲ区に分け、遺構、区画毎に取り上げている。

八里向山 H 遺跡（旧名称：八里向山 F' 遺跡）

・**調査期間**：平成 9 年 5 月 20 日～平成 9 年 9 月 8 日

・**調査面積**：約 200 ㎡

・**調査担当者**：川畑謙二、樫田　誠

・**概　要**：鍋谷川を望む丘陵裾南斜面に位置し、尾根上には F 遺跡が展開している。工事中に発見され、急遽調査をすることになった。H 遺跡には、総数 100 基を越える 12 世紀～14 世紀にかけて連綿と造成された中世墳墓群が広がる。そのうち開発に係らない東側と北西側の道路部分は盛土保存区域として対応し、中間にあたる箇所の調査を行った。墳墓群は斜面を利用して平坦面を階段状に造り出し、各段に核になる区画墓を造った後、追随して帯状に墓群を形成している。葬法は火葬による納骨が主体で、蔵骨器は数量しか発見されていないため、有機物である曲物等を使用していた可能性が高い。その他出土遺物では、鉄製品、銅銭、五輪塔が検出している。なお、調査グリッドの設定は、任意で斜面に沿う形で 2.5m×5m 間隔のメッシュを設定している。遺物の取上げは、群毎に地点とレベルを記入して取り上げている。

八里向山 I 遺跡（旧名称：八里向山 E 遺跡）

・**調査期間**：平成 9 年 6 月 3 日～平成 9 年 8 月 14 日

・**調査面積**：約 200 ㎡

・**調査担当者**：樫田　誠

・**概　要**：遺跡は、E 遺跡の急斜面中腹に位置し、1 基単独で立地する 8 世紀中頃の須恵器窯跡である。灰原が皆無に等しく、地下式で陥没痕もなかったことから、分布調査では確認できなかった。平成 8 年の道路取り付けの工事中に法面として斜面を削った際、焚口が検出し、H 遺跡と同様、急遽調査を行っている。窯跡は、全長 7.8 m 程度を測る中規模窯であり、脆い地盤の箇所に地下式で造られている。天井は完全に落ち、壁もかなり崩れていたが、窯尻から燃焼部口（焚口）まで完存している。窯内から出土した遺物は、還元不十分のものが目立ち、焼成中に陥没したものと考えられる。また窯には、窯体の上方を巡る逆「U」字状の排水溝が伴うという、特異な構造が検出している。他の出土遺物では弥生時代終末期の遺物も散見されるが、基本的に尾根（E 遺跡）からの転落遺物と考えられる。なお、調査グリッドの設定は、窯の主軸に合わせて任意に行っている。

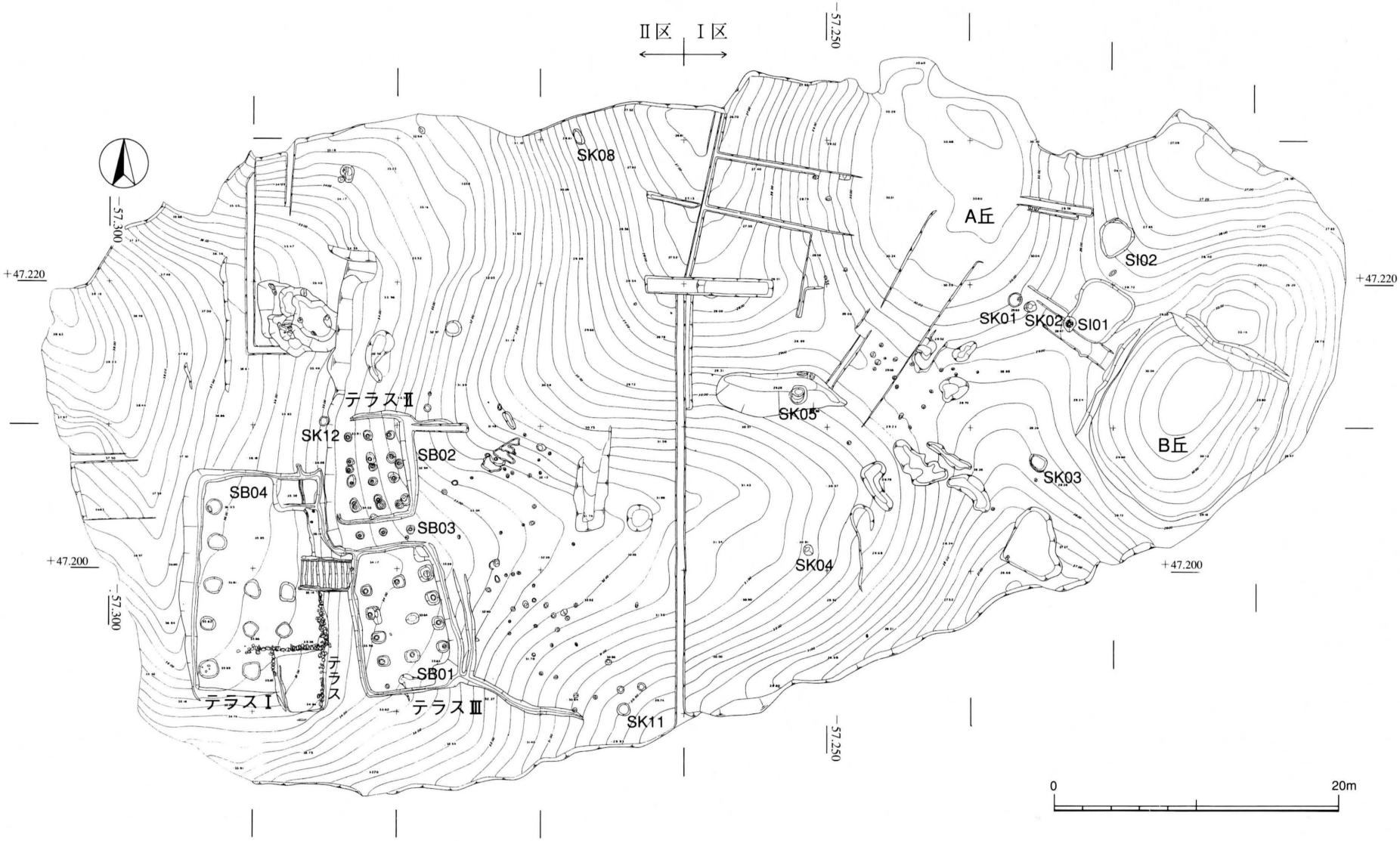
八里向山 J 遺跡（旧名称：地蔵谷古窯跡）

・**調査期間**：平成 9 年 4 月 14 日～平成 9 年 7 月 11 日

・**調査面積**：約 500 ㎡

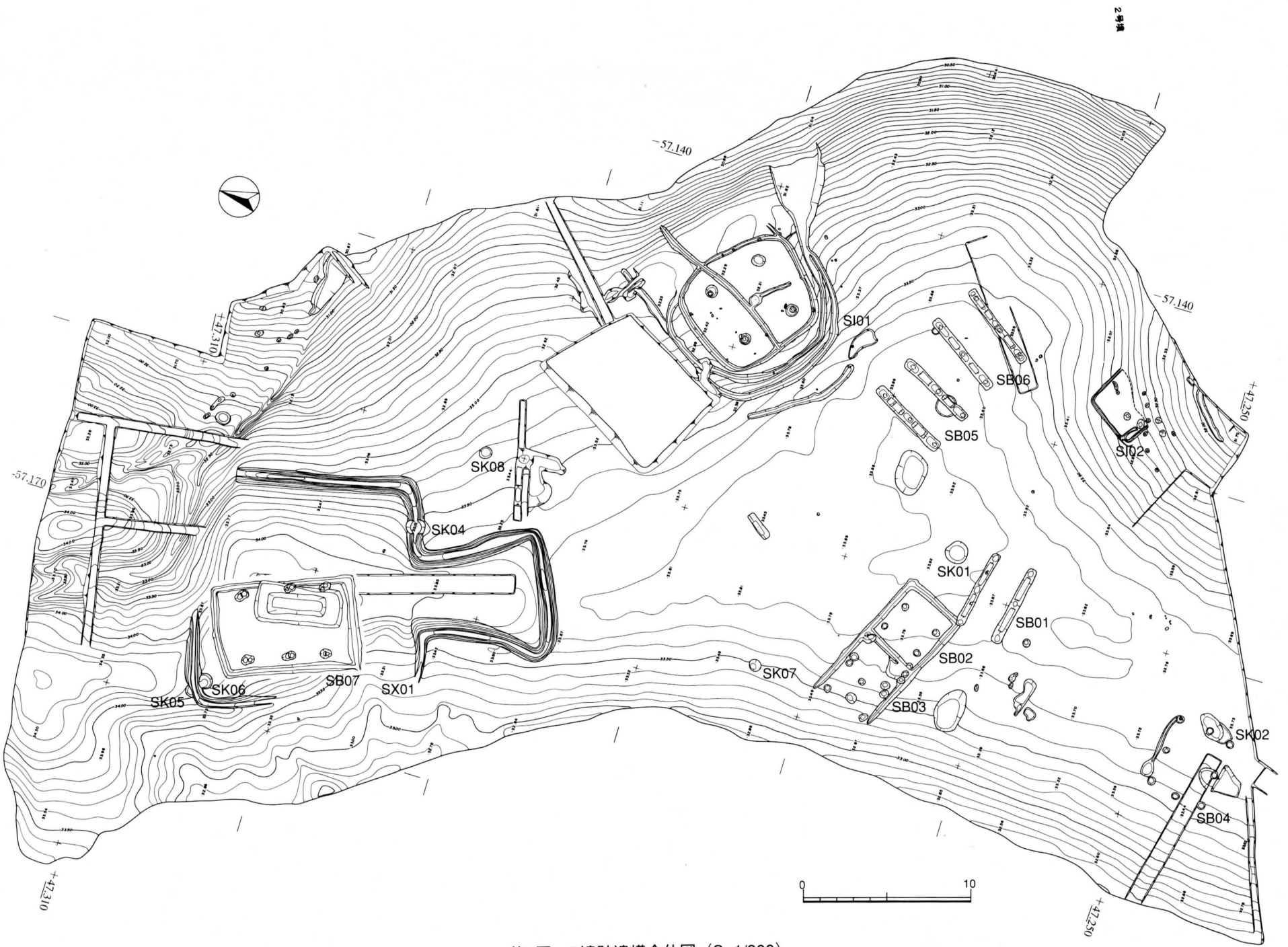
・**調査担当者**：宮下幸夫

・**概　要**：遺跡は、地蔵谷と呼称された A 遺跡の西側斜面に位置し、1 基単独で立地する 7 世紀中頃の須恵器窯跡である。窯尻は以前の開墾によって破壊されており、斜面上方が平らに削られている。窯跡は、全長 10m 以上の大型のものであり、地山をトンネルに掘り抜いた地下式窖窯の形態である。窯尻が削平されているため、断定はできないが、全体的な窯構造から見て、煙出し口に送風作業溝が付設される可能性が高いものと思われる。焼成回数は、窯床の残りが悪く焼き締まりも弱いことや、灰原の形成が少ないことから、数回であったものと思われる。なお、調査グリッドの設定は、窯の主軸に合わせて任意に行っている。

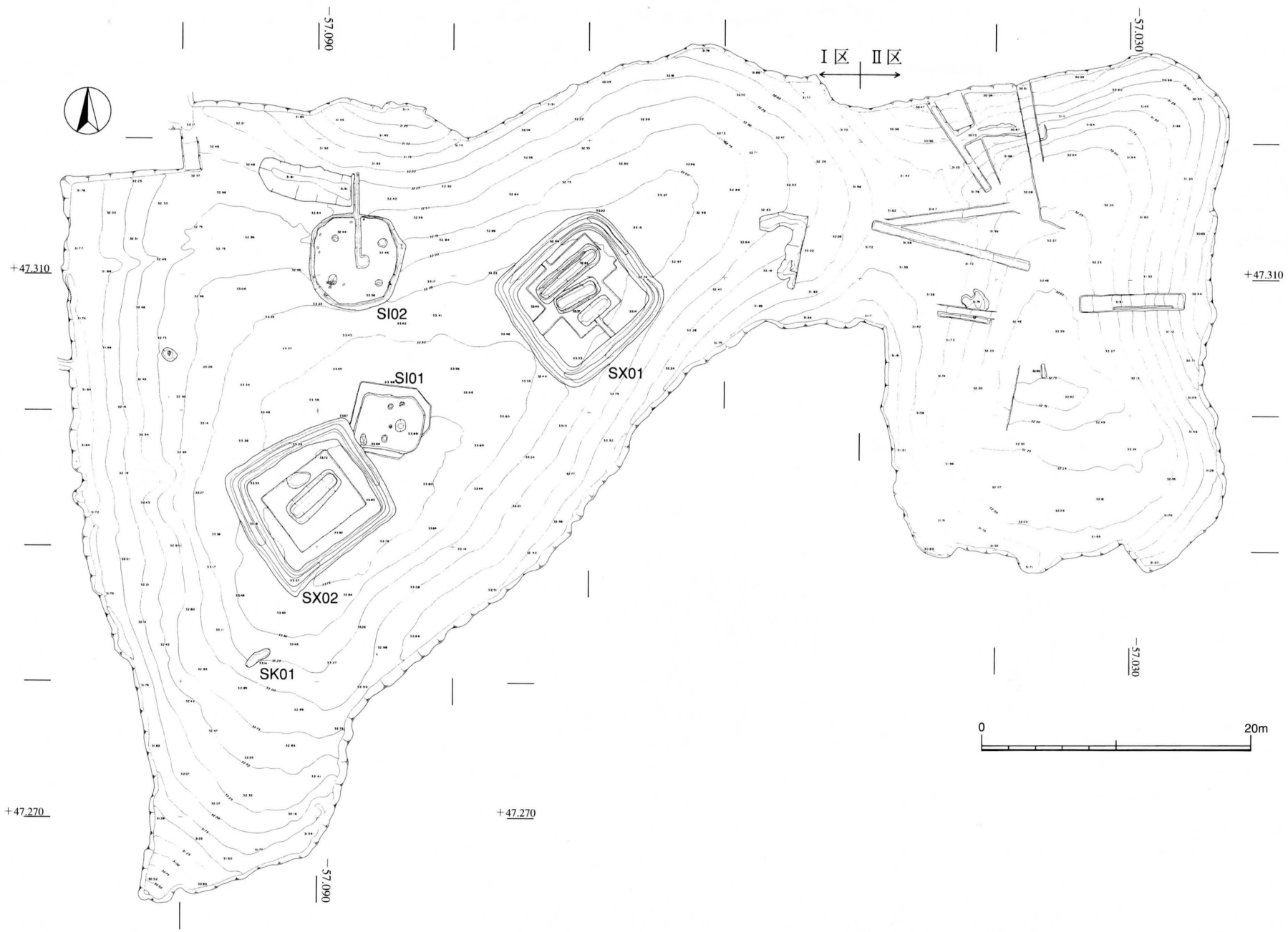


第5図　B遺跡遺構全体図（S=1/400）

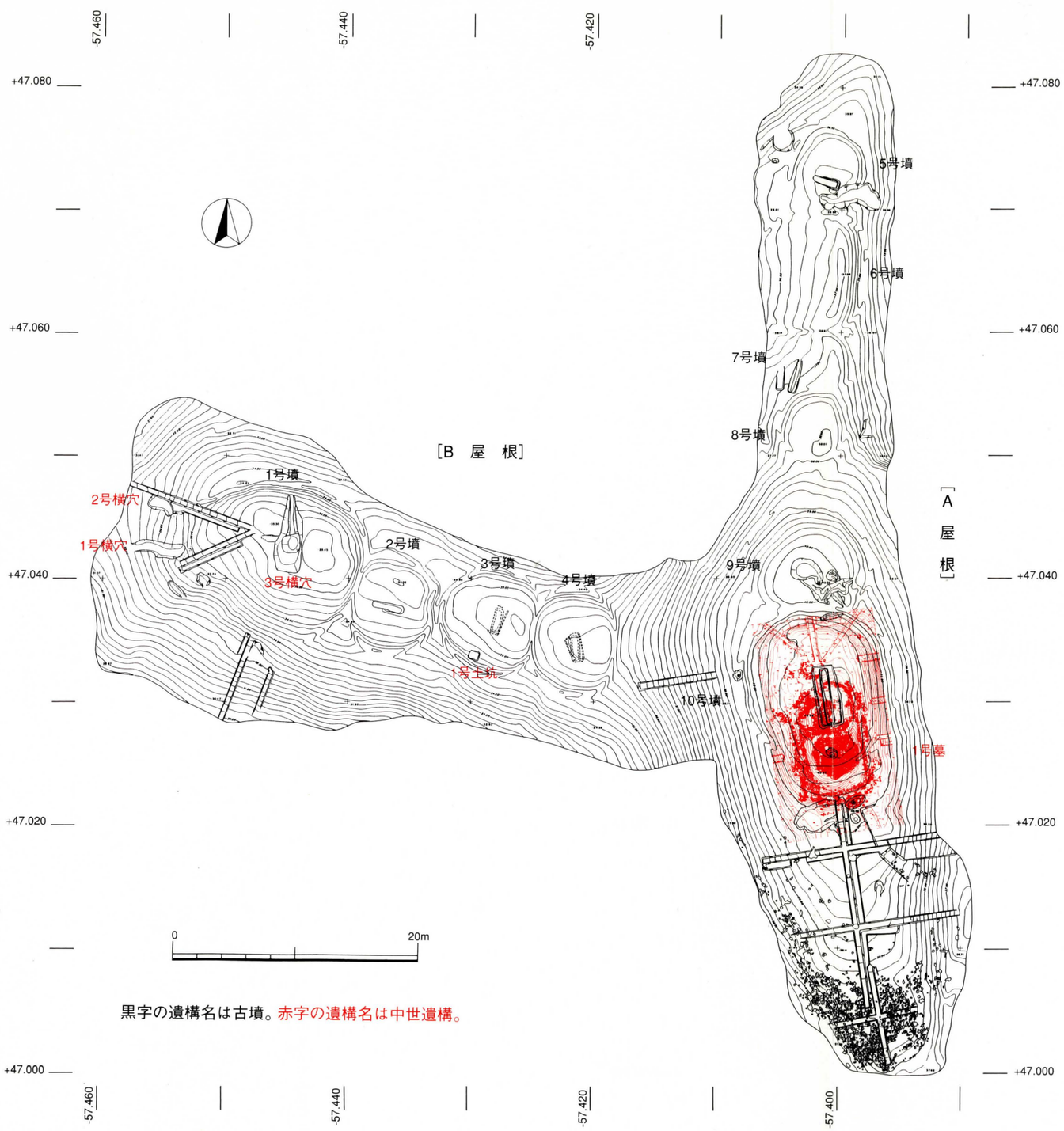
第6図　A遺跡遺構全体図（S=1/600）



第7図　C遺跡遺構全体図（S=1/300）



第8図　D遺跡遺構全体図（S=1/400）



黒字の遺構名は古墳。赤字の遺構名は中世遺構。

第9図　F遺跡遺構全体図（S=1/400）

第Ⅲ章　旧石器・縄文時代

はじめに（本章凡例）

1.　本章の報告で対象になるのは、A～D遺跡とE遺跡試掘調査における成果である。
2.　遺物は、B遺跡Ⅱ区と後世の遺構覆土に混入しているものを除いて全点ドットマップを作成して取り上げている。C遺跡を除いてグリッドに記号が付されているが、出土地点はすべて旧日本測地系（Ⅶ系）に準拠して表示している。座標の単位は、標高も含めて、とくに断りがない限りmである。
3.　石器について、本章では、とくに属性表の便を図るため、石材の表記は、以下の略号を定めた。

Aa：黒色無斑晶質の安山岩で、石川県下では「輝石安山岩」と呼び慣わされているもの
An：上記以外の安山岩、中性凝灰岩など
Ch：チャートまたは玉髄
Da：デイサイト、弱酸性凝灰岩など
Fq：鉄石英または碧玉；1.赤褐色；2.褐色
Gr：花崗岩
Gt：緑色凝灰岩またはこれの珪化したもの
Lt：角礫凝灰岩または火山礫凝灰岩
Ob：黒曜石
Pr：プロピライト（変朽安山岩）
Qu：珪岩
Rh：流紋岩または酸性凝灰岩；1.珪化による光沢が確認できる；2.細かな斑晶・岩片を含み珪化による光沢が確認できる；3.珪化が識別できない；4.細かな斑晶・岩片を含み、流理が見えない；5.細かな斑晶・岩片を含み、流理が見える；6.細かな斑晶・岩片を含み、流理に色味の違いがある：ただし、1～3は複数の母岩に細分されるが、分類には反映できなかった。4～6は母岩を反映すると思われる。
Se：蛇紋岩
Sh：シェール（頁岩）または泥岩
Sn：砂岩
Ss：珪質頁岩；1.とくに黒色のもので、いわゆる黒色頁岩

4.　縄文土器について、主要な分類群を以下の通りに設定したが、厳密に分析対比したものではない。

Ⅰ群：高山寺；早期中葉
Ⅱ群：六橋Ⅱ（群）；早期末葉
Ⅲ群：新保；中期前葉
Ⅳ群：気屋；後期前葉
Ⅴ群：長竹；晩期後葉

第1節　層位的所見と検出された遺構

第1項　層位的所見

各遺跡の遺物の分布はA遺跡では南面する斜面、B・C・D遺跡は尾根上に概ね認められた。出土層位は旧石器・縄文時代とも表土直下層に認められ、層位的に有意な知見は得られなかった。土壌層位の詳細は、第4節の分析結果を参照されたいが、遺物包含層はAT降灰層準より上位と判定されている。これより下位のDKP・Aso－4・SK等の砕屑物はわずかとされ、調査を担当した樫田は、試料採取のトレンチがDKPの層準まで達しなかったと所感を語っている。ただ、素人目には、風化と移動・再堆積の進んだ土壌とする第4節の分析所見を勘案す

れば、パミス層が風化した粘土層に特徴的とされる斜方輝石・角閃石が定量検出されている点は、層準が不明瞭にせよ、下位にせよ、宮竹うっしょやまA遺跡においてDKPと判定された特徴(注)と比較しても遜色がないように見え、定量混在しているように思われるが、短絡に過ぎるか。非常に風化の進んだ土壌である点も指摘されていて、いずれにせよ、段丘を被覆する堆積物の供給が稀薄であったことには相違ないようだ。

第2項　検出された遺構（第13図）

B－1号竪穴（SI01）

試掘B－11トレンチで集石が検出され、発掘調査により竪穴プランが確認された。いびつな隅丸方形プランであり、西隅にピットが掘られている。このピットは被熱礫で埋め尽くされ、竪穴内も南半部分をほぼ埋め尽くす夥しい量の被熱礫が出土した。床面は平坦にならされているが、柱穴などの付帯遺構は検出されず、床面にも被熱痕跡は認められない。周辺にもピットは検出されず、上屋が存在したか否かもプランからは不明である。縄文土器は、被熱礫に混じってⅠ群土器が出土している。ただ、検出の過程でⅡ群土器も出土していて、どちらと有意に結びつくかの判断が難しい状況である。どちらに転んでも早期の範疇ではあるが。

B－2号竪穴状遺構（SI02）

鞍部北側の斜面上にB－1号竪穴の北に隣接して検出された。いびつな楕円形ないしは卵形プランで、床面は斜面に従って傾斜している。柱穴などの付帯遺構は検出されていないが、床面中央がややくぼんでいる。覆土中よりⅠ群土器が出土した。この周辺で出土した土器片も含めて、完全に接合しないものの、外観上の所見では、同一個体の土器片が分布していると見なされる。

C－1号土坑（SK01）

試掘C－4トレンチで検出された。非常に整った円形プランであり、覆土上部にⅢ群土器を包含する。

第3項　集　石（第14・15図）

B－1号竪穴の被熱礫群は、試掘調査時より「集石」と呼んでいた。これらは全て番号を付して取り上げ、調査を担当した樫田が接合関係を調べた。接合資料は、完全に接合しなかったものは個体識別の上で109まで数えている。これらは、出土位置と接合関係を以下のように分類した上で第14図(2)～(10)に接合サンプルを、第15図にその接合図を示した。第1表(1)～(5)は、接合資料全点について出土地点と接合関係の属性を載せた。

A：ピット内での接合。近接する接合関係は（　）で表示。

B：ピット内外での接合。

C：ピット外で分散して接合。

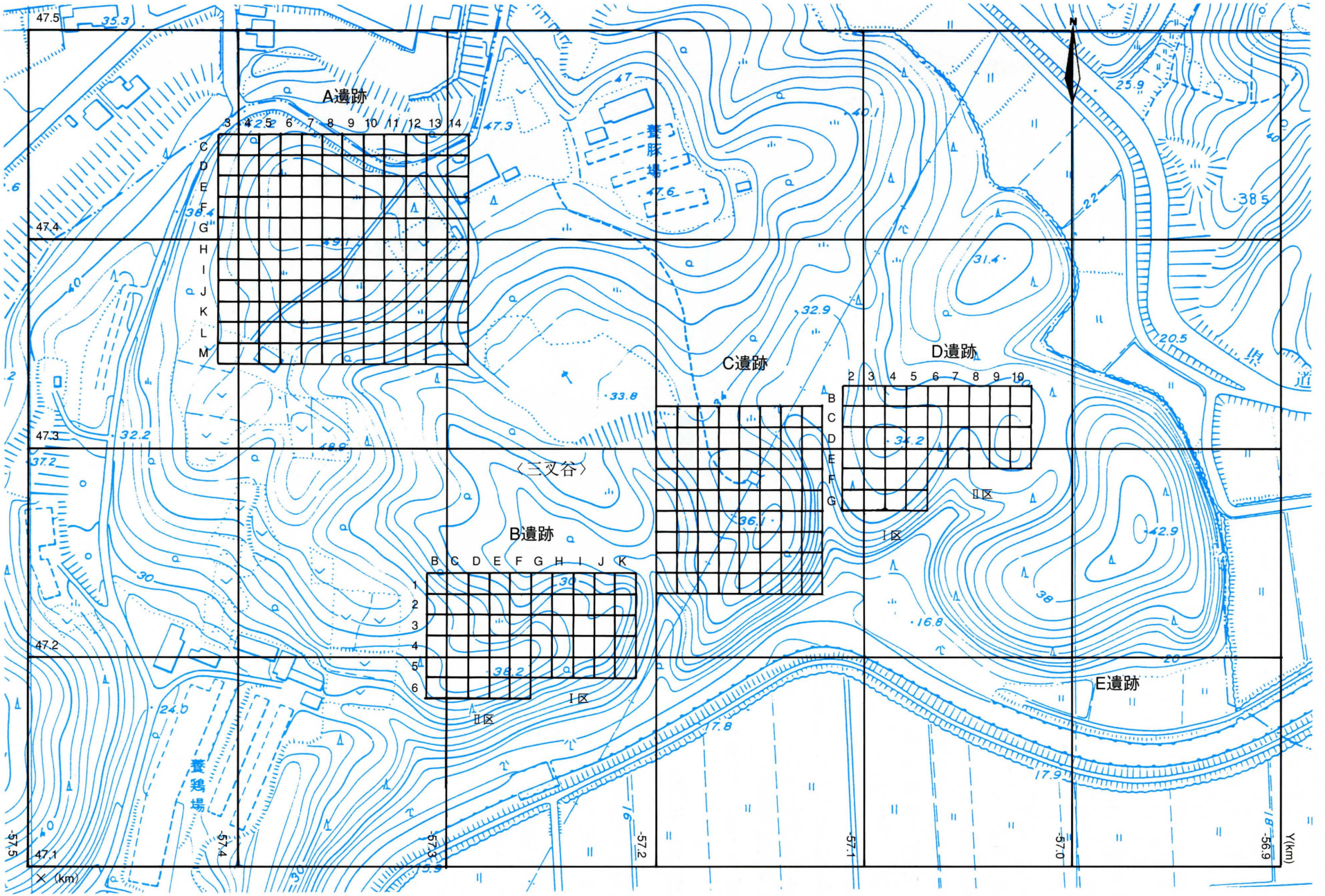
D：ピット外で近接して接合。接合関係は（　）で表示。

その他、第1表で[ ]の表示は、接合面に被熱のある資料に併存する被熱のない接合関係を表す。樫田の定義に基づく被熱の記号は、○；赤化、◎；著しい赤化、▲；煤け、？；不明、被熱面同士の接合は非表示である。

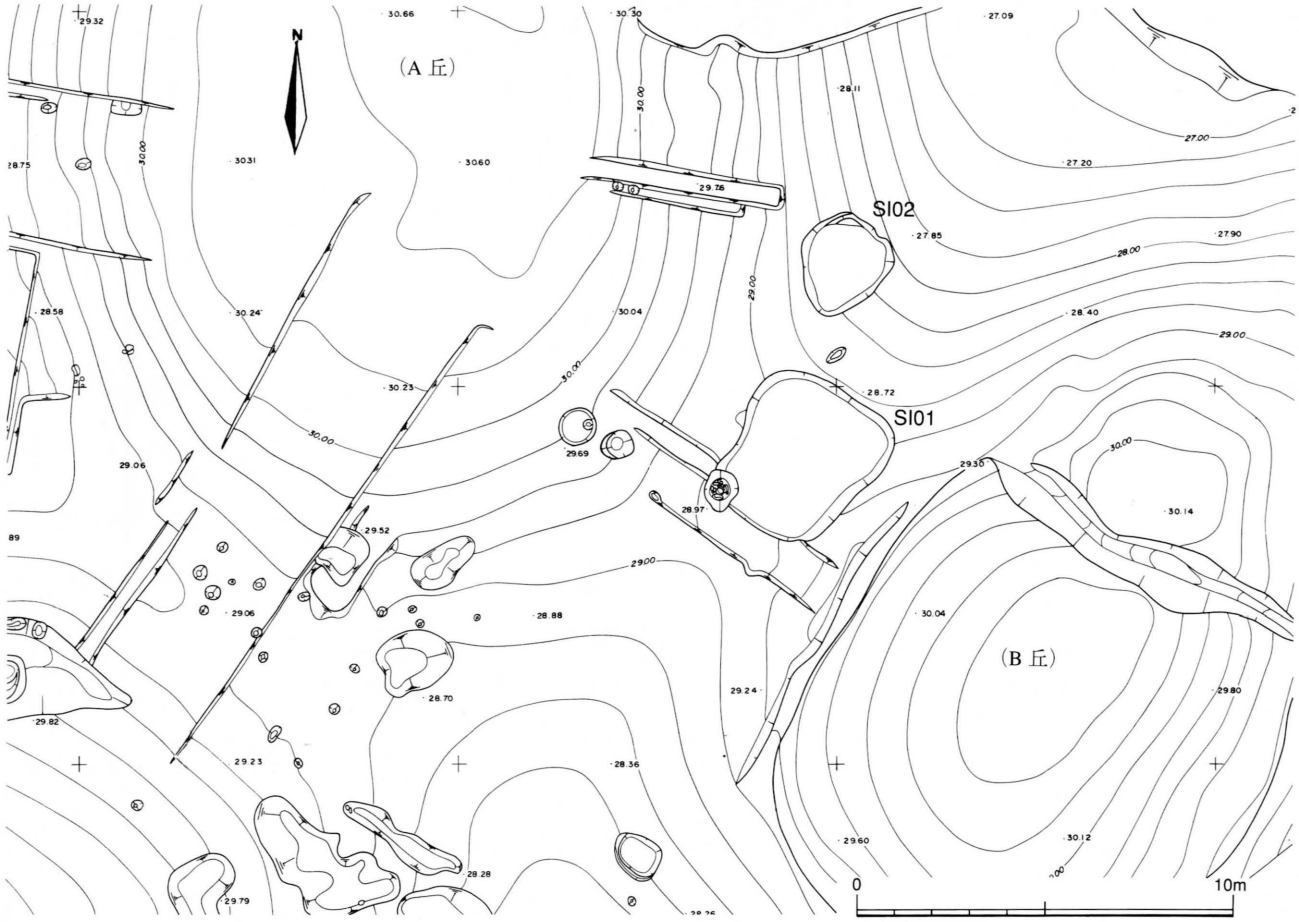
分析の所見　AとDに分類した接合関係はその場で割れた例も含まれるであろうが、Bに分類した接合関係は、少なくともピット内の礫と床面に分布する礫とが一連の関係にあることを示唆する。サンプルとして提示した九例は、このBに分類した接合関係を含む中から特徴的なものを抽出したものである。

割った礫を利用した例としては接合No.55が好例であり、被熱面を挟んで二つの作業単位に区分される。いずれの作業も剥片剥離であり、核となる礫はピット内から出土した。ピット内の接合例では接合No.75が注目され、ピットの下位と上位の破片が接合している。これは、ピット内の礫が徐々に増えていく過程を示唆するものと見なされる。床面の礫は、ピット内の礫に比べて明らかに割れているものが多いのだが、全般に、ピットは使用済みの礫の集積、床面の礫の分布は、これら礫の再利用の際に変形または分割加工の過程で形成されたと見なされる。礫の使用場所は不明だが、礫が徐々に増える趨勢から、少なくともこのピット内での使用は考えにくい。

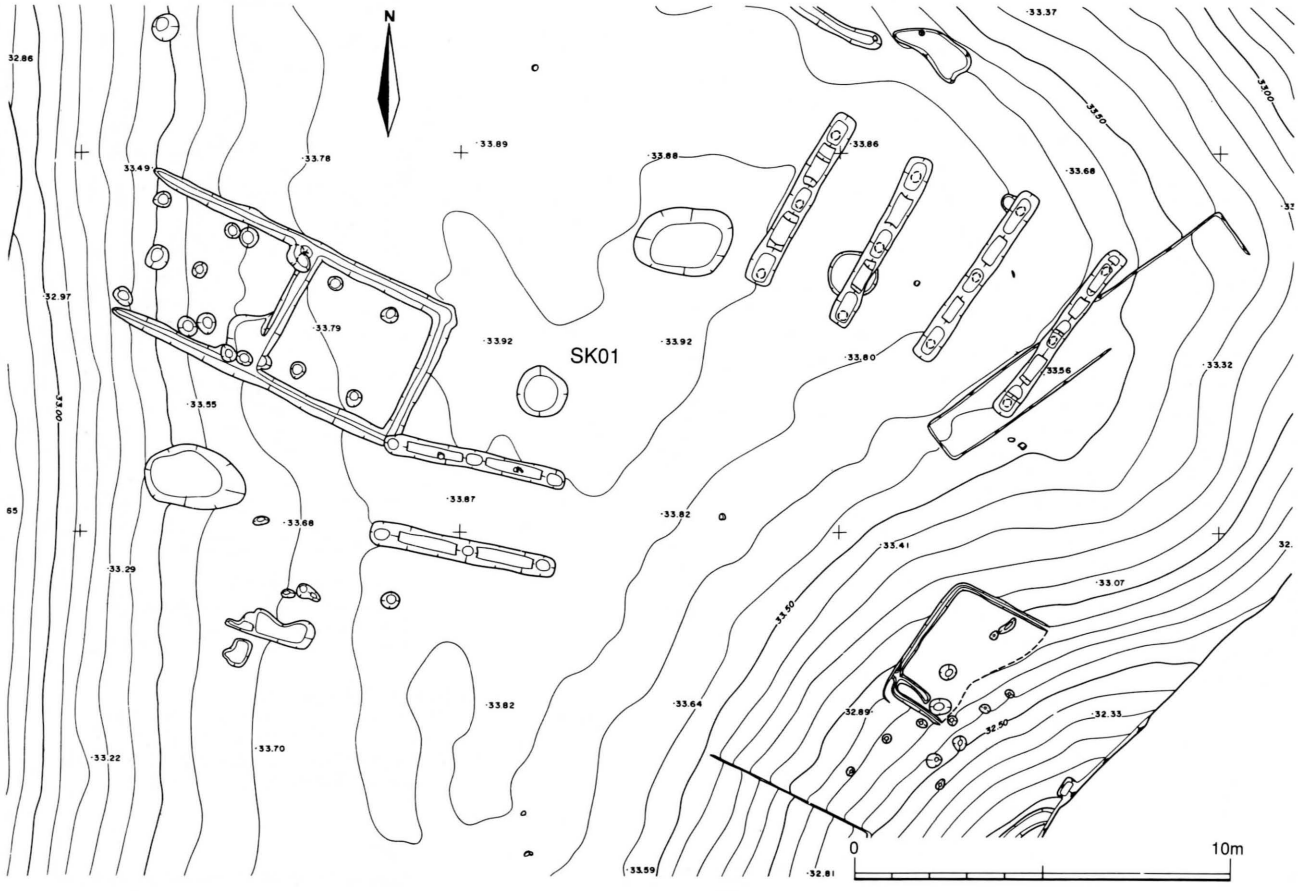
（注）石川県立埋蔵文化財センター1998『能美丘陵東遺跡群』Ⅲ　p.399－404



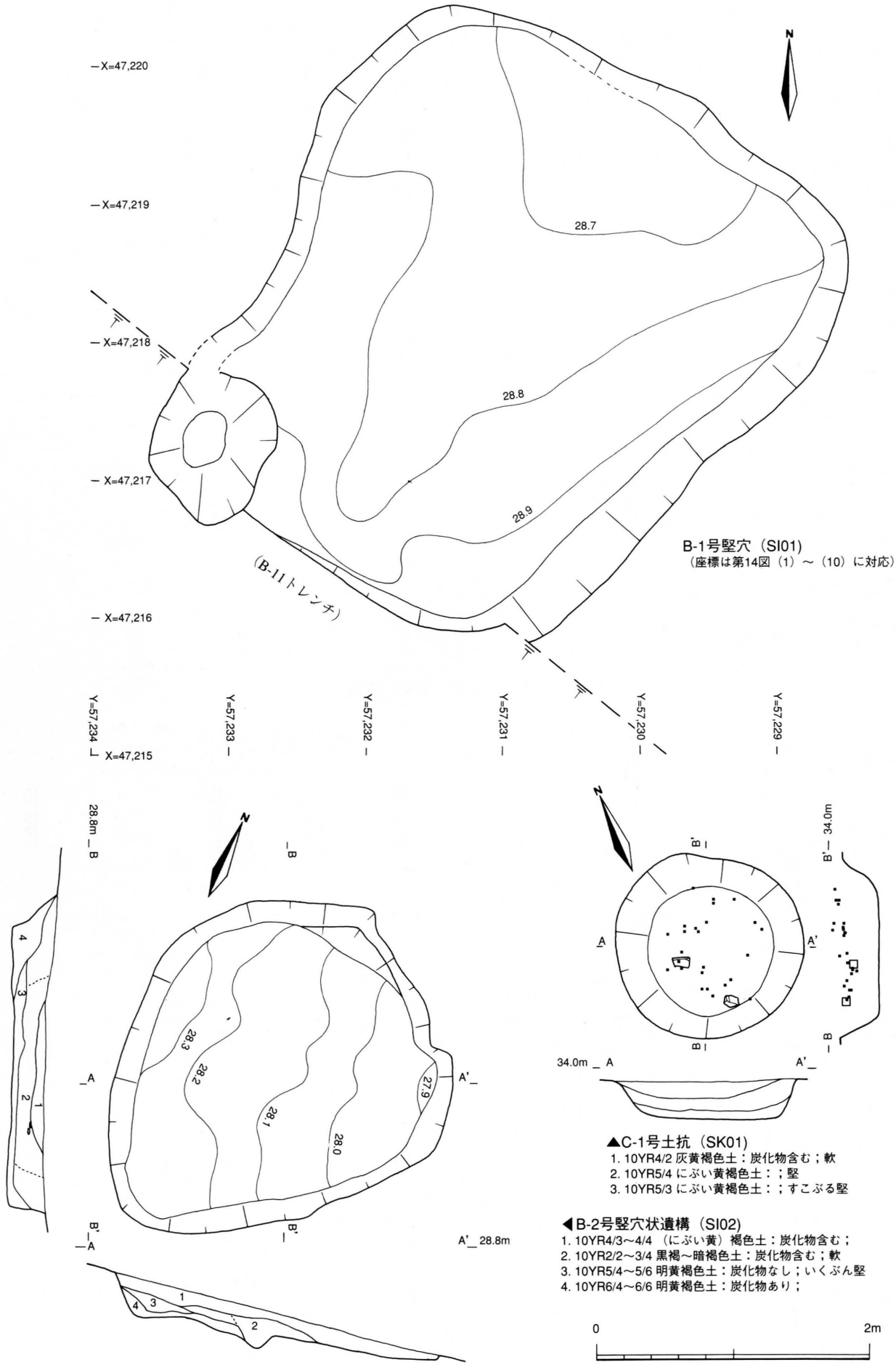
第10図　グリッド配点図（S=1/2,500）



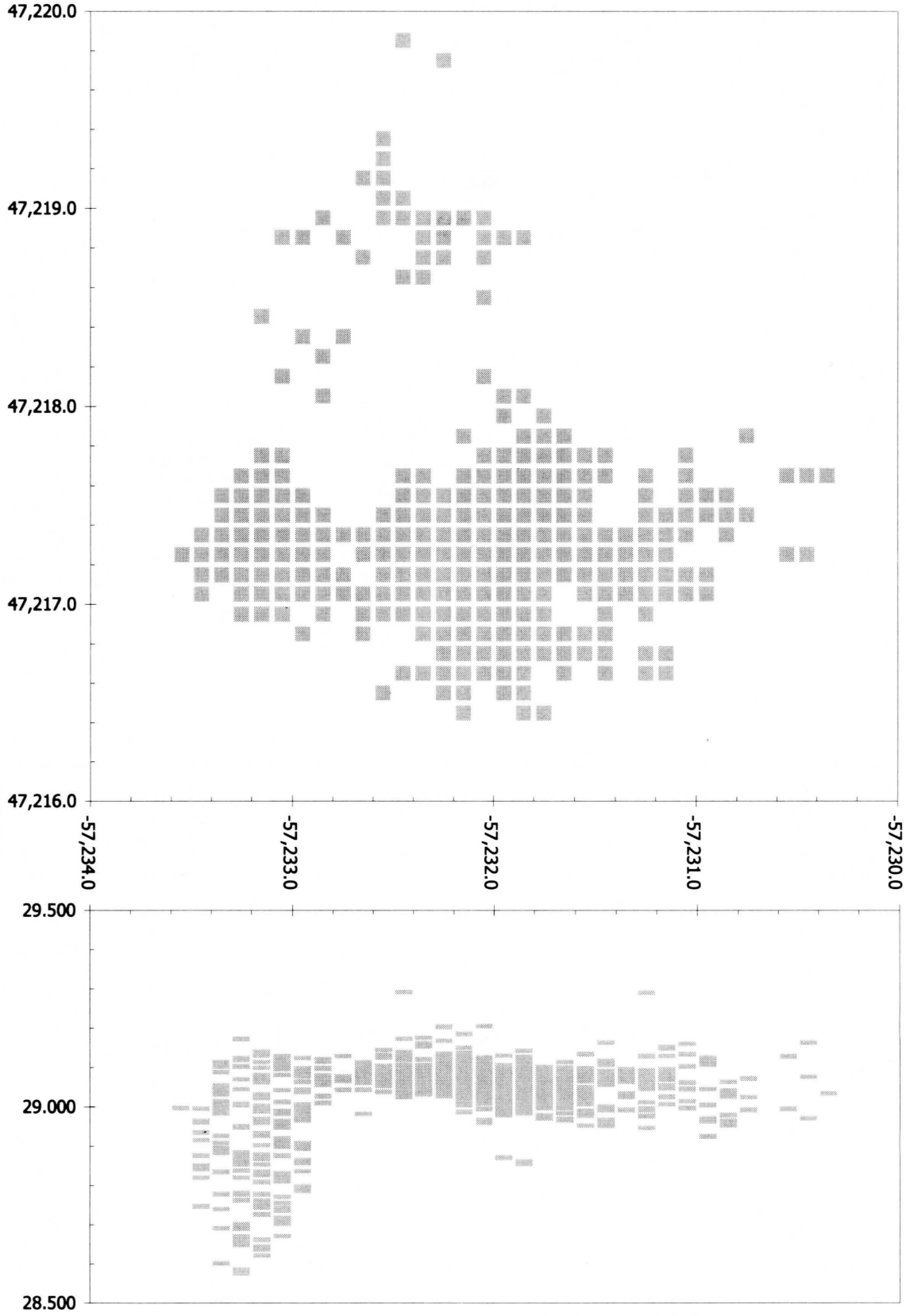
第11図　B遺跡Ⅰ区：遺構の位置（S=1/200）



第12図　C遺跡：遺構の位置（S=1/200）

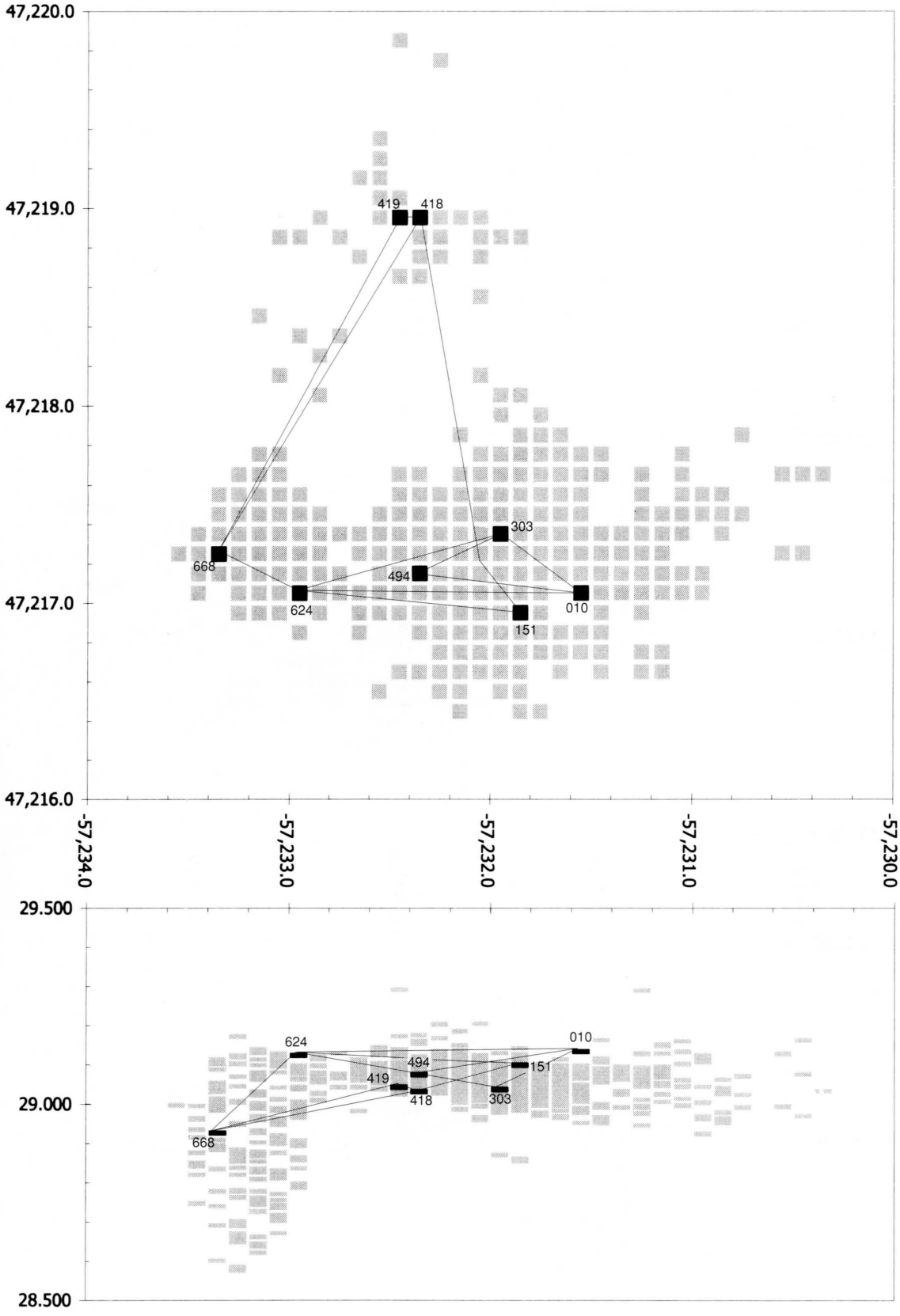


第13図　B遺跡Ⅰ区：竪穴・竪穴状遺構、C遺跡：土坑（S=1/40）



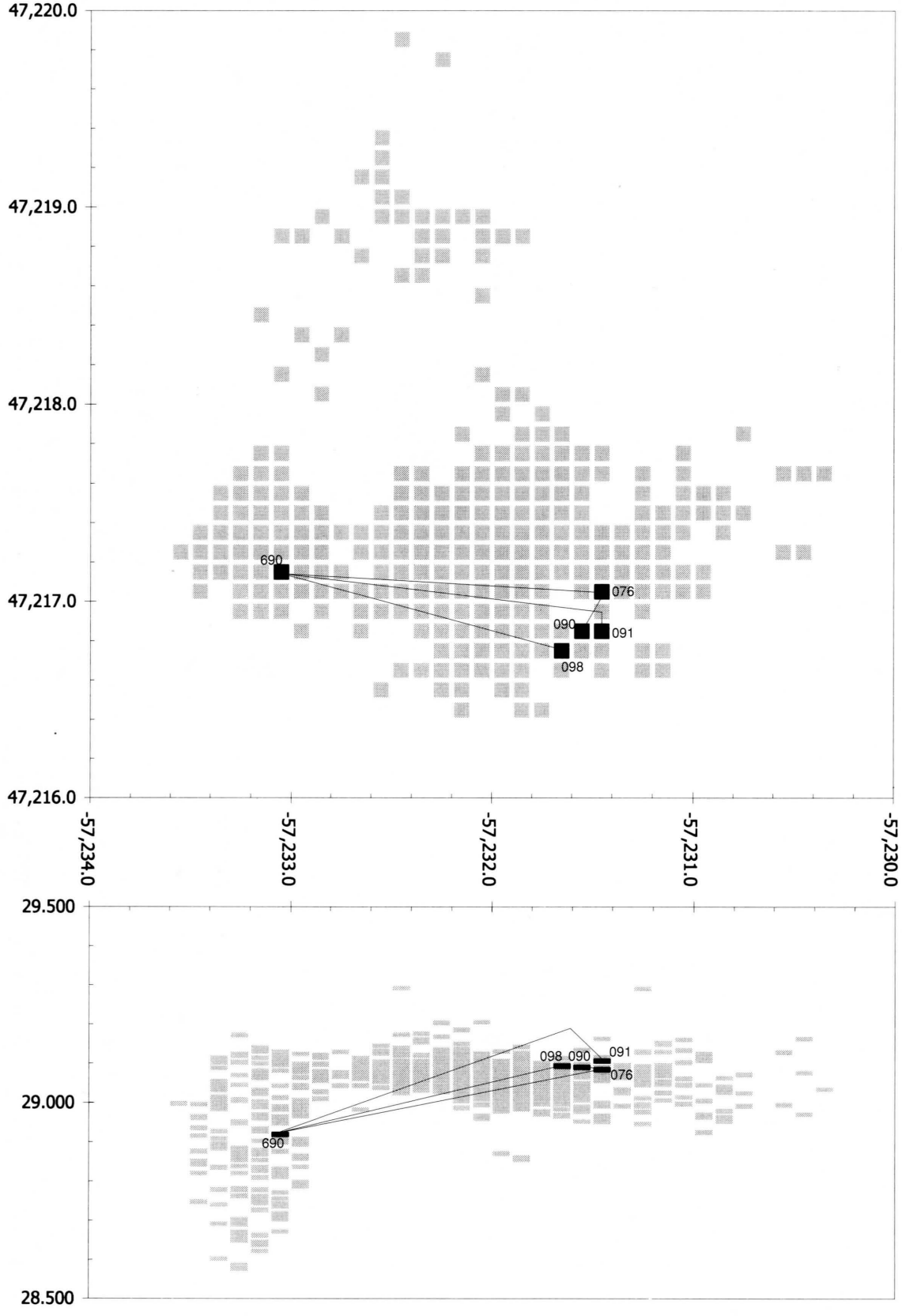
＊標高の縮尺は二倍に誇張

第14図（1）　B-1号竪穴：集石の分布（S=1/30）



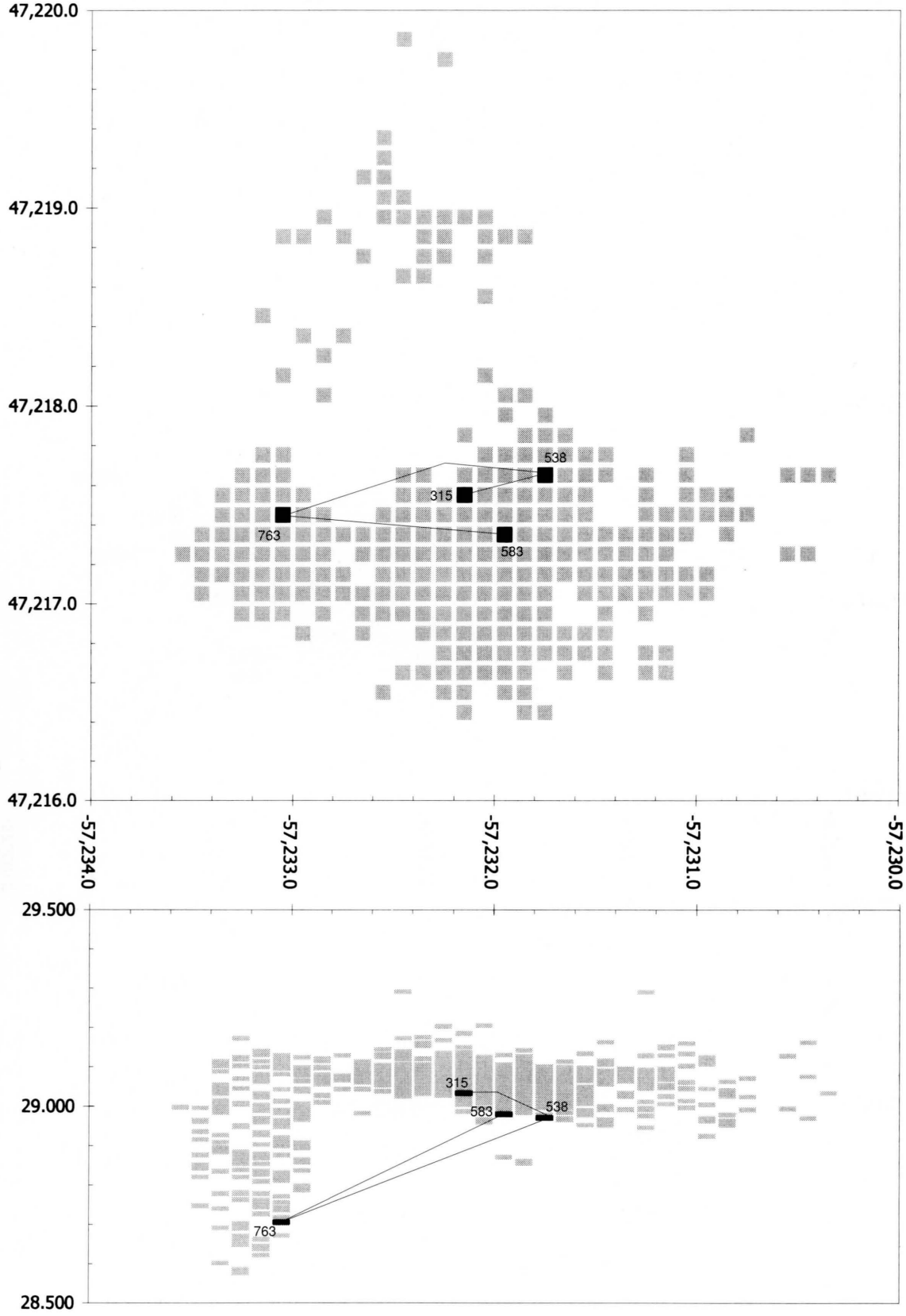
＊標高の縮尺は二倍に誇張

第14図（2）　B-1号竪穴：集石 接合No.51の分布（S=1/30）



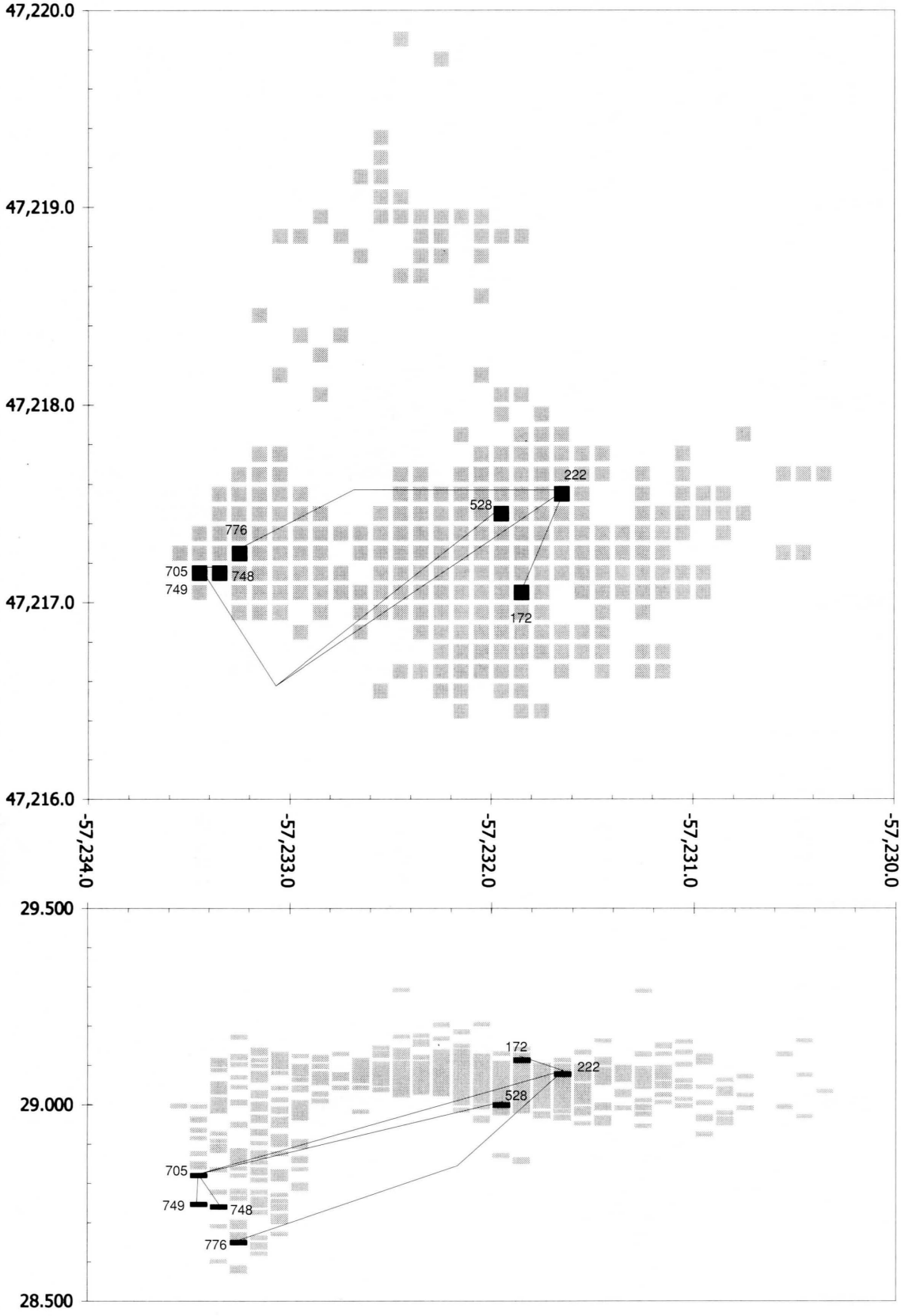
＊標高の縮尺は二倍に誇張

第14図（3）　B-1号竪穴：集石 接合No.55の分布（S=1/30）



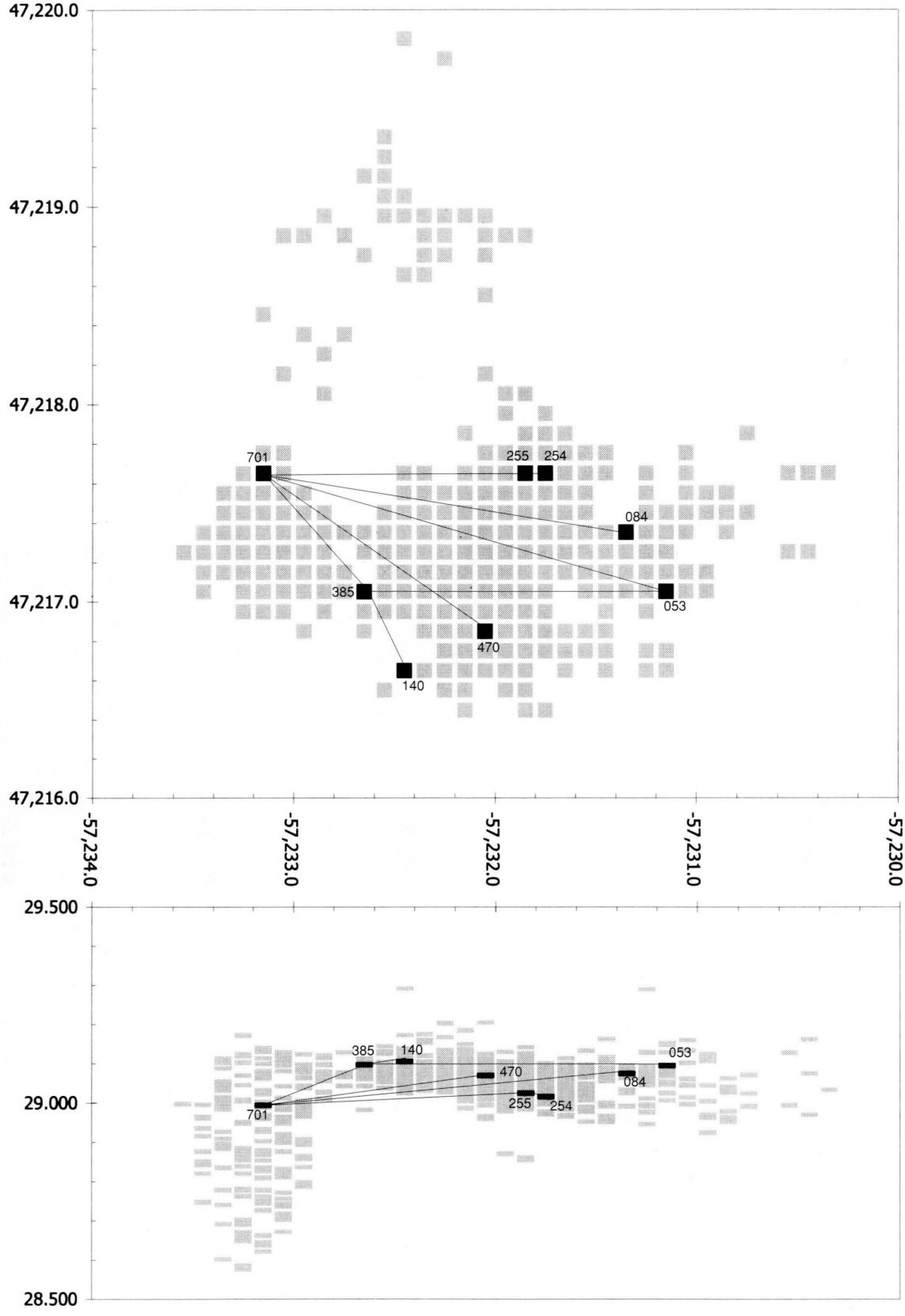
＊標高の縮尺は二倍に誇張

第14図（4）　B-1号竪穴：集石 接合No.59の分布（S=1/30）



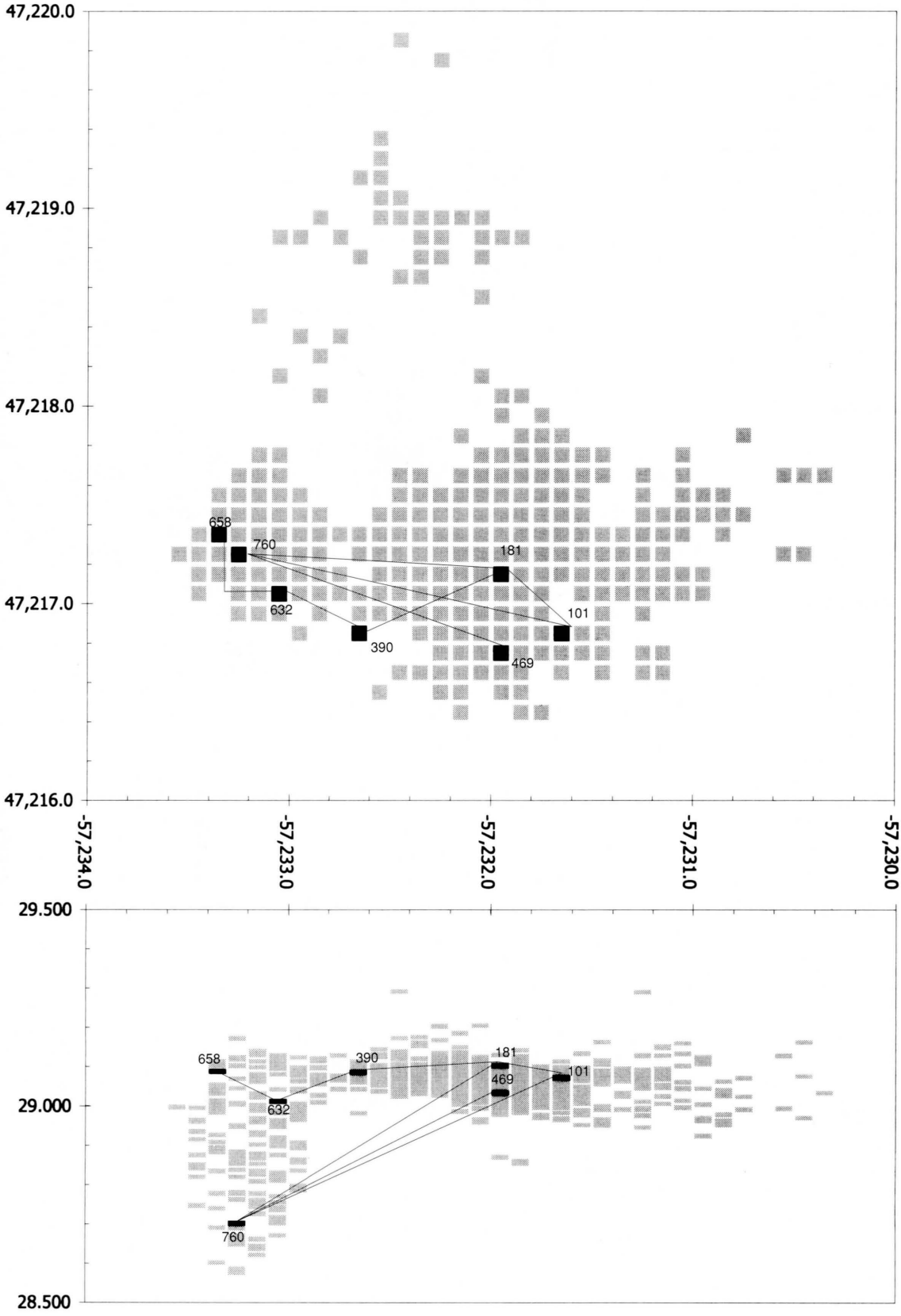
＊標高の縮尺は二倍に誇張

第14図（5）　B-１号竪穴：集石 接合No.61の分布（S=1/30）



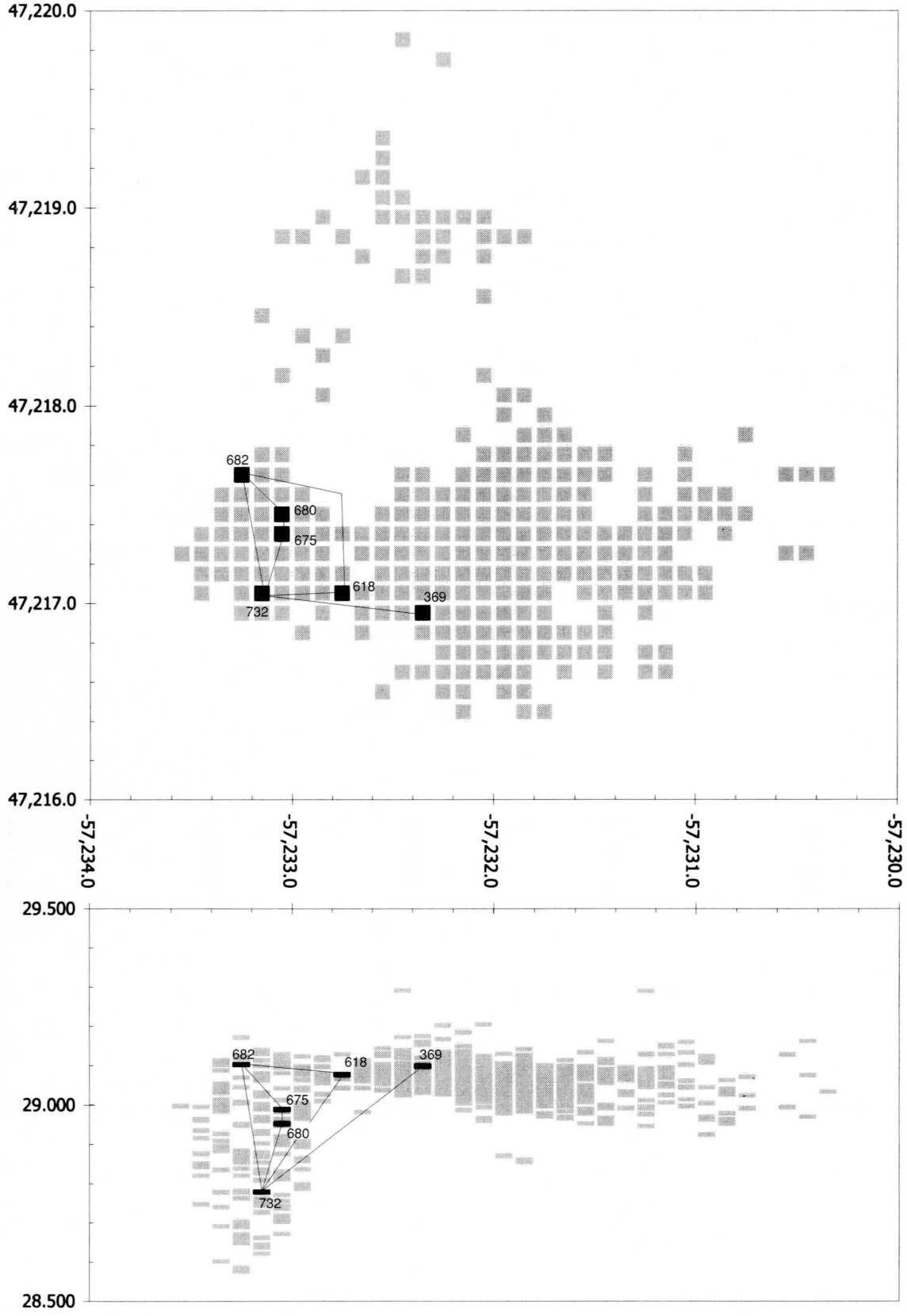
＊標高の縮尺は二倍に誇張

第14図（6）　B-1号竪穴：集石 接合No.65の分布（S=1/30）



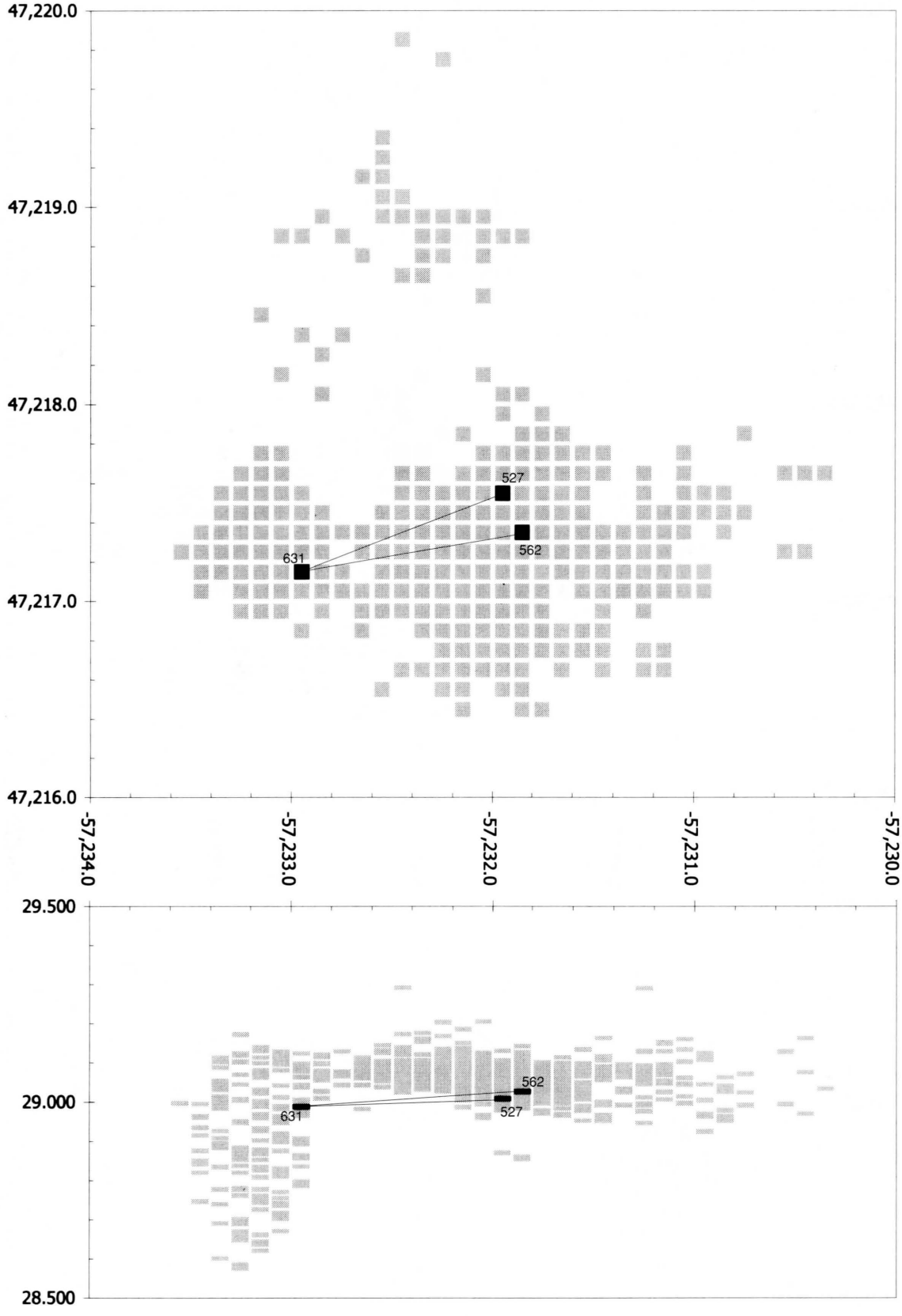
＊標高の縮尺は二倍に誇張

第14図（7）　B-1号竪穴：集石 接合No.70の分布（S=1/30）



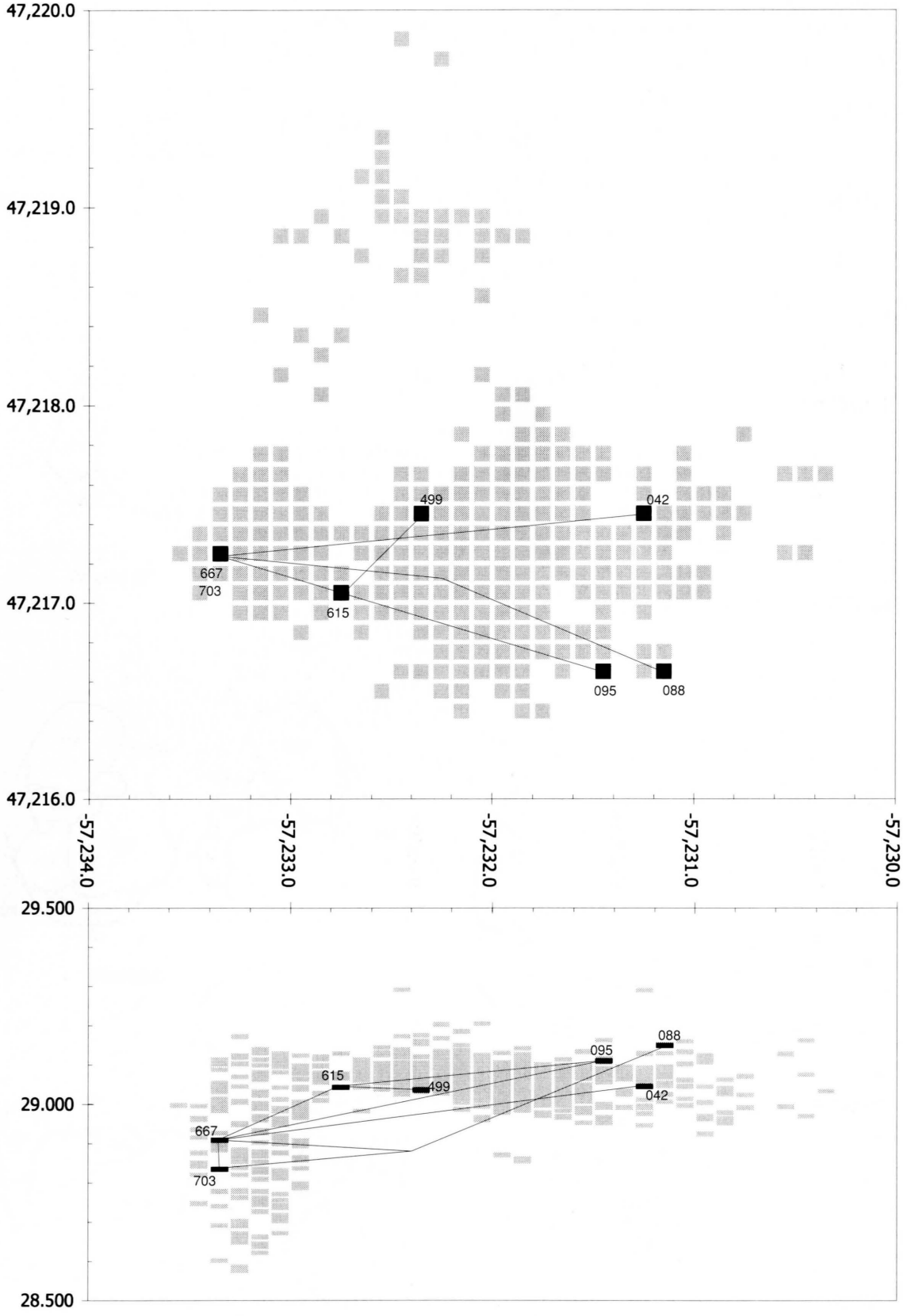
＊標高の縮尺は二倍に誇張

第14図（8）　B-1号竪穴：集石 接合No.75の分布（S=1/30）



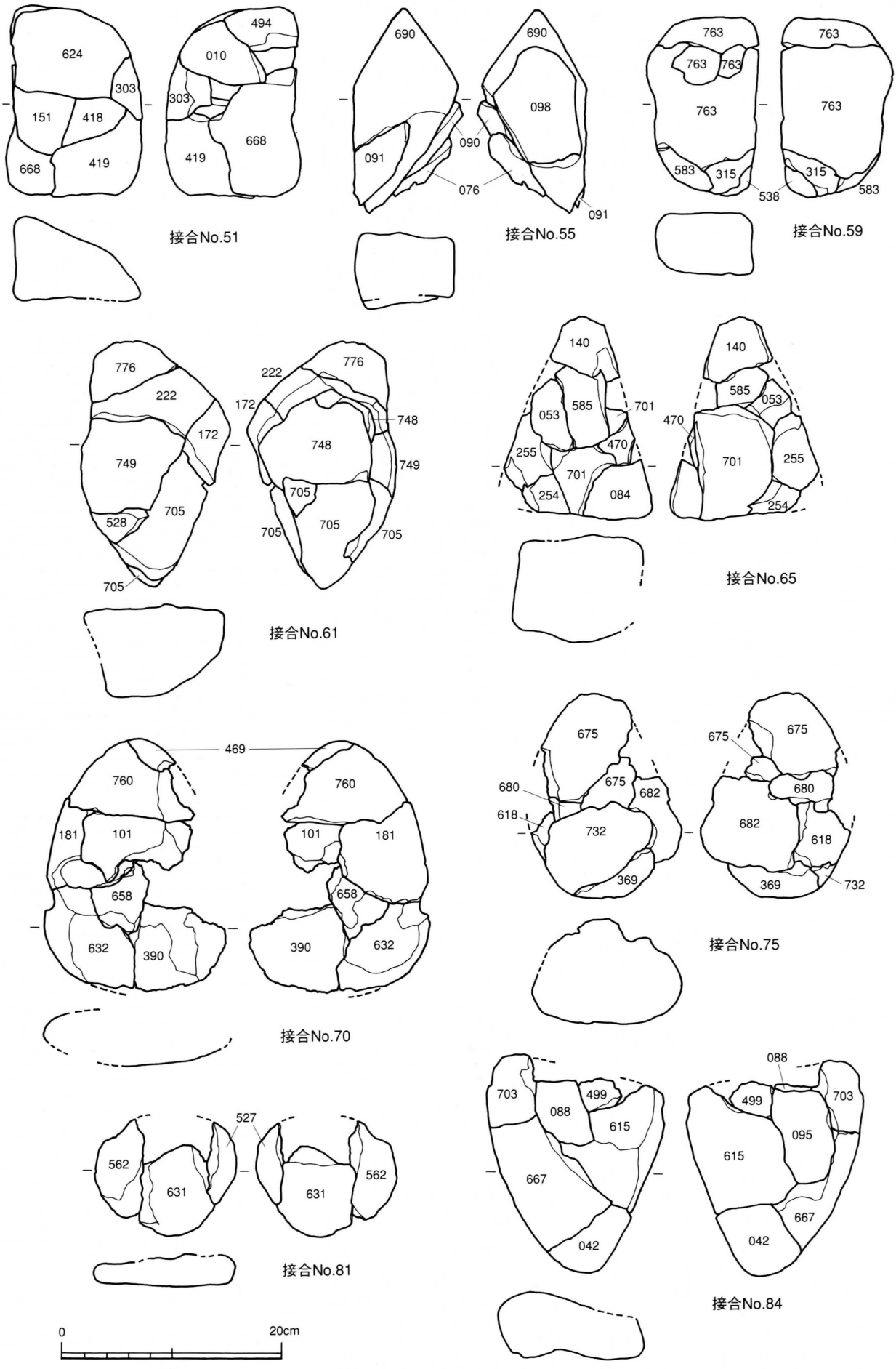
＊標高の縮尺は二倍に誇張

第14図（9）　B-１号竪穴：集石 接合No.81の分布（S=1/30）



＊標高の縮尺は二倍に誇張

第14図（10）　B-１号竪穴：集石 接合No.84の分布（S=1/30）



第15図　B-1号竪穴：集石 接合例（S=1/5）

第１表（1）　集石属性表１

接合 No	No	X=	Y=	H=	石材	長（cm）	幅（cm）	厚（cm）	重（g）	接合面の被熱	分布の型	接合関係（No＋）
1	S699	47,217.5	−57,233.3	29.031	An	9.1	13.5	5.3	544.9		A	(728＋)
	S728	47,217.5	−57,233.1	29.002	An	5.6	8.3	4.6	206.9		A	(699＋)
2	S043	47,217.3	−57,231.2	29.063	Rh	3.8	6.9	2.4	60.1		B	730+
	S510	47,217.3	−57,232.1	29.053	Rh	5.4	9.0	2.8	114.2		B	730+
	S730	47,217.4	−57,233.3	28.883	Rh	9.4	8.7	3.4	224.1		B	043+ 510+
3	S028	47,217.4	−57,230.8	29.041	Lt	6.8	5.2	3.1	103.0		B	745+
	S745	47,217.1	−57,233.2	28.762	Lt	9.4	15.7	7.6	1,324.4		B	028+
4	S726	47,217.3	−57,232.9	28.858	Da	5.6	8.3	5.1	185.6		A	(727+ 738＋)
	S727	47,217.3	−57,232.9	28.862	Da	6.8	12.0	6.1	456.2		A	(726+ 738＋)
	S738	47,217.3	−57,233.0	28.831	Da	9.5	13.1	6.1	748.0		A	(726+ 727＋)
5	S399	47,218.9	−57,232.8	29.080	Rh	10.3	9.7	5.1	508.5		D	(401＋)
	S401	47,218.7	−57,232.6	29.102	Rh	12.5	11.3	5.3	483.3		D	(399＋)
6	S263	47,217.9	−57,231.7	29.004	Da	7.2	10.5	3.8	194.3		D	(265+ 266＋)
	S265	47,217.8	−57,231.8	29.021	Da	4.3	6.8	3.5	60.8		D	(263+ 266＋)
	S266	47,217.8	−57,231.8	29.013	Da	11.0	14.8	6.5	841.7		D	(263+ 265＋)
7	S388	47,216.9	−57,232.6	29.099	An	5.1	9.5	5.1	302.0		C	403+
	S403	47,218.6	−57,232.3	29.035	An	11.3	10.8	6.2	765.0		C	388+
8	S397	47,218.8	−57,233.0	29.118	An	6.4	10.6	6.3	307.2		D	(398＋)
	S398	47,218.8	−57,232.9	29.078	An	5.1	5.3	3.0	53.9		D	(397＋)
9	S305	47,217.4	−57,232.0	29.068	Rh	12.3	18.0	4.9	676.0		D	(363＋)
	S363	47,217.0	−57,232.2	29.096	Rh	5.2	14.6	4.8	368.4		D	(305＋)
10	S643	47,217.6	−57,233.1	29.114	Lt	12.8	15.3	7.0	1,053.5		B	694+
	S694	47,217.0	−57,233.4	28.850	Lt	9.9	10.7	7.6	421.8		B	643+
11	S346	47,217.3	−57,232.3	29.067	An	9.4	9.5	4.9	381.8		D	(347＋)
	S347	47,217.2	−57,232.3	29.083	An	6.2	9.8	3.8	194.6		D	(346＋)
12	S051	47,217.0	−57,231.0	29.160	Rh	6.5	7.5	2.7	137.9		CD	(075＋) 501+
	S075	47,216.9	−57,231.4	29.089	Rh	5.4	7.4	3.1	90.5		CD	(051＋) 501+
	S501	47,217.3	−57,232.2	29.069	Rh	3.7	7.3	2.2	55.3		C	051+ 075+
13	S052	47,217.1	−57,231.0	29.134	Da	4.8	4.2	2.2	30.2		D	(057+ 058＋)
	S057	47,217.2	−57,231.1	29.073	Da	6.8	7.5	2.7	39.6		D	(052+ 058＋)
	S058	47,217.2	−57,231.2	29.056	Da	5.2	6.5	3.3	73.1		D	(052+ 057＋)
14	S375	47,217.2	−57,232.3	29.079	Lt	10.8	11.5	5.2	765.8	○	B	739+
	S739	47,217.1	−57,232.9	28.836	Lt	9.5	11.1	5.7	567.1	?	B	375+
15	S634	47,217.0	−57,233.0	28.964	Rh	9.5	14.5	5.9	747.7		A	(688＋)
	S688	47,217.0	−57,233.1	28.933	Rh	6.1	8.0	5.0	167.2		A	(634＋)
16	S420	47,218.9	−57,232.4	29.027	Da	4.8	9.8	2.9	109.7		D	(423＋)
	S423	47,218.9	−57,232.4	29.052	Da	8.0	10.0	2.8	189.6		D	(420＋)
17	S647	47,217.5	−57,233.1	29.131	An	5.7	9.0	5.2	239.6		D	(648+ 650＋)
	S648	47,217.5	−57,233.1	29.099	An	4.0	7.4	2.9	71.0		D	(647+ 650＋)
	S650	47,217.5	−57,233.2	29.123	An	10.4	11.8	8.2	889.6		D	(647+ 648＋)
18	S747	47,217.0	−57,233.0	28.736	Lt	15.9	18.0	7.8	2,265.2	○	A	(765＋)
	S765	47,217.3	−57,233.0	28.671	Lt	5.8	8.2	4.2	134.6		A	(747＋)
19	S722	47,217.3	−57,233.4	28.876	Lt	13.2	11.9	6.3	796.7	?	A	(723＋)
	S723	47,217.4	−57,233.0	28.902	Lt	13.7	15.0	6.9	1,381.0		A	(722＋)
20	S537	47,217.6	−57,231.6	28.983	Da	3.8	6.2	1.7	27.5	○	B	735+
	S735	47,217.3	−57,233.1	28.835	Da	13.0	16.2	9.9	1,947.0		B	537+
21	S132	47,216.6	−57,232.1	29.099	An	6.0	6.0	4.8	140.3	○	CD	298＋([506+])
	S298	47,217.4	−57,231.9	29.042	An	5.7	8.1	4.2	208.2		C	132+
	S506	47,217.3	−57,232.1	29.082	An	3.3	4.0	1.7	20.0		D	(132＋)
22	S349	47,217.2	−57,232.3	29.069	Lt	4.9	9.0	4.1	129.1		B	630+
	S630	47,217.0	−57,232.9	29.043	Lt	9.3	10.8	6.1	469.4	?	B	349+
23	S231	47,217.5	−57,231.5	29.045	An	7.0	7.3	5.3	204.6		BC	617+ 745+
	S617	47,217.0	−57,232.8	29.099	An	5.4	8.0	4.5	149.5		C	231+
	S754	47,217.4	−57,233.1	28.809	An	10.4	12.3	5.9	765.2		B	231+
24	S737	47,217.2	−57,233.2	28.820	An	15.4	18.0	6.9	1,477.1		A	(740＋)
	S740	47,217.4	−57,233.1	28.873	An	13.4	18.9	7.4	1,444.6		A	(737＋)
25	S717	47,217.3	−57,233.2	28.879	An	9.5	11.1	8.9	645.8		A	(718＋) 764+
	S718	47,217.3	−57,233.2	28.859	An	8.7	13.0	5.3	465.4		A	(717＋) 764+
	S764	47,217.2	−57,233.0	28.717	An	8.4	14.0	6.6	611.1		A	717+ 718+
26	S194	47,217.2	−57,231.6	29.089	An	4.1	6.2	2.6	55.2		B	771+
	S771	47,217.3	−57,233.1	28.643	An	12.7	25.4	8.2	2,284.0		B	194+
27	S012	47,217.4	−57,231.2	29.130	An	4.6	8.1	2.8	73.7		D	(047＋)
	S047	47,217.1	−57,230.9	29.112	An	6.5	8.3	4.8	198.5		D	(012＋)
28	S273	47,217.7	−57,232.0	29.023	An	5.3	10.3	3.3	187.8	?	C	421+
	S421	47,219.0	−57,232.4	29.033	An	6.3	10.5	3.1	215.4		CD	273＋(422＋)
	S422	47,219.0	−57,232.4	29.024	An	5.6	4.0	2.8	127.4		CD	(421＋)
29	S396	47,218.3	−57,232.7	29.066	Lt	10.3	14.0	3.6	476.5		C	619+
	S619	47,217.0	−57,232.9	29.097	Lt	6.4	11.3	2.4	130.7		C	396+
30	S428	47,219.2	−57,232.5	29.065	Da	10.8	12.3	6.3	639.6		D	(429＋)
	S429	47,219.1	−57,232.6	29.067	Da	5.5	8.0	5.0	238.9		D	(428＋)
31	S415	47,218.8	−57,232.2	29.042	An	8.0	9.4	6.2	459.4	?	C	637+
	S637	47,217.5	−57,232.9	29.064	An	7.7	9.0	5.8	462.9		C	415+
32	S107	47,216.5	−57,231.8	29.120	Da	4.9	5.7	2.2	49.4		D	(108+ 110+ 465＋)
	S108	47,216.5	−57,231.8	29.112	Da	7.4	9.0	4.4	237.5		D	(107+ 110+ 465＋)
	S110	47,216.6	−57,231.8	29.112	Da	4.0	6.7	3.0	69.4		D	(107+ 108+ 465＋)
	S465	47,216.4	−57,231.7	29.060	Da	2.1	3.4	1.2	9.3		D	(107+ 108+ 110＋)
33	S306	47,217.4	−57,231.9	29.023	Sn	8.0	7.2	3.6	150.8		D	(566+ 567＋)
	S554	47,217.4	−57,231.6	29.002	Sn	3.0	5.5	3.1	52.0		D	(566+ 567＋)
	S566	47,217.4	−57,231.9	29.043	Sn	3.2	5.5	3.6	54.4		D	(306+ 554+ 567＋)
	S567	47,217.4	−57,231.9	29.040	Sn	5.3	7.9	3.2	85.1		D	(306+ 554+ 566＋)
34	S104	47,216.7	−57,231.7	29.096	Rh	5.2	4.1	2.3	54.6		D	(406＋)
	S113	47,216.6	−57,231.8	29.087	Rh	5.2	6.0	2.8	88.5		D	(114+ 466＋)
	S114	47,216.6	−57,232.0	29.098	Rh	4.4	9.8	4.2	139.0		CD	(113+ 466＋) 508+
	S148	47,216.8	−57,231.9	29.082	Rh	4.2	5.1	1.8	35.5		CD	(466＋) 508+
	S466	47,216.6	−57,231.8	29.095	Rh	3.9	4.7	1.9	31.9		CD	(104+ 113+ 114+ 148＋) 508+
	S508	47,217.4	−57,232.1	29.060	Rh	7.0	7.7	2.9	101.6		C	114+ 148+ 466+
35	S755	47,217.3	−57,233.0	28.771	Da	7.6	12.9	6.8	725.7		A	(757＋)
	S757	47,217.3	−57,233.1	28.743	Da	7.4	11.8	6.6	442.7		A	(755＋)
36	S250	47,217.5	−57,231.6	29.053	Rh	9.0	8.7	4.5	267.8		B	756+
	S756	47,217.3	−57,233.0	28.742	Rh	6.5	8.7	4.5	227.3	▲	B	250+

第１表(2)　集石属性表２

接合 No	No	X=	Y=	H=	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	接合面の被熱	分布の型	接合関係(No+)
37	S163	47,216.8	−57,232.1	29.096	Lt	5.7	6.9	3.7	120.3		BCD	(166+) 331+ 721+
	S166	47,216.9	−57,232.1	29.077	Lt	5.2	7.3	2.6	66.8		CD	(163+) 331+
	S331	47,217.6	−57,232.4	29.033	Lt	3.3	7.1	2.2	48.6		BC	163+ 166+ 721+
	S721	47,217.2	−57,233.1	28.867	Lt	10.2	13.4	8.7	900.0		B	163+ 166+ 331+
38	S027	47,217.4	−57,230.8	29.040	Rh	5.6	6.5	4.1	105.7		B	697+
	S697	47,217.4	−57,233.1	28.992	Rh	7.5	14.9	4.9	601.1		B	027+
39	S302	47,217.3	−57,231.9	29.046	An	5.1	9.9	5.4	302.1		D	(320+)
	S320	47,217.3	−57,232.1	29.086	An	6.4	9.3	4.4	388.6		D	(302+)
40	S016	47,217.6	−57,230.4	29.163	Rh	8.1	4.8	2.3	71.2		C	087+ 161+
	S087	47,216.6	−57,231.1	29.152	Rh	5.7	4.8	2.3	53.7		C	016+ 161+
	S161	47,216.8	−57,232.1	29.095	Rh	4.6	8.6	2.5	60.5		C	016+ 087+
41	S627	47,217.2	−57,232.8	29.056	Rh	10.1	14.2	6.6	676.1		A	(677+)
	S677	47,217.2	−57,232.8	29.026	Rh	8.4	12.8	5.2	601.9		A	(627+)
42	S551	47,217.4	−57,231.7	29.031	Rh	6.8	8.5	2.2	119.4		C	616+
	S616	47,216.9	−57,232.8	29.116	Rh	8.4	10.3	2.3	175.7		C	551+
43	S318	47,217.2	−57,232.0	29.079	An	4.5	5.7	4.9	154.4		D	(354+ 573+)
	S354	47,217.1	−57,232.2	29.111	An	3.8	4.9	3.1	59.7		D	(318+)
	S573	47,217.3	−57,232.0	29.042	An	4.5	7.4	4.8	149.5		D	(318+)
44	S249	47,217.6	−57,231.7	29.043	Da	5.3	7.4	3.1	130.7		D	(274+)
	S274	47,217.6	−57,231.9	29.053	Da	3.1	6.6	3.2	49.6		D	(249+)
45	S134	47,216.7	−57,232.1	29.107	Lt	3.0	6.0	2.6	32.4		BC	247+ 762+
	S247	47,217.7	−57,231.6	28.999	Lt	5.5	4.9	2.5	57.6		BC	134+ 762+
	S762	47,217.5	−57,233.1	28.755	Lt	14.9	12.9	5.9	918.9		B	134+ 247+
46	S269	47,218.1	−57,232.0	28.994	Rh	8.0	10.7	6.8	618.3		C	412+
	S412	47,218.9	−57,232.1	29.034	Rh	10.3	14.5	8.4	954.4		BC	269+ 708+
	S708	47,217.5	−57,233.0	28.948	Rh	11.1	16.4	10.0	1,852.1		B	412+
47	S666	47,217.2	−57,233.4	28.963	Rh	5.7	10.9	5.0	188.7		A	(673+ 695+ 696+)
	S673	47,217.2	−57,233.4	28.934	Rh	13.0	16.3	6.8	1,142.4		A	(666+ 695+ 696+)
	S695	47,217.3	−57,233.4	28.935	Rh	7.7	9.5	4.8	303.6		A	(666+ 673+ 696+)
	S696	47,217.3	−57,233.4	28.915	Rh	2.9	4.3	1.3	12.1		A	(666+ 673+ 695+)
48	S146	47,216.8	−57,232.0	29.114	Rh	7.8	7.5	6.0	285.2		C	286+
	S285	47,217.6	−57,231.8	29.019	Rh	7.9	10.8	6.6	381.1		BD	(286+) 663+
	S286	47,217.6	−57,231.8	29.009	Rh	6.7	6.9	5.6	170.6		BCD	146+(285+) 663+
	S663	47,217.2	−57,233.3	28.994	Rh	8.5	12.4	7.0	731.4		B	285+ 286+
49	S633	47,216.9	−57,233.0	28.982	An	13.8	23.0	6.3	1,733.4		A	(686+)
	S686	47,217.0	−57,232.9	28.966	An	5.4	6.9	3.0	104.7		A	(633+)
50	S251	47,217.6	−57,231.6	29.035	An	5.8	7.9	5.8	234.2		BCD	(334+) 432+ 712+
	S334	47,217.4	−57,232.3	29.071	An	5.9	7.4	5.2	219.7		BD	(251+) 712+
	S432	47,217.4	−57,230.7	29.024	An	5.5	3.5	3.4	42.7		BCD	251+(594+) 712+
	S594	47,217.1	−57,231.9	29.057	An	3.8	4.3	2.3	29.2		BD	(432+) 712+
	S712	47,217.3	−57,233.0	28.899	An	10.0	12.6	9.4	1,250.9		B	251+ 334+ 594+
51	S010	47,217.0	−57,231.5	29.134	Rh	6.8	7.2	3.8	124.6		BC	494+ 624+ 668+
	S151	47,216.9	−57,231.8	29.099	Rh	6.3	5.5	2.8	83.5		BC	418+ 624+ 668+
	S303	47,217.3	−57,231.9	29.037	Rh	4.3	6.1	3.1	55.0		BC	418+ 419+ 624+
	S418	47,218.9	−57,232.3	29.031	Rh	5.0	7.0	3.8	96.8		BCD	151+ 303+(419+) 668+
	S419	47,218.9	−57,232.4	29.043	Rh	8.9	9.9	5.6	307.1		BCD	303+(418+) 668+
	S494	47,217.1	−57,232.3	29.075	Rh	4.5	6.5	3.1	69.1		C	010+ 624+
	S624	47,217.0	−57,232.9	29.124	Rh	8.3	11.3	3.4	319.5		BC	010+ 151+ 303+ 418+ 494+ 668+
	S668	47,217.2	−57,233.3	28.926	Rh	9.1	11.5	6.8	519.4		B	010+ 151+ 418+ 419+ 624+
52	S282	47,217.6	−57,231.9	29.022	Da	8.4	10.0	7.0	333.3		D	(283+ 316+)
	S283	47,217.5	−57,231.9	29.024	Da	5.8	5.9	2.6	64.6		D	(282+)
	S316	47,217.6	−57,232.1	29.037	Da	7.6	12.8	5.8	362.0		D	(283+)
53	S734	47,217.0	−57,233.2	28.778	Sn	13.3	23.0	9.3	1,862.1		A	(750+)
	S750	47,217.3	−57,233.3	28.778	Sn	9.4	16.3	8.5	1,731.4	○▲	A	(734+)
54	S096	47,216.8	−57,231.6	29.114	Lt	7.6	9.8	2.3	172.9		BD	(99+) 662+
	S099	47,216.8	−57,231.7	29.087	Lt	6.5	8.6	5.2	209.7		BD	(96+) 662+
	S660	47,217.1	−57,233.3	29.014	Lt	5.5	6.0	3.6	79.3		A	(661+ 662+)
	S661	47,217.2	−57,233.3	29.042	Lt	10.2	17.3	9.9	1,305.1		A	(660+ 662+)
	S662	47,217.2	−57,233.2	29.007	Lt	7.9	9.6	5.1	320.3		AB	96+ 99+(660+ 661+)
55	S076	47,217.0	−57,231.4	29.084	Rh	4.0	7.3	1.1	19.4	○	BD	([90+] 98+) [690+]
	S090	47,216.8	−57,231.4	29.106	Rh	7.5	5.6	1.6	38.8	○	BD	([76+] 98+) [690+]
	S091	47,216.8	−57,231.5	29.090	Rh	5.1	9.1	3.4	66.6		B	690+
	S098	47,216.7	−57,231.6	29.093	Rh	7.5	9.9	2.3	115.3	○	BD	(76+ 90+) 690+
	S690	47,217.1	−57,233.0	28.919	Rh	9.0	17.7	7.9	1,272.6	○	B	[76+ 90+] 91+ 98+
56	S004	47,217.1	−57,232.3	29.176	Rh	6.6	8.9	4.8	174.2		C	187+
	S187	47,217.2	−57,231.8	29.077	Rh	7.7	9.0	3.3	227.0		BC	004+ 614+ 672+ 714+
	S614	47,216.8	−57,232.9	29.006	Rh	9.4	9.8	2.8	275.4		BC	187+ 672+
	S672	47,217.1	−57,233.1	28.959	Rh	9.0	13.9	5.1	484.3		AB	187+ 614+(714+)
	S714	47,217.2	−57,233.1	28.927	Rh	4.9	6.1	1.4	38.8		AB	187+(672+)
57	S689	47,217.1	−57,233.0	28.908	Rh	7.6	9.2	7.0	361.0	?	A	733+
	S733	47,217.0	−57,233.1	28.761	Rh	6.7	7.9	6.5	266.5		A	689+
58	S639	47,217.6	−57,233.0	29.129	Rh	3.8	6.5	3.1	92.6		C	(640+)
	S640	47,217.6	−57,233.0	29.102	Rh	8.4	10.2	6.3	590.8		C	(639+)
59	S315	47,217.5	−57,232.1	29.033	Rh	4.8	6.3	3.3	81.4		BD	(538+ 583+) 763+
	S538	47,217.6	−57,231.7	28.970	Rh	3.5	3.2	1.5	12.1		D	(315+)
	S583	47,217.3	−57,231.9	28.979	Rh	4.6	6.0	1.6	36.7	?	BD	(315+) 763+
	S763	47,217.4	−57,233.0	28.705	Rh	10.5	14.6	6.3	1,041.8	◎	B	315+ 583+
60	S145	47,216.7	−57,232.0	29.081	Rh	10.4	9.1	3.8	300.3		CD	(159+) 203+ 338+
	S159	47,216.8	−57,232.0	29.101	Rh	6.4	8.0	2.4	73.7		CD	(145+) 203+ 330+ 338+
	S190	47,217.1	−57,231.7	29.082	Rh	4.9	7.0	2.3	57.6		C	330+ 338+
	S203	47,217.3	−57,231.7	29.066	Rh	5.5	9.4	2.1	86.8		C	145+ 159+
	S330	47,217.5	−57,232.3	29.070	Rh	7.0	7.5	4.6	170.0		CD	159+ 190+(338+)
	S338	47,217.4	−57,232.4	29.089	Rh	5.5	8.0	2.3	72.1		CD	145+ 159+ 190+(330+)
61	S172	47,217.0	−57,231.8	29.113	Rh	4.9	8.0	4.1	143.3		BD	(222+) 705+ 748+
	S222	47,217.5	−57,231.6	29.078	Rh	9.8	8.6	4.7	336.2		BD	(172+) 748+ 749+ 776+
	S528	47,217.4	−57,231.9	28.999	Rh	3.7	4.0	1.8	25.0	○	B	705+ 749+
	S705	47,217.1	−57,233.4	28.820	Rh	10.7	11.6	5.9	717.0		AB	528+(748+ 749+)
	S748	47,217.1	−57,233.3	28.740	Rh	8.9	11.2	4.8	484.9		AB	172+ 222+(705+ 749+)
	S749	47,217.1	−57,233.4	28.746	Rh	9.3	9.3	3.2	211.2		AB	222+ 528+(705+ 748+)
	S776	47,217.2	−57,233.2	28.649	Rh	4.4	8.5	3.8	131.8		B	222+

第1表(3)　集石属性表3

接合 No	No	X=	Y=	H=	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	接合面の被熱	分布の型	接合関係(No十)
62	S034	47,217.6	−57,231.0	29.044	Rh	4.6	6.4	2.6	33.1		C	141+ 585+
	S038	47,217.4	−57,231.2	29.083	Rh	4.7	6.2	1.8	23.7		C	333+ 585+
	S141	47,216.5	−57,232.5	29.095	Rh	7.5	14.0	5.9	486.3		CD	034+(142+)
	S142	47,216.7	−57,232.1	29.093	Rh	5.9	9.9	5.0	233.1		D	(141+)
	S236	47,217.7	−57,231.5	29.025	Rh	4.3	8.6	3.1	47.9		D	(333+)
	S333	47,217.4	−57,232.3	29.072	Rh	6.5	7.7	2.0	65.8		CD	038+(236+) 585+
	S585	47,217.3	−57,231.8	29.026	Rh	4.4	5.1	2.1	35.5		C	034+ 038+ 333+
63	S481	47,217.0	−57,232.0	29.072	Rh	4.2	6.5	2.6	62.9		B	746+
	S681	47,217.5	−57,233.1	29.032	Rh	8.0	10.6	4.8	444.3		B	746+
	S746	47,217.0	−57,233.0	28.755	Rh	8.4	9.6	6.9	602.6		B	481+ 681+
64	S143	47,216.7	−57,232.0	29.112	An	5.0	8.9	4.2	133.4		B	710+
	S710	47,217.2	−57,232.9	28.894	An	11.1	17.7	7.6	1,328.7		AB	143+ 725+
	S725	47,217.2	−57,232.9	28.864	An	4.9	3.8	2.3	59.9		A	(710+)
65	S053	47,217.0	−57,231.1	29.096	Rh	4.0	7.0	5.8	105.7	?	BC	[255+ 385+] 701+
	S084	47,217.3	−57,231.3	29.075	Rh	6.5	7.0	3.3	109.5		BC	470+ 701+
	S140	47,216.6	−57,232.4	29.106	Rh	5.8	7.0	4.6	153.1		C	385+
	S254	47,217.6	−57,231.7	29.016	Rh	5.9	7.0	4.1	127.2	?	BD	([255+]) 701+
	S255	47,217.6	−57,231.8	29.025	Rh	7.2	7.5	5.1	267.3	?	BCD	([254+]) 053+ 701+
	S385	47,217.0	−57,232.6	29.098	Rh	4.3	7.3	5.0	173.7	?	BC	[053+] [140+] 470+ 701+
	S470	47,216.8	−57,232.0	29.070	Rh	4.0	4.8	2.0	19.9		BC	084+ 385+ 701+
	S701	47,217.6	−57,233.1	28.994	Rh	8.9	10.3	7.0	778.7		B	053+ 084+ 254+ 255+ 385+ 470+
66	S137	47,216.6	−57,232.2	29.102	Rh	5.4	6.8	4.0	73.1		C	370+ 380+
	S277	47,217.6	−57,231.9	29.016	Rh	3.5	5.5	2.6	46.7		CD	(300+) 353+ 372+ 380+
	S299	47,217.5	−57,231.9	29.025	Rh	6.3	7.5	4.0	132.2		CD	(300+) 353+ 370+ 380+
	S300	47,217.5	−57,231.9	29.028	Rh	3.9	5.2	3.4	51.2		CD	(277+ 299+) 370+ 380+
	S351	47,217.2	−57,232.1	29.092	Rh	5.3	5.5	4.1	115.8		CD	299+(353+ 372+)
	S353	47,217.2	−57,232.2	29.090	Rh	4.5	4.5	3.8	67.0		CD	299+(351+ 372+ 380+)
	S370	47,217.0	−57,232.4	29.091	Rh	6.4	9.4	4.7	265.0		CD	137+ 299+ 300+(380+)
	S372	47,217.0	−57,232.4	29.138	Rh	2.0	2.5	1.2	5.2		CD	277+(351+ 353+)
	S380	47,217.2	−57,232.4	29.071	Rh	7.8	9.0	4.1	287.2		CD	137+ 277+ 299+ 300+(353+ 370+)
67	S003	47,217.0	−57,232.2	29.168	Rh	5.8	5.4	5.4	181.4		BD	(366+ 496+) 731+
	S127	47,216.5	−57,232.2	29.098	Rh	4.6	5.8	3.5	74.2		CD	(139+) 496+
	S139	47,216.6	−57,232.3	29.099	Rh	3.8	7.4	4.5	114.9		CD	(127+ 366+) 496+
	S366	47,216.8	−57,232.3	29.097	Rh	6.1	5.0	3.0	85.0		D	(003+ 139+ 496+)
	S496	47,217.2	−57,232.3	29.059	Rh	5.0	7.0	4.1	135.3		BCD	(003+) 127+ 139+(366+) 731+
	S731	47,216.9	−57,233.1	28.826	Rh	6.5	8.7	4.6	261.0		B	003+ 496+
68	S122	47,216.8	−57,231.8	29.115	An	5.4	7.4	4.2	120.3	○	C	253+ 272+
	S253	47,217.6	−57,231.7	29.054	An	7.9	11.5	4.9	281.0	○	CD	122+(272+ 284+ 530+)
	S272	47,217.7	−57,231.9	29.041	An	6.5	8.3	4.7	235.0		CD	122+(253+ 284+ 530+)
	S284	47,217.5	−57,231.8	29.039	An	7.8	10.8	6.5	497.8		D	(253+ 272+)
	S530	47,217.6	−57,231.8	28.983	An	3.0	3.8	2.1	14.2		D	(253+ 272+)
69	S014	47,216.6	−57,231.2	29.290	An	6.5	7.8	5.9	246.0		C	100+ 155+ 167+ 529+
	S100	47,216.8	−57,231.7	29.092	An	5.2	5.9	3.2	47.6		C	014+ 529+
	S155	47,217.0	−57,232.0	29.125	An	6.5	7.4	5.6	208.2		CD	014+(167+ 184+)
	S167	47,217.0	−57,232.1	29.095	An	4.6	4.9	2.9	44.7		CD	014+(155+ 184+) 529+
	S184	47,217.1	−57,231.8	29.110	An	5.1	5.5	4.2	78.7		D	(155+ 167+)
	S529	47,217.6	−57,231.9	29.017	An	5.4	7.5	3.4	124.0		C	014+ 100+ 167+
70	S101	47,216.8	−57,231.6	29.072	Da	6.1	10.3	3.5	136.1	?	BC	[181+] 760+
	S181	47,217.1	−57,231.9	29.103	Da	8.0	9.0	4.5	214.3	?	BC	[101+] 632+ 658+ 760+
	S390	47,216.8	−57,232.6	29.086	Da	8.7	8.3	5.0	237.3		BC	632+ 658+
	S469	47,216.7	−57,231.9	29.034	Da	2.7	4.7	1.5	15.6	?	B	760+
	S632	47,217.0	−57,233.0	29.012	Da	6.2	11.5	2.9	152.9		CD	181+ 390+(658+)
	S658	47,217.3	−57,233.3	29.088	Da	6.2	6.7	4.0	104.3		CD	181+ 390+(658+)
	S760	47,217.2	−57,233.2	28.702	Da	7.0	11.4	4.3	247.5		B	101+ 181+ 469+
71	S531	47,217.7	−57,231.7	28.978	An	5.8	7.5	2.0	59.1		BD	(539+) 716+ 741+
	S539	47,217.5	−57,231.6	29.008	An	4.8	5.6	1.3	38.0		BD	(531+) 716+
	S716	47,217.2	−57,233.1	28.933	An	9.3	13.3	5.7	472.8		AB	539+(724+ 741+)
	S724	47,217.3	−57,233.3	28.895	An	15.5	17.0	8.0	2,417.7		A	(716+ 741+ 769+)
	S741	47,217.3	−57,233.2	28.868	An	6.5	10.7	3.9	186.4		AB	531+(716+ 724+)
	S769	47,217.4	−57,233.2	28.700	An	6.4	11.0	3.4	206.4		A	(724+)
72	S280	47,217.6	−57,232.0	29.052	Lt	5.1	5.8	3.5	70.7		D	(324+ 325+)
	S319	47,217.3	−57,232.1	29.105	Lt	6.7	6.2	2.8	76.3		D	(323+)
	S322	47,217.4	−57,232.2	29.091	Lt	5.8	8.0	3.4	130.0		D	(323+ 324+ 325+)
	S323	47,217.4	−57,232.1	29.090	Lt	4.6	7.1	3.0	76.5		D	(319+ 322+ 324+ 502+)
	S324	47,217.4	−57,232.1	29.071	Lt	7.0	8.3	5.0	206.5		D	(280+ 322+ 323+ 325+ 503+)
	S325	47,217.4	−57,232.2	29.051	Lt	8.0	12.0	5.8	397.3		D	(280+ 322+ 324+ 328+ 519+)
	S328	47,217.5	−57,232.2	29.056	Lt	4.9	8.5	2.5	80.7		D	(325+)
	S502	47,217.3	−57,232.2	29.045	Lt	3.8	7.1	1.8	36.8		D	(323+ 503+)
	S503	47,217.3	−57,232.1	29.084	Lt	3.1	3.2	2.2	17.8		D	(324+ 502+)
	S519	47,217.5	−57,232.0	29.026	Lt	5.2	4.4	3.0	57.9		D	(325+)
73	S520	47,217.5	−57,232.0	29.014	An	2.2	2.6	1.2	6.9	○	B	759+
	S759	47,217.1	−57,233.3	28.691	An	6.2	5.7	3.2	81.3		B	520+
74	S207	47,217.3	−57,231.6	29.039	Rh	5.7	8.7	2.3	69.2		D	(312+ 321+ 610+)
	S295	47,217.4	−57,231.8	29.051	Rh	6.7	8.6	4.5	234.7		D	(312+ 339+ 622+)
	S312	47,217.4	−57,232.1	29.109	Rh	8.5	12.3	6.3	546.7		D	(207+ 295+ 321+ 610+)
	S321	47,217.3	−57,232.2	29.105	Rh	9.0	12.9	6.6	922.6		D	(207+ 312+ 589+)
	S329	47,217.6	−57,232.3	29.057	Rh	6.9	9.1	4.6	229.6		D	(340+ 622+)
	S339	47,217.4	−57,232.5	29.077	Rh	6.2	8.8	2.8	103.0		D	(295+ 340+ 622+)
	S340	47,217.4	−57,232.4	29.070	Rh	6.0	8.6	6.3	270.2		D	(329+ 339+ 589+)
	S589	47,217.2	−57,231.9	29.030	Rh	7.0	7.3	2.4	105.7		D	(321+ 340+)
	S610	47,217.2	−57,231.7	29.032	Rh	5.1	8.7	2.7	81.8		D	(207+ 312+)
	S622	47,217.3	−57,232.6	29.071	Rh	8.0	8.9	4.4	278.0		D	(295+ 329+ 339+)
75	S369	47,216.9	−57,232.3	29.099	Lt	5.5	8.5	3.4	112.9		BD	(682+) 732+
	S618	47,217.0	−57,232.7	29.078	Lt	5.4	7.3	3.3	112.0	?	AD	(680+ 682+) 732+
	S675	47,217.3	−57,233.0	28.989	Lt	9.4	11.2	5.9	517.8	?	AD	(680+ 682+) 732+
	S680	47,217.4	−57,233.0	28.952	Lt	6.6	6.7	4.2	160.4	?	AD	(618+ 675+) 732+
	S682	47,217.6	−57,233.2	29.103	Lt	9.3	9.3	5.3	406.3		AD	(369+ 618+ 675+) 732+
	S732	47,217.0	−57,233.1	28.778	Lt	7.8	11.8	6.8	491.7	?	AB	369+ 618+ 675+ 680+ 682+

第1表(4)　集石属性表4

接合 No	No	X=	Y=	H=	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	接合面の被熱	分布の型	接合関係(No+)
76	S006	47,217.2	−57,232.3	29.161	An	3.2	5.4	3.4	42.8		C	276+ 361+
	S276	47,217.6	−57,232.0	29.052	An	3.9	7.5	2.9	57.7		CD	006+(301+) 345+
	S301	47,217.3	−57,231.9	29.035	An	5.8	8.2	3.2	115.7		CD	(276+) 342+ 345+(361+) 386+ 490
	S342	47,217.3	−57,232.5	29.084	An	6.3	6.8	2.5	97.5		CD	301+(345+ 384+ 386+) 649+
	S345	47,217.2	−57,232.4	29.120	An	4.8	7.7	2.2	63.9		CD	276+ 301+(342+ 384+)
	S361	47,217.1	−57,232.2	29.079	An	6.8	9.2	4.4	172.3		CD	006+(301+) 649+
	S384	47,217.0	−57,232.5	29.104	An	5.4	6.7	3.8	98.1		D	(342+ 345+ 386+)
	S386	47,216.9	−57,232.5	29.098	An	6.0	6.9	3.3	105.5		CD	301+(342+ 384+)
	S490	47,217.0	−57,232.4	29.079	An	5.5	6.0	2.8	151.1		C	301+
	S649	47,217.5	−57,233.1	29.073	An	7.1	12.3	6.6	522.6		C	342+ 361+ 386+
77	S092	47,216.8	−57,231.5	29.097	Rh	3.5	5.1	1.1	12.6		C	590+ 646+
	S526	47,217.5	−57,231.9	29.019	Rh	2.7	5.6	2.7	28.9		C	646+
	S590	47,217.2	−57,231.8	29.004	Rh	2.1	5.3	1.1	7.5		C	092+
	S646	47,217.6	−57,233.2	29.172	Rh	7.0	15.2	6.4	611.4	○	C	[092+] 526+
78	S011	47,217.2	−57,231.4	29.163	Rh	6.9	11.3	6.2	329.4		C	279+ 381+ 620+
	S279	47,217.6	−57,232.1	29.039	Rh	4.0	4.3	3.9	49.9		C	011+ 381+ 620+
	S326	47,217.5	−57,232.2	29.070	Rh	6.0	7.9	4.9	208.5		CD	011+(337+) 365+ 381+
	S337	47,217.3	−57,232.4	29.072	Rh	3.6	4.3	2.0	28.3		CD	(326+) 365+
	S365	47,217.0	−57,232.2	29.065	Rh	5.0	6.3	4.3	72.7		C	326+ 337+ 381+
	S381	47,217.2	−57,232.6	29.081	Rh	6.5	8.8	3.9	117.7		C	011+ 279+ 326+ 365+
	S620	47,217.2	−57,232.8	29.120	Rh	4.8	8.0	4.8	119.4		C	011+ 279+
79	S270	47,217.9	−57,231.9	29.010	Sn	4.8	7.5	2.1	42.1		C	654+
	S654	47,217.4	−57,233.2	29.119	Sn	12.5	14.3	6.3	733.7		CD	270+(683+)
	S683	47,217.4	−57,233.1	29.062	Sn	8.3	10.1	4.7	282.0		D	(654+)
80	S245	47,217.7	−57,231.6	29.002	An	4.5	5.3	4.6	91.0		BCD	(248+) 505+ 715+
	S248	47,217.7	−57,231.6	29.027	An	4.8	6.0	5.1	131.8		BCD	(245+) 505+ 715+
	S505	47,217.4	−57,232.2	29.070	An	6.3	6.2	3.6	137.3		BC	245+ 248+ 715+
	S715	47,217.1	−57,233.0	28.876	An	7.5	8.5	6.3	411.5		B	245+ 248+ 505+
81	S527	47,217.5	−57,231.9	29.008	Lt	2.7	7.3	2.4	43.3		B	631+
	S562	47,217.3	−57,231.8	29.026	Lt	4.4	8.8	2.0	71.4		B	631+
	S631	47,217.1	−57,232.9	28.988	Lt	7.7	8.6	3.2	164.5	○	B	562+ [527+]
82	S406	47,218.8	−57,231.8	28.861	An	5.8	8.9	3.9	120.2		D	(407+ 408+)
	S407	47,218.8	−57,231.8	28.855	An	5.9	8.0	2.6	88.3		D	(406+ 408+)
	S408	47,218.8	−57,231.9	28.871	An	6.2	6.0	2.5	55.8		D	(406+ 407+)
83	S019	47,216.9	−57,232.1	29.150	Lt	5.0	5.1	1.7	29.9		C	371+ 592+
	S093	47,216.8	−57,231.5	29.080	Lt	3.5	5.2	2.2	34.8		CD	(463+) 520+
	S357	47,217.0	−57,232.3	29.120	Lt	5.2	7.2	1.7	59.6		CD	(358+) 371+ 592+
	S358	47,217.0	−57,232.4	29.129	Lt	4.8	7.0	2.7	97.2		D	(357+)
	S371	47,217.0	−57,232.4	29.107	Lt	7.1	10.3	2.2	126.2		C	019+ 357+ 592+
	S463	47,217.0	−57,231.7	28.997	Lt	3.7	3.0	1.0	11.9		CD	(093+) 520+
	S592	47,217.1	−57,231.9	29.103	Lt	4.8	7.6	1.8	39.4		C	019+ 357+ 371+
	S520	47,217.5	−57,232.0	29.014	Lt						C	093+ 463+
84	S042	47,217.4	−57,231.2	29.045	Lt	5.6	8.1	5.0	197.0	?	BC	615+ 667+
	S088	47,216.6	−57,231.1	29.149	Lt	4.5	7.1	2.3	53.3		BC	499+ 615+ 667+ 703+
	S095	47,216.6	−57,231.4	29.110	Lt	5.4	9.8	2.8	91.7	?	BC	499+ 615+ 667+ 703+
	S499	47,217.4	−57,232.3	29.036	Lt	3.0	4.2	1.8	17.0	?	C	088+ 095+ [615+]
	S615	47,217.0	−57,232.7	29.043	Lt	10.3	12.3	4.0	310.3	?	BC	042+ 088+ 095+ [499+] 667+
	S667	47,217.2	−57,233.3	28.908	Lt	8.3	13.6	5.3	490.7	?	AB	042+ 088+ 095+ 703+
	S703	47,217.2	−57,233.3	28.834	Lt	5.3	6.1	3.3	82.1	?	AB	088+ 095+ 667+
85	S290	47,217.5	−57,231.7	29.041	Da	4.5	5.2	3.1	56.4		D	(293+)
	S293	47,217.5	−57,231.8	29.034	Da	4.1	6.0	4.0	79.0		D	(290+ 511+ 515+)
	S511	47,217.4	−57,232.0	29.049	Da	7.7	7.9	6.3	312.9		D	(293+ 515+)
	S515	47,217.4	−57,232.0	29.023	Da	2.4	3.7	2.2	17.0		D	(293+ 511+)
86	S018	47,217.1	−57,232.5	29.131	Rh	3.1	7.1	2.3	28.3		D	(377+)
	S115	47,216.6	−57,232.0	29.088	Rh	5.2	7.9	2.9	102.9		C	377+
	S377	47,217.1	−57,232.5	29.097	Rh	5.4	9.8	2.5	140.6		CD	(018+) 115+
87	S097	47,216.7	−57,231.6	29.099	Rh	5.7	8.2	3.2	122.9		D	(170+)
	S170	47,217.0	−57,231.9	29.105	Rh	2.4	4.6	2.2	21.5		D	(097+)
88	S192	47,217.1	−57,231.7	29.079	Rh	3.9	6.0	2.8	49.4		C	240+
	S240	47,217.7	−57,231.5	29.027	Rh	3.3	6.2	3.3	54.8		C	192+ 497+
	S497	47,217.3	−57,232.4	29.063	Rh	4.6	5.9	2.9	59.1	?	C	240+
89	S135	47,216.7	−57,232.2	29.106	Lt	5.7	7.0	4.0	117.5		D	(136+)
	S136	47,216.6	−57,232.2	29.124	Lt	3.9	4.3	3.6	38.0		D	(135+)
90	S317	47,217.2	−57,232.0	29.112	Lt	6.3	8.3	5.8	202.5		D	(574+)
	S574	47,217.4	−57,232.0	29.072	Lt	6.2	8.5	3.8	147.6	?	D	(317+)
91	S413	47,218.7	−57,232.2	29.036	Da	7.5	5.8	2.6	126.6		D	(414+ 416+ 417+)
	S414	47,218.7	−57,232.3	29.089	Da	3.7	6.3	2.9	66.8		D	(413+ 416+)
	S416	47,218.8	−57,232.3	29.042	Da	6.9	5.3	2.6	92.0		D	(413+ 414+ 417+)
	S417	47,218.9	−57,232.2	29.028	Da	4.5	5.5	3.3	66.9		D	(413+ 416+)
92	S427	47,219.3	−57,232.5	29.038	Rh	8.5	11.1	8.1	725.1		C	598+
	S598	47,217.1	−57,231.8	29.060	Rh	3.4	3.5	1.9	15.9		C	427+
93	S307	47,217.4	−57,232.0	29.053	Rh	7.3	7.4	3.6	171.3		D	(310+ 311+)
	S310	47,217.5	−57,232.0	29.020	Rh	3.5	5.3	3.1	36.5		D	(307+ 311+ 313+)
	S311	47,217.5	−57,232.0	29.050	Rh	7.0	8.2	3.1	131.0		D	(307+ 310+ 313+ 518+)
	S313	47,217.5	−57,232.0	29.058	Rh	6.3	6.7	3.2	55.3		D	(310+ 311+ 518+)
	S518	47,217.5	−57,232.0	29.021	Rh	3.8	6.0	2.2	35.4		D	(311+ 313+)
94	S121	47,216.8	−57,231.8	29.092	Rh	4.8	8.0	2.1	67.2		CD	(158+) 327+
	S158	47,216.8	−57,232.0	29.094	Rh	5.3	8.5	4.3	137.9		CD	(121+) 327+
	S327	47,217.5	−57,232.2	29.053	Rh	6.8	8.8	4.4	242.2		C	121+ 158+
95	S117	47,216.7	−57,231.9	29.096	Rh	5.0	5.9	2.5	71.4		C	621+
	S621	47,217.1	−57,232.7	29.075	Rh	5.6	10.8	2.9	157.1		C	117+
96	S149	47,216.8	−57,231.9	29.092	Rh	3.4	5.2	2.3	29.7		D	(150+)
	S150	47,216.9	−57,231.9	29.093	Rh	5.7	8.4	4.0	134.7		D	(149+)
97	S156	47,216.9	−57,232.0	29.105	An	5.4	5.2	4.6	111.3		D	(160+)
	S160	47,216.8	−57,232.1	29.099	An	7.0	7.1	3.5	140.6		D	(156+)
98	S040	47,217.4	−57,231.1	29.051	Rh	5.0	5.0	4.1	105.4		C	296+
	S296	47,217.4	−57,231.9	29.075	Rh	6.4	6.8	5.0	135.6	?	C	040+
99	S025	47,217.4	−57,230.7	29.072	Rh	6.1	10.0	4.8	173.7		C	260+
	S260	47,217.6	−57,231.8	29.055	Rh	3.9	6.2	2.1	32.3		C	025+

第1表(5)　集石属性表5

接合No	No	X=	Y=	H=	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	接合面の被熱	分布の型	接合関係(No+)
100	S394	47,218.3	−57,232.9	29.089	Da	3.5	6.8	2.0	42.0		D	(395+)
	S395	47,218.4	−57,233.1	29.134	Da	5.0	11.7	3.5	231.1		D	(394+)
101	S094	47,216.7	−57,231.4	29.115	Rh	4.3	7.0	3.8	82.5		C	116+ 535+
	S116	47,216.6	−57,231.9	29.087	Rh	4.7	7.3	3.2	91.5		C	094+ 535+
	S535	47,217.6	−57,231.5	28.982	Rh	3.8	6.5	1.7	28.9		C	094+ 116+
102	S486	47,217.1	−57,232.1	29.004	Rh	3.8	3.6	2.7	30.9		D	(492+)
	S492	47,217.1	−57,232.3	29.067	Rh	4.2	4.5	2.5	47.8		D	(486+)
103	S199	47,217.2	−57,231.6	29.056	Da	3.0	4.2	2.8	22.5	?	D	(601+)
	S452	47,217.1	−57,231.5	28.977	Da	3.0	4.5	3.0	30.5		C	601+
	S601	47,217.1	−57,231.8	29.067	Da	3.4	4.6	3.3	41.0		CD	(199+) 452+
104	S343	47,217.3	−57,232.5	29.063	An	7.1	6.6	2.7	66.0		D	(344+ 348+)
	S344	47,217.2	−57,232.4	29.123	An	3.3	6.0	1.6	26.4		D	(343+ 348+)
	S348	47,217.2	−57,232.3	29.101	An	4.3	6.0	2.0	52.6		D	(343+ 344+)
105	S030	47,217.5	−57,230.8	29.026	Rh	4.3	4.8	1.3	24.2		C	186+
	S032	47,217.5	−57,230.8	29.026	Rh	4.0	5.8	2.1	35.7		C	595+
	S072	47,217.0	−57,231.3	29.034	Rh	3.1	6.6	1.4	21.4		CD	(604+) 640+
	S186	47,217.2	−57,231.9	29.082	Rh	8.7	9.3	3.3	178.1		C	030+ 595+ 640+
	S568	47,217.4	−57,231.8	29.019	Rh	4.3	6.8	1.8	50.1		C	604+
	S595	47,217.1	−57,231.8	29.061	Rh	2.8	5.3	1.8	22.1		CD	032+ 186+(604+)
	S604	47,217.1	−57,231.9	29.061	Rh	6.3	6.8	2.1	44.8		CD	(072+) 186+(568+ 595+) 640+
	S640	47,217.6	−57,233.0	29.102	Rh						C	072+ 186+ 604+
106	S124	47,216.5	−57,232.1	29.128	Rh	2.7	5.0	2.6	21.8		CD	(126+) 625+
	S126	47,216.5	−57,232.1	29.113	Rh	4.5	5.7	3.1	61.7		CD	(124+) 625+
	S271	47,217.7	−57,231.9	29.022	Rh	5.9	5.1	2.9	67.2		C	364+
	S364	47,216.9	−57,232.2	29.089	Rh	6.5	6.2	3.9	146.1		C	271+
	S625	47,217.0	−57,232.8	29.072	Rh	7.1	6.8	2.8	74.3		C	124+ 126+
107	S086	47,216.7	−57,231.1	29.129	An	5.1	7.1	3.0	78.6		CD	(089+) 204+ 292+ 555+
	S089	47,216.7	−57,231.2	29.128	An	5.5	8.0	3.8	112.7		CD	(086+) 200+
	S200	47,217.3	−57,231.7	29.064	An	5.3	7.7	4.3	118.0		C	086+ 089+
	S204	47,217.3	−57,231.7	29.060	An	2.8	3.5	1.2	7.9		CD	086+(555+)
	S291	47,217.5	−57,231.7	29.012	An	6.0	6.5	3.4	91.2		CD	086+(555+)
	S555	47,217.4	−57,231.7	29.031	An	4.5	6.7	2.3	50.0		CD	086+(204+ 291+)
108	S183	47,217.1	−57,231.8	29.116	An	5.8	8.0	2.9	82.0		C	259+
	S259	47,217.7	−57,231.8	29.047	An	4.0	5.9	3.2	61.0		C	183+
109	S220	47,217.4	−57,231.5	29.035	Rh	3.0	3.5	2.0	18.6		D	(558+)
	S558	47,217.5	−57,231.8	29.004	Rh	3.5	4.2	3.0	39.0		D	(220+)

第2節　遺物の分布状況

本報告では、遺物分布図は平面分布のみを示し、立面分布は割愛した。省略した平面分布図も含めて、第3節の遺物属性表に、地点で取り上げた資料について本報告で用いた座標データを載せておくので、煩わしいとのそしりは免れえないかもしれないが、適宜参照されたい。

第1項　石器の分布状況

八里向山遺跡群では、とくに流紋岩（Rh−＊）の剥片類が多い。本章の石材分類に従って例示すれば、B遺跡で出土した茂呂型ナイフ形石器はRh−1、C遺跡で出土した縦長剥片はRh−2・Rh−3である。

A遺跡（図省略）

三叉谷に面した南側の斜面上で剥片数点と石鏃が出土した。剥片類は、少ない中でもAaが主体であり、剥片自体は風化層に覆われているが、二次加工痕と思われる剥離痕には風化がほとんど認められない。あるいは、弥生時代の所産である可能性もある。

B遺跡Ⅱ区（図省略）

ここの尾根上には平安時代寺院跡の平坦面（「テラス」）が検出されているが、この覆土と周辺の斜面上に石器とⅢ群土器が分布している。ここで出土している石器はRh−3の剥片類がとくに多い。他に、AaやFq−1などの剥片類が数点ずつ分布する。ただ、遺物の分布状況は、平坦面の造成と埋没による影響がきわめて大きいと見なされる。

C遺跡（第16図（1)・(2)）

図示したのは、石器のドットマップ全点とRh−2・Rh−3の分布である。×は土壌分析試料採取地点(第4節)であり、C−1号墳（SX01）の前方部にあたる。Rh−2・Rh−3の剥片類の分布状況は、しいていえば、やや北よりに偏る傾向は看取され、これに対し縄文土器の分布は、南側の斜面にかけて偏る傾向がある。

Rh−2・Rh−3は2箇所に数点かたまって出土しているが、明確なユニットを形成するほどではない。また、調査区中央に接合資料がある。

また、図にはプロットされていないがSX01の後方部北側に接する谷部で国府型ナイフ形石器が出土している。ただ、C遺跡内では、これの素材となるAaの剥片類の分布は稀薄である。

D遺跡Ⅰ区（第17図（1）～（5））

D－2号墳（SX02）周溝の内側に1箇所ユニットが検出されている。主体部や周溝覆土にかけて分布していて、造墓や埋没の過程で原位置が保たれているとはいいがたい。ユニットは主にRh－3・Rh－4・Rh－5・Rh－6の4種類の石材で構成され、このいずれにも属さないが同様な流紋岩質石材の有樋尖頭器が出土している。また、このユニットと地点をちがえて、尾根上に南北に長くAaが分布する。

ここでもやはり縄文土器の分布とことごとく重複している状況があるが、ユニットに関してはこれらとは明らかにずれた位置にある。縄文土器の分布は、周辺に分散する石器の方にむしろ有意に結びつくものであろうか。

ユニット資料に関して、分布の特徴でいえば、最もユニットの中でかたまっているのはRh－6、ユニットを中心に分散しているのがRh－4、ユニット内でかたまるが離れた地点にも認められるのがRh－3、ユニットからややずれた地点で疎らに分布するのがRh－5である。図には、参考として、有樋尖頭器の出土地点（◇）もプロットしたが、これ自体は単独出土と見なされ、ユニット資料とどれほど有意に結びつくかは分からない。

Ⅱ区ではAaの剥片が1点が表面採取されているが、発掘調査では他に石器は出土しなかった。

E遺跡（図なし）

試掘調査で出土した剥片類は、本章の分類ではRh－2だが、見た目には、それぞれが同一母岩資料であるとはいいがたい。石器には米ヶ森型台形石器と思しきものがある。また、石鏃も1点出土している。

第2項　縄文土器の分布状況

遺構が検出されたB遺跡Ⅰ区とC遺跡SK01出土土器を除いて、他は表土直下層に土器片が分布するのみである。冒頭に示した主要分類群以外の土器群の存在を窺わせる資料もあるにはあるが、明確ではない。

A遺跡（図省略）

石器と同じく三叉谷に面した南側の斜面に土器片が分布している。縄文土器か否かの識別もままならない細片が多いが、この中の数点、中期後葉と思われる土器片が含まれる。また、三叉谷の最奥部N－7Grで土製耳飾が1点出土した。

B遺跡（第18図（1）～（5））

土器片は、主要分類群の全てが出土している。Ⅲ群がⅡ区尾根上に分布の中心がある他は、Ⅰ区のA丘の南斜面をかすめて鞍部から谷部にかけておもにⅡ・Ⅳ・Ⅴ群が分布している。Ⅰ群については前節に述べたとおりだが、Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ群についても、この分布域に重複して、集石ほどの密度はないが礫の分布（調査では「PU」と呼称）が認められる。第3節の遺物属性表で「PU」と表示のある石器や土器が、この礫に混じって出土したものである。これらの礫が集石の場合と異なるのは、被熱礫が少ないことと、石錘や敲打器など、ツールとして使用された礫が含まれている点である。

主要分類群の土器片が分布域をほぼ同じくして重複している点について、鞍部を分布の中心にしているという立地条件とともに、侵食などの要因で谷へ流れ込んだ影響も勘案しなければならないであろう。分布域が同じように重複しているという状況は、むしろ埋没の過程で生じる要因によるところが大きいのではないだろうか。

C遺跡（第19図（1）・（2））

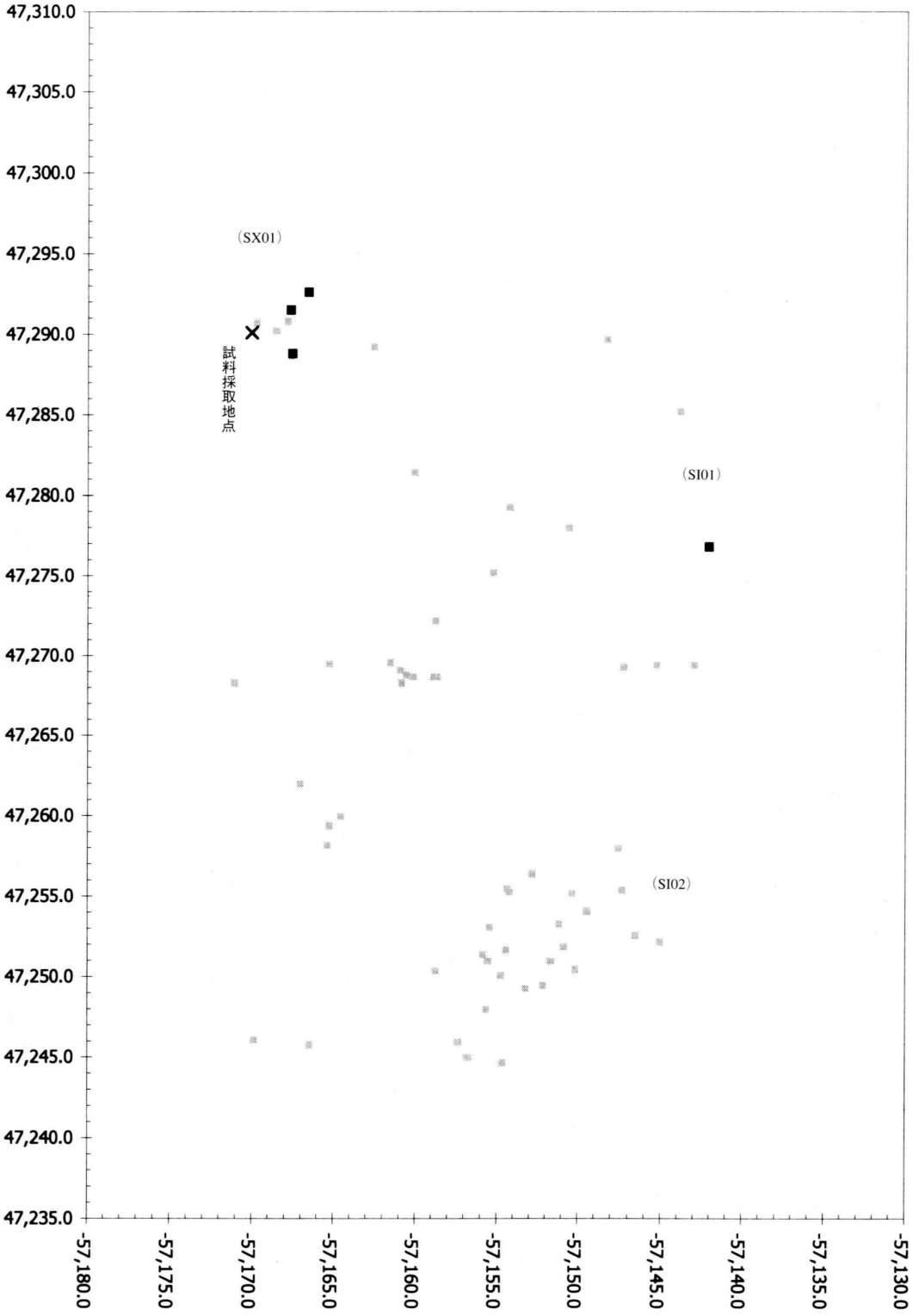
石器の分布とほぼ重複して分布し、主要分類群のⅢ・Ⅳ群で占められる。調査区南側の斜面上ではⅢ群がとくに多く、C－1号土坑（SK01）の周辺に分布が集中する。他には、Ⅰ・Ⅴ群の細片が疎らに分布する。

D遺跡（第20図（1）・（2））

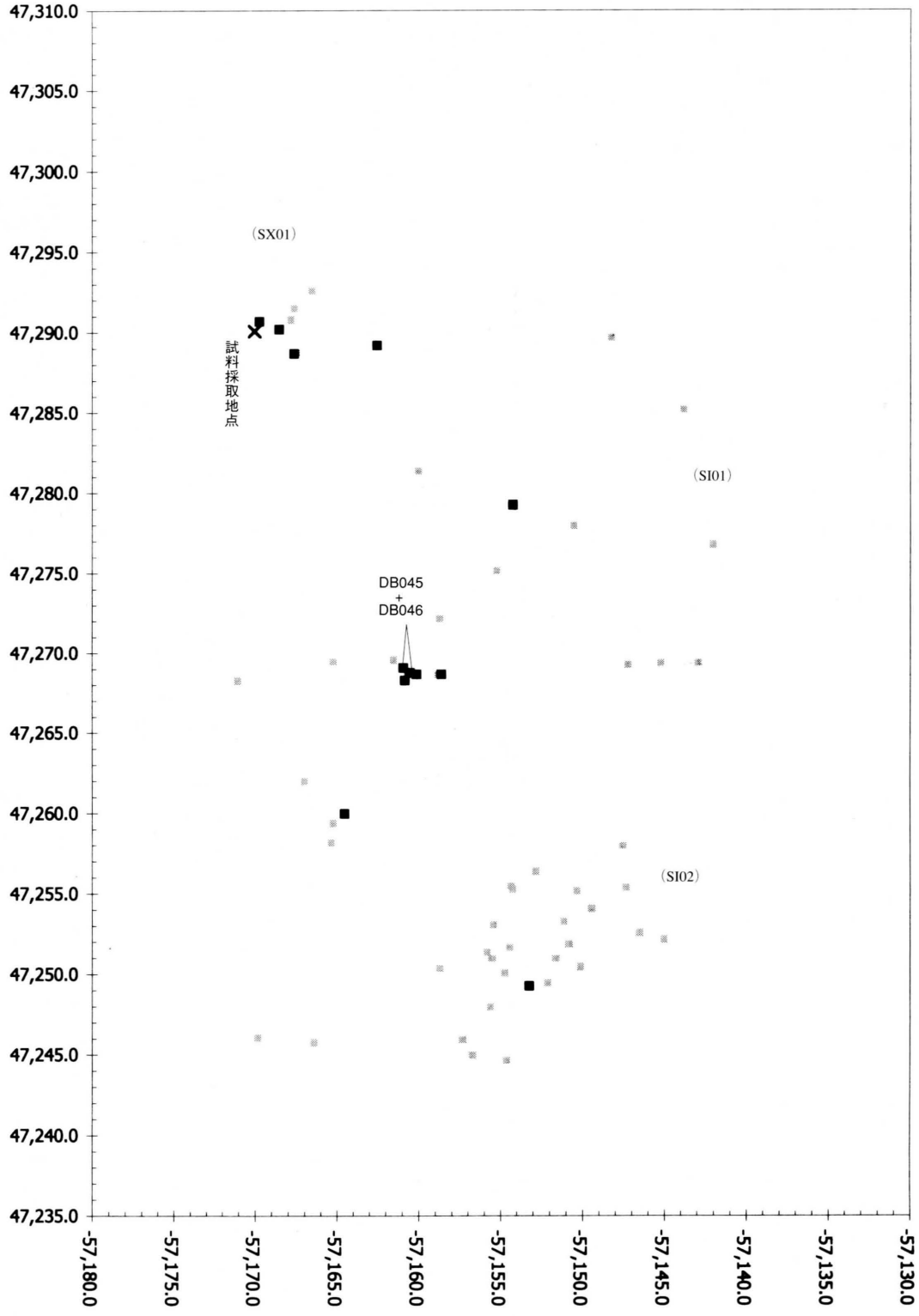
Ⅱ区の尾根上にⅡ群とⅤ群が分布する。接合された個体は同一地点にかたまって出土したものである。Ⅱ区では上述の剥片の他に石器の類はなく、土器片のみ分布する。Ⅰ区では石器に混じって土器片が分布していて、ここでもやはりⅡ群とⅤ群で占められる。他には、Ⅰ・Ⅱ区ともにⅢ群の細片が数点ずつ混じっている。

E遺跡（図なし）

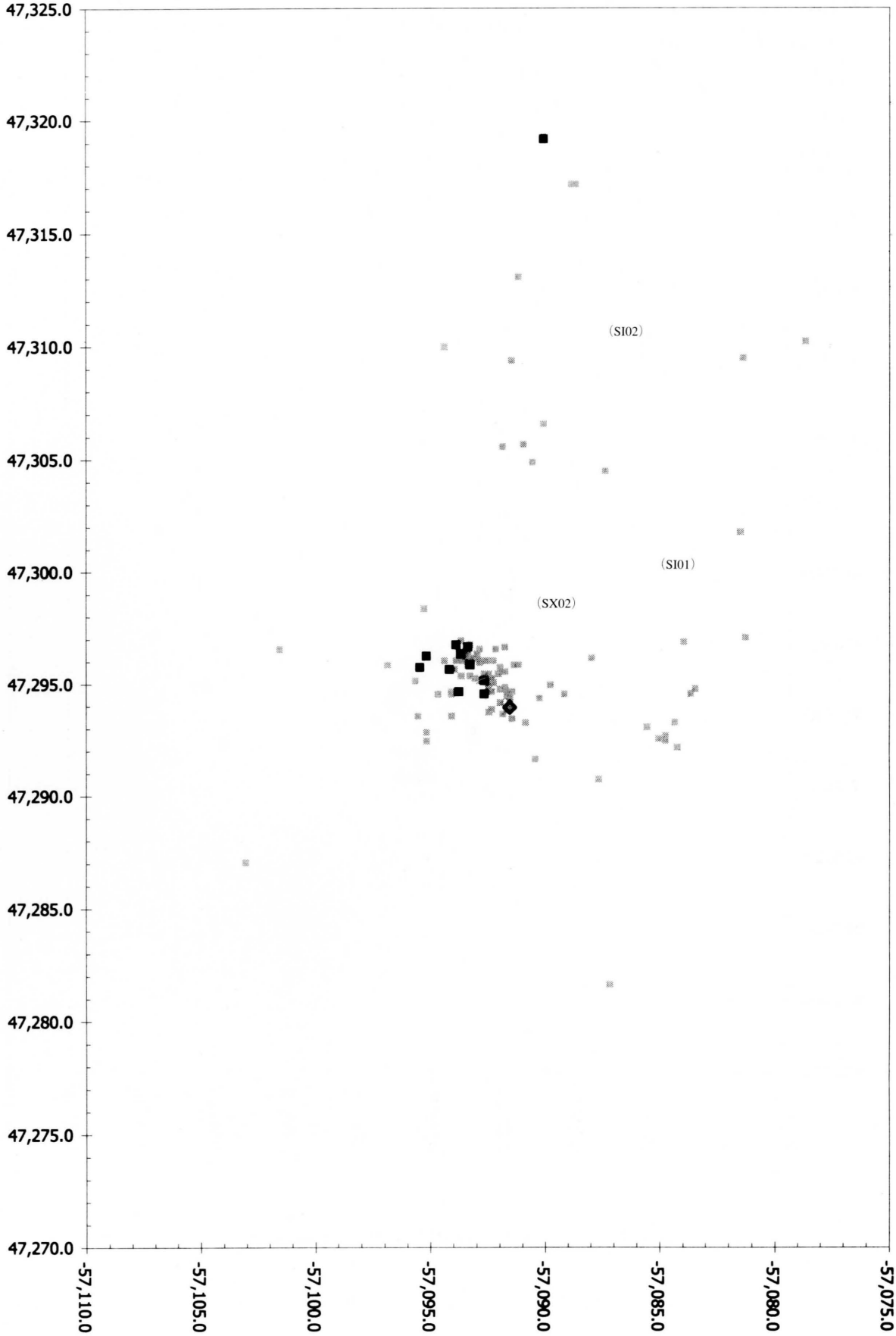
試掘調査で縄文土器片は出土していない。



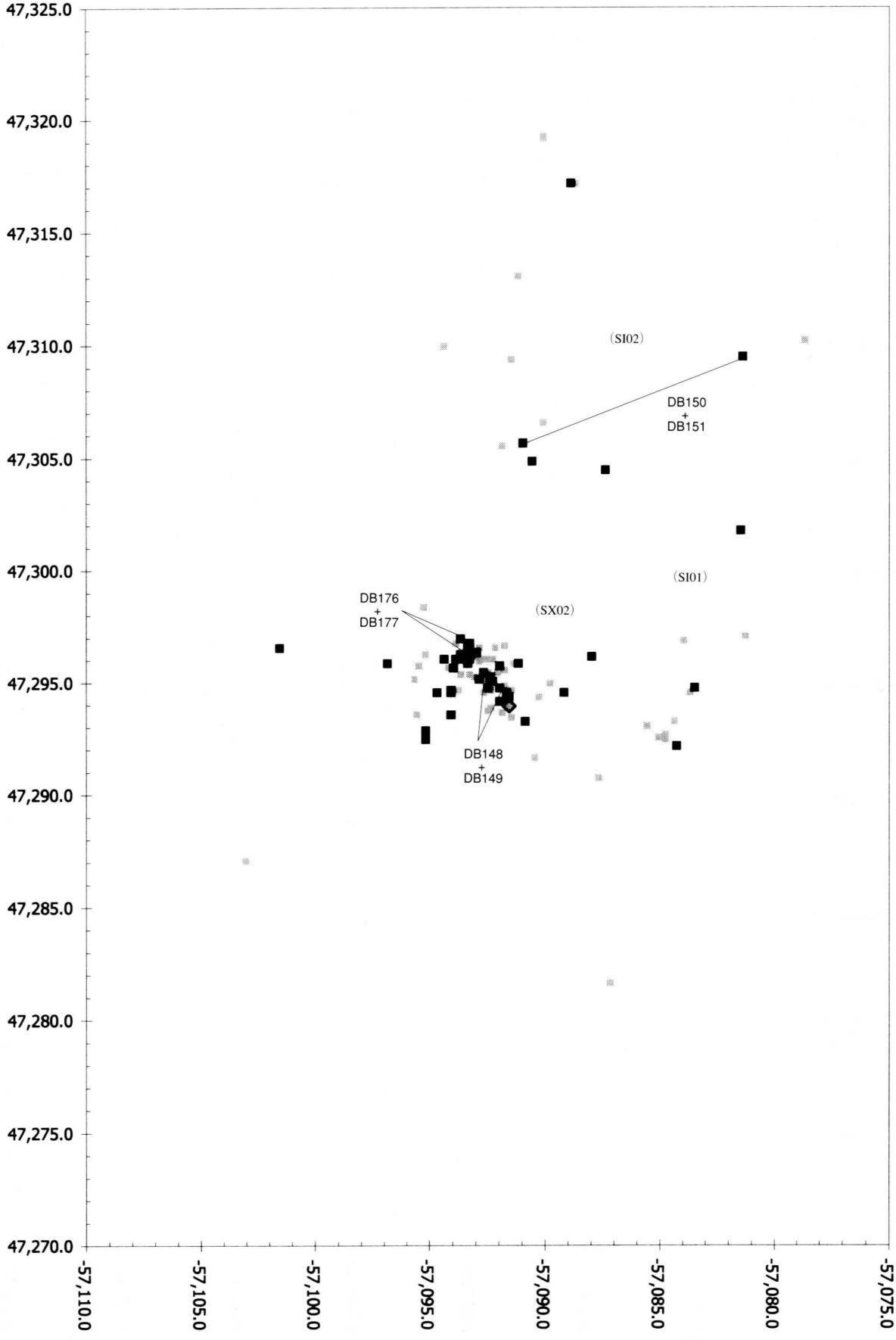
第16図（1）　C遺跡：石器の分布 Rh- 2 （S=1/400）



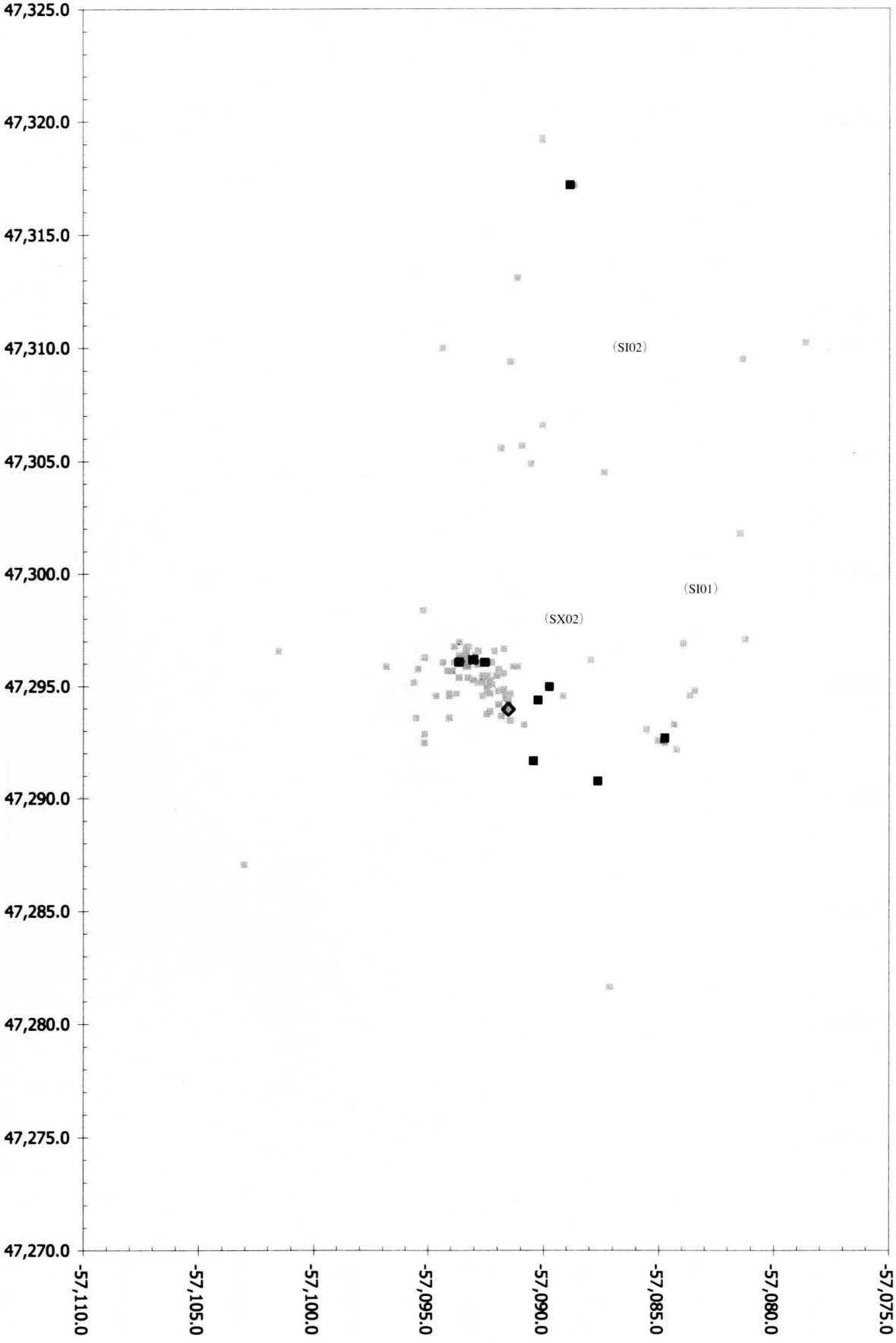
第16図（2）　C遺跡：石器の分布 Rh- 3 （S=1/400）



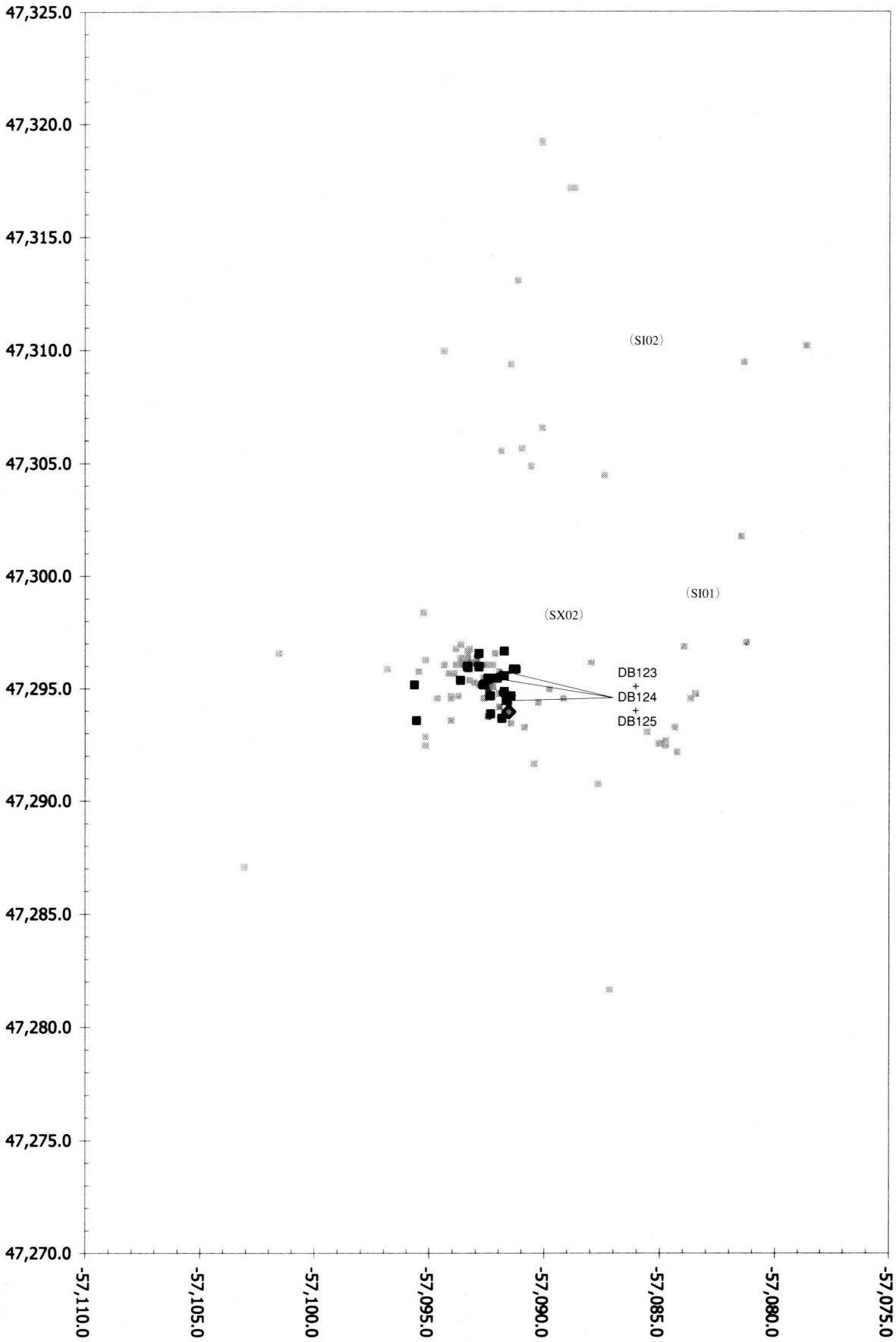
第17図（1）　D遺跡Ⅰ区：石器の分布 Rh-3 （S=1/250）



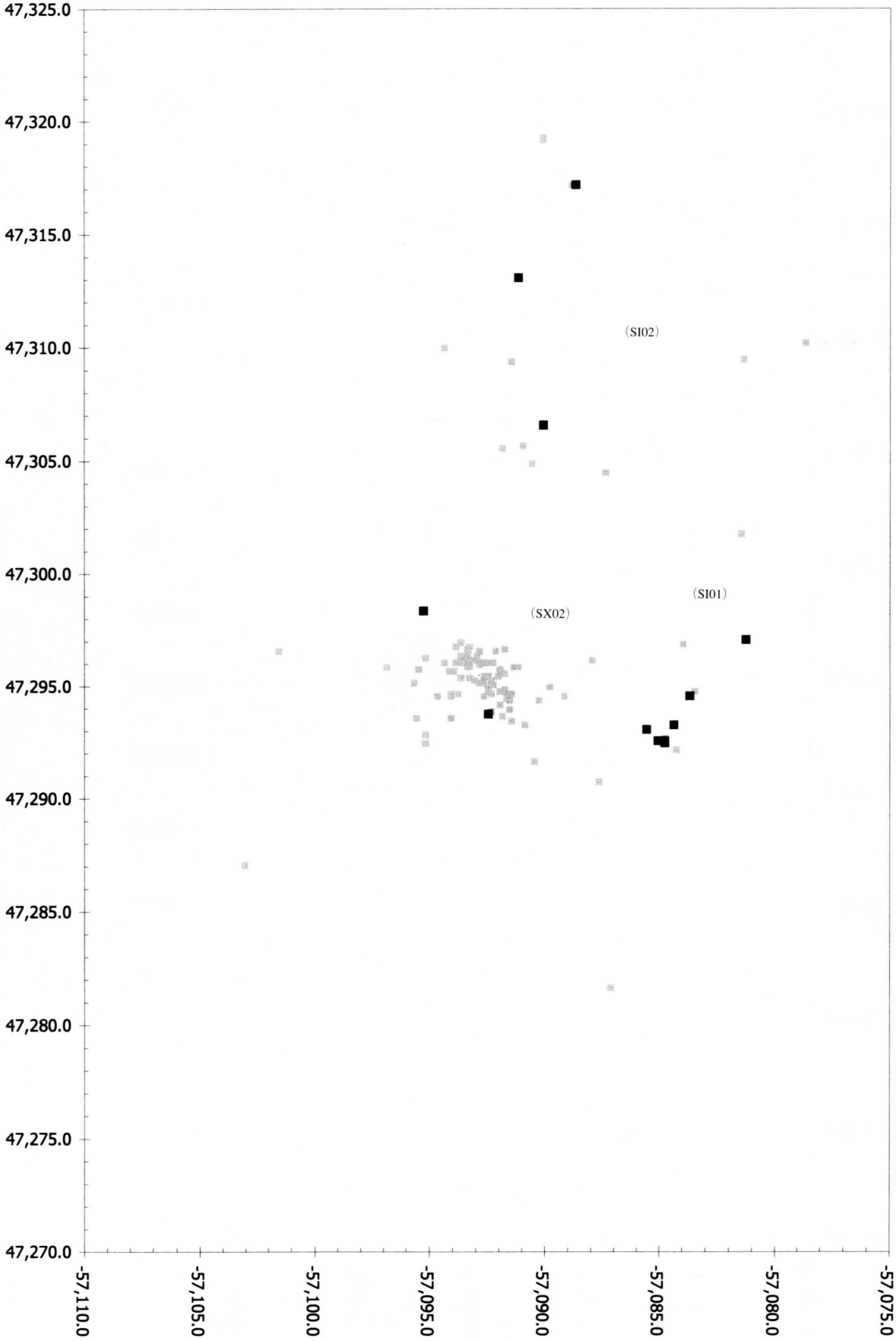
第17図（2）　D遺跡Ⅰ区：石器の分布 Rh- 4 （S=1/250）



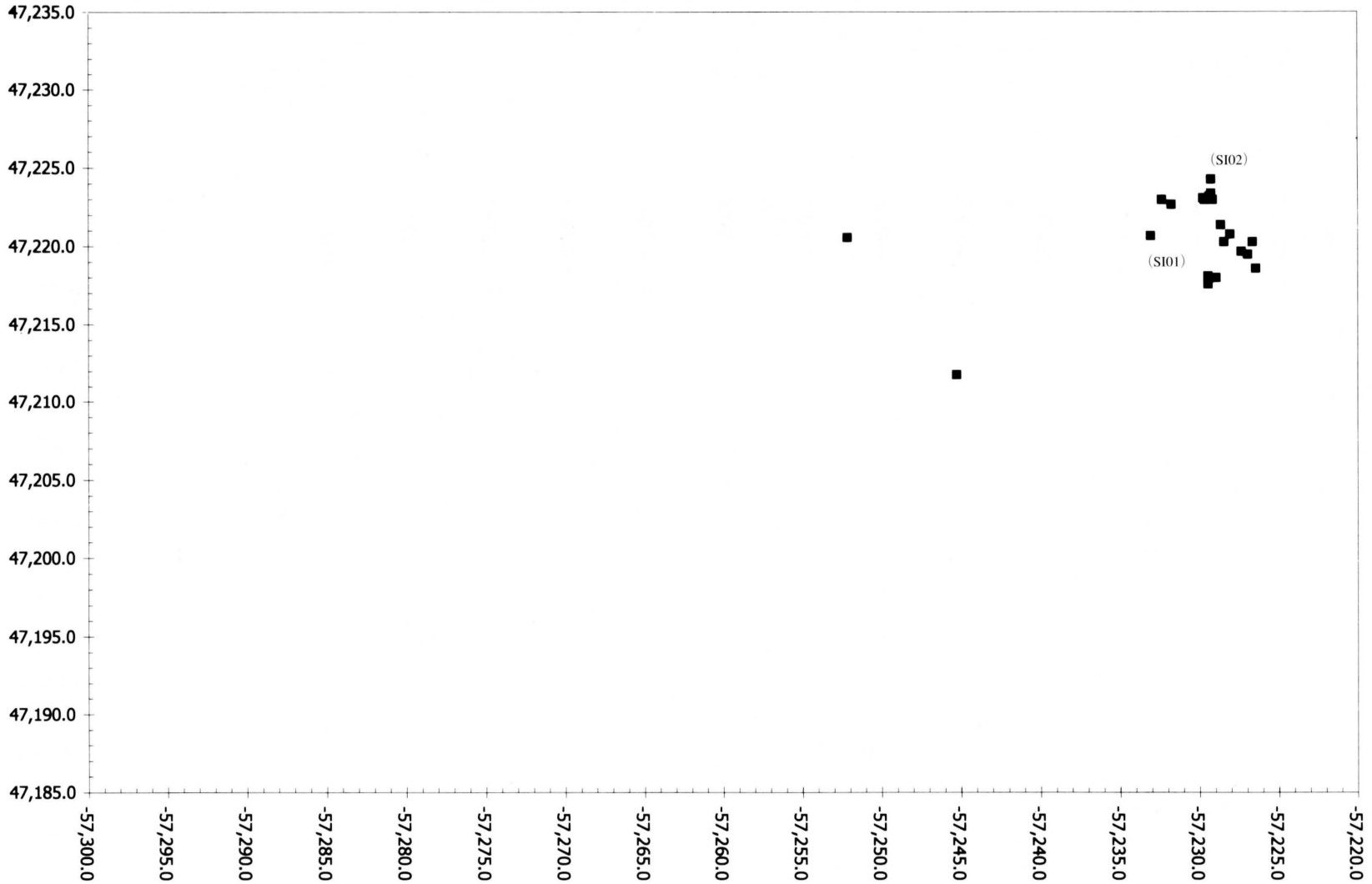
第17図（3）　D遺跡Ⅰ区：石器の分布 Rh-5 （S=1/250）



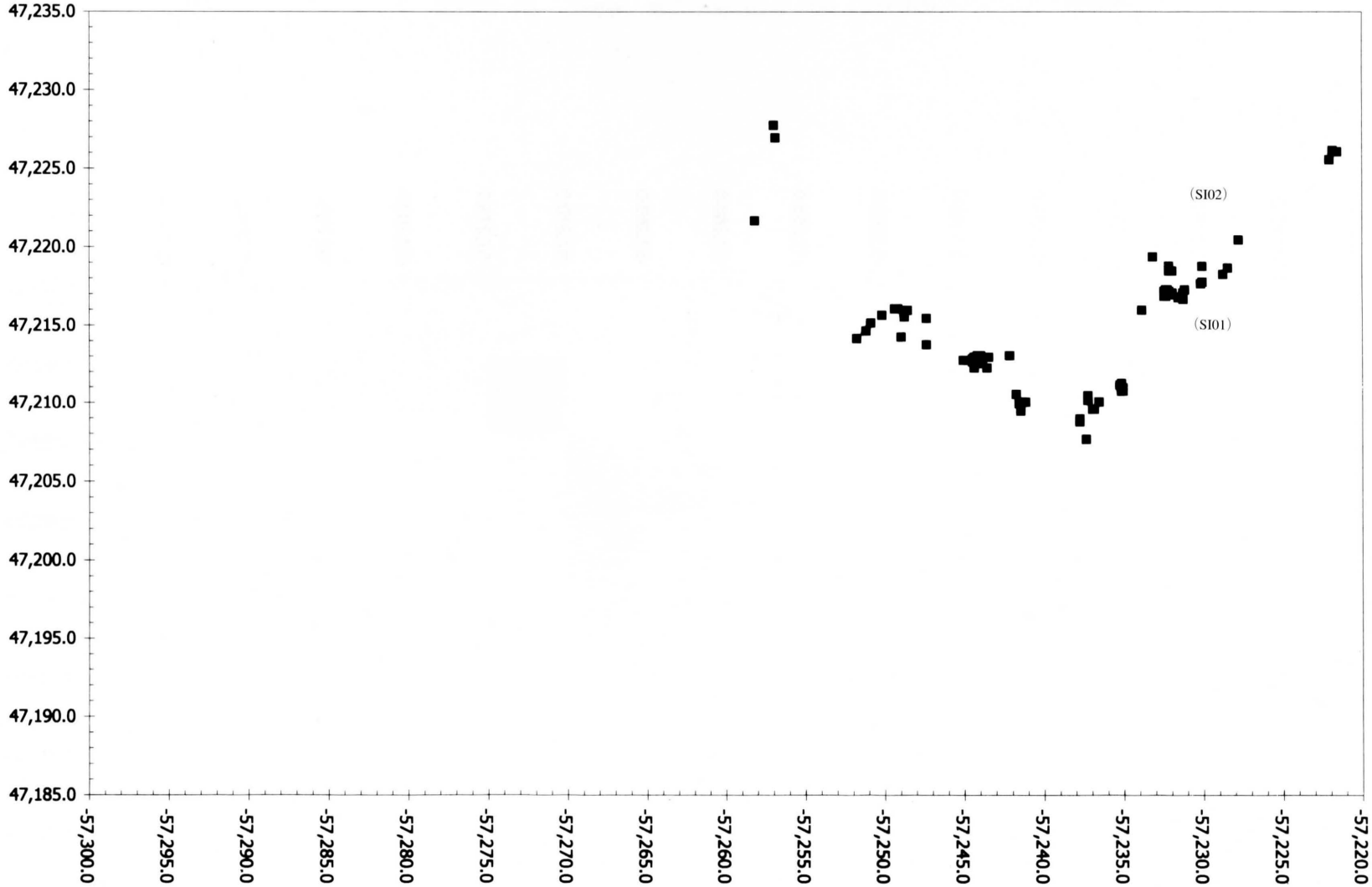
第17図（4）　D遺跡Ⅰ区：石器の分布 Rh-6 （S=1/250）



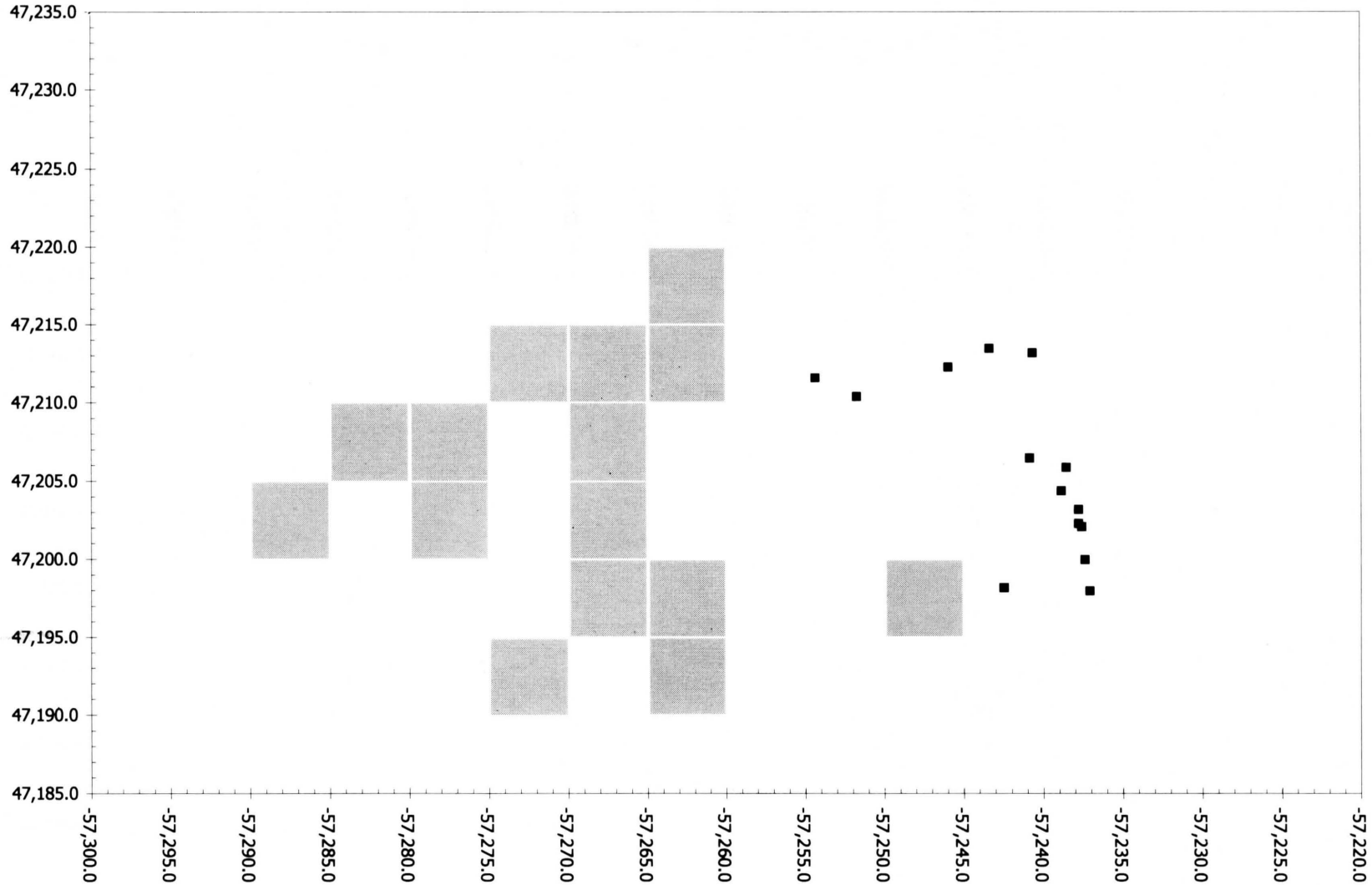
第17図（5）　D遺跡Ⅰ区：石器の分布 Aa（S=1/250）



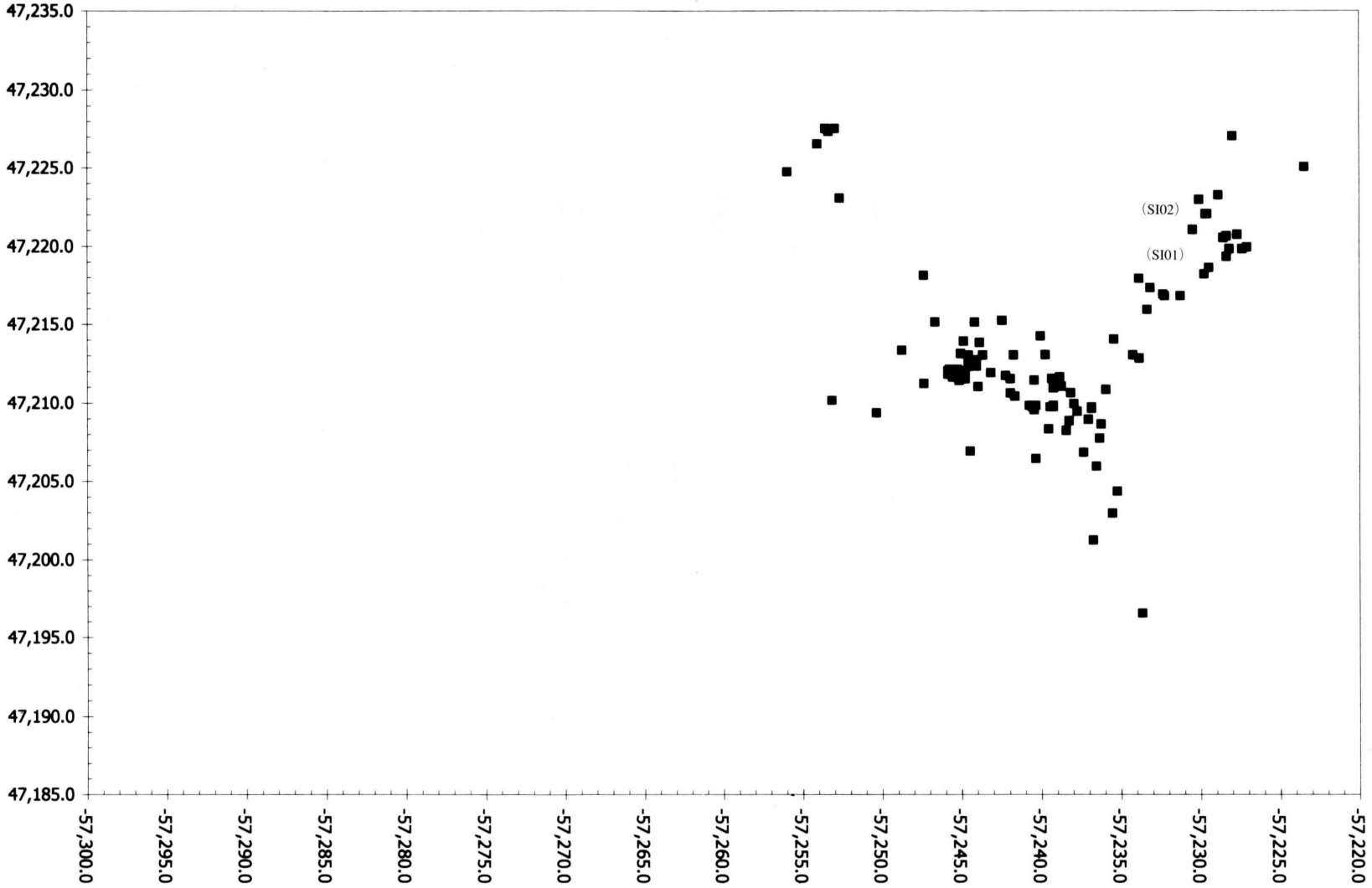
第18図（1）　B遺跡：縄文土器の分布 I群（S=1/400）



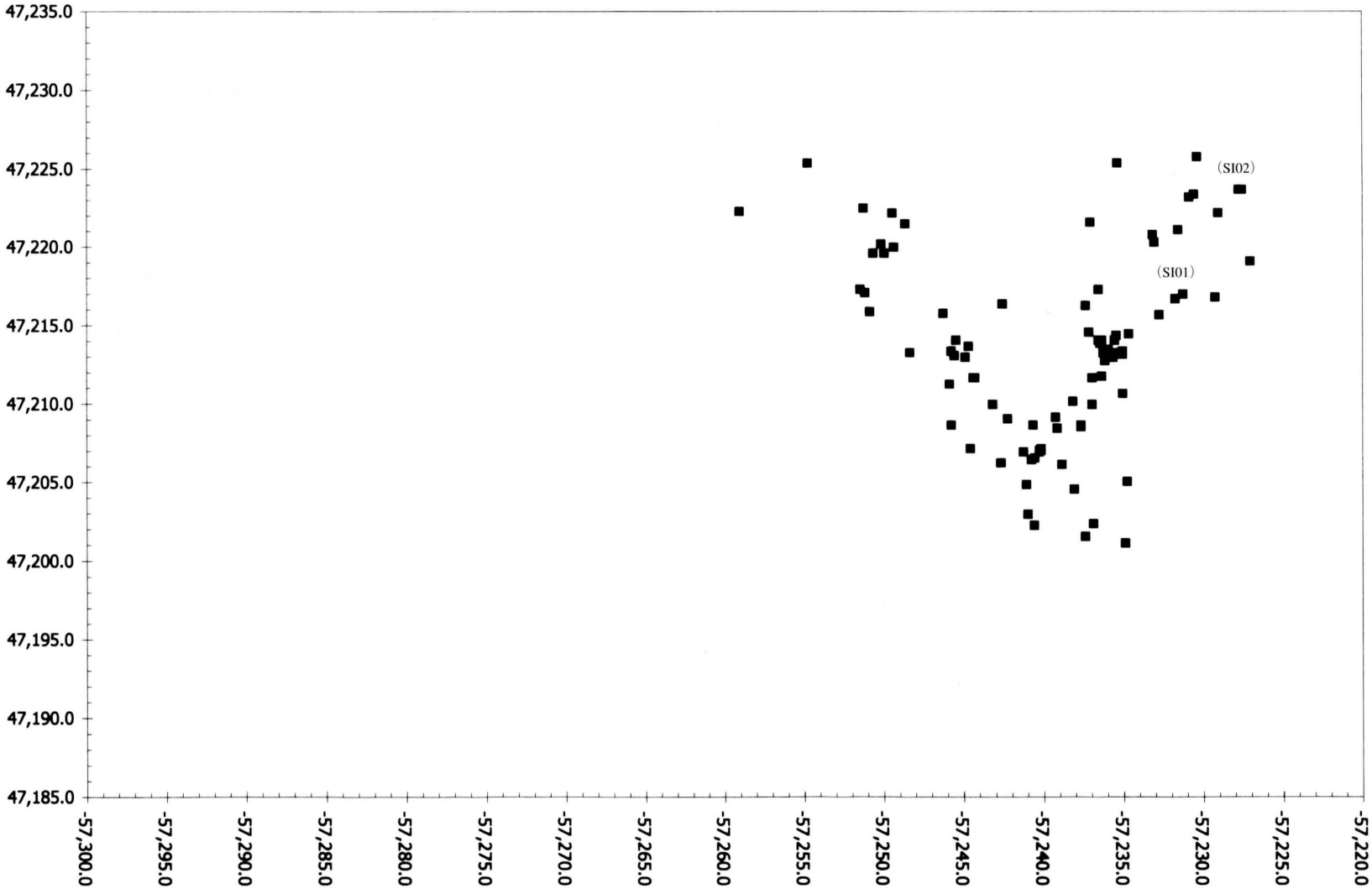
第18図（2）　B遺跡：縄文土器の分布　II群（S=1/400）



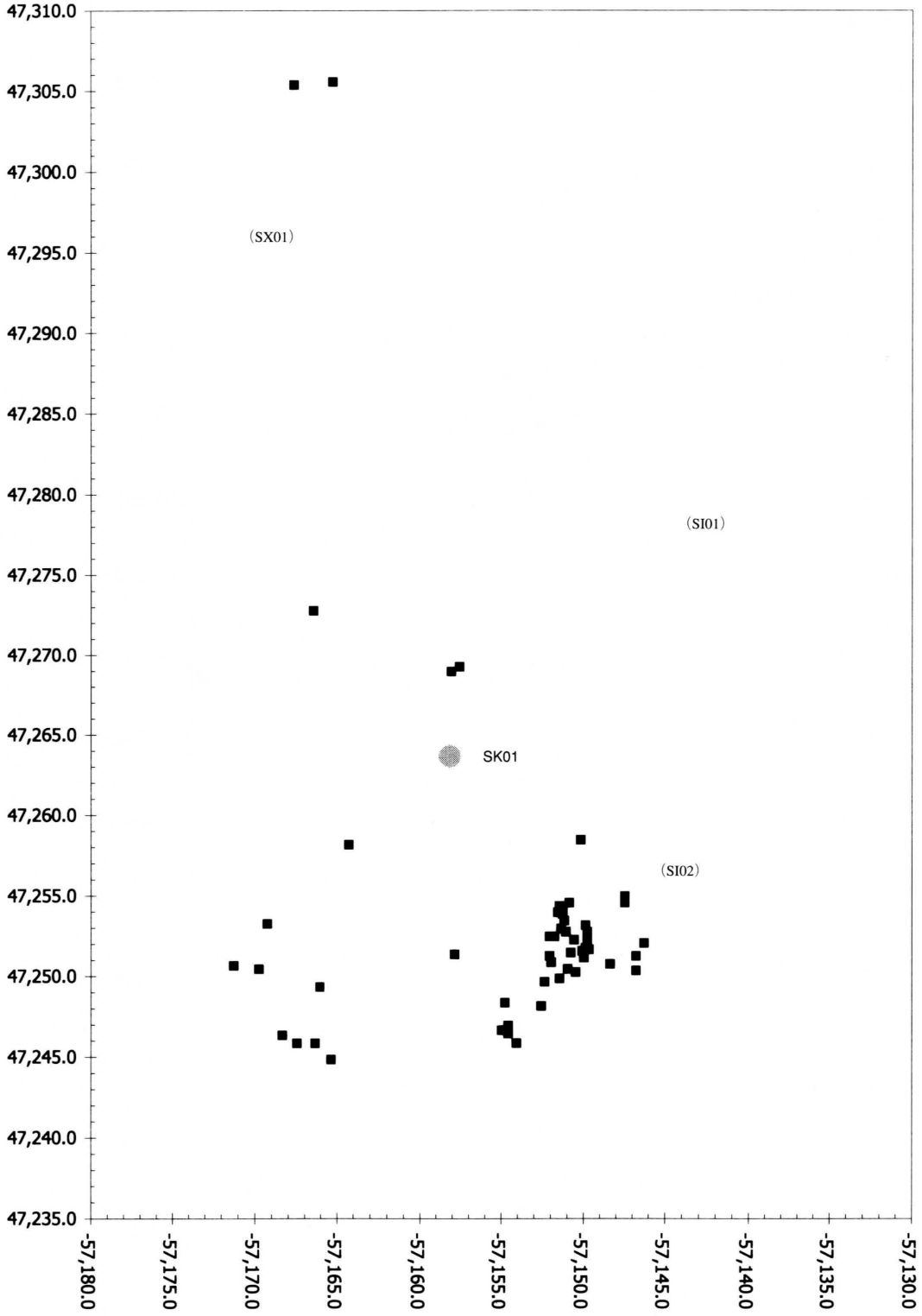
第18図（3）　B遺跡：縄文土器の分布 III群（S=1/400）
＊II区はグリッドでプロット



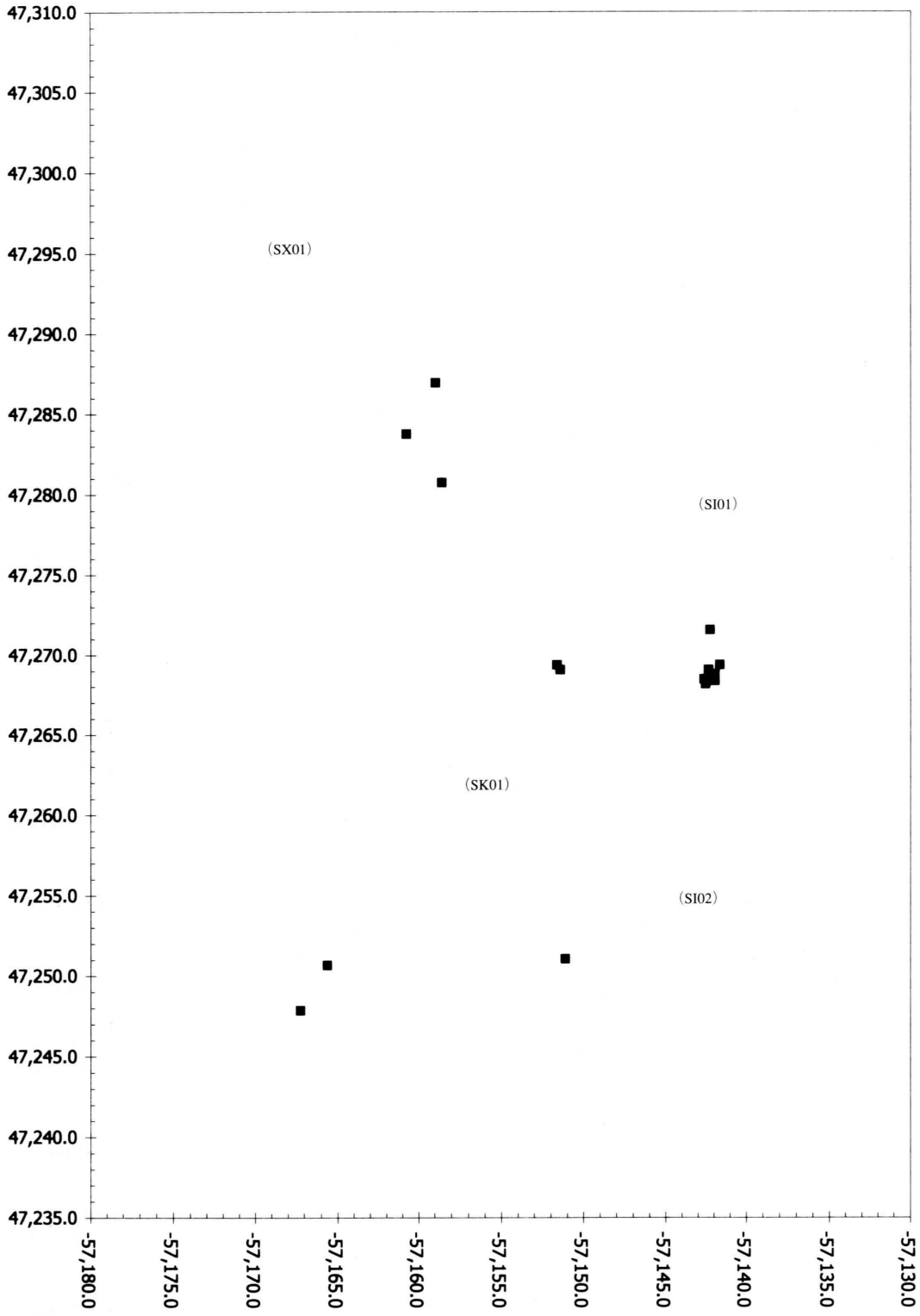
第18図（4）　B遺跡：縄文土器の分布 Ⅳ群（S=1/400）



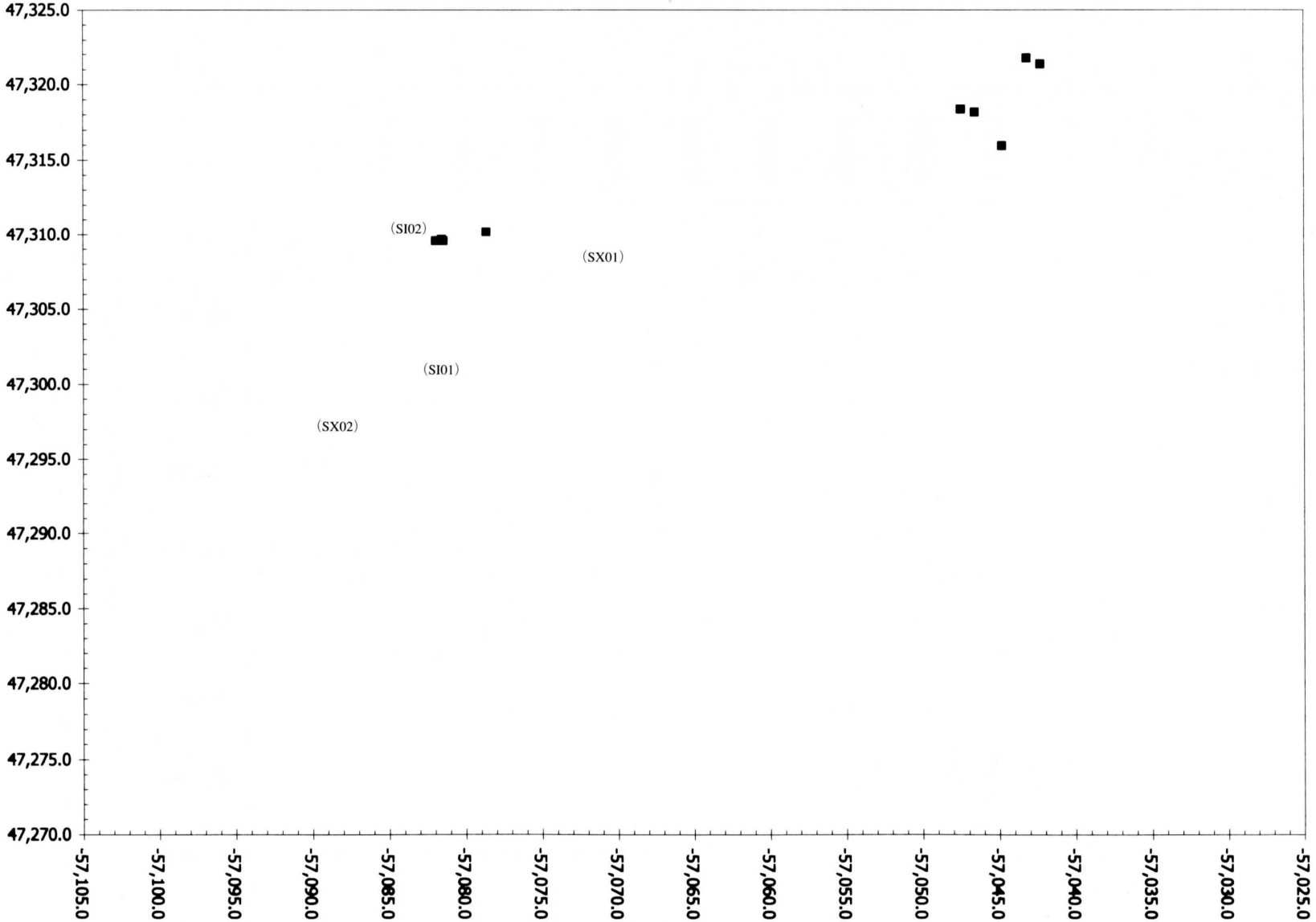
第18図（5）　B遺跡：縄文土器の分布 V群（S=1/400）



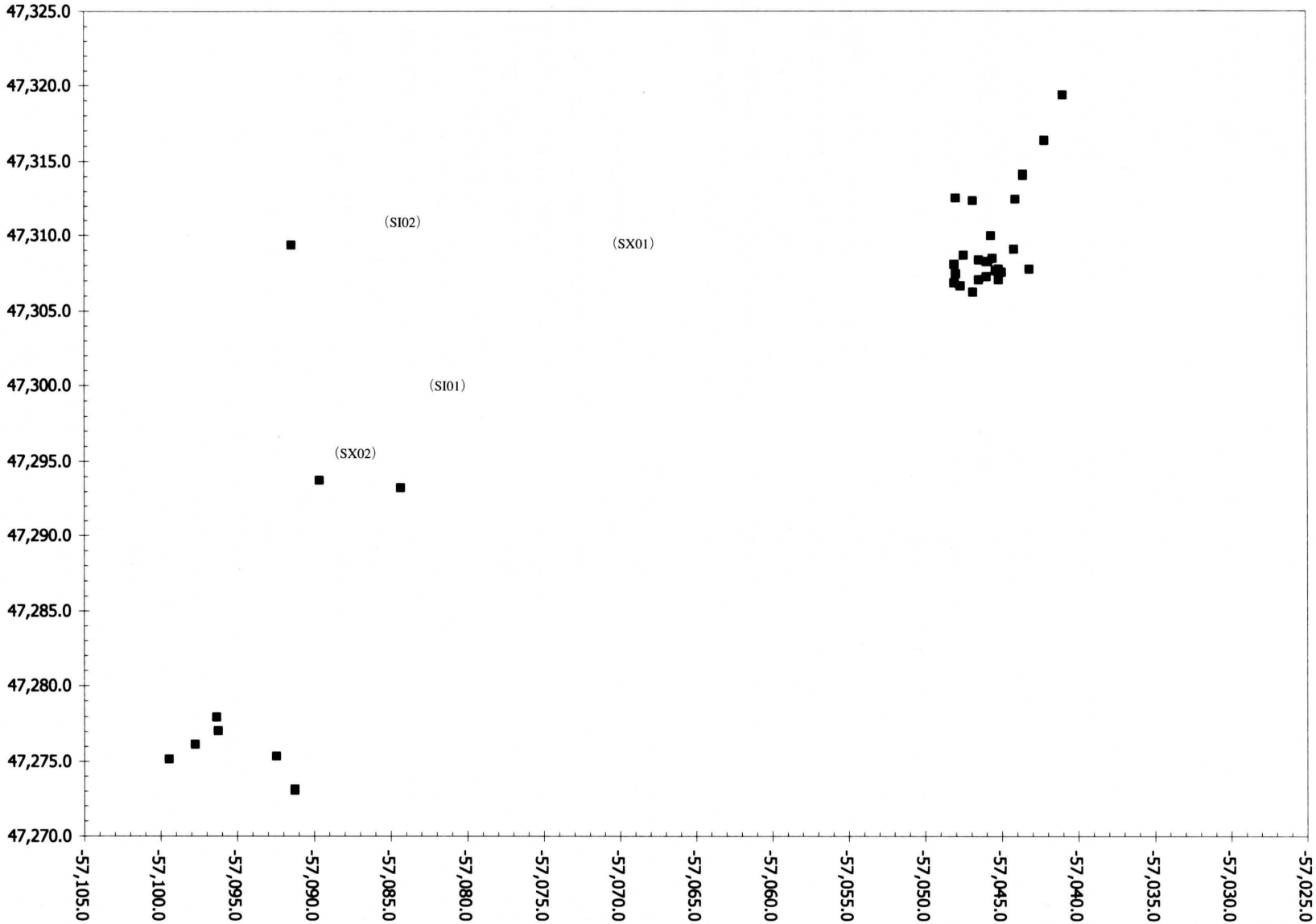
第19図（1）　C遺跡：縄文土器の分布 III群（S=1/400）



第19図（2）　C遺跡：縄文土器の分布 Ⅳ群（S=1/400）



第20図（1）　D遺跡：縄文土器の分布 II 群（S=1/400）



第20図（2）　D遺跡：縄文土器の分布 Ⅴ群（S=1/400）

第3節　遺　物

第1項　石　器（第21図～第37図）

ナイフ形石器(1・2)　1は二側縁加工の茂呂型である。石刃または縦長剥片を素材とし、基部は剥片の末端側に取っている。2は横長剥片を素材とする国府型である。C－1号墳(SX01)傍の北辺斜面流土中より単独で出土した。

有樋尖頭器(3)　D遺跡のユニット中で出土したが、石材は石基が岩片に富む流紋岩であり、同種の石材は他になく、単独出土と考えられる。

石鏃(4～8)　形態は全て凹基無頸式であり、石材は6を除いて全てAaである。

異形石器(9)　F－10号墳(SX10)より単独で出土した。石材はSs－1であり、素材剥片は横剥ぎである。

楔形石器(10)　剥片の打面側に顕著な階段状剥離があり、下辺がこぼれる過程で剥離した剥片の接合資料が1点ある(第37図)。

二次加工ある剥片(11～16)　11は折断面を除く各辺に両面加工されていて、一箇所だけ抉りが入っている。12・13は上辺または打面に正方向のブランティング状の加工が見える。14は右辺に正方向の急角度剥離が施された掻器である。15は蝶番状の下辺を調整したもので、形態的な特徴では米ヶ森型台形石器の範疇か。

石錘(17～22)　全て円礫の両端を打欠したものである。図では省略してしまったが、19～21にはこれと別に重量かバランスの調整と思われる剥離や敲打が施されている。

凹石・台石・砥石(23～26)　礫に敲打によって凹んだ箇所があるものや、擦れた面のあるものである。明確な凹みでない24は台石とした。26の裏面は、擦れているが砥面というわけではなく、別の要因で磨り減ったものだろう。なお、26のこの特殊な形態は意図的に成形したであろうが、形自体に意味があるとは考えにくい。

磨石・敲打器(27～32)　27・28は歪な円礫で磨石と敲打器の複合、29は球状の超円礫で、風化の影響か、触れるだけで砂粒が落ちる。敲打器とするには無理があるか。30・32は棒状礫の両端、31は扁平な円礫の周縁と広い面が潰れている。

磨製石斧(33)　形態は定角式で、基部が広い短冊形を呈する。石材は蛇紋岩(Se)である。

不明石器(34)　一端が細った三叉状を呈する。石材は泥岩(Sh)で、整形痕らしいものがぼんやり見える。

縦長剥片(35～60)　角礫～亜角礫を縦剥ぎした剥片であり、本報告では字義以上の意味はない。Rh－*の石材では共通して、剥離軸に対して形態が傾く特徴がある。とくに作業面の調整を窺わせる資料もなく、原礫を立てて、剥離で打面を生成するだけで剥片剥離を繰り返すようだ。これらRh－*の縦剥ぎの剥片類に有意に結びつく石核は認められず、剥片に定型的な二次加工も認められない。同時剥離で割けたり、または折れた例が多い。

横長剥片(61・62)　石材はAaとSs－1に1点ずつ認められるが、いずれも目的剥片とはいいがたい。

調整剥片(63～70)　剥片の下辺や左右辺がエッジとならず、礫面又は作業面となっているものを石核調整に伴う剥片とした。剥離は底面に抜けるが、末端に蝶番状剥離に近い形状も看取される。

剥片(71～74)　Aaの剥片を図示した。本遺跡ではAaの横剥ぎ技法は明確でなく、石器群としてナイフ形石器とは乖離している。図示した4点は、後述する石核の素材としての性格に近いようだ。

石核(75～89)　以下の型に分類できる。破砕的なものや不定型なもの(樫田I類)は除外した。

A：打面転移を繰り返し、四面体状～六面体状になるもの(樫田B・F・G類)

B：礫の1面を作業面とし、求心的に剥離痕が覆うもの(樫田D類)

C：両面加工状に交互に打面を転移するもの(樫田A・E類)

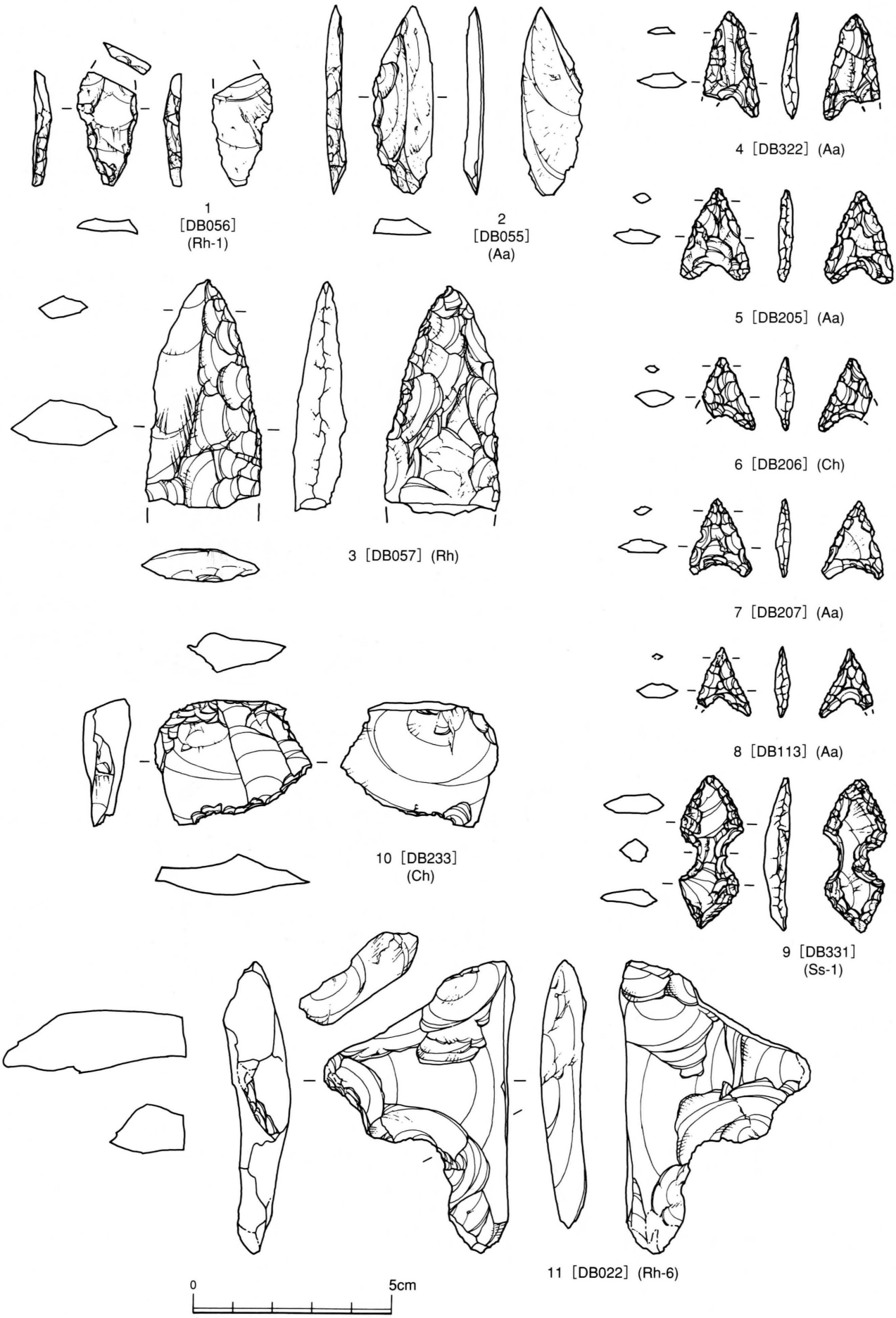
D：剥片の側面に腹面または背面を打面とする作業面があるもの(樫田C類)

E：剥片の側面に縦剥ぎの作業面があるもの

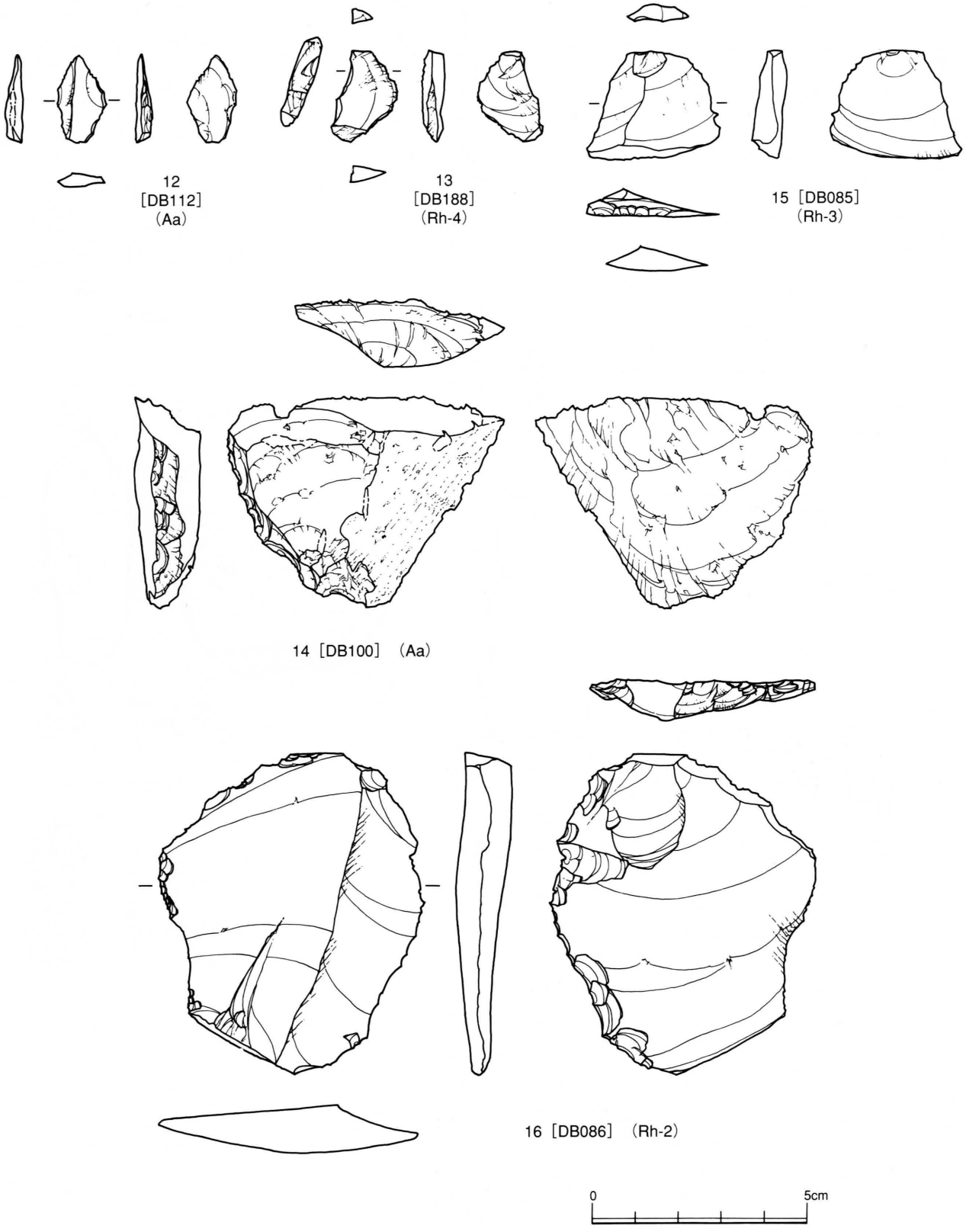
F：剥片の背面または腹面に作業面があり、並列する複数の剥離痕が認められるもの

A～Dは、念仏林遺跡の分析に基づく樫田の分類(小松市教委1988)に適合する。Eはこの中に含めがたい型だが、57・58のような縦剥ぎの剥片と結びつけて考えることが出来るかもしれない。調整剥片とした63～70は、65の剥片と78の石核の接合例(第37図)を証左に、Aのような石核の調整に係る剥片と見なされる。

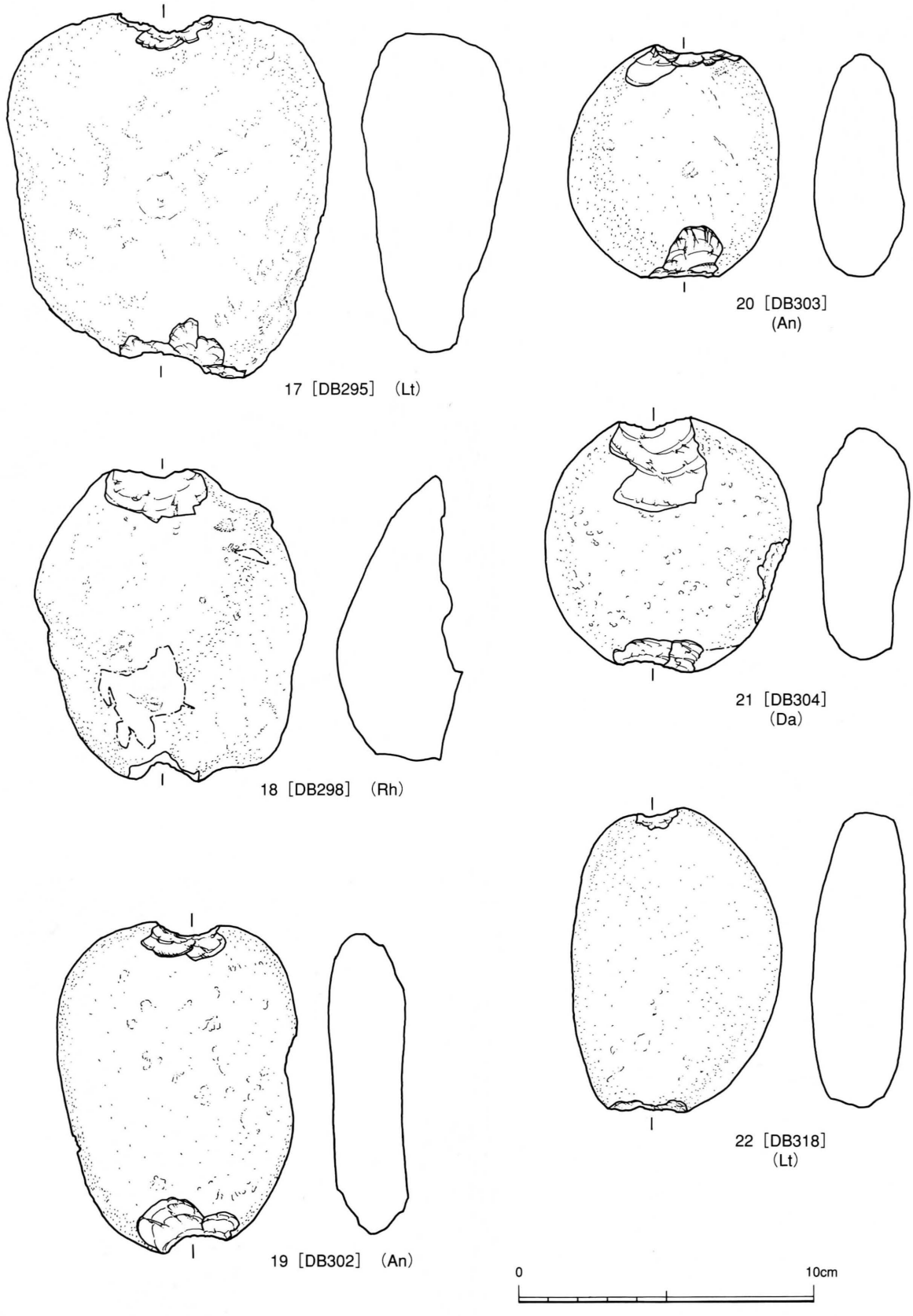
Fは、Aaに特徴的な型だが、Rh－6の縦剥ぎ剥片を素材とする82もこの範疇か。



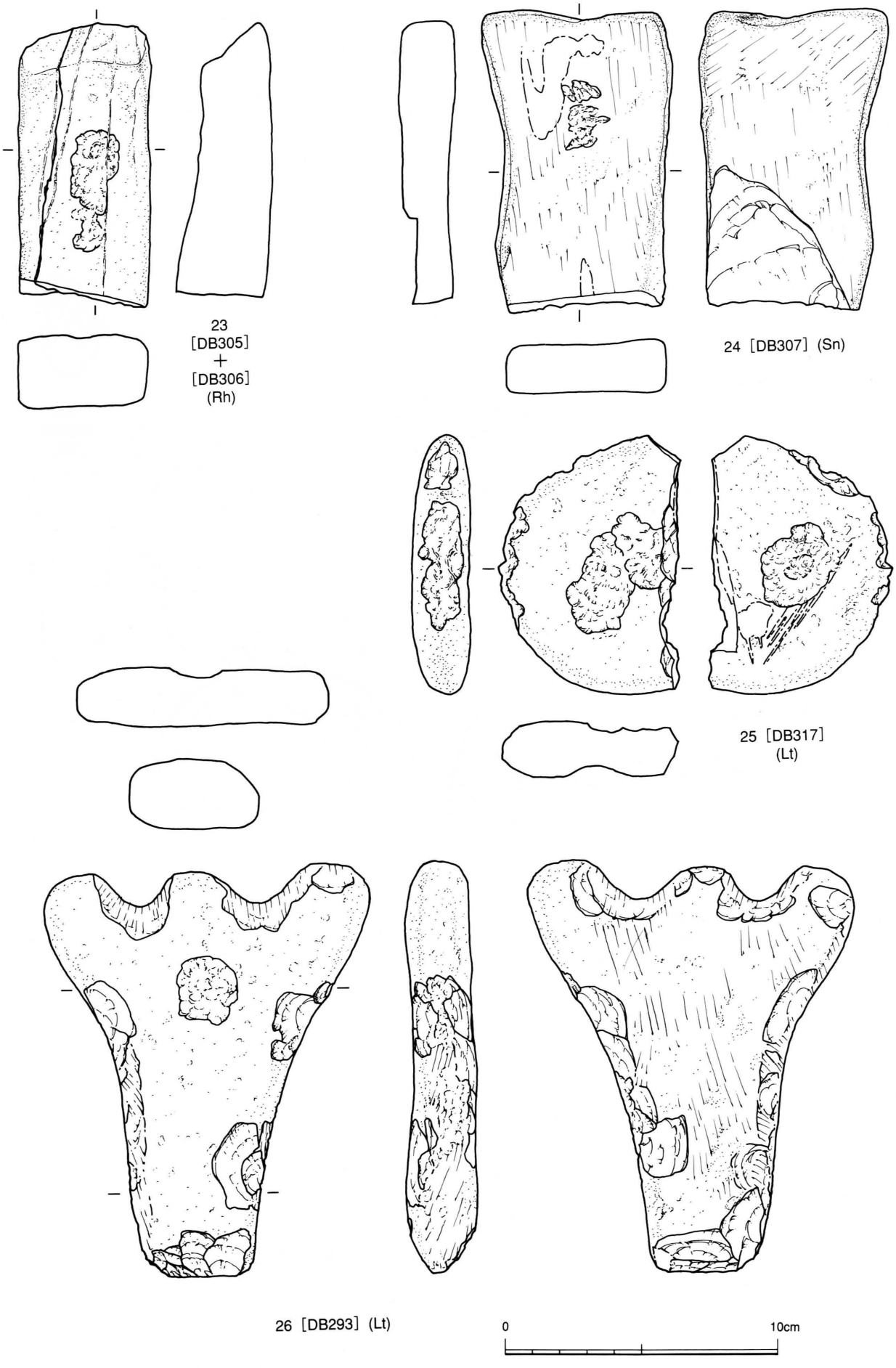
第21図　石器：剥片石器1 ナイフ形石器、有樋尖頭器、石鏃、楔形石器、二次加工ある剥片（S＝3/4）



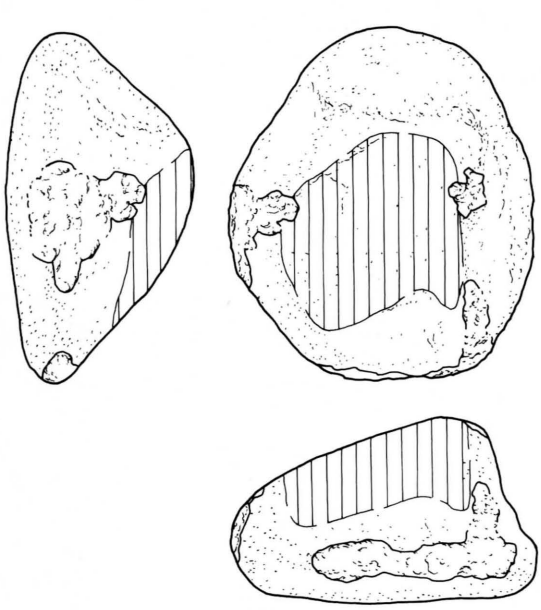
第22図　石器：剥片石器 2 二次加ある剥片（S=3/4）



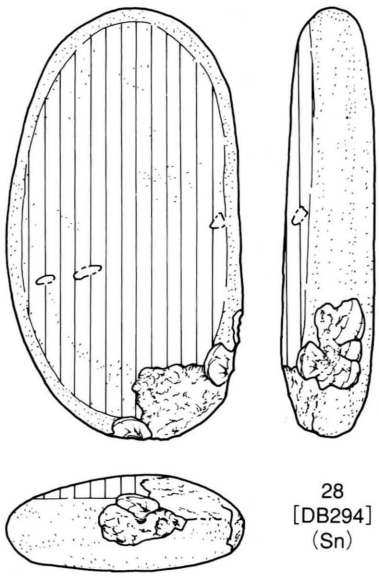
第23図　石器：礫核石器１ 石錘（S=1/2）



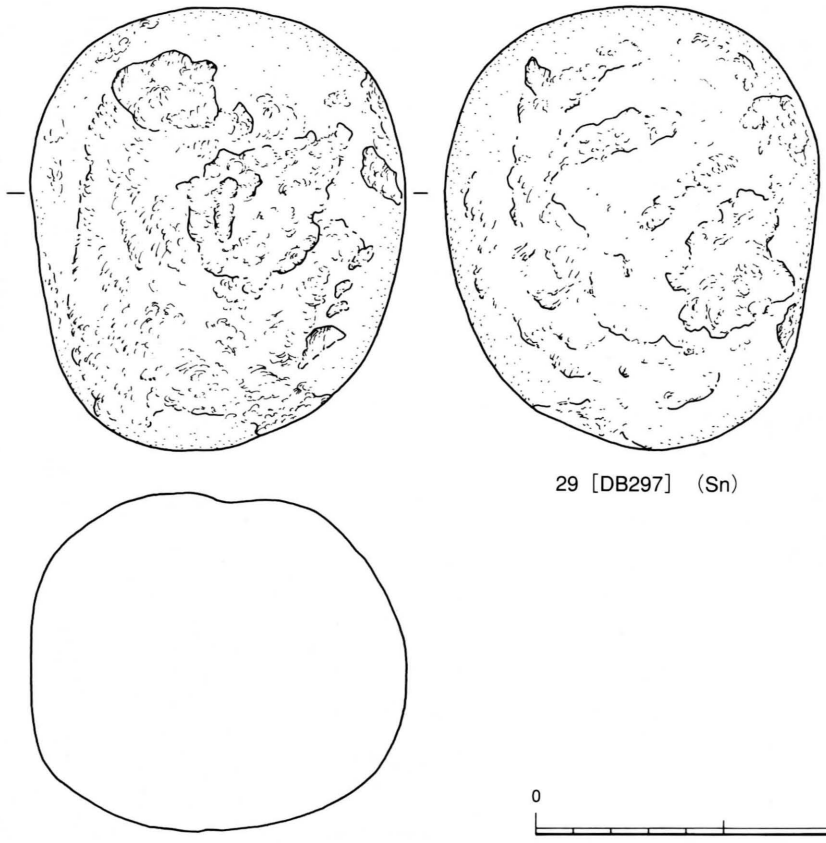
第24図　石器：礫核石器 2 凹石、台石、砥石（S=1/2）



27［DB296］（Lt）



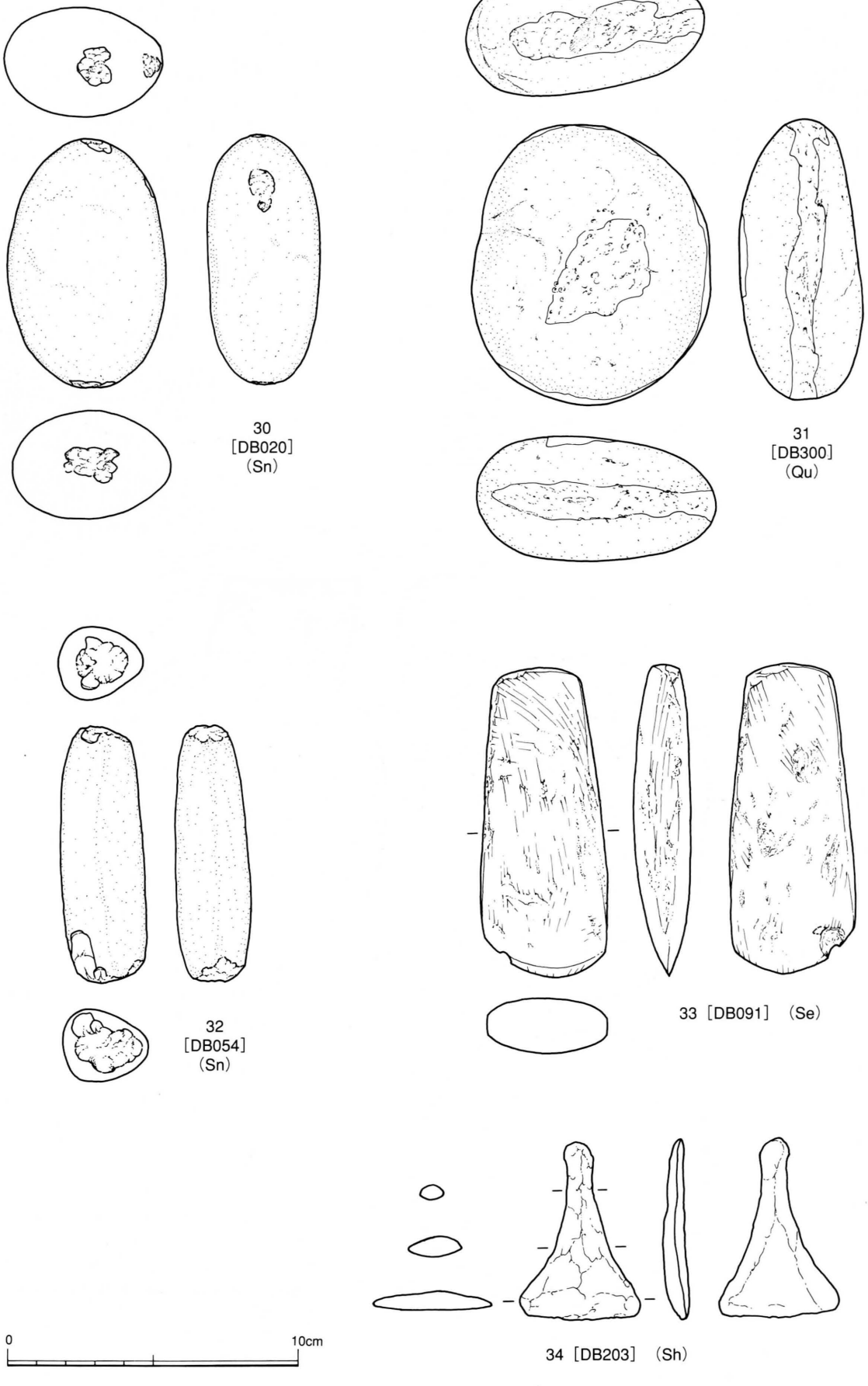
28
［DB294］
（Sn）



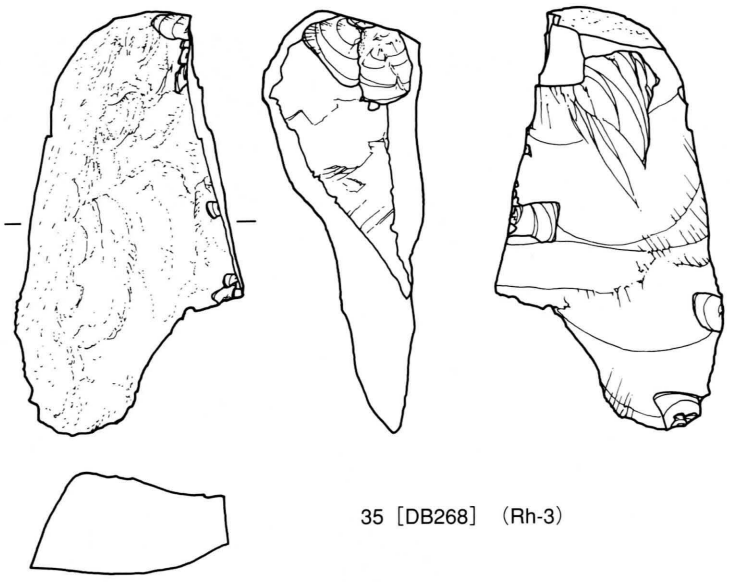
29［DB297］（Sn）

0　10cm

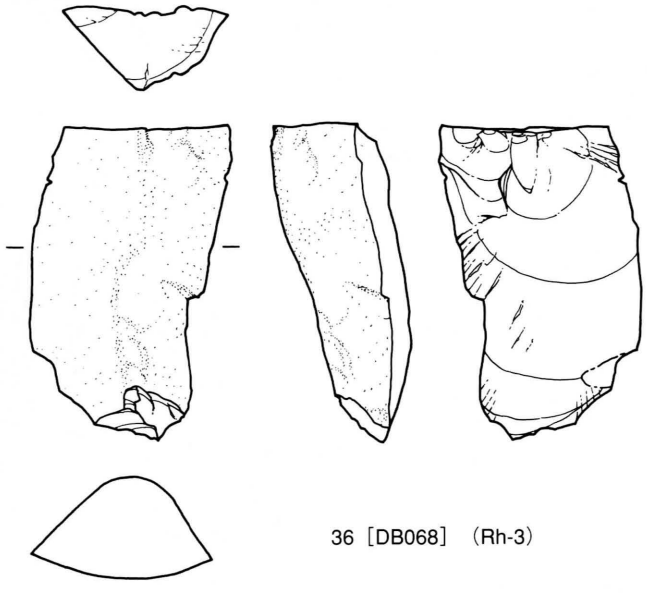
第25図　石器：礫石器 3 磨石、敲打器（S=1/2）



第26図　石器：礫石器 4 敲打器、磨製石斧ほか（S=1/2）



35［DB268］（Rh-3）



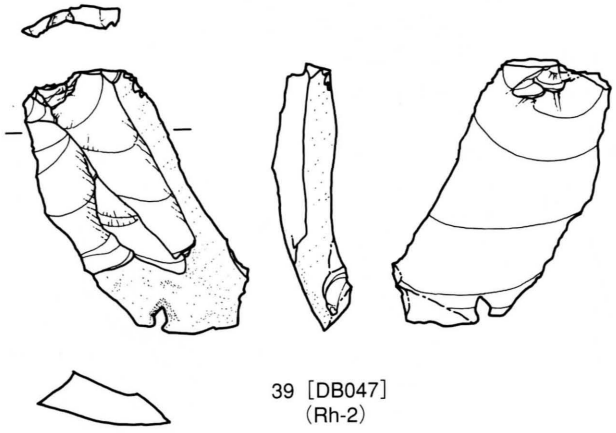
36［DB068］（Rh-3）

37［DB045］（Rh-3）

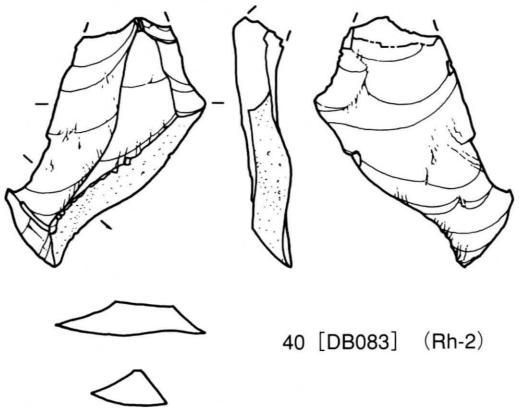
38
［DB011］
（Ob）

0　5cm

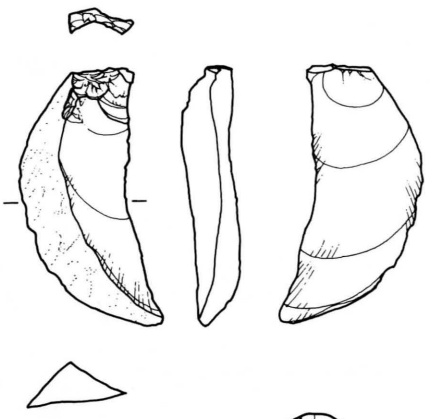
第27図　石器：剥片類1 縦長剥片（S=2/3）



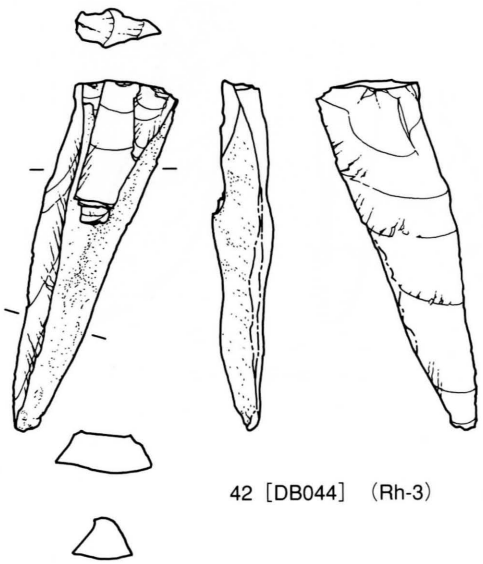
39［DB047］
（Rh-2）



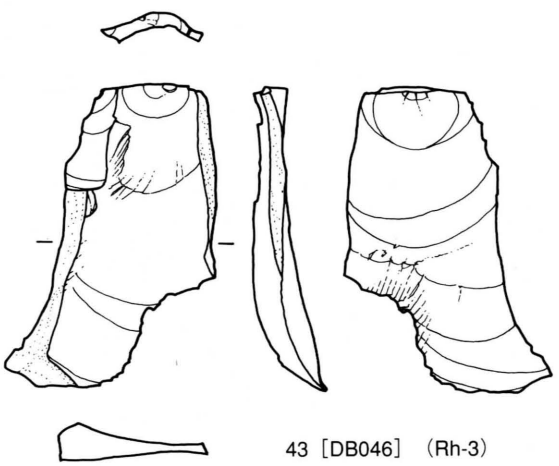
40［DB083］（Rh-2）



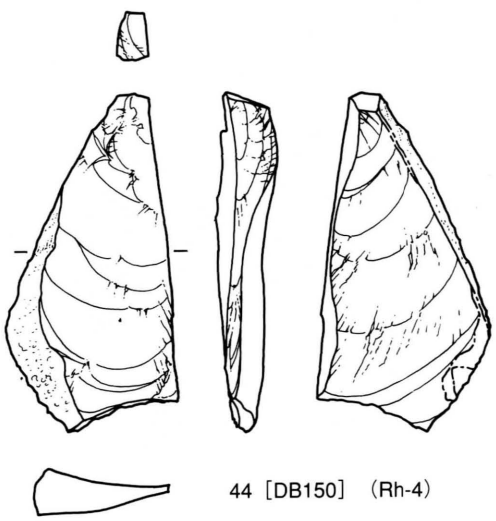
41
［DB280］
（Rh-3）



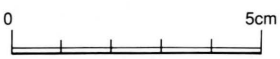
42［DB044］（Rh-3）

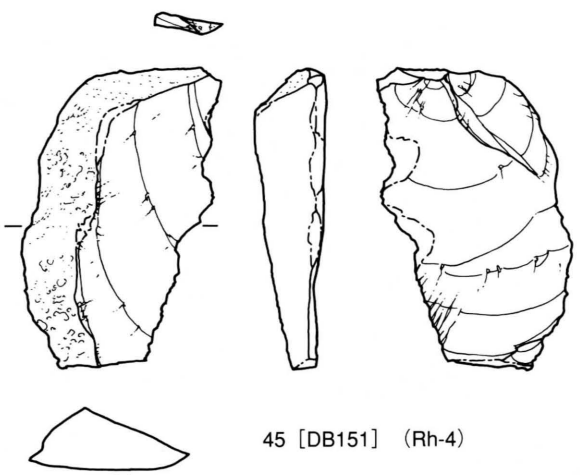


43［DB046］（Rh-3）



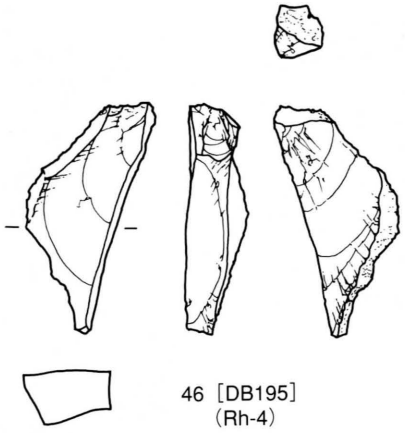
44［DB150］（Rh-4）



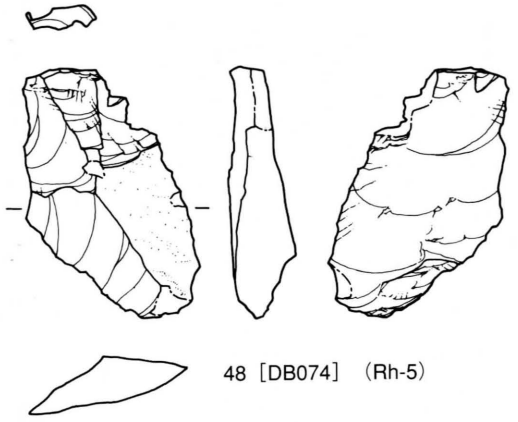


45［DB151］（Rh-4）

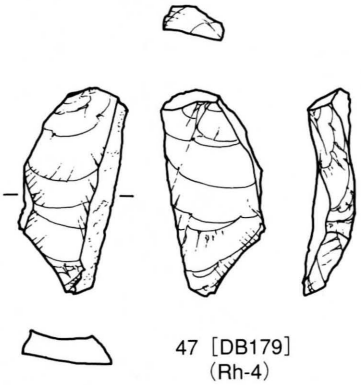
第28図　石器：剥片類２ 縦長剥片（S=2/3）



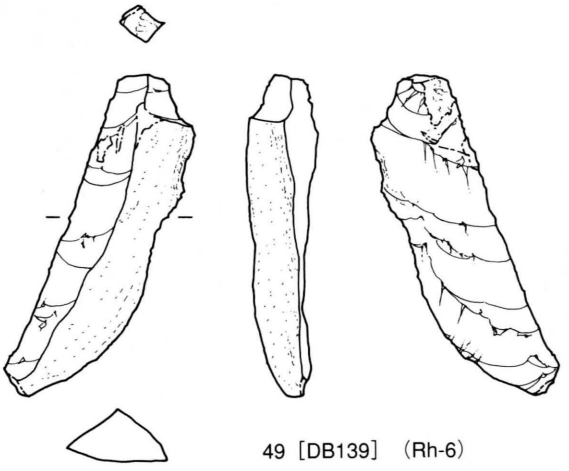
46［DB195］
（Rh-4）



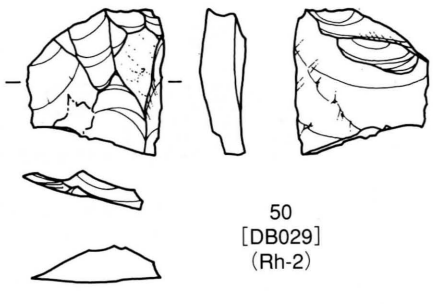
48［DB074］（Rh-5）



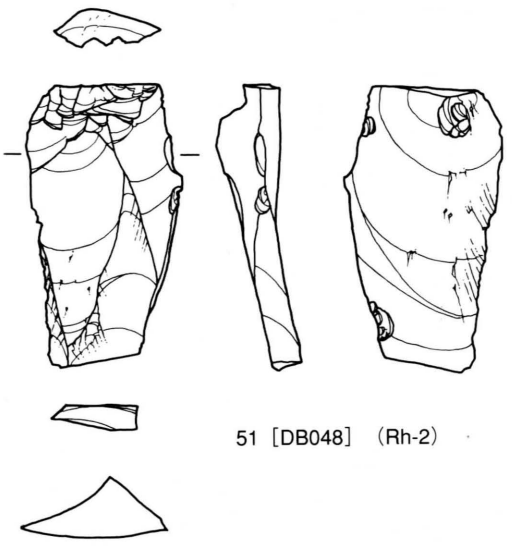
47［DB179］
（Rh-4）



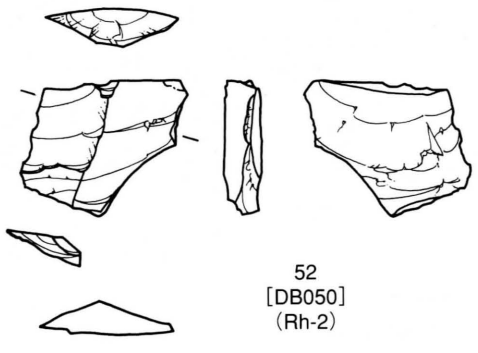
49［DB139］（Rh-6）



50
［DB029］
（Rh-2）

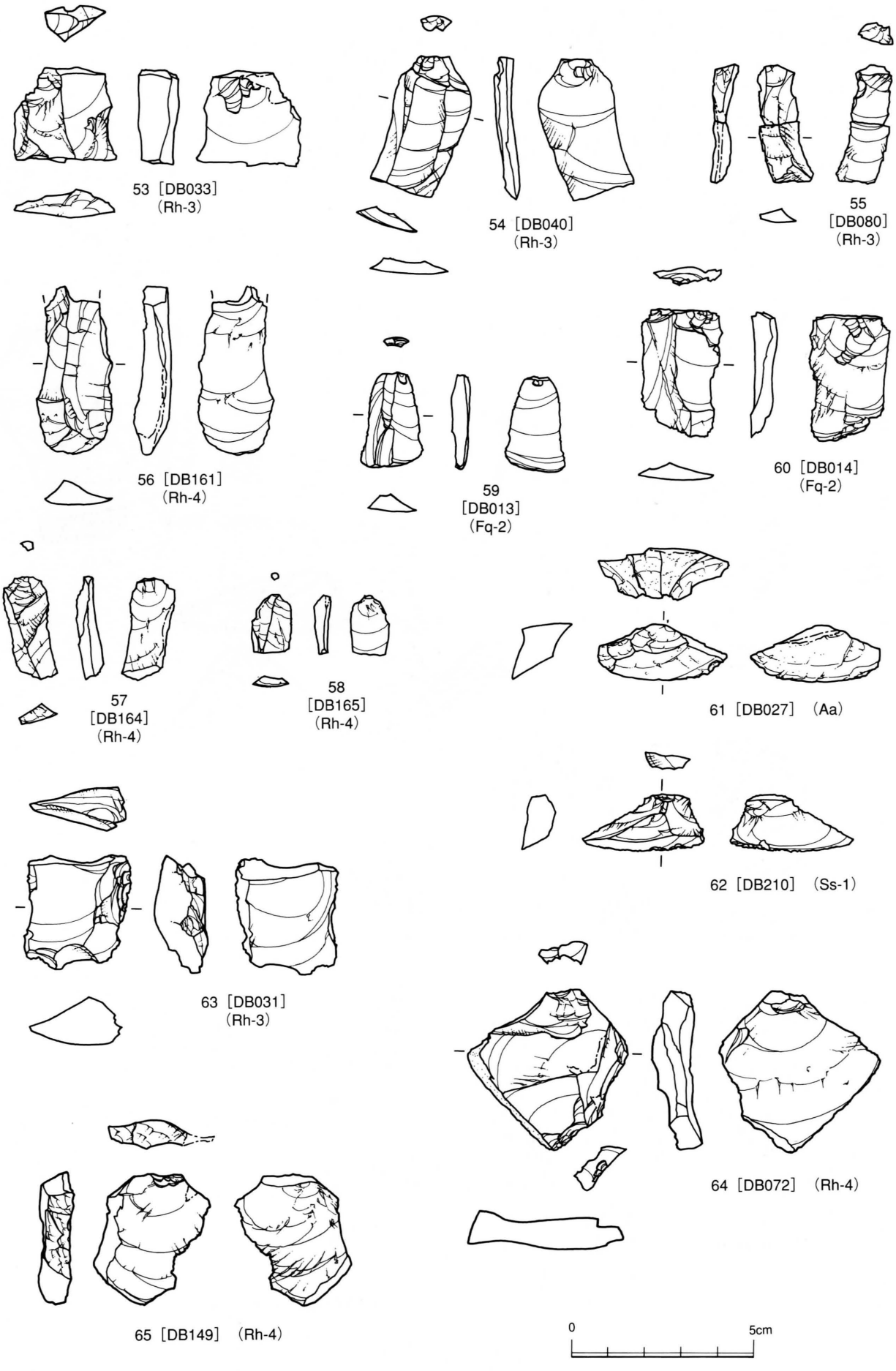


51［DB048］（Rh-2）

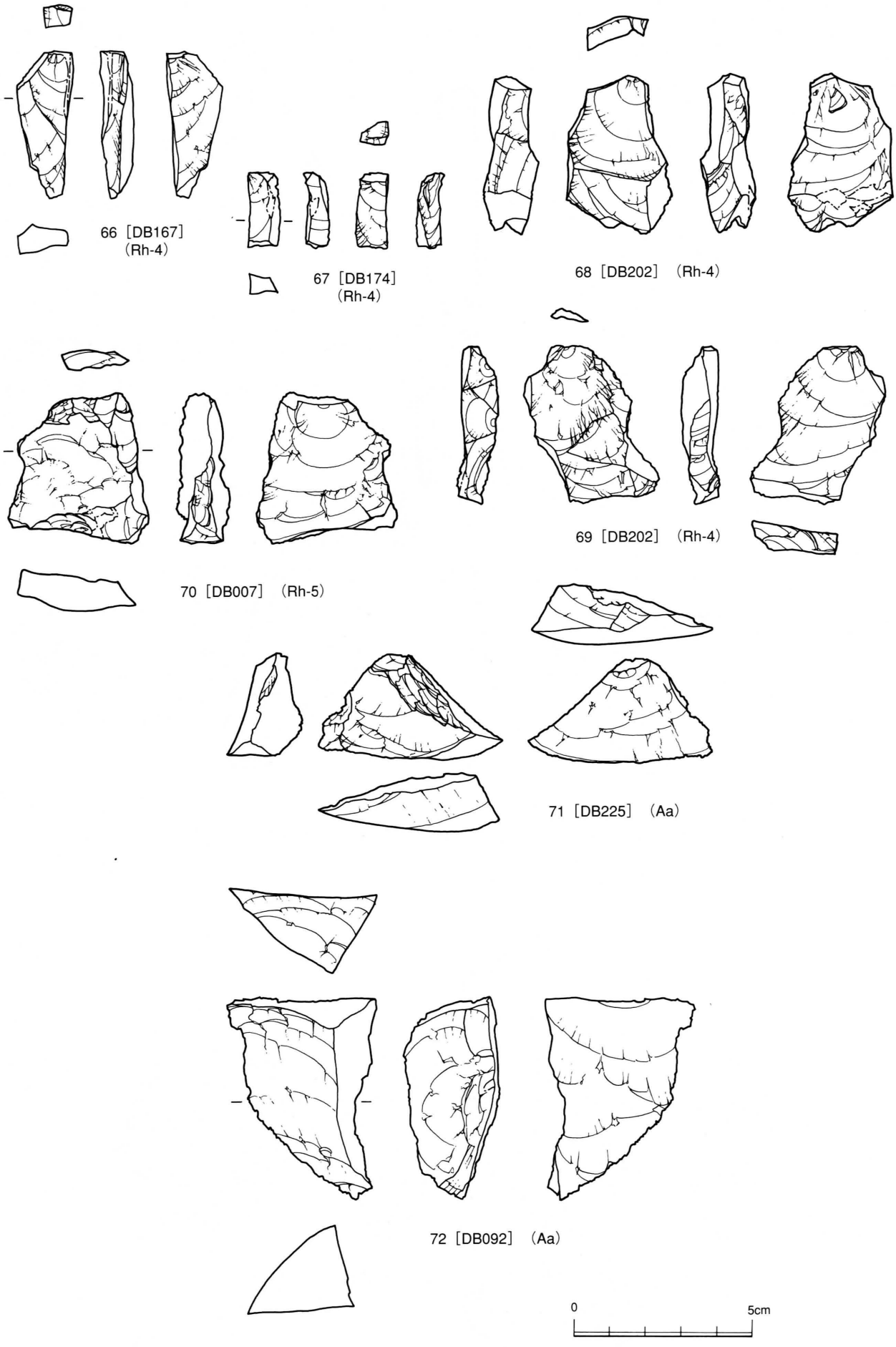


52
［DB050］
（Rh-2）

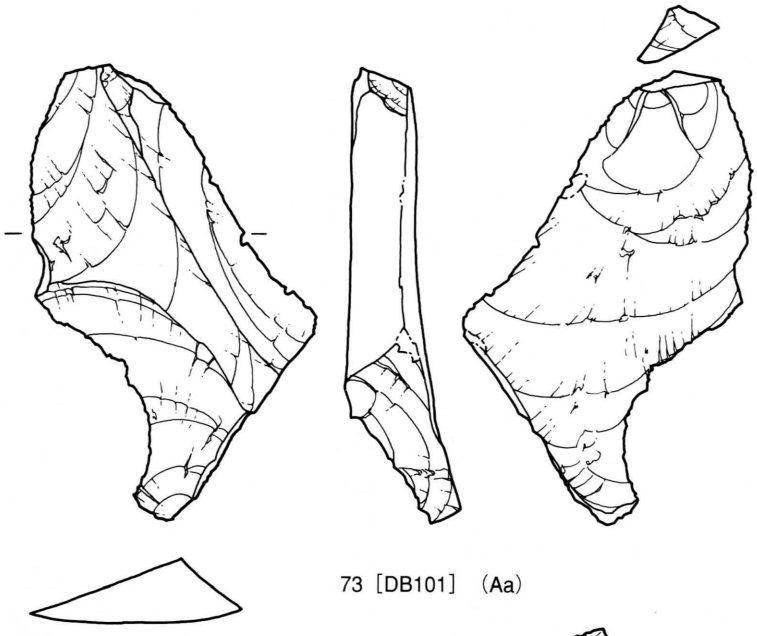
第29図　石器：剥片類 3 縦長剥片（S=2/3）



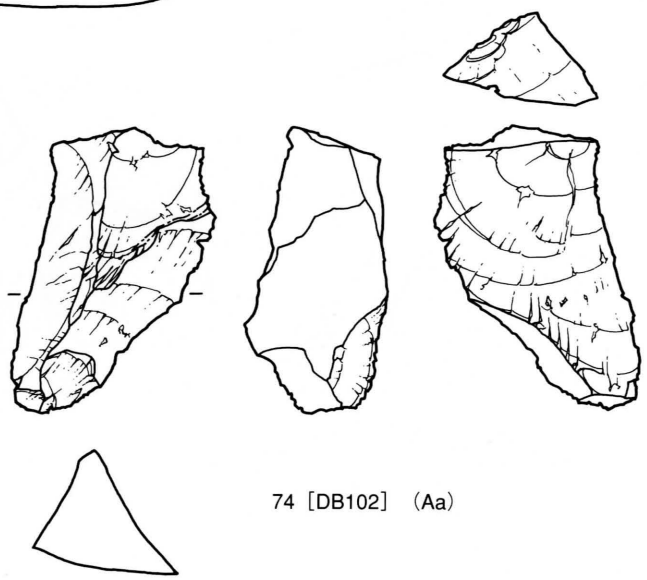
第30図　石器：剥片類 4 縦長剥片、横長剥片、調整剥片（S=2/3）



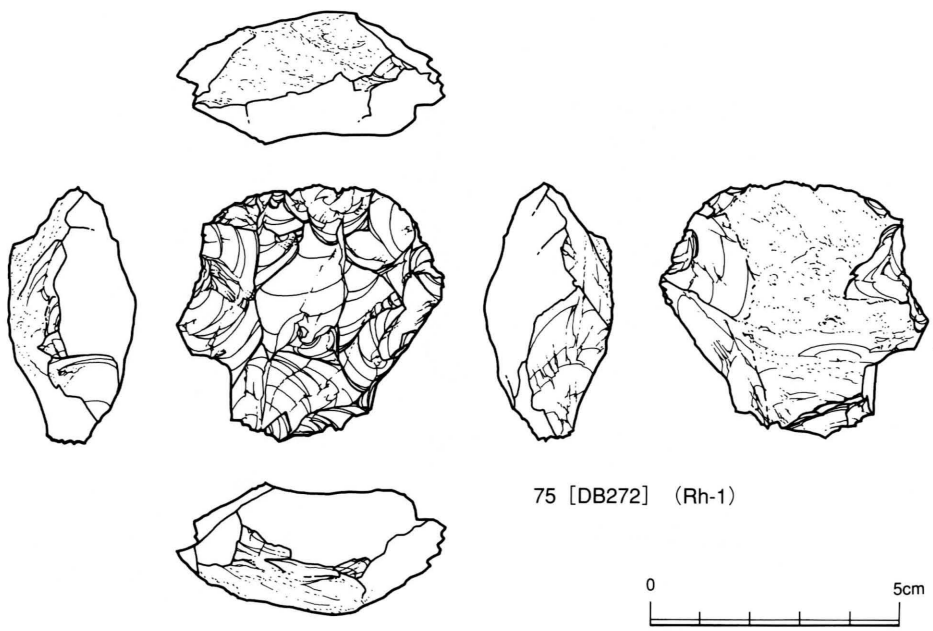
第31図　石器：剥片類5 調整剥片、剥片（S=2/3）



73［DB101］（Aa）



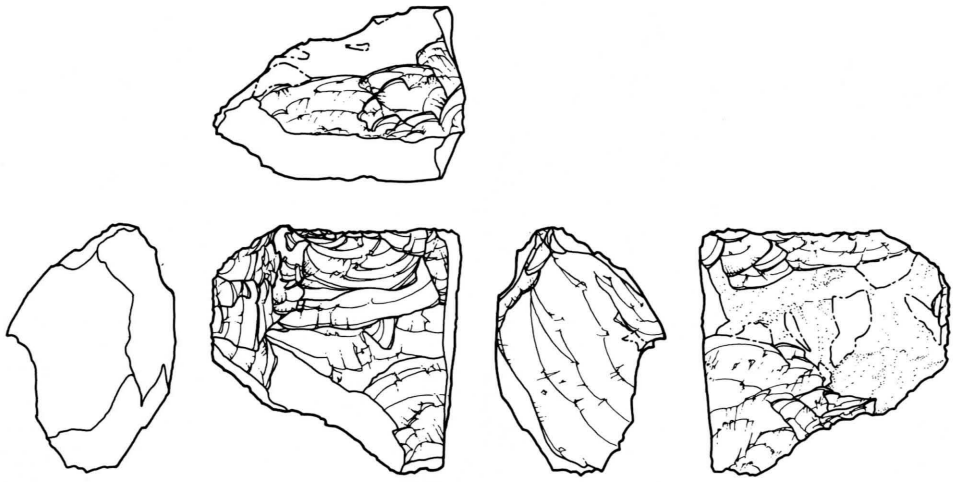
74［DB102］（Aa）



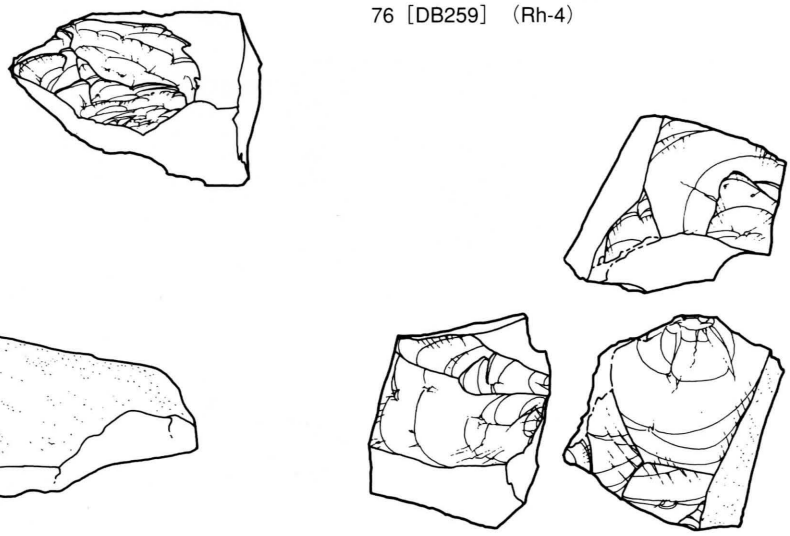
75［DB272］（Rh-1）

0　5cm

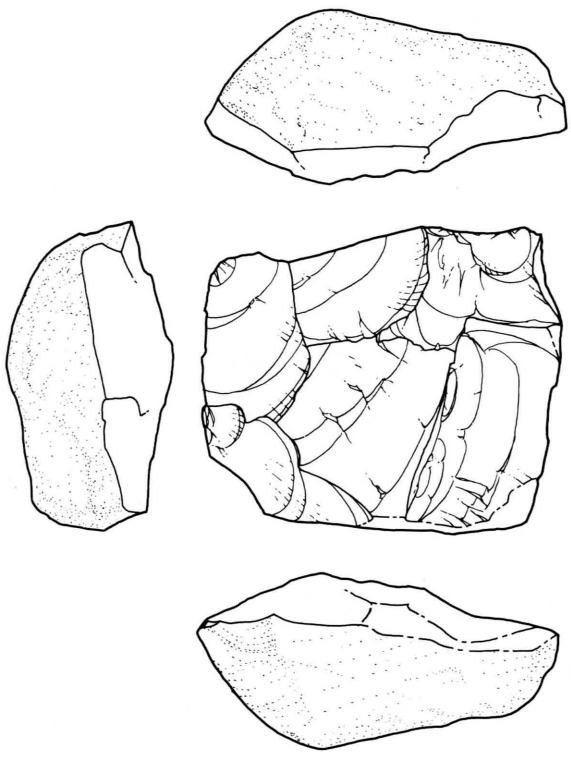
第32図　石器：剥片類6 剥片：石核1（S=2/3）



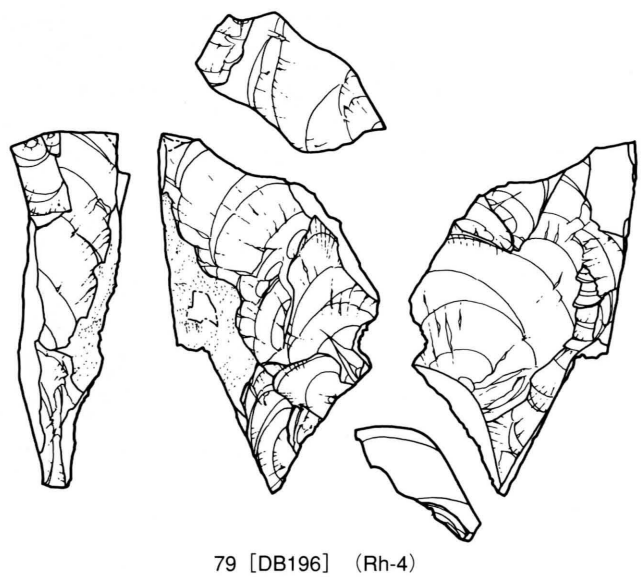
76［DB259］（Rh-4）



78［DB148］（Rh-4）

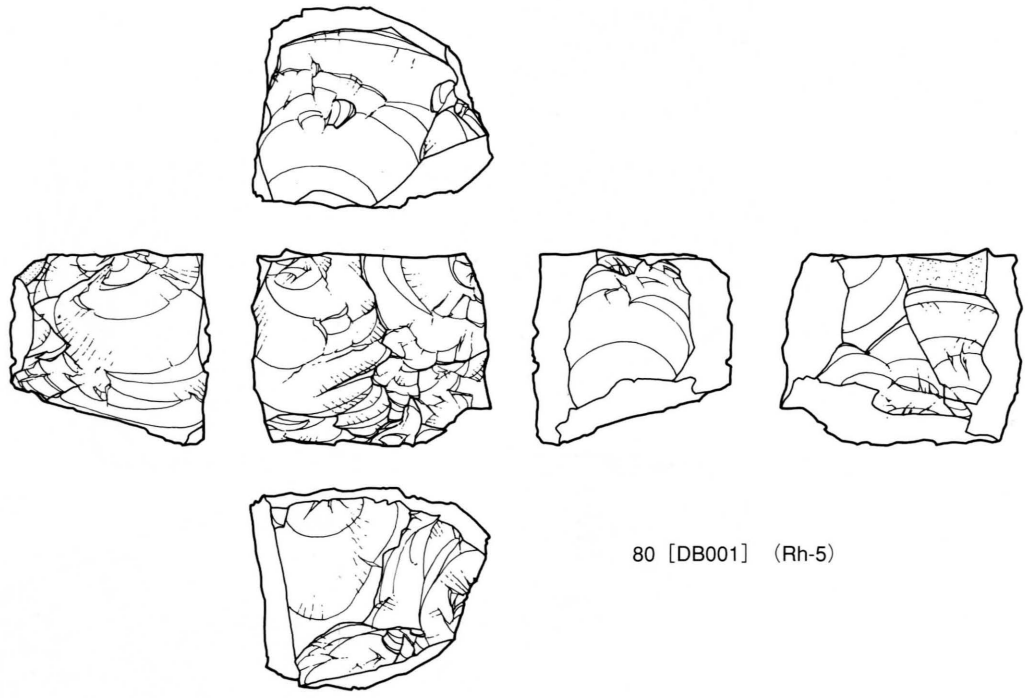


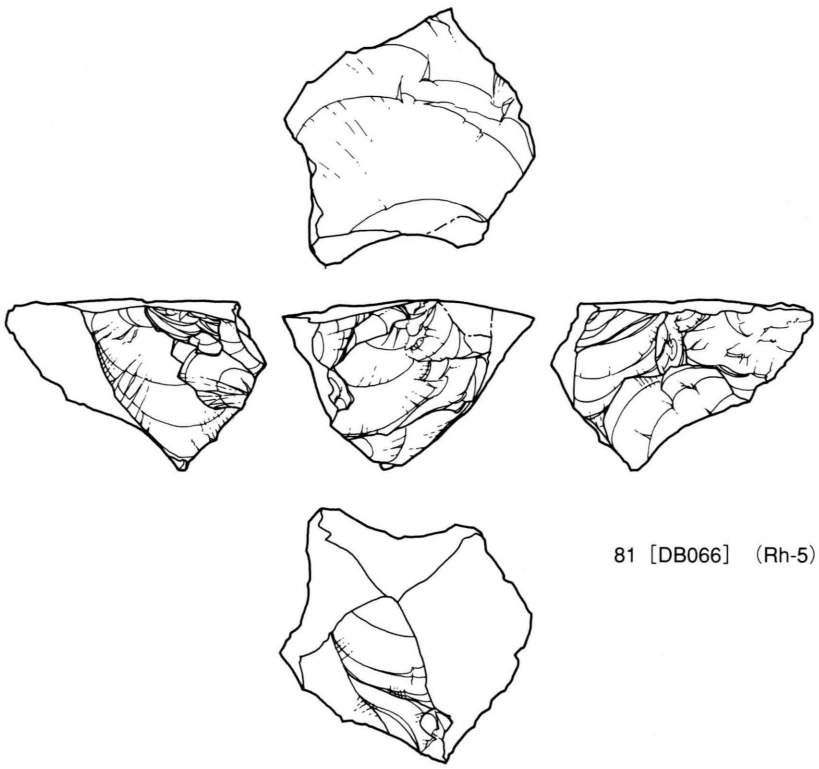
77［DB082］（Rh-4）



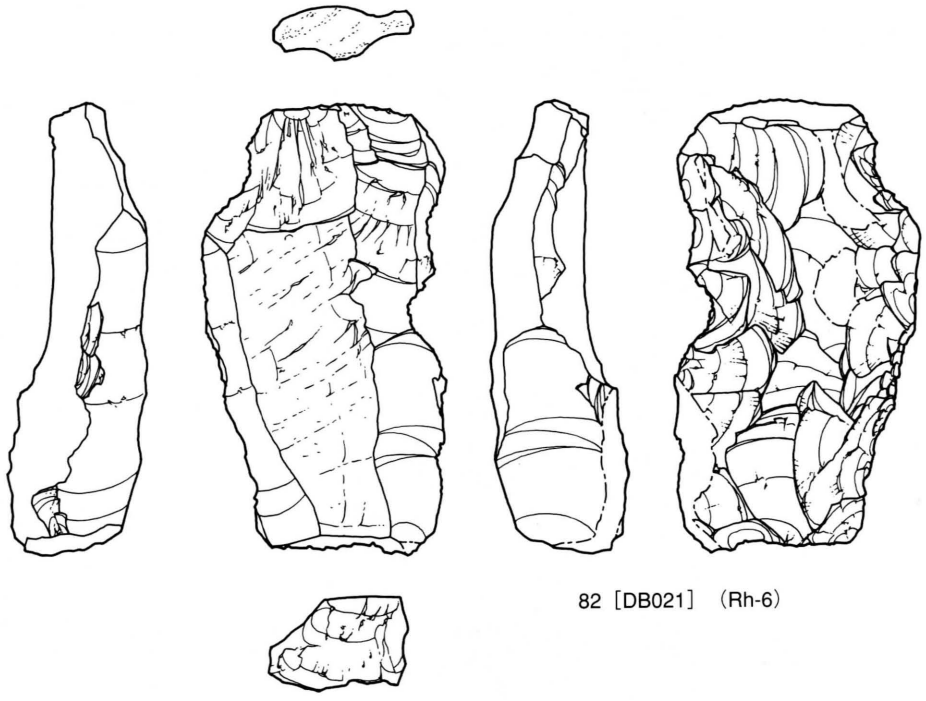
79［DB196］（Rh-4）

第33図　石器：石核２（S=2/3）

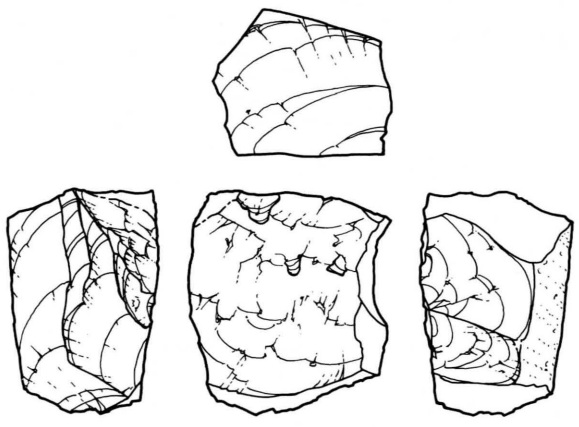




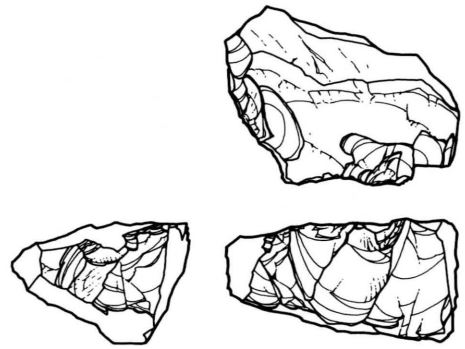
第34図　石器：石核３（S=2/3）



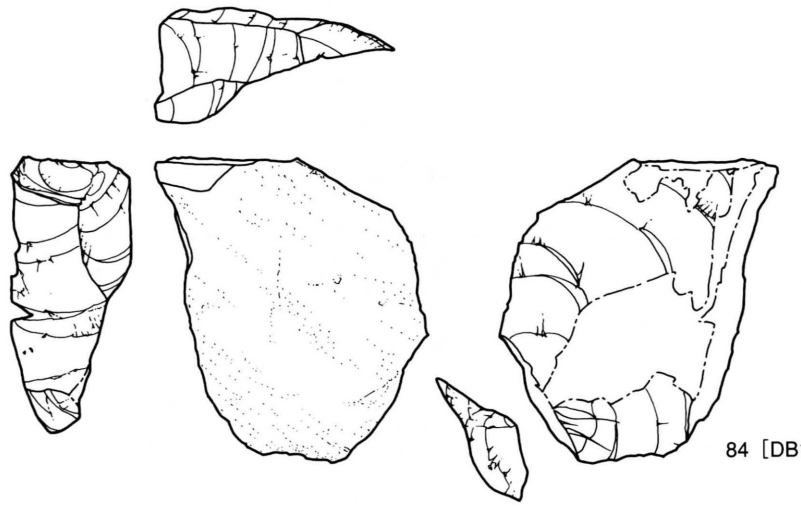
82［DB021］（Rh-6）



83［DB127］（Rh-6）

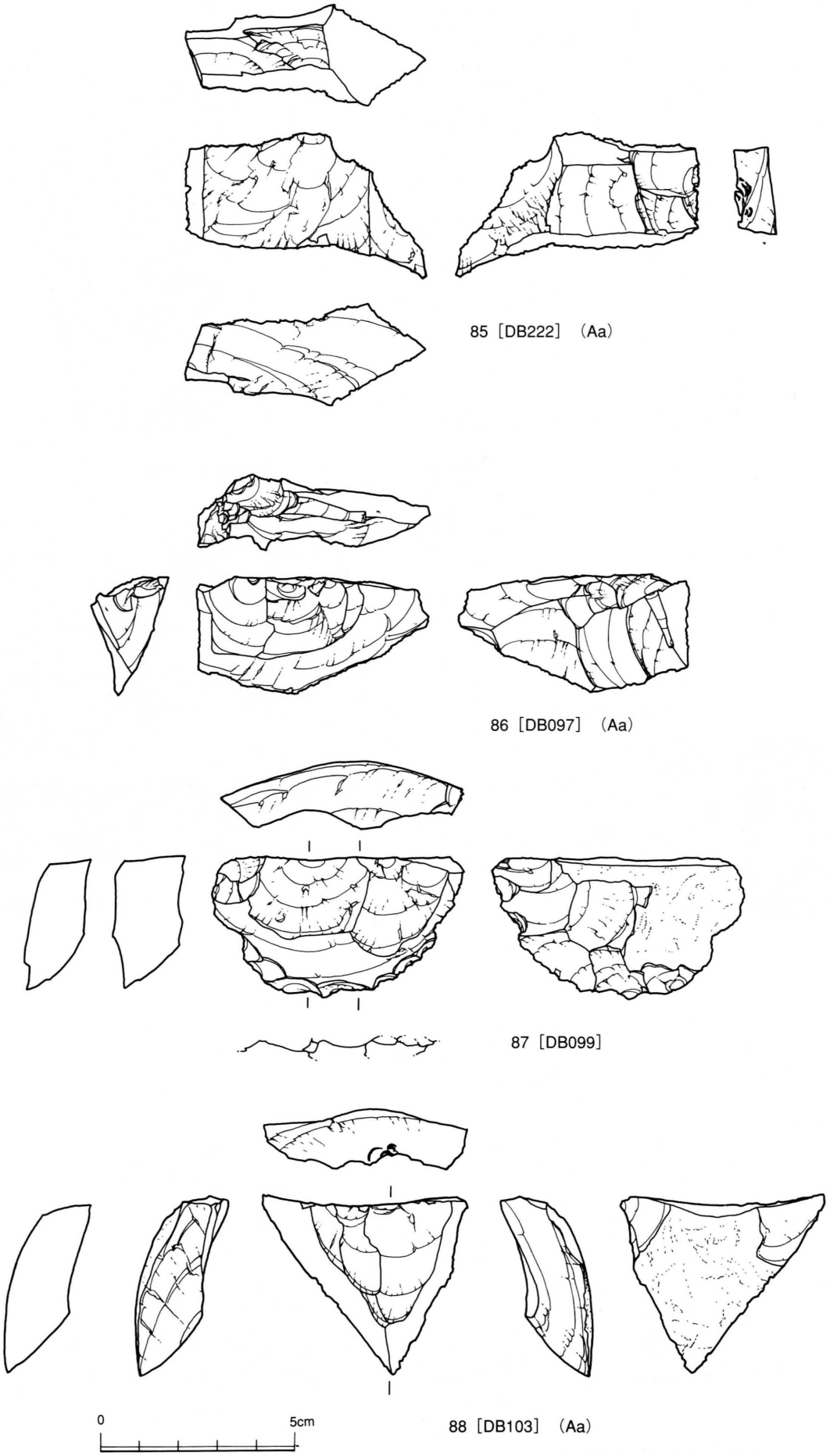


89［DB010］（Fq-1）

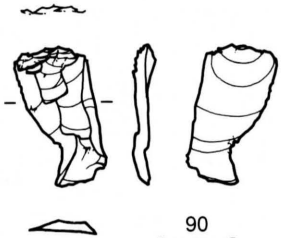


84［DB145］（Rh-6）

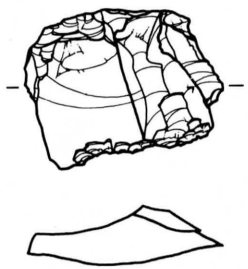
第35図　石器：石核４（S=2/3）



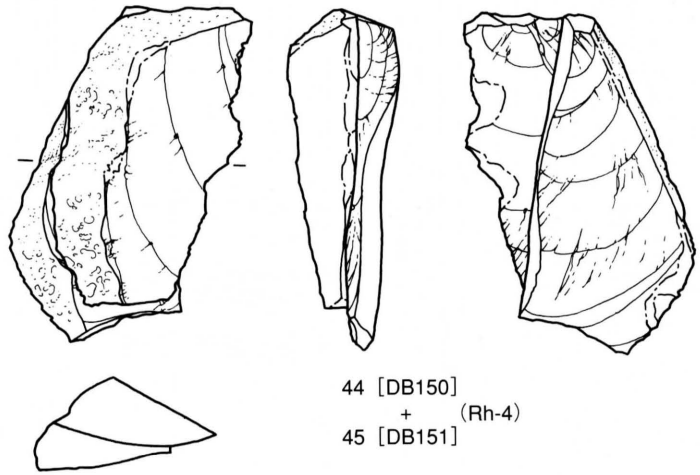
第36図　石器：石核５（S=2/3）



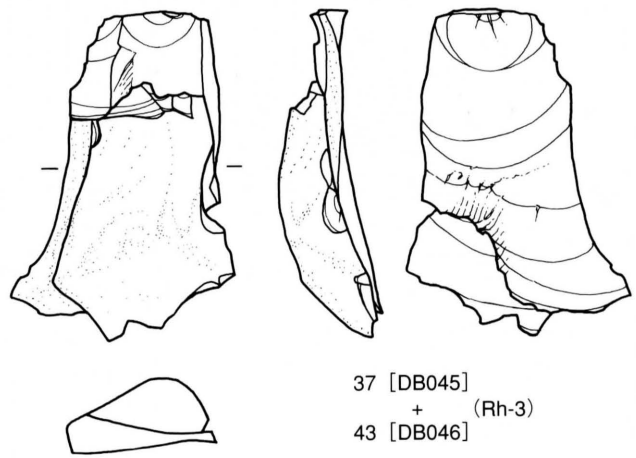
90
[DB234]
(Ch)



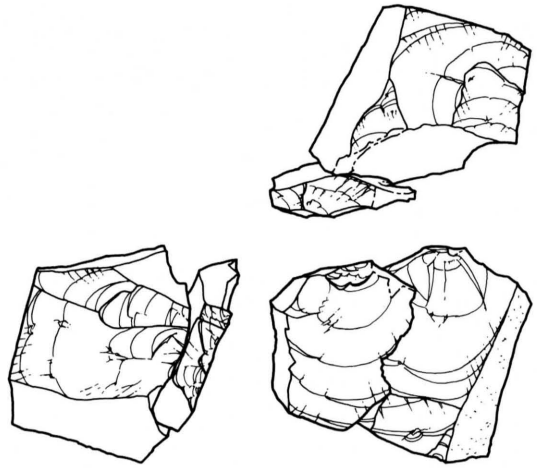
10 [DB233]
+
90 [DB234] (Ch)



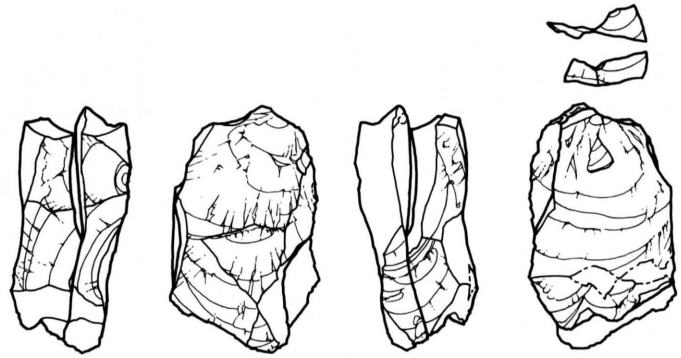
44 [DB150]
+ (Rh-4)
45 [DB151]



37 [DB045]
+ (Rh-3)
43 [DB046]



65 [DB149]
+ (Rh-4)
78 [DB148]



68 [DB201]
+ (Rh-4)
69 [DB202]

第37図　石器：接合資料（S＝2/3）

第２表　剥片石器属性表

図番	ID	地区	grid	遺構等	器種	石材	No	X=	Y=	H=	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	備　考
1	DB056	B-Ⅱ		(B-13トレ)	ナイフ形石器	Rh-1					(2.8)	1.6	0.4	1.64	刃角 30°
2	DB055	C			ナイフ形石器	Aa					4.6	1.5	0.5	3.53	刃角 46°
3	DB057	D-Ⅰ	E-03		有茎尖頭器	Rh	182	47,293.9	-57,091.5	33.910	(5.8)	2.9	1.2	18.46	
4	DB322	A	L-06		石鏃	Aa	37	47,344.5	-57,379.0	46.257	2.6	1.4	0.4	0.94	
5	DB205	B-Ⅰ	I-04		石鏃	Aa	274	47,205.3	-57,236.2	28.150	2.3	1.7	0.3	1.07	
6	DB206	B-Ⅰ	I-04		石鏃	Ch	270	47,203.5	-57,234.9	27.605	1.7	(1.3)	0.4	0.56	基部の一方折損
7	DB207	B-Ⅱ	D-05a 東	(テラス1)	石鏃	Aa	138	47,195.9	-57,288.7	35.585	1.9	1.5	0.3	0.70	
8	DB113	E		(トレンチ)	石鏃	Aa					1.6	1.3	0.3	0.39	基部の一方折損
	DB208	B-Ⅰ	I-03	PU	石鏃？	Aa	45	47,217.4	-57,230.5	29.160	(1.3)	(1.1)	0.4	0.50	先端と基部の一方折損
9	DB331	F		(SX10 堀方)	異形石器	Ss-1					3.8	1.5	0.5	2.71	
10	DB233	B-Ⅱ	E-05a-1		楔形石器	Ch					3.1	3.9	1.1	12.07	DB234＋両極剥離
	DB320	A	L-06		二次加工ある剥片	Aa	199	47,352.5	-57,374.4	46.392	6.4	9.3	1.4	67.27	上辺にリタッチ、並列
	DB286	B-Ⅱ	D-05b 西	(テラス1)	二次加工ある剥片	Rh-3	132	47,194.6	-57,289.8	35.710	2.9	4.9	1.1	13.41	打面にリタッチ
	DB015	C			二次加工ある剥片	Gt	235	47,253.0	-57,155.4	33.441	(2.5)	3.8	0.9	7.96	打面と右辺にリタッチ、鱗状
11	DB022	C		(SI01)	二次加工ある剥片	Rh-6	994	47,285.1	-57,143.8	31.947	4.5	7.3	1.5	38.27	ノッチ？
12	DB112	D-Ⅰ		(SX02 楕)	二次加工ある剥片	Aa					1.1	1.9	0.3	0.54	ブランティング？
13	DB188	D-Ⅰ	E-03		二次加工ある剥片	Rh-4	255	47,294.5	-57,091.6	33.819	2.0	1.7	0.5	0.86	ブランティング？
14	DB100	D-Ⅰ	C-04		二次加工ある剥片	Aa	139	47,313.0	-57,091.1	32.831	4.7	6.3	1.4	39.67	掻器、刃角 77°
15	DB085	E		(トレンチ)	二次加工ある剥片	Rh-3					2.4	3.1	0.6	3.95	米ヶ森型台形石器？
16	DB086	E		(トレンチ)	二次加工ある剥片	Rh-2					7.3	6.0	1.1	44.18	打面から左辺リタッチ

第３表　礫核石器属性表

図番	ID	地区	grid	遺構等	器種	石材	No	X=	Y=	H=	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	備　考
17	DB295	B-Ⅰ	H-03		石錘	Lt		47,216.5	-57,242.0	29.864	12.4	10.6	5.0	670.80	
18	DB298	B-Ⅰ	I-03		石錘	Rh		47,211.5	-57,244.1	29.291	10.5	9.0	5.0	339.30	
19	DB302	C			石錘	An	757	47,281.3	-57,160.0	33.889	11.3	8.2	2.7	262.45	被熱赤化、調整？
20	DB303	C			石錘	An	78	47,259.3	-57,165.2	33.858	7.7	7.2	3.1	206.37	被熱赤化、調整？
21	DB304	C			石錘	Da	131	47,268.6	-57,158.8	33.584	8.4	8.2	3.1	284.65	調整？
22	DB318	C			石錘	Lt	262	47,255.4	-57,154.3	33.301	10.1	7.0	3.2	239.75	
	DB332	C			石錘	An	313	47,251.8	-57,150.8	32.887	9.5	8.8	1.3	108.86	
	DB333	C		(SI01)	石錘	An	961	47,277.9	-57,150.5	32.774	9.5	8.9	3.1	275.69	被熱赤化
	DB334	C		(SI01)	石錘	Pr	979	47,269.2	-57,147.2	32.479	8.8	7.2	2.7	226.61	
	DB335	D-Ⅰ		(SI01)	石錘	Da					10.6	6.0	2.8	246.27	
23	DB305	C			凹石	Rh	351	47,256.3	-57,152.8	33.309	10.3	4.9	3.5	265.51	DB306+
	DB306						263	47,255.2	-57,154.2	33.305					DB305+
24	DB307	C			台石砥石	Sn	566	47,269.3	-57,142.9	33.731	11.0	6.9	2.0	225.58	
25	DB317	C			凹石	Lt	1184	47,255.3	-57,147.3	32.819	9.3	(6.8)	2.1	143.79	
26	DB293	B-Ⅱ		(SP14)	凹石砥石	Lt					14.8	11.5	2.4	380.90	扁平な礫の側縁を整形
	DB299	C			台石？	Rh	1159	47,253.2	-57,151.1	33.302	27.9	19.7	4.8	2,922.1	整状の角礫、使用痕不明
	DB319	C			砥石	Rh	79	47,258.1	-57,165.3	33.573	15.4	14.1	7.5	2,067.9	砥面は平坦、弥生以降か
27	DB296	B-Ⅰ	H-03		磨石敲打器	Lt		47,211.0	-57,243.5	29.292	9.2	8.1	4.9	394.20	
28	DB294	B-Ⅰ	H-03		磨石敲打器	Sn		47,210.9	-57,243.6	29.288	11.4	6.1	2.5	251.95	
29	DB297	B-Ⅰ	I-03		敲打器	Sn		47,215.0	-57,237.2	29.362	11.8	10.5	9.0	1,141.8	
30	DB020	C			敲打器	Sn	124	47,269.4	-57,165.2	33.468	8.4	5.4	3.8	260.79	
31	DB300	C			敲打器	Qu	117	47,268.2	-57,171.0	32.763	9.5	8.1	4.2	506.40	
	DB301	C			敲打器	Sn	229	47,250.9	-57,155.5	33.420	8.8	7.6	6.3	600.70	
32	DB054	D-Ⅰ	E-04		敲打器	Sn	2	47,296.8	-57,083.9	33.987	8.6	2.7	2.5	88.86	
	DB209	B-Ⅰ	H-03		磨製石斧	An	166	47,212.0	-57,245.2	29.339				12.46	刃部の破片
33	DB091	D-Ⅰ	C-05		磨製石斧	Se	137	47,310.1	-57,078.6	33.461	10.6	4.2	1.8	138.30	
	DB093	D-Ⅰ	F-02		磨製石斧？	Sn	101	47,287.0	-57,103.0	32.233				4.98	破片
34	DB203	B-Ⅱ	F-05b		不明	Sh					6.0	4.0	0.8	10.79	三叉状に細った泥岩

第４表（1）　剥片類属性表１

図番	ID	地区	grid	遺構等	器種	石材	No	X=	Y=	H=	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	打面	剥離角(°)	折れ	備　考
35	DB268	B-Ⅱ		(SB01)	礫端片	Rh-3					7.9	4.5	2.8	81.57	礫面	105		
	DB019	C			礫端片	Rh-3	129	47,268.6	-57,158.6	33.589	2.7	4.7	1.1	7.07	礫面	107	右上	
	DB002	D-Ⅰ		(C-5トレ)	礫端片	Rh-5					7.9	5.4	1.7	45.75	礫面	92		
	DB003	D-Ⅰ		(C-5トレ)	礫端片	Rh-5					6.6	4.2	2.2	48.35	欠損			
	DB077	D-Ⅰ	C-04		礫端片	Rh-5	346	47,317.1	-57,088.8	32.263	3.0	2.3	0.3	1.33	礫面			
	DB204	B-Ⅰ	H-03		礫端片	Sh	163	47,211.7	-57,244.8	29.373	3.5	7.2	1.5	27.93	礫面	75		
36	DB068	D-Ⅰ	E-03		礫面剥片	Rh-3	188	47,294.5	-57,092.6	33.837	6.3	3.8	2.2	40.44	単剥離	107		
37	DB045	C			礫面剥片	Rh-3	128	47,268.6	-57,160.1	33.545	(5.1)	3.5	1.5	14.32			上	DB046+
	DB269	B-Ⅰ	I-03		礫面剥片	Rh-4	13	47,211.8	-57,234.7	28.988	5.8	4.4	2.0	30.69	単剥離	104		
	DB079	D-Ⅰ	E-03		礫面剥片	Rh-4	161	47,295.8	-57,091.1	33.898	3.1	4.5	1.2	14.73	複剥離	113		
	DB156	D-Ⅰ	E-03		礫面剥片	Rh-4	224	47,295.6	-57,093.9	33.645	3.9	4.0	1.4	15.74	単剥離	111		礫面に熱破砕
	DB067	D-Ⅰ	E-03		礫面剥片	Rh-5	250	47,296.0	-57,092.5	33.800	4.6	5.2	1.8	29.99	単剥離	112		
	DB134	D-Ⅰ	E-03		礫面剥片	Rh-5	219	47,296.0	-57,093.6	33.545	3.6	2.7	1.4	11.91	単剥離	82		
38	DB011	C			礫面剥片	Ob	944	47,250.4	-57,150.1	33.096	2.7	(0.7)	0.8	2.10	複剥離		左	右リタッチ？
	DB042	C			縦長剥片	Rh	126	47,269.5	-57,161.5	33.503	4.9	3.3	1.2	9.87	複剥離	116		
	DB216	B			縦長剥片	Rh-2					4.8	1.9	0.9	3.85	複剥離	83		
39	DB047	C			縦長剥片	Rh-2	595	47,276.7	-57,142.0	32.964	5.2	4.5	0.9	14.21	単剥離	101	下	
40	DB083	E		(トレンチ)	縦長剥片	Rh-2					(4.7)	3.8	1.0	11.41	損傷			
41	DB280	B-Ⅱ	D-05a 東	(テラス1)	縦長剥片	Rh-3	91	47,195.3	-57,286.8	35.523	5.1	2.9	1.0	8.29	単剥離	95		
42	DB044	C		(SX01)	縦長剥片	Rh-3	62	47,290.6	-57,169.7	34.496	7.3	2.0	1.1	11.98	単剥離	111		
43	DB046	C			縦長剥片	Rh-3	952	47,268.7	-57,160.5	33.912	6.1	4.2	0.9	9.71	単剥離	92		DB045+
	DB036	C		(SX01)	縦長剥片	Rh-3	63	47,290.1	-57,168.5	34.362	3.7	2.6	1.0	4.99	単剥離	115		
44	DB150	D-Ⅰ	D-03		縦長剥片	Rh-4	112	47,305.6	-57,090.9	33.456	6.8	(3.8)	1.1	13.82	単剥離	109	左	DB151+
45	DB151	D-Ⅰ	D-04		縦長剥片	Rh-4	177	47,309.4	-57,081.3	33.437	(5.7)	3.8	1.4	20.20	単剥離	108		DB150+
46	DB195	D-Ⅰ	E-03		縦長剥片	Rh-4	183	47,294.1	-57,091.9	33.835	4.5	(2.6)	1.0	6.86	単剥離		左	
47	DB179	D-Ⅰ	E-03		縦長剥片	Rh-4	205	47,296.0	-57,093.2	33.728	4.0	(2.2)	0.8	4.16	単剥離	111	右	
48	DB074	D-Ⅰ	E-03		縦長剥片	Rh-5	14	47,294.3	-57,090.2	34.093	5.1	3.5	1.1	12.29	単剥離	109		
49	DB139	D-Ⅰ	E-03		縦長剥片	Rh-6	162	47,295.8	-57,091.2	33.818	6.4	3.3	1.4	12.24	単剥離	109		
	DB128	D-Ⅰ	E-03		縦長剥片	Rh-6	213	47,295.1	-57,092.6	33.852	10.6	4.9	3.2	122.12	単剥離	106		
50	DB029	C			縦長剥片	Rh-2	867	47,292.5	-57,166.5	33.937	(2.9)	3.1	0.8	3.54			上	両設打面
51	DB048	C		(SX01)	縦長剥片	Rh-2	43	47,288.7	-57,167.5	33.751	(5.7)	3.0	1.2	10.50	単剥離	92	下	両設打面
52	DB050	C			縦長剥片	Rh-2	815	47,291.4	-57,167.6	34.006	(2.6)	3.4	0.7	3.50			上と下	
53	DB033	C			縦長剥片	Rh-3	127	47,269.0	-57,160.9	33.502	(2.5)	2.8	1.0	4.65	複剥離	114	下	
54	DB040	C		(SX01)	縦長剥片	Rh-3	42	47,288.6	-57,167.6	33.752	(3.8)	2.2	0.6	3.01	単剥離	94	下	
55	DB080	D-Ⅰ	E-03		縦長剥片	Rh-3	212	47,296.6	-57,093.3	33.520	3.1	(1.4)	0.5	1.11	単剥離	122	右	
56	DB161	D-Ⅰ	E-03		縦長剥片	Rh-4	222	47,296.0	-57,094.3	33.528	(4.4)	2.1	0.8	4.78	欠損			

第４表（2）　剥片類属性表２

図番	ID	地区	grid	遺構等	器種	石材	No	X=	Y=	H=	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	打面	剥離角(°)	折れ	備　考
57	DB164	D-Ⅰ	E-03		縦長剥片	Rh-4	209	47,296.1	−57,093.2	33.627	(2.6)	1.5	0.5	1.10	点打面	97	下	
58	DB165	D-Ⅰ	E-03		縦長剥片	Rh-4	192	47,295.1	−57,092.8	33.765	(1.6)	1.0	0.4	0.45	点打面	101	下	
59	DB013	C			縦長剥片	Fq-2	12	47,245.7	−57,166.4	33.883	2.5	1.6	0.4	1.68	複剥離	107		
60	DB014	C			縦長剥片	Fq-2	458	47,257.9	−57,147.5	32.796	3.3	2.2	1.6	4.16	単剥離	104		
61	DB027	C			横長剥片	Aa					1.2	3.4	1.1	5.59	複剥離	112		
62	DB210	B-Ⅰ	I-03		横長剥片	Ss-1	86	47,213.3	−57,237.3	29.224	1.4	3.2	0.7	2.81	単剥離	106		下コボレは損傷
63	DB031	C			調整剥片	Rh-3	1092	47,289.1	−57,162.5	33.528	(3.4)	2.9	1.3	10.28			上	
64	DB072	D-Ⅰ	E-03		調整剥片	Rh-4	25	47,295.8	−57,093.3	33.786	4.3	4.3	0.9	11.46	複剥離	118		
65	DB149	D-Ⅰ	E-03		調整剥片	Rh-4	23	47,294.7	−57,091.9	33.943	3.4	3.3	0.8	5.87	単剥離	116		DB148+
66	DB167	D-Ⅰ		(SX02 棺)	調整剥片	Rh-4					4.0	(1.6)	1.1	3.78	単剥離	96	左	
67	DB174	D-Ⅰ		(SX02 棺)	調整剥片	Rh-4					2.0	(0.9)	0.6	1.00	単剥離	108	右	
68	DB201	D-Ⅰ			調整剥片	Rh-4	159			33.929	4.3	2.9	1.4	13.83	複剥離	103		DB202+
69	DB202	D-Ⅰ	E-03		調整剥片	Rh-4	187	47,294.7	−57,092.4	33.845	4.3	3.6	1.0	9.90	単剥離	115		DB201+
70	DB007	D-Ⅰ		(C-5 トレ)	調整剥片	Rh-5					4.1	3.9	1.1	18.05	単剥離	108		
	DB219	B-Ⅰ	H-03		剥片	Rh	457	47,214.5	−57,246.3	29.430	2.5	3.4	0.4	1.75	点打面			
	DB041	C			剥片	Rh	90	47,261.9	−57,167.0	33.533	3.8	4.6	0.8	8.96	欠損			
	DB043	C			剥片	Rh	243	47,250.9	−57,151.6	33.010	(2.4)	4.1	1.3	10.74			上	
	DB052	C			剥片	Rh	205	47,250.3	−57,158.7	33.513	4.3	4.2	1.2	15.82	単剥離	119		
	DB053	C			剥片	Rh	338	47,252.5	−57,146.5	32.070	4.8	3.1	0.9	9.39	単剥離	114		
	DB191	D-Ⅰ	D-03		剥片	Rh	114	47,309.9	−57,094.3	33.268	5.4	3.4	1.4	23.14	礫面	63		
	DB193	D-Ⅰ	F-04		剥片	Rh	92	47,281.6	−57,087.1	33.257	5.1	6.6	1.1	22.12	線打面			
	DB038	C			剥片	Rh-1	221	47,249.4	−57,152.1	33.109	2.4	1.5	0.7	1.48	欠損			
	DB051	C			剥片	Rh-1	909	47,269.3	−57,145.2	33.786	(1.9)	2.0	0.4	0.88	点打面	117	下	
	DB122	D-Ⅰ			剥片	Rh-1					4.5	6.1	1.4	30.03	礫面	116		
	DB330	A		(A-8 トレ)	剥片	Rh-2					3.0	2.9	0.6	5.03				
	DB277	B-Ⅱ	E-05cE		剥片	Rh-2					2.3	2.9	0.8	3.55	複剥離	112		
	DB073	D-Ⅰ	E-03		剥片	Rh-2	21	47,293.4	−57,091.4	34.060	4.5	4.0	1.0	12.15	単剥離	118		
	DB115	D-Ⅰ	C-03		剥片	Rh-2	352	47,319.2	−57,090.0	32.009	8.7	4.9	4.3	98.87	単剥離	106		
	DB197	D-Ⅰ	E-03		剥片	Rh-2	248	47,296.0	−57,092.8	33.685	2.0	2.4	0.7	2.44	単剥離	88		
	DB260	B-Ⅱ		(SB01-P3)	剥片	Rh-3					3.4	2.3	0.9	4.52	点打面	107		
	DB261	B-Ⅱ		(SB01)	剥片	Rh-3					3.4	4.0	0.9	6.66	欠損			
	DB262	B-Ⅱ	D-05b	(テラス 1)	剥片	Rh-3					4.2	4.7	2.2	27.04	単剥離	92		
	DB273	B-Ⅱ	D-05a 東	(テラス 1)	剥片	Rh-3	139	47,195.9	−57,288.2	35.548	1.6	4.6	1.3	5.85	欠損			
	DB274	B-Ⅱ	D-05a		剥片	Rh-3					1.8	1.9	0.6	2.29				
	DB278	B-Ⅱ	D-05b	(テラス 1-1)	剥片	Rh-3					2.0	3.4	1.0	4.54	単剥離	102		
	DB279	B-Ⅱ	D-05b 西	(テラス 1)	剥片	Rh-3	153	47,193.6	−57,289.1	35.370	1.8	2.6	0.5	1.21	線打面	93		
	DB282	B-Ⅱ	C-05c	(テラス 1)	剥片	Rh-3	81	47,194.2	−57,290.0	35.679	1.8	3.0	0.6	2.44	単剥離	113		
	DB283	B-Ⅱ		(テラス 1)	剥片	Rh-3					2.7	4.7	1.4	9.66	単剥離	107		
	DB287	B-Ⅱ	D-05a 東	(テラス 1)	剥片	Rh-3	91	47,195.3	−57,286.8	35.523	2.3	1.8	0.4	1.37	単剥離	126		
	DB288	B-Ⅱ	C-05d	(テラス 1)	剥片	Rh-3	83	47,193.3	−57,290.2	35.649	(1.1)	1.4	0.2	0.22	点打面		下	
	DB289	B-Ⅱ	D-05a 西	(テラス 1)	剥片	Rh-3	92	47,196.9	−57,288.5	35.656	2.0	2.1	0.5	1.02	複剥離	122	左	
	DB290	B-Ⅱ	C-05d	(テラス 1)	剥片	Rh-3	82	47,194.0	−57,294.1	35.757	1.4	2.5	0.6	1.87	礫面	62		
	DB291	B-Ⅱ	D-05b 西	(テラス 1)	剥片	Rh-3	131	47,194.5	−57,289.7	35.722	1.5	1.4	0.3	0.60	単剥離	72		
	DB292	B-Ⅱ	D-05a 西	(テラス 1)	剥片	Rh-3	90	47,196.0	−57,287.5	35.557	1.7	2.5	0.2	1.28			上と左	
	DB030	C			剥片	Rh-3	953	47,268.2	−57,160.8	33.915	(2.5)	1.4	1.0	2.18			上	
	DB034	C		(SB05)	剥片	Rh-3					2.5	2.5	0.9	2.86	礫面	109		
	DB313	C			剥片	Rh-3	226	47,249.2	−57,153.2	33.135	1.2	0.8	0.2	0.17				
	DB059	D-Ⅰ	E-03		剥片	Rh-3	226	47,295.6	−57,094.1	33.501	1.7	4.3	1.5	2.89	単剥離	100		
	DB060	D-Ⅰ	E-03		剥片	Rh-3	204	47,295.8	−57,093.2	33.726	(3.5)	2.2	1.5	5.59			上	
	DB061	D-Ⅰ		(SX02 棺)	剥片	Rh-3					1.9	2.5	0.9	1.92	複剥離	113		
	DB062	D-Ⅰ	E-03		剥片	Rh-3	213	47,295.1	−57,092.6	33.852	1.8	1.8	0.5	0.37	礫面	75		
	DB063	D-Ⅰ	E-03		剥片	Rh-3	217	47,296.3	−57,093.6	33.560	3.0	2.1	1.1	2.72	単剥離	109		
	DB070	D-Ⅰ	E-03		剥片	Rh-3	198	47,294.6	−57,093.7	33.727	3.1	3.3	2.5	15.36	単剥離	87		
	DB076	D-Ⅰ	E-03		剥片	Rh-3	227	47,295.7	−57,095.4	33.406	2.6	2.0	1.2	3.16	単剥離	52		
	DB114	D-Ⅰ	C-03		剥片	Rh-3	353	47,319.1	−57,090.0	31.999	8.2	5.0	2.3	72.49	単剥離	116		
	DB270	B-Ⅰ	H-03		剥片	Rh-4	170	47,212.5	−57,245.1	29.377	4.1	3.1	0.9	10.77	礫面	118		
	DB271	B-Ⅱ			剥片	Rh-4					3.7	3.6	0.8	11.36	単剥離	128		
	DB058	D-Ⅰ	E-04		剥片	Rh-4	11	47,296.1	−57,087.9	34.028	2.8	3.7	1.3	12.81	複剥離	113		
	DB109	D-Ⅰ		(SX02 棺)	剥片	Rh-4					1.5	1.5	0.3	0.58	点打面		下	
	DB111	D-Ⅰ		(SX02 棺)	剥片	Rh-4					2.3	1.6	0.8	1.00				
	DB116	D-Ⅰ	D-04		剥片	Rh-4	1	47,301.7	−57,081.4	33.911	5.2	5.7	1.3	29.06	複剥離	100		
	DB117	D-Ⅰ	C-04		剥片	Rh-4	346	47,317.1	−57,088.8	32.263	3.3	2.3	1.1	2.80	単剥離	60		
	DB118	D-Ⅰ	D-04		剥片	Rh-4	116	47,304.4	−57,087.3	33.737	4.2	5.6	1.7	35.24	単剥離	113		
	DB152	D-Ⅰ	E-03		剥片	Rh-4	225	47,295.6	−57,093.9	33.594	4.7	2.7	2.2	21.79	単剥離	110		
	DB153	D-Ⅰ	E-03		剥片	Rh-4	225	47,295.6	−57,093.9	33.594	1.6	2.6	1.2	3.32	単剥離	111		
	DB154	D-Ⅰ	E-03		剥片	Rh-4	197	47,293.5	−57,094.0	33.779	2.9	2.2	0.9	3.19	単剥離	122		
	DB155	D-Ⅰ	E-04		剥片	Rh-4	42	47,294.7	−57,083.4	33.986	3.7	3.4	1.3	9.44	単剥離	109		
	DB157	D-Ⅰ	E-03		剥片	Rh-4	193	47,295.4	−57,092.6	33.753	2.3	3.1	0.6	2.69	単剥離	109		
	DB158	D-Ⅰ	E-03		剥片	Rh-4	216	47,296.2	−57,093.6	33.570	1.4	2.0	0.4	0.60	単剥離	115		
	DB159	D-Ⅰ	E-03		剥片	Rh-4	211	47,296.0	−57,093.5	33.606	1.9	1.8	0.6	1.09	単剥離	82		
	DB160	D-Ⅰ	E-03		剥片	Rh-4	215	47,296.3	−57,093.3	33.641	3.4	3.1	1.7	7.73	単剥離	81		
	DB162	D-Ⅰ	E-03		剥片	Rh-4	220	47,296.0	−57,093.8	33.481	1.6	0.8	0.3	0.19	点打面			
	DB163	D-Ⅰ	E-03		剥片	Rh-4	201	47,294.5	−57,094.6	33.635	1.8	2.0	0.4	0.65	線打面			
	DB166	D-Ⅰ		(SX02 棺)	剥片	Rh-4					3.9	3.4	1.2	10.59	複剥離	118		
	DB168	D-Ⅰ			剥片	Rh-4					6.1	4.0	1.2	21.18	単剥離	96		
	DB169	D-Ⅰ		(SX02 棺)	剥片	Rh-4					5.6	3.7	1.0	9.83	単剥離	108		
	DB175	D-Ⅰ		(SX02 棺)	剥片	Rh-4					1.2	1.7	0.4	0.30	単剥離	103		
	DB177	D-Ⅰ	E-03		剥片	Rh-4	208	47,296.0	−57,093.5	33.621	4.7	3.4	1.6	16.97			上	DB176+
	DB178	D-Ⅰ	E-03		剥片	Rh-4	191	47,295.0	−57,092.2	33.860	3.4	2.7	0.8	4.61	単剥離	97	左	
	DB180	D-Ⅰ	E-03		剥片	Rh-4	199	47,294.6	−57,094.0	33.729	2.4	3.1	0.7	4.26	複剥離	106		
	DB181	D-Ⅰ	E-03		剥片	Rh-4	247	47,296.3	−57,092.9	33.720	2.4	1.9	1.1	1.98	点打面			
	DB182	D-Ⅰ	E-03		剥片	Rh-4	190	47,295.0	−57,092.3	33.884	1.0	2.3	0.5	0.79	単剥離	58		
	DB184	D-Ⅰ	E-03		剥片	Rh-4	231	47,295.8	−57,096.8	33.401	1.4	1.3	0.3	0.32	線打面			
	DB186	D-Ⅰ	E-03		剥片	Rh-4	235	47,292.8	−57,095.1	33.458	2.3	1.5	0.7	1.29	点打面		下	
	DB187	D-Ⅰ	E-04		剥片	Rh-4	243	47,292.1	−57,084.2	33.889	1.0	1.4	0.3	0.40				
	DB190	D-Ⅰ	E-03		剥片	Rh-4	260	47,293.2	−57,090.8	33.895	(1.7)	2.2	0.6	1.01			上	
	DB194	D-Ⅰ		(SK03)	剥片	Rh-4					6.2	3.8	1.3	15.38	欠損	116	右	
	DB198	D-Ⅰ	E-03		剥片	Rh-4	214	47,296.5	−57,093.3	33.528	1.8	2.2	0.5	1.09	複剥離	111		
	DB199	D-Ⅰ	E-03		剥片	Rh-4	263	47,294.5	−57,094.0	33.641	1.9	2.0	0.7	1.29	単剥離	93		
	DB200	D-Ⅰ			剥片	Rh-4	160			33.909	3.0	3.3	3.0	17.19	単剥離	119		
	DB049	C			剥片	Rh-5					7.5	6.9	1.1	37.42	単剥離	105		
	DB005	D-Ⅰ		(C-5 トレ)	剥片	Rh-5					5.1	4.3	2.7	36.06	単剥離	121	左	
	DB006	D-Ⅰ		(C-5 トレ)	剥片	Rh-5					4.5	4.0	1.3	19.29	単剥離	100		
	DB008	D-Ⅰ		(C-5 トレ)	剥片	Rh-5					(2.8)	2.4	1.2	6.68	単剥離	111	下	

第４表（3）　剥片類属性表３

図番	ID	地区	grid	遺構等	器種	石材	No	X=	Y=	H=	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	打面	剥離角(°)	折れ	備　考
	DB009	D-Ⅰ		(C-5トレ)	剥片	Rh-5					(4.3)	2.0	1.2	7.79			上	
	DB069	D-Ⅰ	E-04		剥片	Rh-5	242	47,292.6	-57,084.7	33.920	4.1	6.6	1.6	29.82	単剥離	132		
	DB078	D-Ⅰ	E-04		剥片	Rh-5	238	47,290.7	-57,087.6	33.892	3.6	4.3	1.2	10.65	欠損			
	DB129	D-Ⅰ	E-04		剥片	Rh-5	13	47,294.9	-57,089.7	34.036	2.7	2.7	1.2	6.41				
	DB130	D-Ⅰ	E-03		剥片	Rh-5	17	47,291.6	-57,090.4	34.027	4.6	5.4	2.2	39.68	複剥離	106		
	DB131	D-Ⅰ	E-03		剥片	Rh-5	24				3.4	4.2	1.7	13.46				
	DB084	E		(トレンチ)	剥片	Rh-5					2.3	1.8	0.6	0.79	単剥離	116		
	DB124	D-Ⅰ	E-03		剥片	Rh-6	166	47,295.4	-57,092.0	33.672	4.5	3.6	3.0	26.99	単剥離	120		DB123+
	DB125	D-Ⅰ	E-03		剥片	Rh-6	256	47,294.4	-57,091.6	33.853	7.2	5.4	1.5	29.57	単剥離	100		DB123+
	DB126	D-Ⅰ	E-03		剥片	Rh-6	179	47,293.8	-57,092.3	33.836	5.6	7.4	1.9	66.12	単剥離	116		
	DB132	D-Ⅰ	E-03		剥片	Rh-6	246	47,296.5	-57,092.8	33.663	4.4	1.8	0.9	4.20	点打面	108		
	DB133	D-Ⅰ	E-03		剥片	Rh-6	163	47,295.8	-57,091.3	33.804	1.6	2.7	0.8	1.20	単剥離	110		
	DB136	D-Ⅰ	E-03		剥片	Rh-6	229	47,295.1	-57,095.6	33.420	3.0	2.0	1.3	4.70	単剥離	85		
	DB141	D-Ⅰ	E-03		剥片	Rh-6	157	47,296.6	-57,091.7	33.801	5.4	3.6	2.4	36.83	単剥離	63		
	DB143	D-Ⅰ	E-03		剥片	Rh-6	249	47,295.9	-57,092.8	33.717	3.2	3.3	1.2	4.87	単剥離	73		
	DB146	D-Ⅰ	E-03		剥片	Rh-6	207	47,295.9	-57,093.3	33.709	3.7	2.3	1.5	9.72	単剥離	115		
	DB321	A	L-06	(SD03)	剥片	Aa					4.0	5.8	1.1	30.33				
	DB323	A	L-06		剥片	Aa	323	47,354.1	-57,377.3	46.906	(1.7)	2.7	0.3	1.37			上	
	DB327	A	L-05	(SD06)	剥片	Aa					3.7	3.3	1.2	12.07	単剥離	106	右	
	DB328	A		(SD02)	剥片	Aa					3.1	2.6	0.7	6.83				
	DB329	A			剥片	Aa					2.4	3.7	0.6	3.70	単剥離	128		
	DB218	B-Ⅰ	I-03		剥片	Aa	428	47,219.3	-57,231.9	28.018	1.3	2.1	0.3	0.63	線打面			
	DB231	B-Ⅰ	I-02		剥片	Aa	414	47,223.8	-57,231.6	27.718	2.9	2.1	0.4	2.76	礫面			
	DB223	B-Ⅱ	D-05a 東	(テラス1)	剥片	Aa	158	47,198.1	-57,285.0	34.974	3.0	4.2	1.1	10.87	複剥離	114		
	DB224	B-Ⅱ	D-05a 西	(テラス1)	剥片	Aa	159	47,197.3	-57,288.9	35.398	3.1	2.5	1.5	8.47	単剥離	118		
71	DB225	B-Ⅱ	E-05a-1		剥片	Aa					2.9	5.2	1.7	18.65	複剥離	119		
	DB226	B-Ⅱ	E-05b		剥片	Aa					1.7	2.2	0.5	1.52				
	DB228	B-Ⅱ	E-05d		剥片	Aa					2.7	3.0	1.3	7.59	礫面	74		
	DB229	B-Ⅱ		(SB02-P5)	剥片	Aa					2.8	3.6	1.2	9.91				
	DB230	B-Ⅱ		(SB02,03)	剥片	Aa					2.1	2.4	0.5	2.77	単剥離	118		
	DB232	B-Ⅱ		(テラス1)	剥片	Aa					6.9	5.3	0.9	30.50	単剥離	96		
	DB250	B-Ⅱ	E-03d		剥片	Aa					1.8	2.2	1.0	2.58	単剥離	112		
	DB256	B-Ⅱ	F-03b-1		剥片	Aa					1.4	2.3	0.3	0.79				
	DB017	C			剥片	Aa	182	47,245.9	-57,157.3	33.388	2.0	2.3	0.5	2.42	礫面	126		
	DB024	C			剥片	Aa	139	47,272.1	-57,158.7	33.535	2.3	2.2	0.5	1.92	単剥離	110		
	DB026	C			剥片	Aa	183	47,244.9	-57,156.7	33.427	(1.4)	2.9	0.6	2.23			上	
	DB032	C			剥片	Aa	366	47,254.0	-57,149.4	32.713	1.9	2.8	0.5	1.87	単剥離	136		
	DB039	C		(SI01)	剥片	Aa	674	47,289.6	-57,148.2	32.287	1.3	2.5	0.4	0.92	点打面			
72	DB092	D-Ⅰ	E-04		剥片	Aa	47	47,293.0	-57,085.5	34.039	5.6	4.1	2.6	42.96			上	
	DB094	D-Ⅰ	E-04		剥片	Aa	264	47,297.0	-57,081.2	34.004	5.7	6.2	1.9	70.21	単剥離	114		
	DB095	D-Ⅰ	E-04		剥片	Aa	43	47,294.5	-57,083.6	34.062	4.7	5.6	1.1	28.56	複剥離	74		
73	DB101	D-Ⅰ	C-04		剥片	Aa	345	47,317.1	-57,088.6	32.293	8.8	5.5	1.6	54.59	単剥離	110		
74	DB102	D-Ⅰ	E-04		剥片	Aa	241	47,292.4	-57,084.7	33.976	5.3	3.4	2.5	43.39	単剥離	108		
	DB104	D-Ⅰ	E-04		剥片	Aa	44	47,293.2	-57,084.3	34.074	3.9	2.6	0.8	5.30	単剥離	125		
	DB105	D-Ⅰ	E-04		剥片	Aa	240	47,292.5	-57,085.0	33.840	2.8	2.7	0.7	3.54	単剥離	94		
	DB106	D-Ⅰ	E-03		剥片	Aa	31	47,298.3	-57,095.2	33.502	2.9	3.4	0.6	5.27	欠損			
	DB308	D-Ⅰ	G-04		剥片	Aa	95	47,283.7	-57,083.5	32.809	(2.0)	1.9	0.3	1.08	線打面		下	
	DB098	D-Ⅱ			剥片	Aa					5.6	6.0	1.8	50.26	単剥離	95		
	DB087	E		(トレンチ)	剥片	Aa					1.8	2.1	0.3	0.91	欠損			
	DB088	E		(トレンチ)	剥片	Aa					1.6	1.9	0.3	0.76	欠損			
	DB236	B-Ⅱ	E-05c		剥片	Ag					1.5	1.2	0.8	1.17	点打面			
	DB326	A	M-06		剥片	Ch					3.0	2.0	0.8	4.09				
	DB221	B-Ⅰ	H-03		剥片	Ch	207	47,210.7	-57,241.3	29.013	5.1	2.4	1.0	9.55				
90	DB234	B-Ⅱ	D-05a 西	(テラス1)	剥片	Ch	137	47,195.6	-57,288.8	35.583	2.7	1.5	0.3	0.98	線打面			DB233+
	DB254	B-Ⅱ	D-04a	(テラス1-1)	剥片	Ch					4.1	3.9	0.8	12.02	単剥離	106		
	DB255	B-Ⅱ	E-05d		剥片	Ch					2.9	1.8	0.9	3.97	礫面	77		
	DB257	B-Ⅱ	G-02a		剥片	Ch					3.9	2.1	1.1	6.88	複剥離	76		
	DB016	C		(トレンチ)	剥片	Ch					2.0	2.9	0.5	2.35		89	上	
	DB028	C			剥片	Ch	17	47,246.0	-57,169.8	33.559	1.3	1.8	0.3	0.65	単剥離			
	DB312	C			剥片	Ch	187	47,244.6	-57,154.6	33.246	3.7	3.5	0.8	6.11				
	DB252	B-Ⅱ	D-02		剥片	Da					3.1	3.8	0.9	8.71	礫面	62		
	DB238	B-Ⅱ	D-04c 東		剥片	Fq-1					2.6	2.1	0.5	3.44	線打面			
	DB239	B-Ⅱ	E-04c		剥片	Fq-1					1.5	1.9	0.6	1.33				
	DB240	B-Ⅱ	E-05c		剥片	Fq-1					3.9	1.4	0.8	3.39				
	DB241	B-Ⅱ	D-05b 西	(テラス1)	剥片	Fq-1	134	47,194.6	-57,289.2	35.671	1.1	0.5	0.2	0.17	複剥離	104	右	
	DB243	B-Ⅱ	E-04c-1		剥片	Fq-1					2.4	2.7	0.8	5.24	単剥離	116		
	DB245	B-Ⅱ	E-05d		剥片	Fq-1					2.0	2.2	0.8	3.00	複剥離	70		
	DB246	B-Ⅱ	E-06a		剥片	Fq-1					2.2	3.0	1.3	5.48	単剥離	76		
	DB247	B-Ⅱ	E-05d		剥片	Fq-1					2.0	2.7	0.6	3.32	単剥離	100		
	DB248	B-Ⅱ	F-02d		剥片	Fq-1					3.2	2.4	0.9	7.16	単剥離	105		
	DB012	C		(SK09)	剥片	Fq-1					1.9	2.8	0.8	5.60	単剥離	114		
	DB237	B-Ⅱ	D-05a 東	(テラス1)	剥片	Gt	143	47,196.4	-57,286.3	35.452	1.3	2.2	0.7	1.50	単剥離	93		
	DB253	B-Ⅱ	E-05d		剥片	Gt					3.0	4.9	0.9	10.17	単剥離	110		
	DB309	C			剥片	Gt	165	47,275.1	-57,155.2	33.529	3.4	2.1	0.6	4.05				
	DB081	D-Ⅰ	E-03		剥片	Gt	189	47,294.8	-57,092.4	33.880	5.8	5.4	1.5	33.51	単剥離	109		
	DB171	D-Ⅰ	E-03		剥片	Gt	195	47,295.3	-57,093.2	33.751	4.1	1.1	1.8	9.18	単剥離	122		
	DB172	D-Ⅰ	D-03		剥片	Gt	115	47,309.3	-57,091.4	33.340	1.8	3.6	1.3	4.29	礫面	104		
	DB258	B-Ⅱ	D-05a 東	(テラス1)	剥片	Ss	87	47,198.0	-57,288.8	35.739	1.4	1.9	0.4	0.78				
	DB018	C		(SX01)	剥片	Ss	44	47,290.7	-57,167.8	33.776	3.2	3.4	0.7	6.97	複剥離	109		
	DB037	C			剥片	Ss	354	47,255.1	-57,150.3	32.988	(1.7)	2.3	0.5	2.11	単剥離	103	下	
	DB315	C			剥片	Ss	230	47,251.3	-57,155.8	33.455	2.7	2.7	0.7	3.92	礫面	103	下	
	DB316	C			剥片	Ss	1220	47,252.1	-57,145.0	31.990	2.9	2.4	0.4	3.12				
	DB107	D-Ⅰ		(SX02 棺)	剥片	Ss					1.9	1.8	0.3	0.65				
	DB119	D-Ⅰ	E-03		剥片	Ss	158	47,296.5	-57,092.1	33.708	2.0	2.1	0.6	1.64	単剥離	109		
	DB120	D-Ⅰ	E-03		剥片	Ss	194	47,295.2	-57,093.0	33.730	1.6	1.0	0.5	0.58	単剥離	81		
	DB121	D-Ⅰ	E-03		剥片	Ss	251	47,296.0	-57,092.2	33.760	2.5	1.8	0.4	1.48	単剥離	107		
	DB211	B-Ⅰ	I-03		剥片	Ss-1	89	47,215.0	-57,237.0	29.445	3.7	2.9	1.1	6.66	単剥離	98		
	DB212	B-Ⅰ	I-03		剥片	Ss-1	429	47,219.4	-57,232.0	28.009	2.3	2.1	0.6	1.47	単剥離	105		
	DB213	B-Ⅰ	J-02		剥片	Ss-1	789	47,220.0	-57,226.5	29.131	3.6	3.8	0.7	9.40	礫面	108	右下	
	DB214	B-Ⅰ	I-03		剥片	Ss-1	264	47,215.7	-57,233.5	29.219	2.6	3.4	0.7	7.00	礫面	112	右	
	DB215	B-Ⅰ	I-03		剥片	Ss-1	263	47,215.6	-57,234.0	29.258	2.1	3.4	0.6	2.98	単剥離	107		
	DB023	C			剥片	Ss-1	139	47,272.1	-57,158.7	33.535	1.6	1.7	0.5	1.69	単剥離	113	左	
	DB025	C			剥片	Ss-1	139	47,272.1	-57,158.7	33.535	1.5	2.2	0.4	1.54	欠損			
	DB314	C			剥片	Ss-1	227	47,250.0	-57,154.7	33.245	1.3	1.3	0.3	0.34	単剥離	104		

第4表（4）　剥片類属性表4

図番	ID	地区	grid	遺構等	器種	石材	No	X=	Y=	H=	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	打面	剥離角(°)	折れ	備考
	DB089	E		（トレンチ）	剥片	Ss-1					3.0	2.4	0.5	2.53	礫面	114		
	DB090	E		（トレンチ）	剥片	Ss-1					2.4	2.2	0.4	1.75	複剥離	102		
	DB263	B-Ⅱ	D-05b	（テラス1-1）	破片	Rh-3					1.3	1.3	0.1	0.17				
	DB264	B-Ⅱ	D-05b	（テラス1-1）	破片	Rh-3					1.4	1.1	0.1	0.17				
	DB265	B-Ⅱ	D-05b	（テラス1-1）	破片	Rh-3					1.9	1.6	0.3	0.65				
	DB266	B-Ⅱ	D-04a	（テラス1-1）	破片	Rh-3					1.3	1.6	0.6	0.61				
	DB267	B-Ⅱ		（テラス1）	破片	Rh-3					3.0	3.4	1.0	8.57				
	DB275	B-Ⅱ	E-04a		破片	Rh-3					0.8	1.0	0.4	0.17				
	DB276	B-Ⅱ	E-04a		破片	Rh-3					0.7	1.6	0.5	0.48				
	DB281	B-Ⅱ	C-05c	（テラス1）	破片	Rh-3	80	47,194.5	-57,290.1	35.751	3.6	3.5	1.5	8.93				
	DB284	B-Ⅱ	D-05a 西	（テラス1）	破片	Rh-3	133	47,194.7	-57,289.4	35.637	1.1	1.6	0.3	0.62				
	DB285	B-Ⅱ	D-05b 西	（テラス1）	破片	Rh-3	140	47,194.4	-57,287.7	35.448	1.0	1.4	0.2	0.23				
	DB311	C			破片	Rh-3	65	47,259.9	-57,164.5	33.869	1.8	1.2	0.4	0.83				
	DB064	D-Ⅰ	E-03		破片	Rh-3	218	47,296.7	-57,093.8	33.478	2.7	2.0	1.5	4.92				
	DB065	D-Ⅰ	E-03		破片	Rh-3	223	47,296.2	-57,095.1	33.466	1.8	1.3	1.0	1.05				
	DB071	D-Ⅰ	E-03		破片	Rh-4	244	47,296.7	-57,093.2	33.684	3.7	2.5	1.6	12.87				
	DB075	D-Ⅰ	E-03		破片	Rh-4	236	47,292.4	-57,095.1	33.542	1.7	0.8	0.5	0.48				
	DB108	D-Ⅰ		（SX02 棺）	破片	Rh-4					1.3	2.5	0.6	1.15				
	DB110	D-Ⅰ		（SX02 棺）	破片	Rh-4					0.8	2.4	0.4	0.66				
	DB183	D-Ⅰ	E-02		破片	Rh-4	50	47,296.5	-57,101.5	33.553	1.9	2.6	1.4	4.52				
	DB185	D-Ⅰ	E-03		破片	Rh-4	210	47,296.2	-57,093.4	33.592	1.3	1.4	0.2	0.21				
	DB189	D-Ⅰ	E-04		破片	Rh-4	170	47,294.5	-57,089.1	33.836	2.4	0.8	0.8	0.68				
	DB192	D-Ⅰ		（SX02 棺）	破片	Rh-4					1.0	2.3	0.6	0.85				
	DB147	D-Ⅰ	E-03		破片	Rh-5	206	47,296.1	-57,093.0	33.730	2.6	1.1	0.6	0.83				
	DB135	D-Ⅰ	E-03		破片	Rh-6	254	47,294.8	-57,091.7	33.820	2.5	1.7	1.3	3.82				
	DB137	D-Ⅰ	E-03		破片	Rh-6	202	47,295.3	-57,093.6	33.679	2.4	1.4	0.9	1.72				
	DB140	D-Ⅰ	E-03		破片	Rh-6	164	47,295.5	-57,091.7	33.885	(2.8)	1.9	1.1	4.07				
	DB142	D-Ⅰ	E-03		破片	Rh-6	176	47,293.6	-57,091.8	33.814	1.3	2.6	1.1	2.00				
	DB144	D-Ⅰ	E-03		破片	Rh-6	234	47,293.5	-57,095.5	33.430	1.5	3.5	1.0	3.04				
	DB325	A			破片	Aa					2.4	1.7	0.5	2.24				
	DB217	B-Ⅰ	I-02		破片	Aa	412	47,223.7	-57,233.7	27.178	1.5	2.1	0.2	0.72				
	DB096	D-Ⅰ	E-03		破片	Aa	178	47,293.7	-57,092.4	33.890	2.7	5.4	2.2	24.49				
	DB251	B			破片	Ag					1.3	1.0	0.4	0.55				
	DB220	B-Ⅰ	I-03		破片	Ch	61	47,210.3	-57,235.4	28.773	2.3	1.7	1.0	3.34				
	DB249	B-Ⅱ	D-05c-1		破片	Fq					2.1	1.3	0.4	0.87				熱破砕片？
	DB242	B-Ⅱ	D-05b 西	（テラス1）	破片	Fq-1	135	47,194.9	-57,289.0	35.608	1.1	0.6	0.6	0.39				
	DB310	C			破片	Rh	1098	47,247.9	-57,155.6	33.547	1.5	2.4	0.4	1.47				

第5表　石核属性表

図番	ID	地区	grid	遺構等	器種	石材	No	X=	Y=	H=	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	打面	剥離角(°)	型	備考
75	DB272	B-Ⅱ	D-05a 西	（テラス1）	石核	Rh-1	142	47,196.0	-57,287.1	35.491	4.9	5.2	2.4	57.25			B	
	DB035	C			石核	Rh-3	1247	47,279.2	-57,154.2	33.744	2.3	3.5	2.0	11.68				
76	DB259	B-Ⅰ		（B-11 トレ）	石核	Rh-4					3.9	4.7	3.4	76.83			C	
77	DB082	D-Ⅰ	D-03		石核	Rh-4	111	47,304.8	-57,090.5	33.558	6.2	7.1	3.4	162.99	礫面	82	B	
78	DB148	D-Ⅰ	E-03		石核	Rh-4	253	47,295.2	-57,092.3	33.773	3.4	4.1	2.9	52.91			A	DB149+
	DB173	D-Ⅰ	E-03		石核	Rh-4	22	47,294.3	-57,091.5	33.940	7.9	4.8	3.9	118.54				
	DB176	D-Ⅰ	E-03		石核	Rh-4	239	47,296.9	-57,093.6	33.535	3.5	2.4	3.1	21.66				DB177+
79	DB196	D-Ⅰ	E-03		剥片or石核	Rh-4	165	47,295.7	-57,091.9	33.735	6.3	2.1	4.1	42.86	単剥離	116	E?	
80	DB001	D-Ⅰ		（C-5 トレ）	石核	Rh-5					3.8	5.1	3.8	91.89			A	
	DB004	D-Ⅰ		（C-5 トレ）	石核	Rh-5					3.3	4.1	4.1	40.79				
81	DB066	D-Ⅰ		（SX02 棺）	石核	Rh-5					3.3	4.9	5.5	54.32			A	
82	DB021	C			石核	Rh-6	247	47,251.6	-57,154.4	33.261	4.6	8.8	2.3	97.24	礫面	87	F	
	DB123	D-Ⅰ	E-03		石核	Rh-6	257	47,294.6	-57,091.4	33.792	9.6	7.7	5.9	374.40				DB124,125+
83	DB127	D-Ⅰ		（SK03）	石核	Rh-6					3.0	4.5	3.7	50.61			A	
	DB138	D-Ⅰ	E-03		石核	Rh-6	252	47,295.4	-57,092.4	33.821	4.1	8.1	3.1	115.09				
84	DB145	D-Ⅰ	E-03		石核	Rh-6	186	47,294.6	-57,092.3	33.858	5.8	2.6	4.7	60.05	単剥離	103	E	
85	DB222	B-Ⅱ	D-05c 西		石核	Aa					2.9	6.2	2.9	41.58			A?	
	DB227	B-Ⅱ	E-04a		石核	Aa					1.1	2.7	3.3	12.13				
86	DB097	D-Ⅰ			石核	Aa	355			33.782	3.1	5.8	1.6	24.45			F	
87	DB099	D-Ⅰ	E-03		石核	Aa	113	47,306.5	-57,090.0	33.522	4.2	6.5	1.8	44.60			F	
88	DB103	D-Ⅰ	E-04		石核	Aa	45	47,292.5	-57,084.7	34.038	4.7	5.1	2.0	38.35			F	
	DB324	A	L-06		石核？	Aa	67	47,350.3	-57,375.1	46.230	3.9	3.4	1.7	19.00				
	DB235	B-Ⅱ	F-05a-1		石核	Ch					1.9	2.8	2.6	12.82	単剥離	123		
	DB244	B-Ⅱ	E-05b		石核	Fq-1					2.5	1.8	2.1	11.39				稜上敲打
89	DB010	D-Ⅰ		（C-6 トレ）	石核	Fq-1					2.5	4.9	3.2	43.90			D	
	DB170	D-Ⅰ	D-03		石核	Gt	110	47,305.5	-57,091.8	33.503	2.9	7.2	4.3	95.93				

第2項　縄文土器（第38図～第44図）

Ⅰ群（1～9）　押型文土器である。B遺跡出土の1～7は同一個体と考えられる資料であり、外面は方向の定まらない楕円押型文が、内面は螺旋状に原体条痕文が施される。高山寺式に比定される。

Ⅱ群（10～27）　胎土に繊維を含むことを指標とする一群で、程度の差こそあれ、視覚的にスポンジを連想させる軽鬆な質感が認められることを識別の基準とした。

A（11～15）　外面に縄文を施すが、内面が無文のもの。胎土に砂粒は殆ど認められず、本群では最も軽鬆な胎土である。突帯が付されている位置は口縁部と胴部を分かつ区画帯と思われるが、文様のようなものはない。

本報告では省略しているが、外面にのみ縄文が認められる土器の中に、とくに粗い砂礫を多量に含む胎土のものがある。器壁は本群中では最も厚く、繊維はあまり含んでいないようだ。

B（16～18）　表裏に縄文を施すもの。胎土に砂粒を多く含む特徴があるため判然としないが、0段多条のRL単節縄文である。

C（19～23）　外面に縄文を、内面に条痕を施すもの。胎土に砂粒は殆ど含まない。19と22は縄文が羽状になっていることが確認できる。条痕は、貝殻や草本束を用いていると思われる。

D（24～27）　外面に条痕を施し、内面が無文のもの。胎土に砂粒を多く含む。条痕は、確認できるものは全て貝殻を用いており、全て縦位に施されている。27は、貝殻腹縁の圧痕文が施されている。

Ⅲ群（29～90）　半截竹管を用いた装飾が施されることを指標とする一群で、概ね新保式の後半に比定される。口縁部はゆるく外反する単純口縁とキャリパー形が認められる。胴部は木目状撚糸文が多いが、斜格子状に見えるものが含まれる。木目状に見えなくもないが、属性表では「網目状撚糸文」とした。

ヘラ描きの格子目で胴部を充填するものは、88のように胴部まで半隆起線文が及ぶ類型であり、35の大振りな装飾例と共に新崎式段階まで下る資料であろう。

Ⅳ群（102～136）　後期前葉に比定される、以下の類型を一括した一群である。

A（102～107、116～124）　磨消縄文で文様が施されるもの。器形は、口縁部が外反して端部をつまみ出したような断面形であり、胴部が膨らむ。107の口縁部は口縁端部に縁帯をなし、103の胴部は張り出しが強い。磨消縄文は、三本の沈線を単位として施される意匠文加飾に用いられ、縄文帯が二本単位となることを原則とするが、104だけは沈線で区切られた区画部分に縄文が見える。116には突起装飾も見える。気屋式の範疇に含まれる104を除けば、福田KⅡ式系の範疇で理解される土器であろう。

B（108～115）　気屋式あるいはそれに先行する在地系の土器であり、器形はAに準じるが、明確な縁帯をなす例はない。口唇部にキザミを入れる109、111の例ではヘラを斜めに入れる特徴がある。文様は110、111のように横位の沈線のみで、縄文は伴わないが、112では何かしらの区画意匠文を施しているようだ。

109には気屋式の指標である三角形連続刺突文が見えるが、土器そのものは、後述するCに近い。

C（125～136）　全面に縄文を施し、相対的に厚手の粗製土器である。器形はA類に準じるが、端部をつまみ出すような細工はなく、頸部の括れや胴部の張り出しの程度は変異幅が大きいようだ。125のように二条の沈線を頸部に施すのみのものや126のようにその下に何らかの沈線意匠文を伴うものがあるが、本類型に磨消縄文は原則として伴わないようだ。

127～136は縄文のみの破片である。本報告では省略しているが、B遺跡では縄文のみの細片がとくに多く、多くは本類型に属すると思われる。

Ⅴ群（137～175）　晩期後葉の長竹式に比定される、以下の類型を一括した一群である。

A（137～145）　小型の有文精製土器。鉢形～浅鉢形で、口縁部は内彎しながら立ち上がる器形が主体のようだ。文様は沈線文で、施文後に丁寧に磨き上げている。139は楕円区画文、その他は紡錘形に構成された多重沈線文または矢羽状沈線文であるようだ。

B（146〜175）　直口縁の大型粗製深鉢形土器。器面は全面に条痕が施され、内面は原則としてナデ〜ミガキだが、条痕のナデケシはおしなべて甘い。条痕は草本束を用いたものであり、条線は一定しない。

その他　上述の主要分類群の他に、以下の土器がある。

28は、細片で傷みがひどく判然としないが、細隆線を竹管でなぞったように見え、結節浮線文と思われるので、福浦上層式か北白川下層Ⅲ式と考えられる。

91〜94はA遺跡で出土した縄文土器である。93に半截竹管の細密な波状文が二段回り、中富式や里木Ⅱ式といった東海西部〜瀬戸内方面の土器に類縁する加飾と思われる。

95は、櫛目の条痕が施されたもので、中期後葉か。96は、口縁部の貼付が剥がれた痕跡が残り、胎土や色調がA遺跡の縄文土器によく似ている。

98・101は、蛇行する沈線文が見えるもので、串田新式〜前田式の範疇か。

底　部

176〜179は網代圧痕が認められる。編み方はハッキリ見えないが、179は1本すくい1本おさえ1本送りであり、他も同様であるようだ。胎土の外観的特徴（混和される砂粒に混じって赤色粒が認められる）からはⅢ〜Ⅴ群が候補に挙がるが、胴部が膨らむ器形が推定される大型土器の底部、厚手で網代圧痕が残る特徴から、Ⅳ群C類に属する底部と考えてよいだろう。

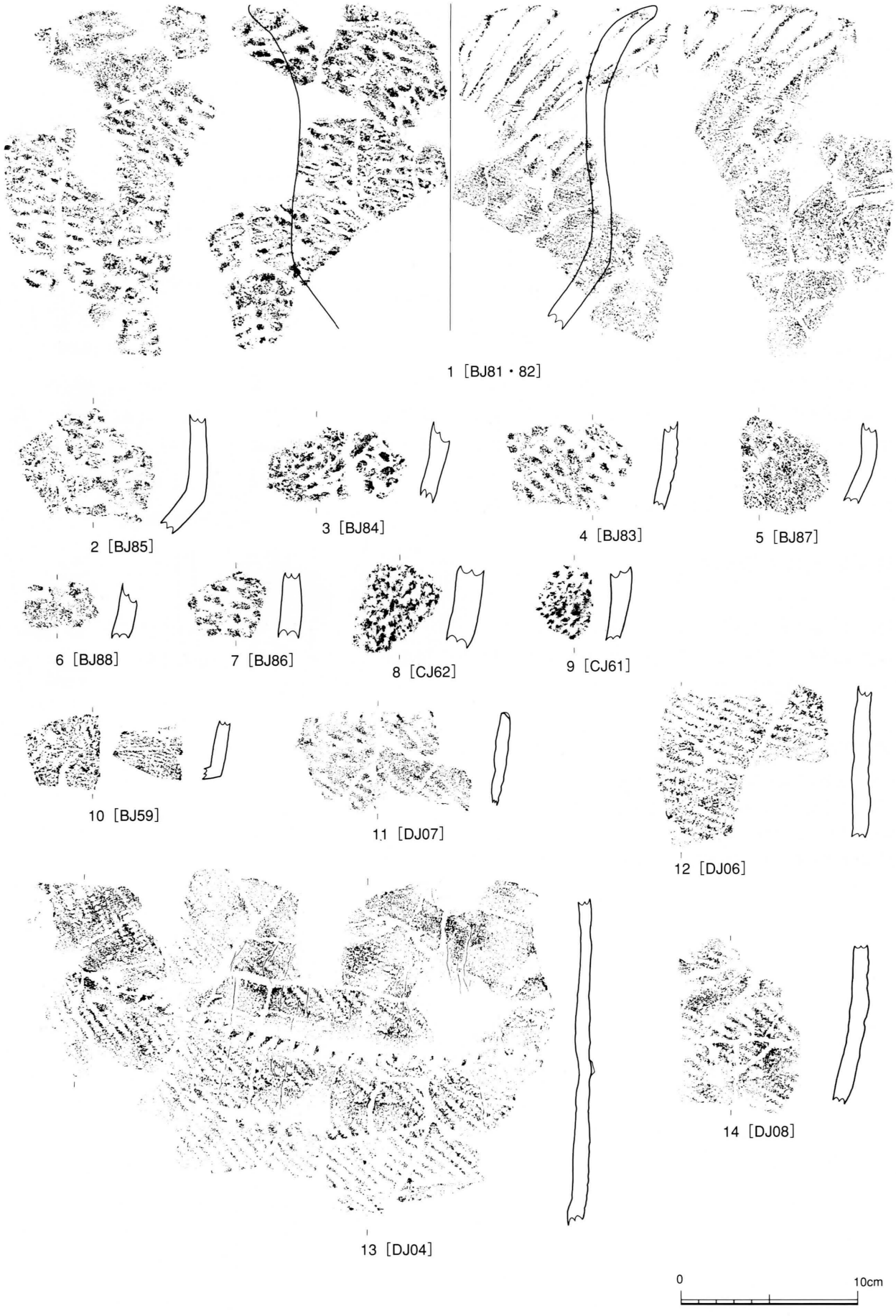
180、181は網代圧痕は見えないが、草本束の条痕が見え、Ⅴ群B類に属する底部である。

第3項　土製品（第45図）

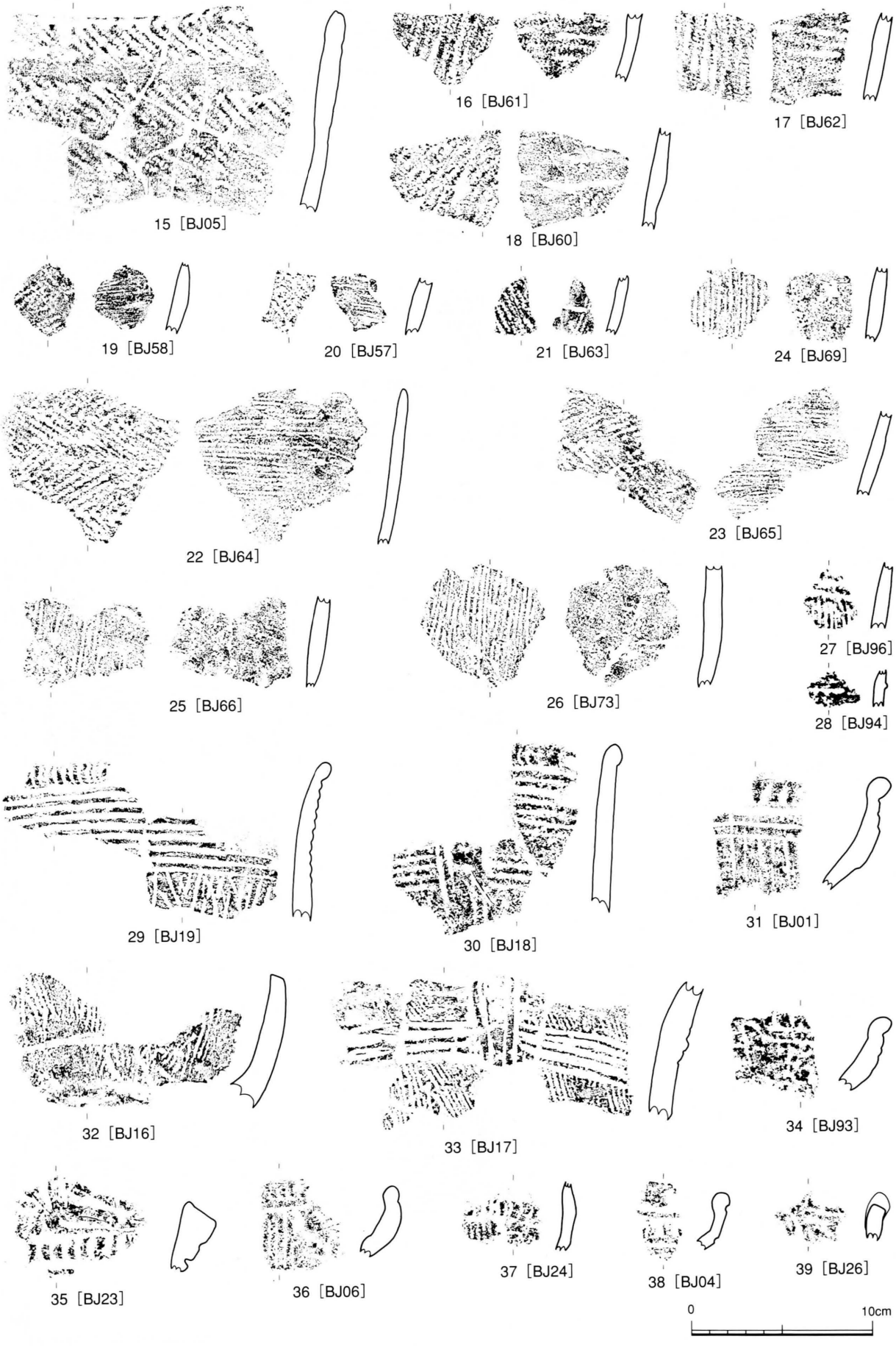
182は土製耳飾である。形態は、側面が樋状に凹む滑車状を呈し、刺突で充填されている面が表であろう。裏面は沈線が見えるが、これが文様なのか製作時に意図せず付いてしまったものかは分からない。A遺跡南側斜面で出土し、中期後葉の所産か。

参考文献

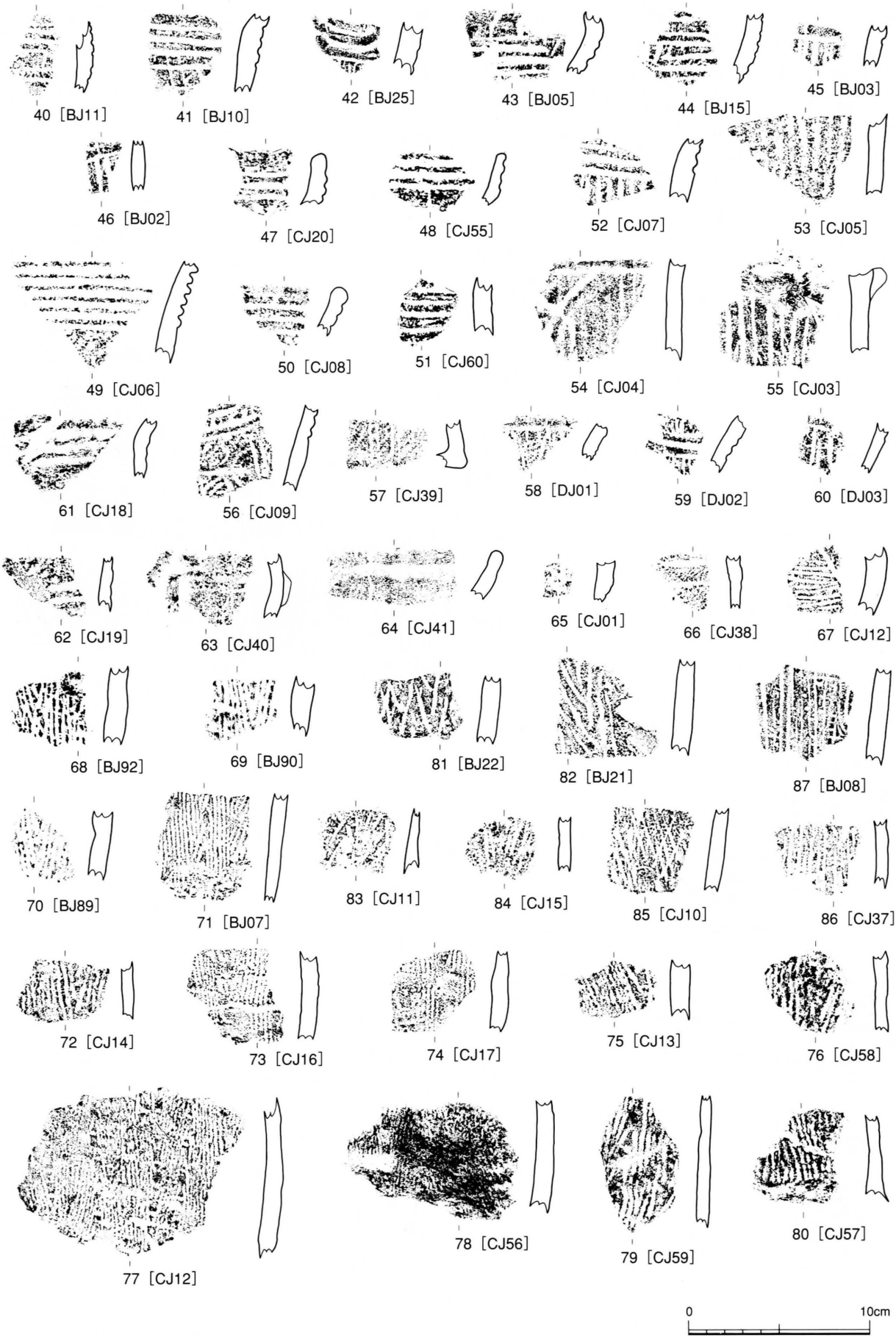
石川県立埋蔵文化財センター 1997『六橋遺跡』
石川県立埋蔵文化財センター 1998『能美丘陵東遺跡群』Ⅲ
小松市教育委員会 1988『念仏林遺跡』
立山町教育委員会 1982『富山県立山町白岩藪ノ上遺跡調査概要』2



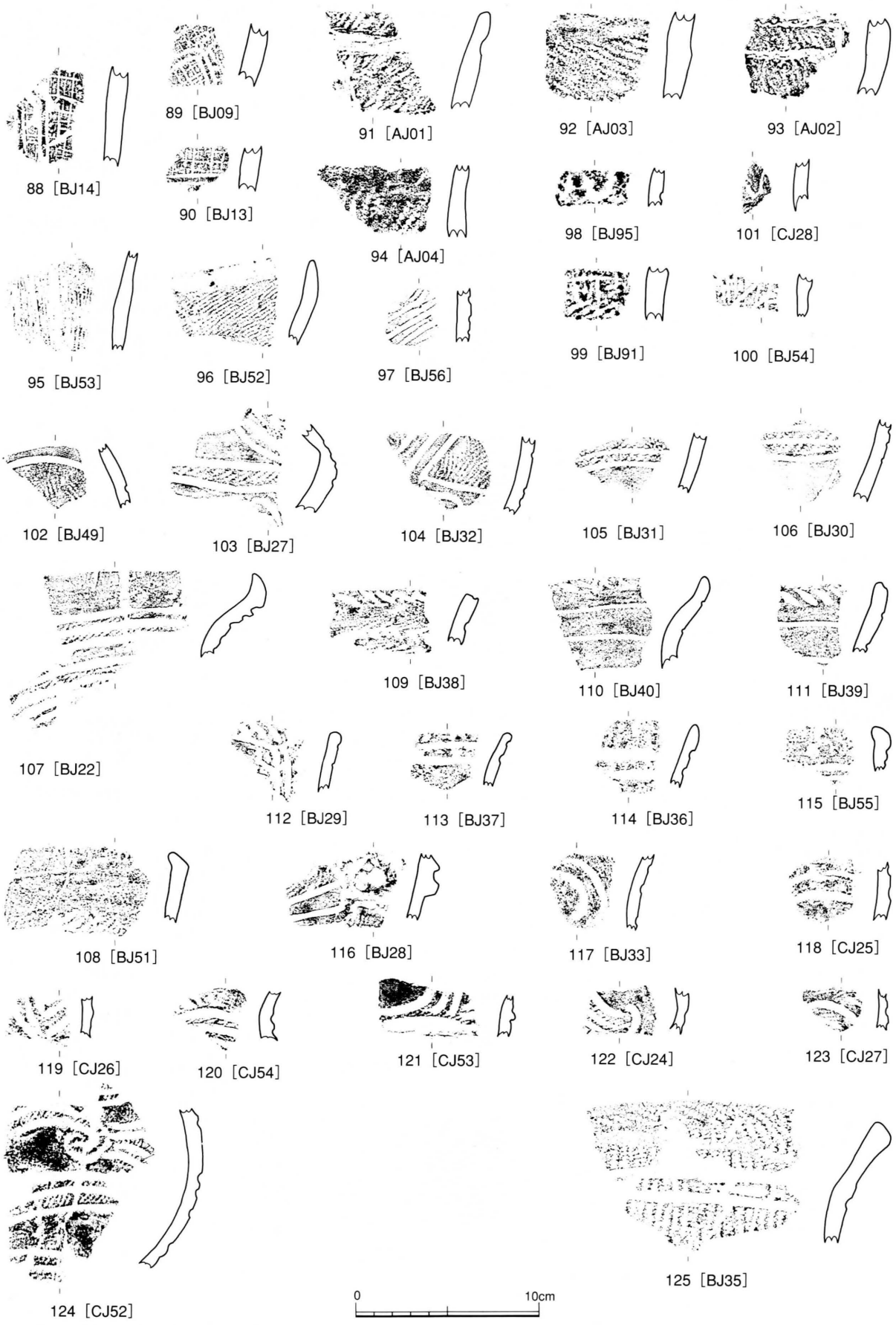
第38図　縄文土器：Ⅰ・Ⅱ群（S=1/3）



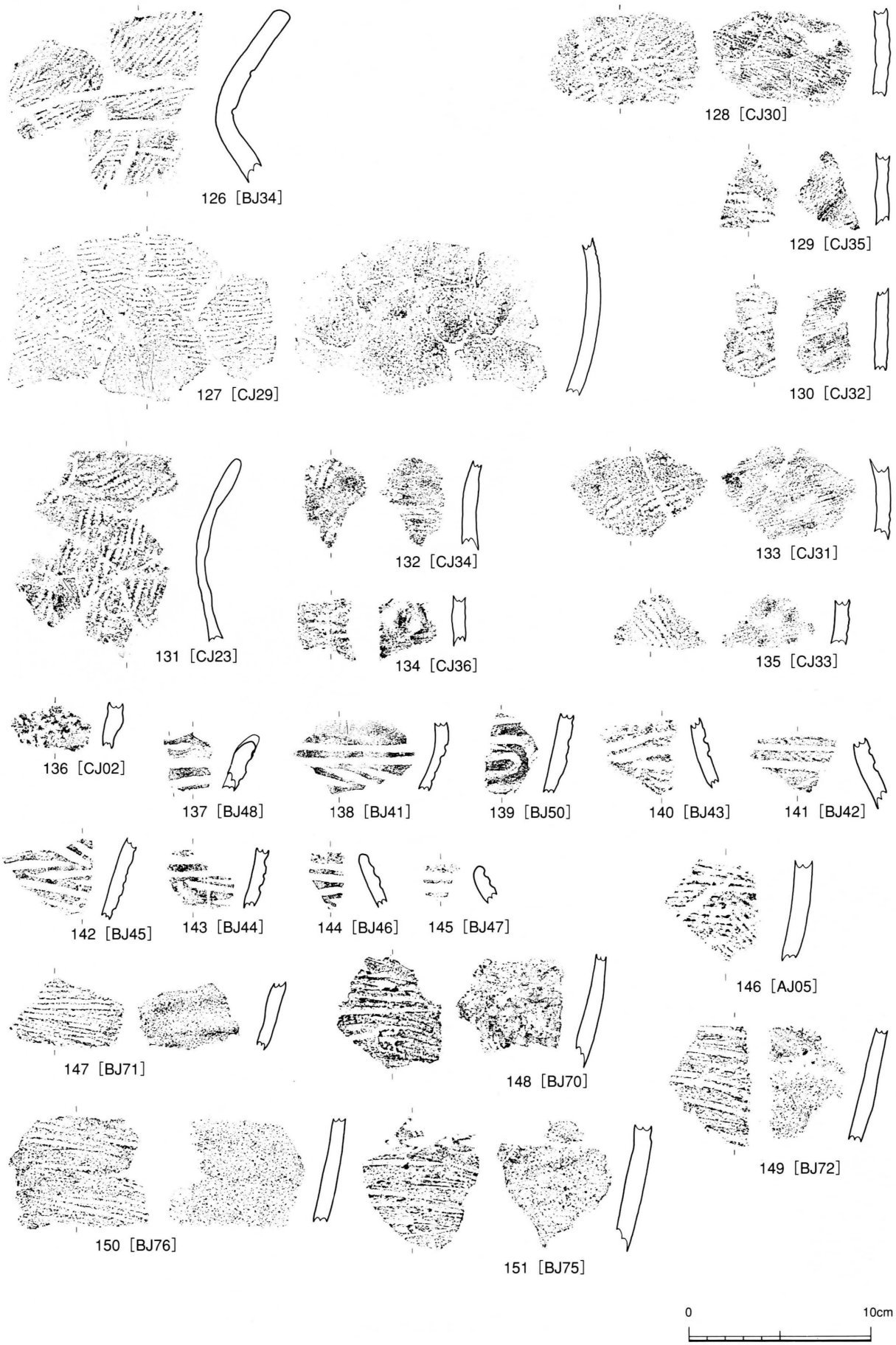
第39図　縄文土器：Ⅱ・Ⅲ群ほか（S=1/3）



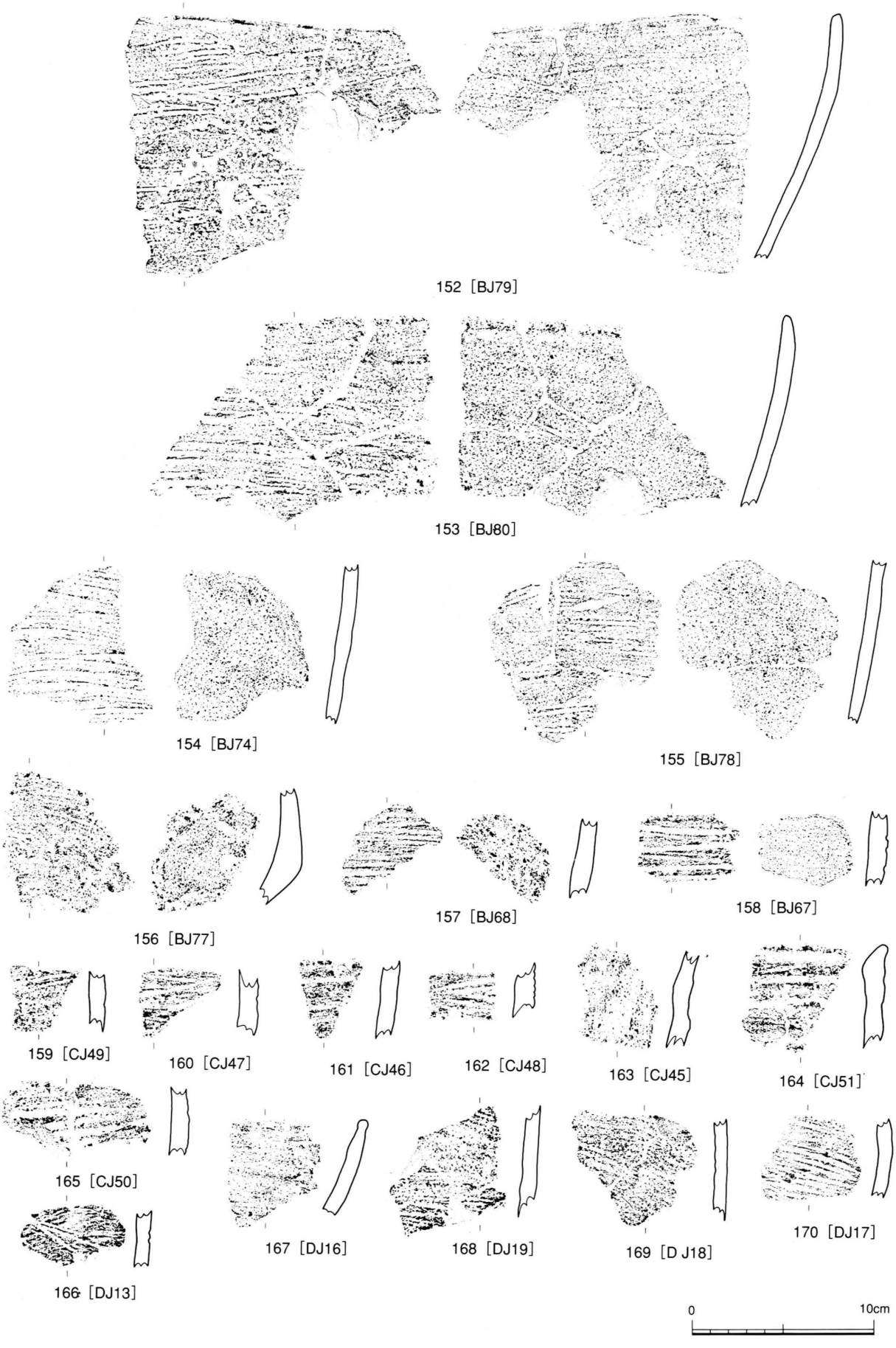
第40図　縄文土器：Ⅲ群（S=1/3)



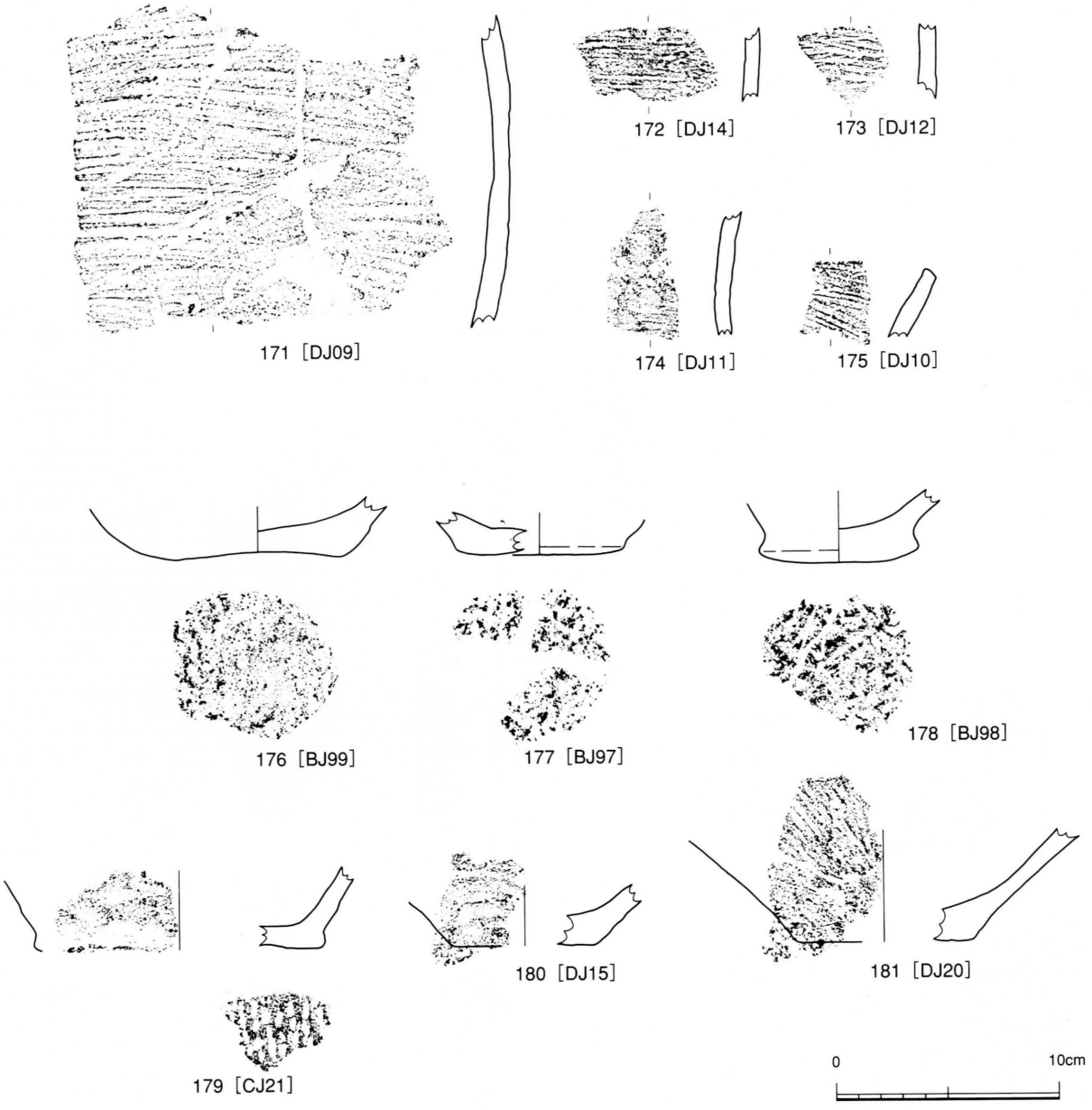
第41図　縄文土器：Ⅲ・Ⅳ郡ほか（S＝1/3）



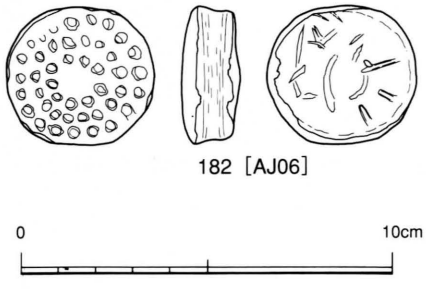
第42図　縄文土器：Ⅳ・Ⅴ群（S=1/3）



第43図　縄文土器：Ⅴ群（S=1/3）



第44図　縄文土器：Ⅴ群；底部（S=1/3）



第45図　土製耳飾（S=1/2）

第６表（1）　縄文土器属性表１

図番	ID	地区	grid	遺構等	No	X=	Y=	H=	分類	時期	地紋	意匠等	原体	備考
1	BJ81	B−Ⅰ	J−02	SI02	1	47,222.9	−57,229.6	28.214	Ⅰ	早期中葉	楕円押型文			
					2	47,222.9	−57,229.5	28.238						
					3	47,223.0	−57,229.7	28.288						
					6	47,224.2	−57,229.2	28.079						
			J−03		797	47,217.5	−57,229.4	28.611	Ⅰ	早期中葉	楕円押型文	内面／原体条痕		
	BJ82	B−Ⅰ	I−02		549	47,220.6	−57,233.0	29.227						
2	BJ85	B−Ⅰ	J−03		796	47,217.9	−57,228.9	28.776	Ⅰ	早期中葉	楕円押型文			
3	BJ84	B−Ⅰ	J−02	SI02	5	47,222.9	−57,229.1	28.145	Ⅰ	早期中葉	楕円押型文			
4	BJ83	B−Ⅰ	J−03		805	47,219.6	−57,227.3	29.033	Ⅰ	早期中葉	楕円押型文			
5	BJ87	B−Ⅰ	I−02		503	47,222.6	−57,231.7	28.973	Ⅰ	早期中葉	楕円押型文			
6	BJ88	B−Ⅰ	H−03		159	47,211.7	−57,245.2	29.383	Ⅰ	早期中葉	楕円押型文			
7	BJ86	B−Ⅰ	I−02		504	47,222.9	−57,232.3	29.152	Ⅰ	早期中葉	楕円押型文			
8	CJ62	C			186	47,243.1	−57,154.6	33.368	Ⅰ	早期中葉				
9	CJ61	C			651	47,255.3	−57,149.4	33.143	Ⅰ	早期中葉				
10	BJ59	B−Ⅰ	G−03		466	47,214.1	−57,251.7	29.448	Ⅱ	早期末葉	縄文			赤化
11～15	DJ04～08	D−Ⅱ	B−08		140	47,321.3	−57,042.2	30.758	Ⅱ	早期末葉	縄文	突帯ハ字刻み	0段多条 RL	
16	BJ61	B−Ⅰ	I−03		257	47,210.7	−57,235.1	28.848	Ⅱ	早期末葉	表裏縄文		0段多条 RL	赤化
17	BJ62	B−Ⅰ	I−03		57	47,210.9	−57,235.0	28.890	Ⅱ	早期末葉	表裏縄文		0段多条 RL	赤化
18	BJ60	B−Ⅰ	I−04		571	47,208.9	−57,237.7	28.415	Ⅱ	早期末葉	表裏縄文		0段多条 RL	赤化
19	BJ58	B−Ⅰ	H−03		734	47,215.5	−57,248.7	29.222	Ⅱ	早期末葉	縄文条痕			赤化、縄文は羽状
20	BJ57	B−Ⅰ	G−03		706	47,215.6	−57,250.1	29.136	Ⅱ	早期末葉	縄文条痕			赤化
21	BJ63	B−Ⅰ	H−03		735	47,214.2	−57,248.9	29.307	Ⅱ	早期末葉	縄文条痕			赤化
22	BJ64	B−Ⅰ	I−03	PU	59	47,217.0	−57,232.1	29.172	Ⅱ	早期末葉	縄文条痕			縄文は羽状
23	BJ65	B−Ⅰ	I−03	PU	58	47,217.0	−57,232.0	29.146	Ⅱ	早期末葉	縄文条痕			
24	BJ69	B−Ⅰ	H−03		613	47,212.7	−57,244.3	29.284	Ⅱ	早期末葉	貝殻条痕			
25	BJ66	B−Ⅰ	H−03		616	47,212.9	−57,244.3	29.252	Ⅱ	早期末葉	貝殻条痕			
26	BJ73	B−Ⅰ	H−03		609	47,212.5	−57,244.1	29.187	Ⅱ	早期末葉	貝殻条痕			
27	BJ96	B−Ⅰ	H−03		608	47,212.8	−57,244.0	29.200	Ⅱ	早期末葉	貝殻条痕	貝殻圧痕文		
28	BJ94	B−Ⅰ	I−03		242	47,211.3	−57,239.4	28.854		前期後葉		結節浮線文		
29	BJ19	B−Ⅱ	H−05a−6						Ⅲ	中期前葉	網目状撚糸文	半隆起線文		
	BJ20	B−Ⅱ	D−04c 東						Ⅲ	中期前葉		半隆起線文		
30	BJ18	B−Ⅱ	E−05d						Ⅲ	中期前葉		半隆起線文		
31	BJ01	B−Ⅱ	E−04a						Ⅲ	中期前葉		綻位沈線？		
32	BJ16	B−Ⅱ	F−03d						Ⅲ	中期前葉	木目状撚糸文			
33	BJ17	B−Ⅱ	F−03d						Ⅲ	中期前葉	木目状撚糸文	半隆起線文		
34	BJ93	B−Ⅱ	E−04c						Ⅲ	中期前葉		半隆起線文		
35	BJ23	B−Ⅱ	F−03b						Ⅲ	中期前葉		半隆起線文		
36	BJ06	B−Ⅱ		(B−9 トレ)					Ⅲ	中期前葉		半隆起線文		赤化
37	BJ24	B−Ⅱ	E−04a						Ⅲ	中期前葉		爪形文		
38	BJ04	B−Ⅱ	F−04c						Ⅲ	中期前葉		半隆起線文		
39	BJ26	B−Ⅱ		(SB08−P5)					Ⅲ	中期前葉		半隆起線文		
40	BJ11	B−Ⅱ	F−03b						Ⅲ	中期前葉		半隆起線文		
41	BJ10	B−Ⅱ	E−04c−1						Ⅲ	中期前葉		半隆起線文		
42	BJ25	B−Ⅱ	E−04a						Ⅲ	中期前葉		半隆起線文		赤化
43	BJ05	B−Ⅱ	F−03d						Ⅲ	中期前葉		半隆起線文		
44	BJ15	B−Ⅱ	F−03b						Ⅲ	中期前葉		半隆起線文		
45	BJ03	B−Ⅱ	F−03d−1						Ⅲ	中期前葉		半隆起線文		
46	BJ02	B−Ⅱ	F−03d−1						Ⅲ	中期前葉		半隆起線文		
47	CJ20	C			948	47,251.3	−57,157.8	33.829	Ⅲ	中期前葉		半隆起線文		
48	CJ55	C							Ⅲ	中期前葉		半隆起線文		
49	CJ06	C			13	47,245.8	−57,167.4	33.978	Ⅲ	中期前葉		半隆起線文		
50	CJ08	C							Ⅲ	中期前葉		半隆起線文		
51	CJ60	C		SK01					Ⅲ	中期前葉		半隆起線文		
52	CJ07	C			1123	47,251.6	−57,149.6	32.897	Ⅲ	中期前葉		半隆起線文		
53	CJ05	C			1127	47,251.1	−57,149.9	32.899	Ⅲ	中期前葉		半隆起線文？		
54	CJ04	C			1131	47,250.3	−57,146.7	32.033	Ⅲ	中期前葉		半隆起線文？		赤化
55	CJ03	C		(C−4 トレ)					Ⅲ	中期前葉		半隆起線文		
56	CJ09	C		(C−4 トレ)					Ⅲ	中期前葉		半隆起線文		
57	CJ39	C			1029	47,305.5	−57,165.2	33.256	Ⅲ	中期前葉		半隆起線文		
58	DJ01	D−Ⅱ	C−08		59	47,316.0	−57,048.7	31.885	Ⅲ	中期前葉		半隆起線文		
59	DJ02	D−Ⅱ	C−08		135	47,319.0	−57,040.9	31.453	Ⅲ	中期前葉		半隆起線文		
60	DJ03	D−Ⅱ	C−08		59	47,316.0	−57,048.7	31.885	Ⅲ	中期前葉		半隆起線文		
61	CJ18	C			198	47,246.9	−57,154.5	33.248	Ⅲ	中期前葉		半隆起線文？		
62	CJ19	C			196	47,246.4	−57,154.5	33.256	Ⅲ	中期前葉		半隆起線文？		
63	CJ40	C			193	47,245.8	−57,154.0	33.173	Ⅲ	中期前葉				
64	CJ41	C		(C−4 トレ)					Ⅲ	中期前葉				赤化
65	CJ01	C			1214	47,252.0	−57,146.2	32.218	Ⅲ	中期前葉				
66	CJ38	C			453	47,258.4	−57,150.1	33.192	Ⅲ	中期前葉				
67	BJ12	B−Ⅱ	F−03d						Ⅲ	中期前葉	木目状撚糸文			
68	BJ92	B−Ⅱ	F−04c−1						Ⅲ	中期前葉	木目状撚糸文			
69	BJ90	B−Ⅱ	F−03d						Ⅲ	中期前葉	木目状撚糸文			
70	BJ89	B−Ⅱ	F−03d						Ⅲ	中期前葉	木目状撚糸文			
71	BJ07	B−Ⅰ	G−03		707	47,211.5	−57,254.3	30.160	Ⅲ	中期前葉	木目状撚糸文			
72	CJ14	C			332	47,251.2	−57,146.7	31.901	Ⅲ	中期前葉	木目状撚糸文			赤化
73	CJ16	C			282	47,253.8	−57,151.2	33.060	Ⅲ	中期前葉	木目状撚糸文			
74	CJ17	C			286	47,253.9	−57,151.5	33.025	Ⅲ	中期前葉	木目状撚糸文			
75	CJ13	C			38	47,249.3	−57,166.0	33.844	Ⅲ	中期前葉	木目状撚糸文			
76	CJ58	C		SK01					Ⅲ	中期前葉	木目状撚糸文			
77	CJ12	C		(C−4 トレ)					Ⅲ	中期前葉	木目状撚糸文			
78	CJ56	C		SK01					Ⅲ	中期前葉	木目状撚糸文			赤化
79	CJ59	C		SK01					Ⅲ	中期前葉	木目状撚糸文			
80	CJ57	C		SK01					Ⅲ	中期前葉	木目状撚糸文			
81	BJ22	B−Ⅱ	H−05a−6						Ⅲ	中期前葉	網目状撚糸文			
82	BJ21	B−Ⅰ	H−05		670	47,198.1	−57,242.4	27.915	Ⅲ	中期前葉	木目状撚糸文？			
83	CJ11	C			620	47,250.7	−57,148.3	32.659	Ⅲ	中期前葉	木目状撚糸文？			
84	CJ15	C			934	47,250.8	−57,151.9	33.178	Ⅲ	中期前葉	木目状撚糸文			
85	CJ10	C			921	47,249.6	−57,152.3	33.271	Ⅲ	中期前葉	斜格子文			
86	CJ37	C			45	47,250.6	−57,171.2	33.395	Ⅲ	中期前葉	格子文？			
87	BJ08	B−Ⅱ	E−04a						Ⅲ	中期前葉	格子文？	半隆起線文		
88	BJ14	B−Ⅱ	D−04b						Ⅲ	中期前葉	格子文	半隆起線文		
89	BJ09	B−Ⅱ	F−03b						Ⅲ	中期前葉	格子文	半隆起線文		
90	BJ13	B−Ⅱ	F−04a						Ⅲ	中期前葉	格子文	半隆起線文		
91	AJ01	A	K−08		7	47,361.5	−57,351.5	48.782		中期後葉	無節縄文		L	
92	AJ03	A	M−06	(M−6 トレ)						中期後葉	縄文		LR	

第６表（2）　縄文土器属性表２

図番	ID	地区	grid	遺構等	No	X=	Y=	H=	分類	時期	地紋	意匠等	原体	備考
93	AJ02	A	K-08		8	47,362.3	−57,351.0	48.779		中期後葉	無節縄文	コンパス文	R	
94	AJ04	A		(SI01)	365					中期後葉	縄文		LR	
95	BJ53	B-Ⅰ	G-02		760	47,222.9	−57,251.6	28.792		中期後葉	櫛条痕			
96	BJ52	B-Ⅱ	D-04c 東							中期後葉	無節縄文			
97	BJ56	B-Ⅰ	I-03	PU	10	47,217.9	−57,233.6	29.317		中期後葉		茎沈線		
98	BJ95	B-Ⅰ	J-02	PU	30	47,220.5	−57,229.8	28.812		中期後葉		蛇行沈線		
99	BJ91	B-Ⅱ	F-03d							中期後葉		沈線文		
100	BJ54	B-Ⅱ	F-03d							中期後葉		沈線文		
101	CJ28	C			227	47,250.0	−57,154.7	33.245		後期初頭		蛇行沈線		
102	BJ49	B-Ⅰ	J-02		394	47,220.6	−57,228.3	28.256	Ⅳ	後期前葉		磨消縄文		
103	BJ27	B-Ⅰ	H-03		720	47,212.0	−57,245.8	29.332	Ⅳ	後期前葉		磨消縄文		赤化
104	BJ32	B-Ⅰ	J-02		517	47,222.0	−57,229.5	28.508	Ⅳ	後期前葉		磨消縄文		
105	BJ31	B-Ⅰ	H-03		165	47,211.8	−57,244.8	29.320	Ⅳ	後期前葉		磨消縄文		
106	BJ30	B-Ⅰ	H-03		151	47,211.8	−57,245.8	29.388	Ⅳ	後期前葉		磨消縄文		
107	CJ22	C			565	47,269.0	−57,142.3	33.726	Ⅳ	後期前葉		磨消縄文		
					885	47,271.5	−57,142.2	33.471						
					895	47,268.4	−57,141.9	33.622						
108	BJ51	B-Ⅰ	J-02		395	47,220.5	−57,228.5	28.214	Ⅳ	後期前葉				
			J-03	PU	34	47,218.6	−57,229.4	29.083						
109	BJ38	B-Ⅰ	I-03	PU	76	47,216.8	−57,232.2	29.241	Ⅳ	後期前葉		三角形連続刺突		
110	BJ40	B-Ⅰ	I-03	PU	15	47,217.3	−57,233.1	29.307	Ⅳ	後期前葉		沈線文		
111	BJ39	B-Ⅰ	I-03	PU	50	47,216.8	−57,231.2	29.217	Ⅳ	後期前葉		沈線文		
112	BJ29	B-Ⅰ	J-03		376	47,219.8	−57,228.1	28.276	Ⅳ	後期前葉		沈線文		
113	BJ37	B-Ⅰ	H-03		695	47,213.3	−57,248.7	29.031	Ⅳ	後期前葉		沈線文		
114	BJ36	B-Ⅰ	I-03		262	47,215.9	−57,233.3	29.300	Ⅳ	後期前葉		沈線文		
115	BJ55	B-Ⅰ	I-03		7	47,212.8	−57,233.8	29.245	Ⅳ	後期前葉		沈線文		
116	BJ28	B-Ⅰ	J-02		386	47,220.7	−57,227.6	28.474	Ⅳ	後期前葉		磨消縄文		
117	BJ33	B-Ⅰ	J-02		537	47,227.0	−57,227.9	27.701	Ⅳ	後期前葉		磨消縄文？		
118	CJ25	C			905	47,268.4	−57,142.6	33.733	Ⅳ	後期前葉		磨消縄文？		
119	CJ26	C							Ⅳ	後期前葉		磨消縄文？		
120	CJ54	C							Ⅳ	後期前葉		磨消縄文		
121	CJ53	C							Ⅳ	後期前葉		磨消縄文		
122	CJ24	C			560	47,268.3	−57,142.3	33.715	Ⅳ	後期前葉		磨消縄文		
123	CJ27	C			561	47,268.3	−57,142.5	33.740	Ⅳ	後期前葉		磨消縄文		
124	CJ52	C							Ⅳ	後期前葉		磨消縄文		
125	BJ35	B-Ⅰ	I-03		244	47,211.5	−57,239.1	28.888	Ⅳ	後期前葉	縄文	沈線文	LR	
					245	47,211.3	−57,239.1	28.842						
			H-03		179	47,212.3	−57,244.1	29.370						
					180	47,212.3	−57,244.0	29.342						
					619	47,213.0	−57,244.5	29.333						
126	BJ34	B-Ⅰ	G-02		776	47,227.5	−57,252.9	28.385	Ⅳ	後期前葉	縄文	沈線文	LR	
					775	47,227.3	−57,253.3	28.259						
					774	47,227.5	−57,253.5	28.185						
					763	47,224.7	−57,255.9	27.561						
127	CJ29	C			559	47,268.1	−57,142.5	33.772	Ⅳ	後期前葉	縄文			
					563	47,268.7	−57,141.9	33.692						
					897	47,268.5	−57,142.1	33.626						
					903	47,268.3	−57,142.4	33.731						
128	CJ30	C			915	47,269.3	−57,151.6	33.982	Ⅳ	後期前葉	縄文			
129	CJ35	C							Ⅳ	後期前葉	縄文		LR	
130	CJ32	C			915	47,269.3	−57,151.6	33.982	Ⅳ	後期前葉	縄文			
131	CJ23	C			915	47,269.3	−57,151.6	33.982	Ⅳ	後期前葉	縄文			
132	CJ34	C			915	47,269.3	−57,151.6	33.982	Ⅳ	後期前葉	縄文			
133	CJ31	C			915	47,269.3	−57,151.6	33.982	Ⅳ	後期前葉	縄文			
134	CJ36	C			915	47,269.3	−57,151.6	33.982	Ⅳ	後期前葉	縄文			
135	CJ33	C			544	47,269.0	−57,151.4	34.051	Ⅳ	後期前葉	縄文		RL	
136	CJ02	C			29	47,247.8	−57,167.2	33.849	Ⅳ	後期前葉				底部
137	BJ48	B-Ⅰ	I-02		535	47,225.7	−57,230.3	28.562	Ⅴ	晩期後葉		沈線文		赤化
138	BJ41	B-Ⅰ	I-03	PU	49	47,216.9	−57,231.2	29.248	Ⅴ	晩期後葉		沈線文		
139	BJ50	B-Ⅰ	H-03		482	47,219.5	−57,249.9	29.168	Ⅴ	晩期後葉		沈線文		赤化
140	BJ43	B-Ⅰ	I-02		421	47,221.0	−57,231.5	27.716	Ⅴ	晩期後葉		沈線文		
141	BJ42	B-Ⅰ	I-02		513	47,223.3	−57,230.5	28.606	Ⅴ	晩期後葉		沈線文		
142	BJ45	B-Ⅰ	I-03	PU	51	47,216.6	−57,231.7	29.281	Ⅴ	晩期後葉		沈線文		赤化
143	BJ44	B-Ⅰ	H-03		121	47,211.6	−57,244.2	29.380	Ⅴ	晩期後葉		沈線文		
					176	47,211.6	−57,244.3	29.372						
144	BJ46	B-Ⅰ	J-03		381	47,219.0	−57,227.0	28.473	Ⅴ	晩期後葉		沈線文		
145	BJ47	B-Ⅰ	I-04		233	47,208.6	−57,237.6	28.536	Ⅴ	晩期後葉		沈線文		
146	AJ05	A	O-07						Ⅴ	晩期後葉	茎条痕			
147	BJ71	B-Ⅰ	I-03		437	47,215.6	−57,232.7	28.943	Ⅴ	晩期後葉	茎条痕			
148	BJ70	B-Ⅰ	G-02		743	47,222.2	−57,259.0	27.569	Ⅴ	晩期後葉	貝殻条痕			
149	BJ72	B-Ⅱ							Ⅴ	晩期後葉	茎条痕			
150	BJ76	B-Ⅰ	I-03		31	47,213.9	−57,236.4	29.179	Ⅴ	晩期後葉	茎条痕			
					32	47,214.0	−57,236.4	29.181						
151	BJ75	B-Ⅰ	H-03		723	47,214.0	−57,245.4	29.425	Ⅴ	晩期後葉	茎条痕			
152	BJ79	B-Ⅰ	I-03		53	47,211.7	−57,236.3	28.949	Ⅴ	晩期後葉	茎条痕			
					700	47,214.4	−57,234.6	28.990						
153	BJ80	B-Ⅰ	H-03		172	47,212.9	−57,244.8	29.442	Ⅴ	晩期後葉	茎条痕			
					721	47,213.0	−57,245.5	29.446						
154	BJ74	B-Ⅰ	H-04		329	47,207.0	−57,240.1	28.544	Ⅴ	晩期後葉	茎条痕			
155	BJ78	B-Ⅰ	I-03		30	47,214.0	−57,236.3	29.234	Ⅴ	晩期後葉	茎条痕			
					259	47,213.8	−57,236.4	29.154						
156	BJ77	B-Ⅰ	J-02		527	47,223.6	−57,227.7	28.047	Ⅴ	晩期後葉	貝殻条痕			底部
157	BJ68	B-Ⅰ	G-02		759	47,222.4	−57,251.2	28.899	Ⅴ	晩期後葉	貝殻条痕			
158	BJ67	B-Ⅰ	G-02		764	47,225.3	−57,254.7	27.787	Ⅴ	晩期後葉	茎条痕			
159	CJ49	C			545	47,268.8	−57,151.5	34.045	Ⅴ	晩期後葉	櫛 or 茎条痕			
160	CJ47	C			166	47,240.8	−57,159.8	33.508	Ⅴ	晩期後葉	茎条痕			CJ51 と同一個体？
161	CJ46	C			277	47,252.9	−57,151.2	33.055	Ⅴ	晩期後葉	茎条痕			
162	CJ48	C			640	47,253.8	−57,151.2	33.404	Ⅴ	晩期後葉	茎条痕			
163	CJ45	C			805	47,291.2	−57,165.1	33.825	Ⅴ	晩期後葉	無文？			
164	CJ51	C			167	47,240.7	−57,159.7	33.522	Ⅴ	晩期後葉	茎条痕？			CJ47 と同一個体？
165	CJ50	C			287	47,253.9	−57,151.4	33.014	Ⅴ	晩期後葉	茎条痕			
166	DJ13	D-Ⅱ	D-08		11	47,308.2	−57,045.9	31.618	Ⅴ	晩期後葉	茎条痕			
167	DJ16	D-Ⅱ	C-08		52	47,312.4	−57,044.0	31.798	Ⅴ	晩期後葉	茎条痕			

第6表(3)　縄文土器属性表3

図番	ID	地区	grid	遺構等	No	X=	Y=	H=	分類	時期	地紋	意匠等	原体	備考
168	DJ19	D−Ⅱ	D−08		2	47,309.0	−57,044.1	31.815						
					61	47,309.0	−57,044.1	31.814	Ⅴ	晩期後葉	茎条痕			
					1	47,309.9	−57,045.6	31.730						
169	DJ18	D−Ⅱ	D−08		14	47,307.5	−57,044.9	31.750	Ⅴ	晩期後葉	茎条痕			
170	DJ17	D−Ⅱ	D−08		8	47,308.4	−57,045.5	31.680	Ⅴ	晩期後葉	茎条痕			
171	DJ09	D−Ⅱ	C−08		131	47,316.3	−57,042.1	31.802	Ⅴ	晩期後葉	茎条痕			
172	DJ14	D−Ⅱ	D−08		64	47,307.7	−57,045.1	31.719	Ⅴ	晩期後葉	茎条痕			
173	DJ12	D−Ⅱ	D−08		109	47,307.6	−57,045.3	31.660	Ⅴ	晩期後葉	茎条痕			
174	DJ11	D−Ⅱ	D−08		108	47,308.2	−57,045.8	31.574	Ⅴ	晩期後葉	茎条痕			
175	DJ10	D−Ⅱ	D−08		36	47,307.4	−57,047.9	31.388	Ⅴ	晩期後葉	茎条痕			
176	BJ99	B−Ⅰ	H−04		349	47,207.0	−57,240.2	28.518	Ⅳ	後期前葉				底部、網代圧痕 1：1：1?
177	BJ97	B−Ⅰ	I−03		2	47,214.0	−57,234.3	29.255						
					15	47,211.6	−57,234.5	28.927	Ⅳ	後期前葉				底部、網代圧痕 1：1：1?
					49	47,211.9	−57,235.7	28.957						
178	BJ98	B−Ⅰ	I−03		22	47,214.1	−57,235.5	29.221						
					25	47,214.0	−57,235.8	29.239	Ⅳ	後期前葉				底部、網代圧痕 1：1：1?
179	CJ21	C			296	47,254.5	−57,150.8	32.944	Ⅳ	後期前葉				底部、網代圧痕 1：1：1
180	DJ15	D−Ⅱ	D−08		99	47,308.3	−57,046.4	31.555	Ⅴ	晩期後葉	茎条痕			底部
181	DJ20	D−Ⅱ	D−08		41	47,307.2	−57,045.9	31.616	Ⅴ	晩期後葉				底部
					45	47,306.6	−57,047.6	31.377	Ⅴ	晩期後葉	茎条痕			

第7表　土製品属性表

図番	ID	地区	grid	遺構等	No	X=	Y=	H=	器種	時期	径(cm)	厚(cm)	重量(g)	備考
182	AJ06	A	N−07		9	47,333.5	−57,366.6	44.666	土製耳飾	中期後葉	3.9	1.6	23.73	表／刺突文、裏／沈線文？

第4節　八里向山C遺跡土壌自然科学分析結果

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

八里向山C遺跡は、能美・江沼丘陵北東部に近い鍋谷川右岸の段丘上に位置する。今回の発掘調査により、古墳盛土層または表土層の下位の土層中から、旧石器時代の石器が出土している。

今回の自然科学分析調査では、出土した石器の年代観を検討するために、層序対比を行う。層序対比には火山ガラス比分析を行い、土層中に混交する指標テフラ由来の細粒の火山ガラスの産状を調べ、降灰層準を推定する。また、本遺跡の堆積土層の由来、成因を検討するために、鉱物分析、粒度分析、土壌の化学性分析として炭素含量・窒素含量・炭素率、リン酸吸収係数、酸性シュウ酸塩可溶のケイ酸、アルミニウム、鉄では土壌が火山灰土壌か否かを検討し、それらを総合することにより土層の由来・成因を考える。

第1項　層序対比

1. 試　料

土層断面は上位より1層～6層に分層されている。1層は灰褐色～褐色土、2層・3層は灰褐色土、4層はにぶい黄褐色土、5層は赤褐色土、6層はにぶい褐色～明褐色土とされる。なお、1層は表土層であり、2層は古墳盛土層または旧表土層と考えられている。分析時の観察では、2層以下の土層はいずれも粘土である。

試料は2層～6層上部まで、上位より試料番号1～18が連続して採取されている。試料番号1・2は厚さ5cm、他の試料は厚さ3cmである。以上の18点を分析試料とする。

2. 分析方法

試料約40gに水を加え超音波洗浄装置により分散、250メッシュの分析篩を用いて水洗し、粒径1/16㎜以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた粒径1/4㎜－1/8㎜の砂分をポリタングステート（比重約2.96に調整）により重液分離、得られた軽鉱物分を偏光顕微鏡下にて観察、火山ガラスとそれ以外の砕屑物250粒を計数し、砕屑物中における火山ガラスの量比を求める。火山ガラスは、便宜上軽鉱物に入れ、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多くもった塊状および気泡の長く延びた繊維束状のものとする。

3. 結　果

結果を第8表・第46図に示す。なお、試料番号4・7・12・17については、後述のように軽鉱物分析を行っているため、火山ガラス以外の砕屑物についても

試料番号	斜方輝石	角閃石	不透明鉱物	その他	合計	バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	石英	長石	その他	合計
1	－	－	－	－	－	44	0	2	－	－	204	250
2	－	－	－	－	－	31	3	2	－	－	214	250
3	－	－	－	－	－	33	0	1	－	－	216	250
4	72	131	33	14	250	34	2	0	22	25	167	250
5	－	－	－	－	－	27	3	0	－	－	220	250
6	－	－	－	－	－	25	1	0	－	－	224	250
7	60	147	18	25	250	38	1	2	15	23	171	250
8	－	－	－	－	－	33	1	1	－	－	215	250
9	－	－	－	－	－	32	1	3	－	－	214	250
10	－	－	－	－	－	31	3	0	－	－	216	250
11	－	－	－	－	－	21	1	0	－	－	228	250
12	67	130	32	21	250	12	4	0	18	36	180	250
13	－	－	－	－	－	10	4	3	－	－	233	250
14	－	－	－	－	－	11	4	0	－	－	235	250
15	－	－	－	－	－	6	5	1	－	－	238	250
16	－	－	－	－	－	1	4	1	－	－	244	250
17	59	133	40	18	250	1	2	0	22	35	190	250
18	－	－	－	－	－	1	4	1	－	－	244	250

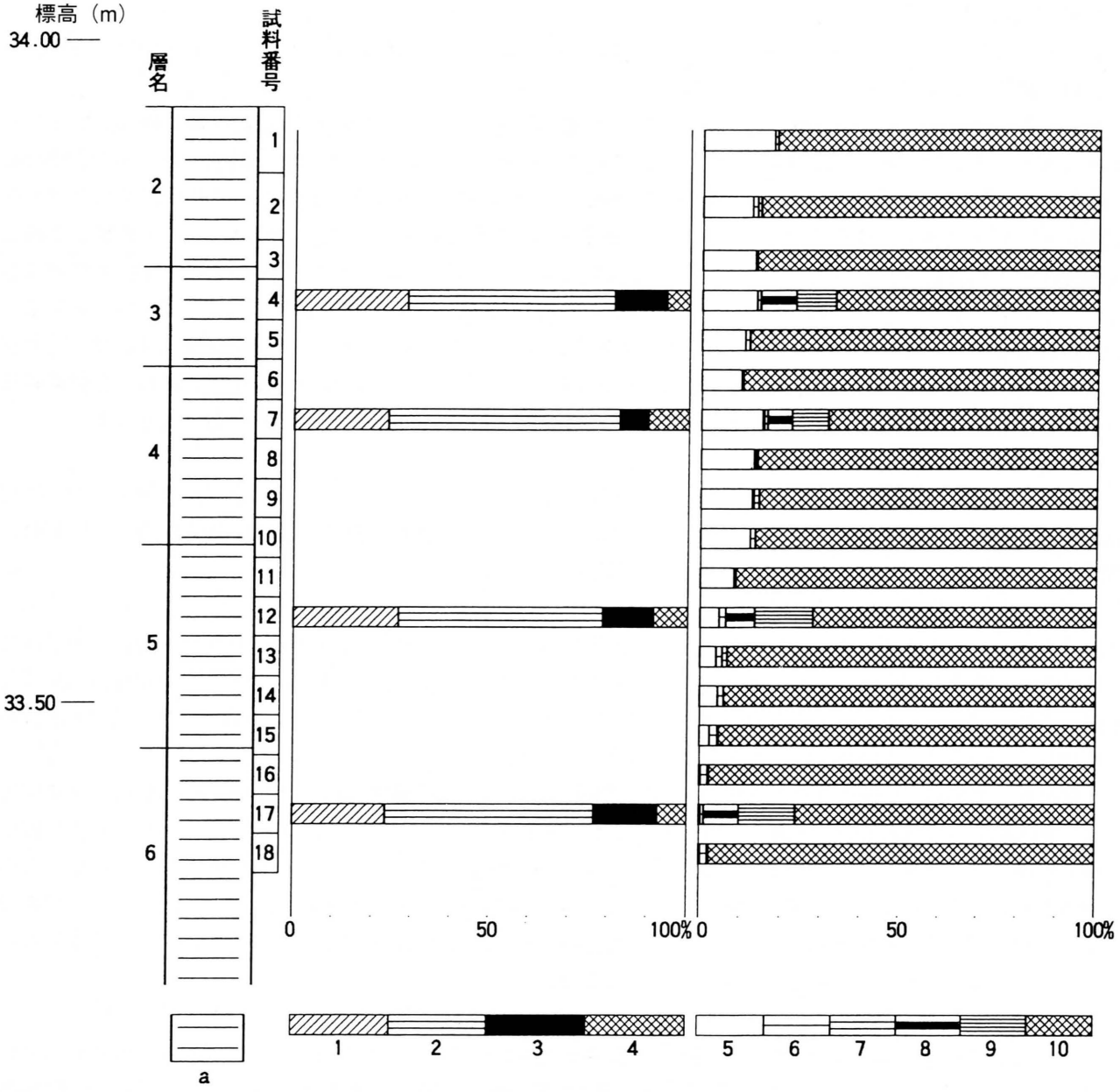
第8表　重鉱物および火山ガラス比・軽鉱物分析結果

同定を行っている。

試料番号15より上位では、バブル型火山ガラスが少量から微量認められる。下位より見て、試料番号15から試料番号7で漸増、試料番号7から6でやや減少、試料番号6から4で漸増、試料番号4から2でほとんど増減なく、試料番号2から1で漸増する。この火山ガラスは、その形態と色調および層準から、姶良Tn火山灰(AT；町田・新井，1976）に由来すると考えられる。ATは、鹿児島県の姶良カルデラを給源とし、降灰年代は約2.1～2.5万年前と考えられている（町田・新井，1992)。一般に、土壌中に特定のテフラが混交して産出する場合、テフラ最濃集部の下限が降灰層準に一致する場合が多い（早津，1988)。しかし、本地点の産状からその降灰層準を推定することはできない。

4.考　察

今回の分析結果から、ATの降灰層準を推定することはできないが、その産状より概ね4層以上がATの降灰層準すなわち約2.1～2.5万年前以降に堆積したものと考えられる。したがって、3層から4層にかけて出土した石器は、古くとも約2.1～2.5万年前以降のものと考えられる。



第46図　柱状図および重鉱物組成・火山ガラス比・軽鉱物組成

a：粘土．1：斜方輝石．2：角閃石．3：不透明鉱物．4：その他．5：バブル型火山ガラス．6：中間型火山ガラス
7：軽石型火山ガラス．8：石英．9：長石．10：その他

第２項　堆積物の由来

1. 試　料

前述の土層断面の中で、試料番号 4・7・12・17 を分析試料とする。

2. 分析方法

（1）重鉱物分析

前述の火山ガラス比分析により得られた重鉱物を偏光顕微鏡下にて 250 粒に達するまで同定する。同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するもののみを「不透明鉱物」とする。「不透明鉱物」以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は「その他」とする。

（2）軽鉱物分析

軽鉱物分析では、前述の火山ガラス比分析の際に火山ガラス以外の「その他」とした砕屑物についても同定する。同定の際、不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は「その他」とする。

（3）粒度分析

砕屑性堆積物研究会（1983）を参考に 63μm 未満の粒子は比重計法、63μm 以上の粒子はふるい分け法で行った。以下に操作工程を示す。

試料を風乾後、軽く粉砕して篩別（2000μm 未満）する（風乾細土試料の作成）。風乾細土試料 50.00g を 1l ビーカーに秤りとり、蒸留水と 30% 過酸化水素水を加え、熱板状で有機物分解を行う。分解終了後、水を約 500ml と分散剤（4% カルゴン）20ml を加え、攪拌しながら 30 分間音波処理を行う。1l 沈底瓶にこの懸濁液すべてを移し、往復振とう機で 1 時間振とうする。振とう終了後、水で全量を 1l にする。この沈底瓶を 1 分間手で激しく振り、直ちに静置する。所定の時間（1、2、5、15、30、60、240、1440 分後）に比重計を懸濁液中に挿入してその値を読みとり、別に測定した液温・メニスカス補正・土粒子の真比重から加積通過率（質量%）を求める。比重計による読みとりが終了した後、この懸濁液を 63μm 篩で水洗いする。63μm 篩残留物を 105℃ で 5 時間熱乾後、1000μm、500μm、250μm、125μm、63μm 篩でふるい分け、各篩毎に残留物の質量を測定し、加積通過率（質量%）を求める。比重計およびふるい分けで求められる加積通過率から、各粒径の重量%を求める。

（4）土壌の化学性分析

炭素、窒素、炭素率は CN コーダー法、リン酸吸収係数は 2.5% リン酸アンモニウム法（土壌標準分析・測定法委員会，1986）、酸性シュウ酸塩可溶のケイ酸、アルミニウム、鉄は選択溶解分析法（日本分析化学会編，1991）でそれぞれ行った。以下に各分析項目の目的と操作工程を示す。

a）炭素、窒素、炭素率

炭素と窒素は、土壌有機物（腐植）の量的な把握の指標となる成分である。土壌有機物は土壌に供給された植物遺体が分解し、腐植といわれる高分子化合物として再合成されたものである。その供給源が地表に生育していた植物であることから、腐植含量は地表の植生環境の指標となりうる。また、累積土壌では過去の地表の検出に用いることができるともいわれている（竹迫，1990a）。

風乾細土試料の一部を粉砕し、0.5 ㎜の篩を全部通過させる（微粉砕試料）。微粉砕試料 1,000 ㎎前後を精秤し、助熱剤（酸化コバルト）5.0g と混合する。これをサンプルボードに乗せて CN コーダー（柳本製作所製：MT－600）に挿入する。挿入された試料をキャリアガス（He）気流中で 950℃ に加熱燃焼する。発生した燃焼ガスを純化させ、CO_2 および N_2 の組成にする。次いで希釈→分取の工程を経て、TCD 検出器により炭素および窒素の濃度を測定する。この測定値から、乾土あたりの炭素量（T－C%）と窒素量（T－N%）を求める。また、炭素率は求められた炭素量を窒素量で除して求める。

b）リン酸吸収係数

リン酸吸収係数とは、土壌のリン酸固定力の強さを表す係数である。わが国では火山灰土壌の分布が広いので、この係数は土壌分類において火山灰土壌と非火山灰土壌を区別するめやすとなる。リン酸吸収係数 2000 以上は火山灰土壌、1500～2000 は火山灰の影響の強い土壌といわれ、1000 以下の場合は非火山灰土壌が多い（三好ほか，.1983）。

乾土として10.00gになるように風乾細土試料を遠沈管にはかりとり、2.5%リン酸アンモニウム液（pH7.0）20mlを加え、時々振り混ぜながら室温で24時間放置する。乾燥ろ紙を用いてろ過し、そのろ液100μlを500mlメスフラスコに正確にとり、水約35mlとリン酸発色a液10mlを加えて定容し、よく振り混ぜる。発色後30分間放置し、420nmで比色定量した。定量された試料中のリン酸量を2.5%リン酸アンモニウム液(pH7.0)のリン酸量から差し引き、リン酸吸収係数を求める。

c）酸性シュウ酸塩可溶のケイ酸、アルミニウム、鉄

酸性シュウ酸塩可溶のケイ酸・アルミニウム・鉄の測定は土壌母材が火山灰か否かの判定に用いられる分析法である（竹迫，1990b）。これは、火山灰性土壌は多孔質で表面積が広いので風化が早いため、特異的に酸性シュウ酸塩に溶解するケイ酸・アルミニウム・鉄などの水和酸化物を多量に生成するためである。ここで、酸性シュウ酸塩に溶解するケイ酸・アルミニウムはアロフェン・イモゴライトなどのケイ酸アルミニウムに、鉄は非晶質な鉄和水酸化物、あるいはアルミニウム－腐植複合体に由来する（日本分析化学会，1991）。

風乾細土試料1.00gに0.2Mシュウ酸アンモニウムと0.2Mシュウ酸の4：3混合液（pH3に調整）100mlを加え、暗条件で4時間振とうする。0.4%の高分子凝集剤を5滴加えて激しく振とうし、遠心分離後ろ過してろ液を得る。ろ液の一定量を20,000mg/lのK（カリウム）を含む（1：40）塩酸溶液で5倍に希釈する。この定容液について、ケイ酸はモリブデンブルー吸光光度法で、アルミニウムと鉄は原子吸光光度法でそれぞれ定量する。定量値と風乾細土試料水分量から乾土あたりのケイ酸（SiO_2%）、アルミニウム（Al_2O_3%）、鉄（Fe_2O_3%）の含有量をそれぞれ求める。

3. 結　果

（1）重鉱物分析

結果を第8表・第46図に示す。いずれの試料も多量の角閃石、中量の斜方輝石、少量の不透明鉱物からなる重鉱物組成を示す。

（2）軽鉱物分析

結果を第8表・第46図に示す。火山ガラスは前述のように上位の試料番号4・7で比較的多いが、下位の試料番号12・17では少ない。そのほかには、いずれの資料も少量の石英と長石を含む。ただし、変質などで同定が不可能な粒子が多い。

（3）粒度分析

分析結果を第9表に示す。

いずれも63μm未満の粒子が90%前後の著しく高い値を示し、各試料が泥（63μm未満のシルト・粘土粒子）を主体とした粒度組成であることが分かる。その中で、試料番号17は相対的に見てやや砂の多い組成にあることが認められる。また、砂粒径（63μm以上）だけの組成で見れば、500～125μm粒径の粒子が比較的多く存在する。

試料番号	粒度組成（%）						
	2000μm<	2000μm ～1000μm	1000μm ～500μm	500μm ～250μm	250μm ～125μm	125μm ～63μm	63μm>
4	0.1	0.2	0.6	2.3	2.0	0.9	93.9
7	0.4	0.3	1.1	2.8	1.9	1.2	92.3
12	0.0	0.3	0.8	3.5	2.7	1.2	91.5
17	0.2	0.5	1.3	5.4	4.2	1.9	86.5

注（1）単位：重量%で表示。

第9表　粒度分析結果

(4) 土壌の化学性分析

a) 炭素、窒素、炭素率

各試料とともに炭素量、窒素量が著しく低い値を示す。その中で、試料番号4、7の炭素含量はわずかに高い傾向にある。また、炭素率も各試料10前後の近似した値を示すが、概して試料番号4、7の方が高い傾向にある。堆積層全体には炭素、窒素量が著しく少ない。

b) リン酸吸収係数

いずれの試料も1000～1200程度の値を示す。

c) 酸性シュウ酸塩可溶のケイ酸、アルミニウム、鉄

各試料ともにケイ酸含量が著しく低い。また、アルミニウム・鉄も火山灰を母材とする立川ローム層や武蔵野ローム層のアルミニウム・鉄含量（竹迫，1990b）に比較すると低い値である。その中で、試料番号17の鉄が相対的に高い値を示す。

試料番号	炭素含量 C%	窒素含量 N%	炭素率	リン酸吸収係数	酸性シュウ酸塩可溶（%）			土色・土性
					SiO_2	Al_2O_3	Fe_2O_3	
4	0.42	0.05	9	1140	0.06	1.47	0.75	10YR4/6 褐・HC
7	0.42	0.04	10	1270	0.05	1.50	0.95	10YR5/8 黄褐・HC
12	0.23	0.03	7	1120	0.02	1.48	0.98	10YR5/6 黄褐・HC
17	0.25	0.04	7	1210	0.04	1.47	1.14	10YR5/8 黄褐・HC

注（1）単位：乾土あたりで表示。
（2）土色：「新版標準土色帖」（農林省農林水産技術会議研修，1967）により判定。
（3）土性：土壌調査ハンドブック（ペドロジスト懇談会編，1984）の野外土性判定法による。
HC…重埴土（ほとんど砂を感じないで、よくねばる。）

第10表　土壌の化学性分析結果

4. 考　察

小松市周辺の地形は、東部には北東－南西方向に連なる能美山地とその山麓に平行する能美・江沼丘陵や段丘があり、北部には手取川の扇状地が広がり、西部には海岸線にそって砂丘が形成されている。本遺跡が立地する段丘は更新世中期に形成されたもので、砂・泥・礫層により構成されている（日本の地質『中部地方Ⅱ』編集委員会，1988）。本地域の地質は、日本の地質『中部地方Ⅱ』編集委員会（1988）で以下のように記載されている。

小松市南東部の山地一帯・鶴来町より南の手取川の中流部には、おもに流紋岩～デイサイト質の凝灰角礫岩や軽石凝灰岩からなる糸生累層上部層相当層が分布する。下部に溶結凝灰岩をともない、いくつかの流紋岩質溶岩が知られている。また、手取川の上流域には一部、飛騨片麻岩および古期花崗岩や手取層群と呼ばれる頁岩・砂岩・礫岩なども分布する。

一般的に流紋岩やデイサイトの斑晶には、おもに角閃石や斜方輝石、黒雲母、磁鉄鉱、石英、長石などが含まれる。したがって、鉱物分析結果により認められた各鉱物は本遺跡周辺の地質に整合する。

粒度分析結果から、各試料とも泥を主体とした粒径組成であり、いずれも風化が著しく進んで細粒になった堆積物であると考えられる。これは、軽鉱物分析において、変質等で同定不可能な粒子が多かったことからも言える。

今回の炭素含量、窒素含量、炭素率の結果では、過去にとくに腐植の集積があったとは考えにくく、腐植集積の起こりにくい環境が推定される。ここで、腐植集積は動植物遺体などから供給される有機物量と分解・消失する有機物量の差に規定される（永塚・大羽，1988）。一般的には気候・水分条件などが同じ場合には有機物供給量が多いほど腐植集積量は多くなるが、有機物量が少なくても気候条件として寒く、土壌水分条件がより嫌気的（酸化的の反対）では腐植の分解が遅くなり、腐植の集積が起こる。しかし、本堆積層が堆積当時どのような気候・水分条件であったかは分からないため、腐植集積が起こらなかった原因は現時点ではわからない。

今回のリン酸吸収係数、酸性シュウ酸塩可溶のケイ酸・アルミニウム・鉄の分析結果から、本堆積層は火山灰を主たる母材とした土壌ではないと考えられる。地域的にも本地域には後期更新世以降降灰したテフラは前述のATや鬼界－アカホヤ火山灰（K-Ah：町田・新井，1978）など全国規模で降灰したテフラが再移動した二次堆積物も非常に少なかったことが考えられる。ただし、ATやK-Ah以外にも九州の阿蘇火山や中国地方の三瓶火山や大山火山などから噴出した広域テフラの降灰はあったはずである。これらのテフラに由来する砕屑物が少ないながらも本遺跡の土壌中に含まれているため、リン酸吸収係数が非火山灰土壌の目安となっている1000よりもやや高くなっていると考えられる。なお、試料番号17で鉄が相対的に高い値を示したことは、上位からの移動・集積によるものと考えられる。

以上のことにより、本遺跡の土層は、主に非火山灰性の砕屑物がおそらく風成堆積したものと考えられる。これは、2～5層ではATの火山ガラスがほぼ一様に拡散して認められているためである。ただし、6層よりもさらに下位の段丘地形を構成している砂礫層の直上には、段丘が離水する過程での水成堆積物も存在すると考えられる。砕屑物の由来としては遺跡の北に位置する手取川の扇状地や西に位置する海岸砂丘の堆積層が考えられるが、いずれにしても後期更新世～完新世にわたってほぼ同じ給源地域からの風塵が供給された可能性がある。ただし、前述のようにATなどのテフラの一次堆積はあったと考えられるが、移動、再堆積が繰り返されたために降灰層準が不明瞭になったのであろう。また、細粒の堆積物となったのは、後天的な地下水の影響により堆積物の風化が進んだためかもしれない。

今後は、周辺での分析例を蓄積し、本地域の段丘上の堆積物の由来に関する検討を行うことが望まれる。

引用文献

土壌標準分析・測定法委員会編（1986）『土壌標準分析・測定法』．354p．，博友社．

早津賢治（1988）テフラおよびテフラ性土壌の堆積機構とテフロクロノロジー－ATにまつわる議論に関係して－．考古学研究，34,p.18－32.

町田　洋・新井房夫（1976）広域に分布する火山灰－姶良Tn火山灰の発見とその意義－．科学，46,p.339－347.

町田　洋・新井房夫（1992）火山灰アトラス．276p．，東京大学出版会．

三好　洋・嶋田永生・石川昌男・伊達　昇（1983）リン酸吸収係数．『土壌肥料用語事典』，259p．，農文協：p.103－104

永塚鎮男・大羽　裕（1988）腐植の集積量を規定する諸要因．『土壌生成分類学』，338p．，養賢堂：p.154－156

日本分析化学会編（1991）土壌の無機成分．『分析化学便覧』，1426p．，丸善：p.1317－1320.

日本の地質『中部地方Ⅱ』編集委員会（1988）日本の地質5「中部地方Ⅱ」，310p．，共立出版．

農林省農林水産技術会議事務局監修（1967）新版標準土色帖．

砕屑性堆積物研究会編（1983）「堆積物の研究法」．地学双書，24,377p，地学団体研究会．

竹迫　紘（1990a）土壌分析法．浅海重夫編『土壌地理学』，302p．，古今書院：p.122－147.

竹迫　紘（1990b）石畑狭山嶺遺跡土壌の分析結果についてTAMM'A試薬可溶遊離鉄およびアルミニウム．石畑狭山嶺遺跡調査報告書自然科学編，p.33－35，石畑狭山嶺遺跡調査団．

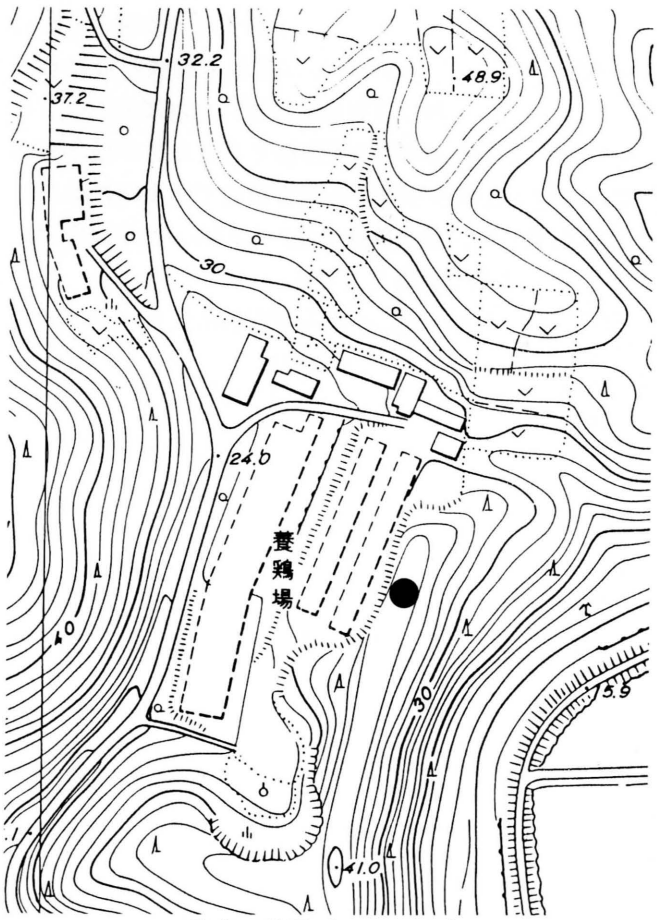
第5節　補　遺

陥　穴（第47図）

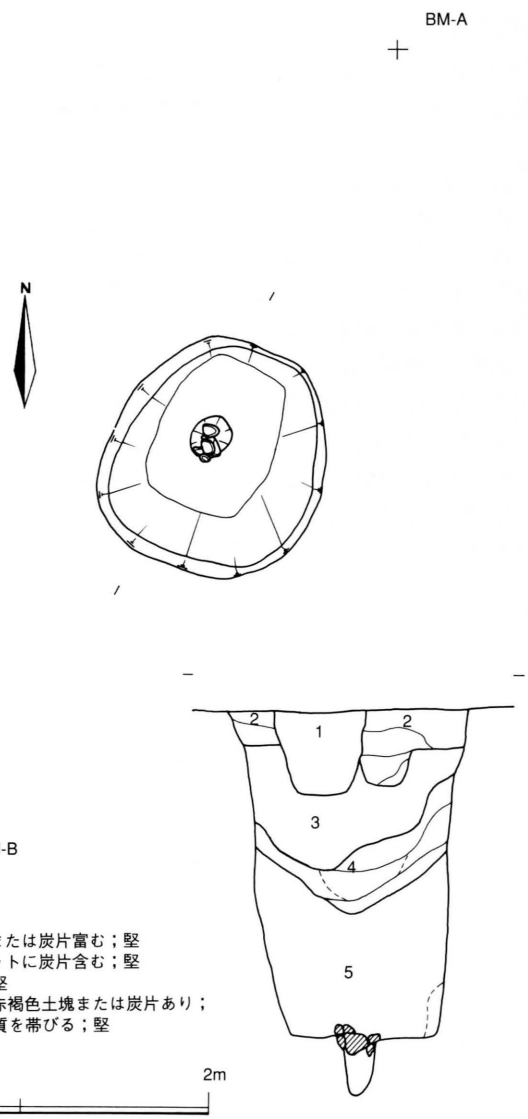
A遺跡からB遺跡に延びる主尾根からF遺跡に向かって分岐する尾根上、分岐点の鞍部を挟んだ北端頂部の、F古墳群と連絡する緩やかな鞍部を臨む緩斜面に1基のみ検出された。上部はピットが2基掘削されているが、他にピットは検出されていない。2層から土器片が出土し、時代は不詳だが、少なくとも縄文土器ではない。

陥穴は、調査区が設定された区域外に位置するため、F遺跡の全体図にはなく、トレンチ内に任意に設定されたベンチマーク（BM）の座標のみが残っている。検出面からの深さは約175㎝を測り、プランは底面で楕円形、中央のピットが杭穴と思われる。ピット上部の礫は、廃絶行為に伴うと思われ、5層で上部から下部にかけて砂質が顕らかになるのは級化的構造のようだ。これが陥穴廃絶に伴う埋め戻し土と思われる。中央が凹む断面形と級化的構造は、埋め戻し後二次的に形成されたと考えられ、土を掻き込むだけで埋め戻され、隙間の多い状態であったためだろう。4層は流入土、3層はその後いずれの時期に完全に埋め戻したものか、堅く締まっていて級化的構造も認められず、丹念に突き固められたようだ。陥穴に伴う土器の出土はない。

BM－A：X=47,133.736m；Y＝－57,379.618m
BM－B：X=47,129.293m；Y＝－57,381.919m



陥穴の位置（S=1/2,500）



1. 2.5YR～7.5YR　3/3～4/8（暗）赤褐色土：明赤褐色土塊または炭片富む；堅
2. 2.5YR～7.5YR　4/3～5/8　にぶい赤褐色～明褐色土：ピットに炭片含む；堅
3. 2.5YR　4/3～4/4　にぶい赤褐色土：明赤褐色土塊富む；堅
4. 2.5YR～5YR　4/4～5/6　にぶい赤褐色～明赤褐色土：明赤褐色土塊または炭片あり；
5. 2.5YR　4/8～6/8　赤褐色～橙色土：下層にしたがって砂質を帯びる；堅

0　2m

第47図　F遺跡：陥穴（S=1/40）

まとめ

本報告では、とくに石器群について、当初、旧石器時代と縄文時代の資料の弁別を目論んだわけだが、分類作業の過程では、両者の弁別に至らなかった。結論を先に述べるならば、現段階の所見として、構成要素を著しく欠落する石器群の断片が複合しているようだ。

旧石器時代の遺物として、ナイフ形石器（B遺跡Ⅱ区・C遺跡）、有樋尖頭器（D遺跡Ⅰ区）、米ヶ森型台形石器と思しきもの（E遺跡）が見られたほかは、C-1号墳（SX01）で出土した縦長剥片がその候補に挙がるだけで、これらに伴う石核などの製作資料の抽出は出来なかった。本報告で縦長剥片として一括した資料は、全てが必ずしも旧石器時代に結びつくものではなく、とくに石核は、念仏林遺跡における樫田の分類に適合する資料が多い。これを母岩別に見ても、分類しきれなかった部分を留保した上で、縦長剥片を含めて母岩分類は旧石器資料の抽出には有効に作用しなかった。報告者自身の観察眼の甘さは勿論だが、少なくとも、縄文時代の資料であっても、原礫の最初の加工は礫面を縦剥ぎする剥片剥離から始まると考えざるを得ない。なかんずく、剥片類の中に目的剥片と認めうる資料が欠落していて、これが石器群の評価をより困難にしているのかもしれない。

遺物の分布状況の観点からは、調査者・報告者の立場として不運なことに、複数の時期・時代の遺構・遺物が、次章以降の報告分を含めて、ことごとく重複する状況であった。これは地形に起因する要素が大きいと思われる。D遺跡Ⅰ区で検出されたユニットは、有樋尖頭器が出土したことから調査時には旧石器時代の製作跡としての可能性が見込まれたが、D-2号墳（SX02）の周溝や主体部に切られていて、造墓に伴う撹乱も勘案しなければならない状況ではあった。結果として、既に述べてきたように、母岩の分類では有樋尖頭器自体は単独出土と見なされ、Rh-6がユニットの主体であることもあり、どちらかといえば縄文時代の製作跡と考える方が穏当であろう。ただし、流紋岩、とくにRh-4・Rh-5・Rh-6の石材が、母岩と石核の分類から母岩単位で縄文時代の所産であると判断する根拠とはいえ、縄文時代の剥片石器（とくに石鏃）は、標本数は少ないながら、出現頻度という意味において安山岩（Aa）主体であり、剥片・石核といった製作資料と乖離している。

D遺跡Ⅰ区におけるAaの剥片・石核は、パティナの形成がとくに著しいことから旧石器時代の所産である可能性が高いと目されたが、土壌分析の結果を敷衍すれば、本遺跡群の立地する丘陵地は、非常に風化の進んだ重埴土層に覆われていて、しかも地質的には、全般にパミス質の岩盤を起源とする土壌と考えられることから、風化の速い地質的条件を具備している可能性も勘案する必要があり、埋蔵環境が風化の速い土壌であれば、パティナの形成にも影響は及ぶだろう。また、地下水の条件等で風化の進行に差が生じるという指摘もある。

件のAaの、とくに石核Fは、米ヶ森技法に類似したものではないかという複数の指摘もあったが、同様な技法は縄文時代早期の西日本にも見られるという。また、E遺跡の米ヶ森型台形石器と思しきものは、背面に見える並列した剥離痕と寸詰まりのサイズ、蝶番状の下辺に調整が入っているという属性を重視したものだが、この石材はRh-2で全く違う。調査時に視覚的に認識できたD遺跡Ⅰ区のユニットですら、原位置がどれほど保たれていたか保証の限りではないのだから、全般に散漫な遺物の分布状況と、有意に結びつかない石器群のそれぞれのアイテムは、冒頭に述べたような断片の複合と考えるほかないのである。

最後に縄文土器について、とくに特徴の見えにくいⅡ群について若干の補足をしておきたい。

Ⅱ群は早期末葉の土器群であり、六橋遺跡Ⅱ群に対比したが、本遺跡群の場合は、六橋遺跡で時期比定の指標となった東海系の条痕文土器が欠落している。とくに類例検索のようなことはしていないが、一般的な傾向として東北～関東方面の東日本の系譜で理解される土器群であり、繊維を含む軽鬆な胎土を最大の特徴とする。管見では、東北北部の早稲田5類、東北南部の梨木畑式、南関東の打越式あたりを中心に類縁性をもつ土器群として挙げられそうだが、資料には指標となるべき装飾部分が欠落しているため、決め手を欠く。

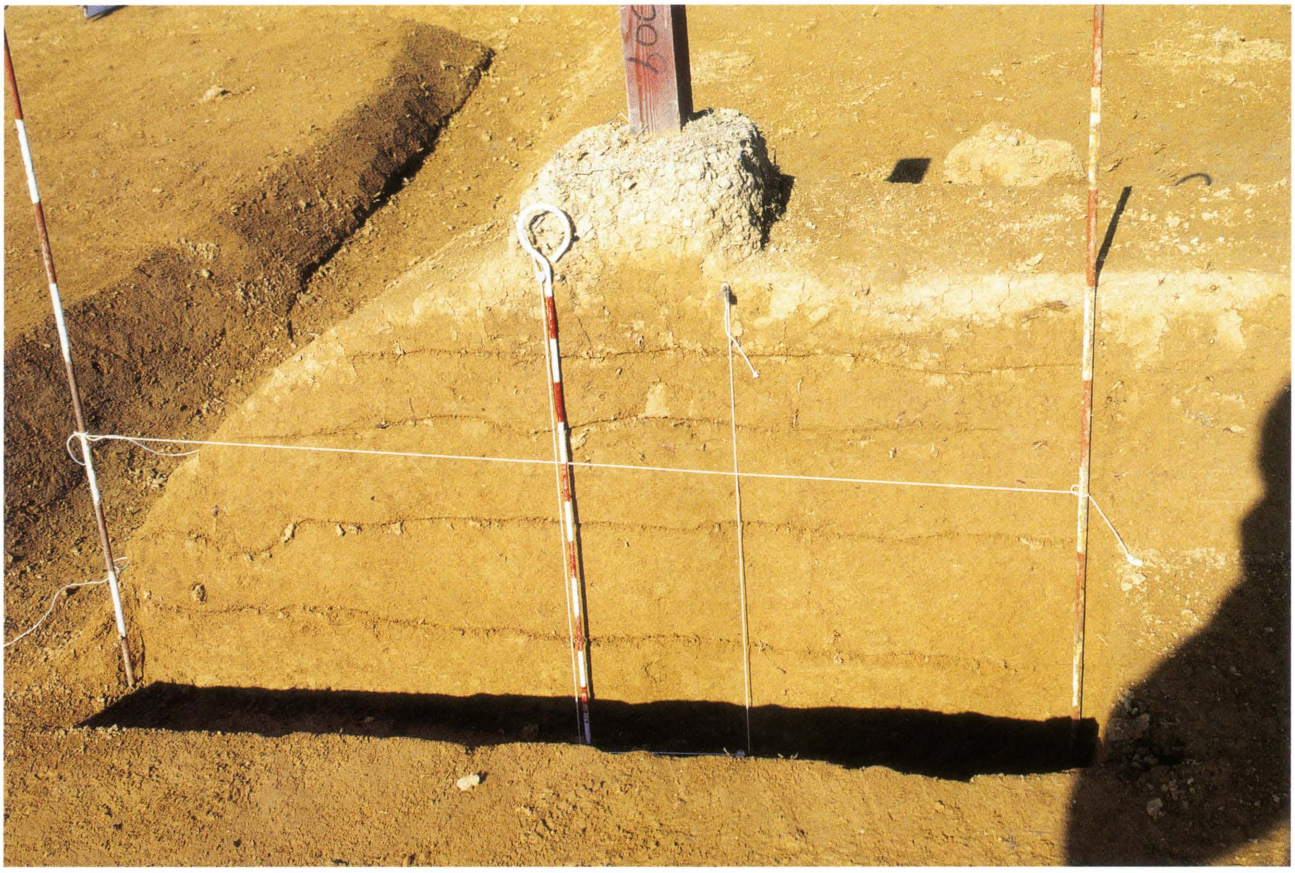
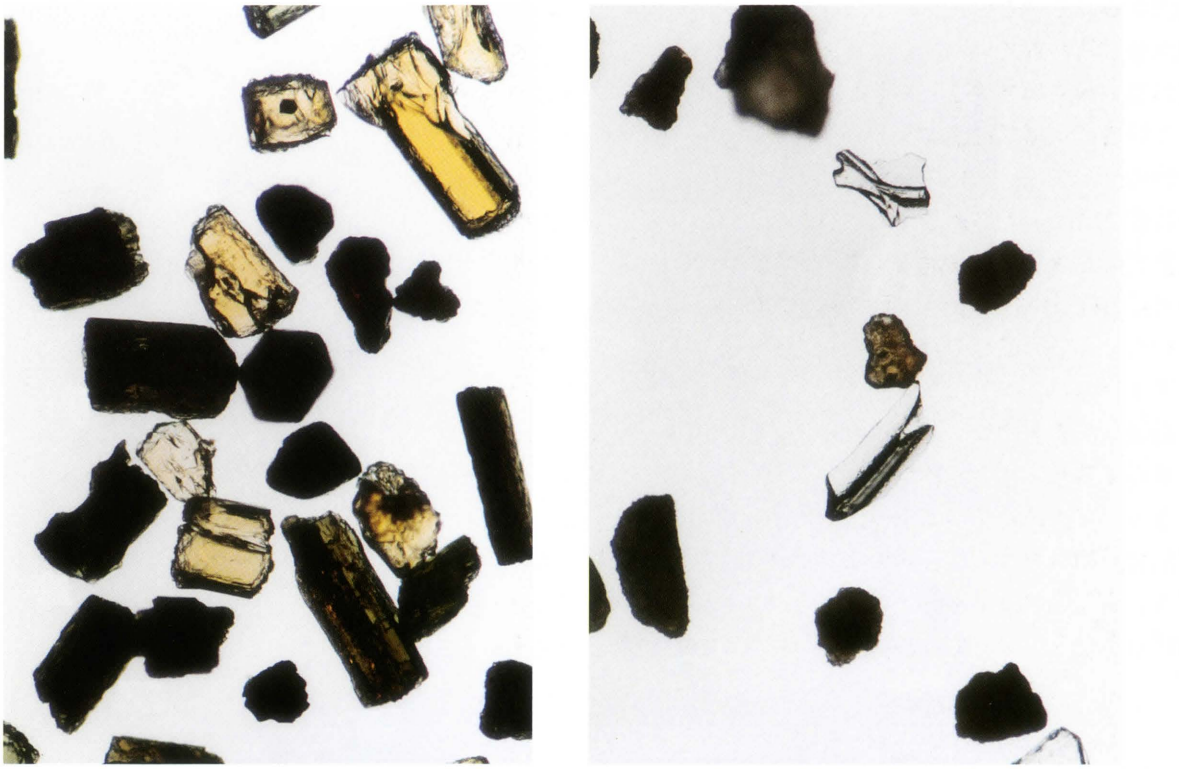


写真１　C 遺跡 SX01 前方部：土壌分析試料を採取したセクション



（1）　重鉱物（試料番号 4）

Opx：斜方輝石　Ho：角閃石

（2）　AT 火山ガラス（試料番号 1）

写真２　C 遺跡：試料中の重鉱物および火山ガラス

写真３　B 遺跡Ⅰ区 SI01：集石検出状況

写真４　B 遺跡Ⅰ区 SI01：ピット内部の礫

写真５　Ｄ遺跡Ⅰ区：SX02 上　石器ユニット検出状況

写真６　Ｄ遺跡Ⅰ区：石器ユニット検出地点の有樋尖頭器出土状況

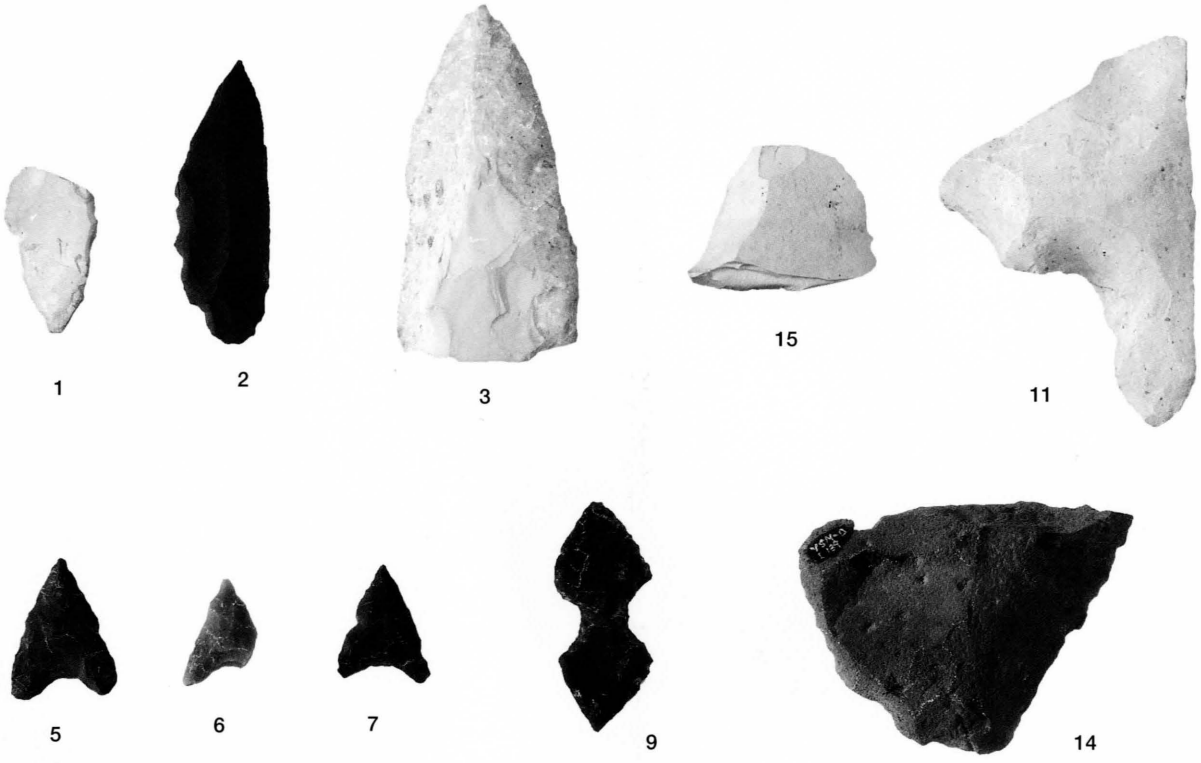


写真 7　剥片石器

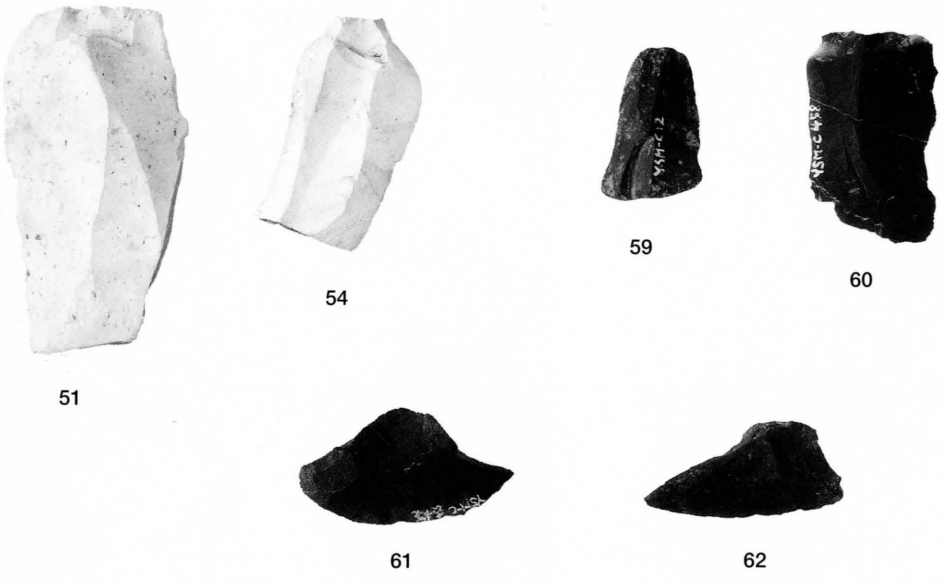


写真 8　剥片類

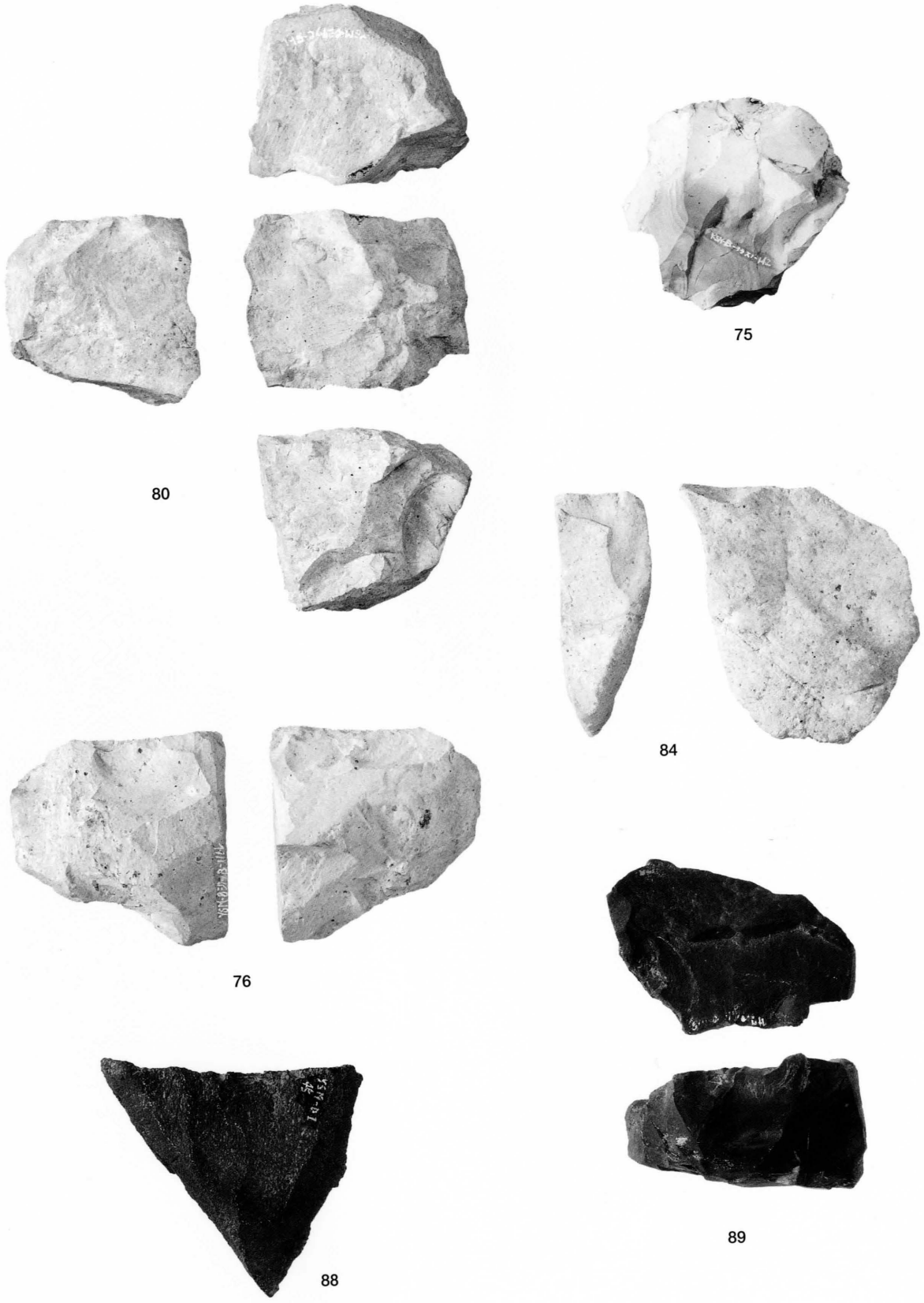
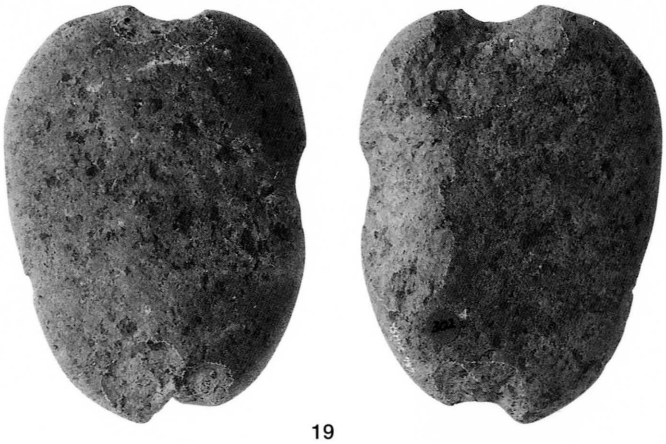


写真9　石　核



19

23

26

32

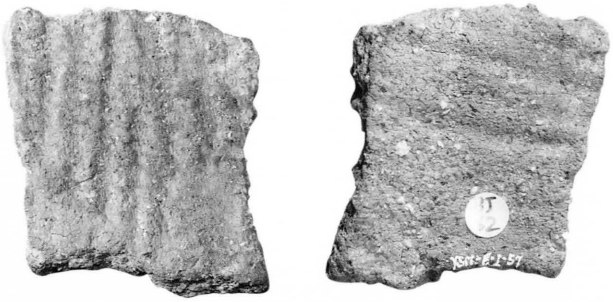
28

33

写真 10　礫核石器

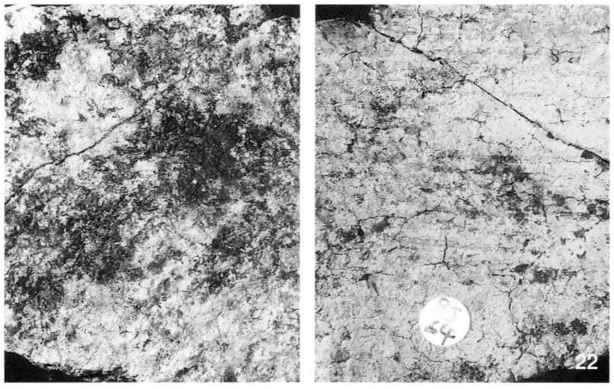
(1)　押型文土器（Ⅰ群）

(2)　縄文土器（Ⅱ群 A）



(3)　表裏縄文土器（Ⅱ群 B）

(4)　条痕文土器（Ⅱ群 D）

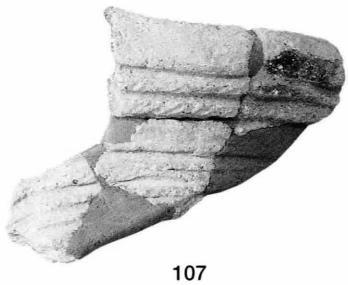


(5)　縄文条痕文土器（Ⅱ群 C）

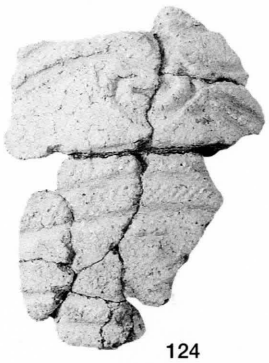
(6)　木目状撚糸文（Ⅲ群）

(7)　網目状撚糸文？（Ⅲ群）

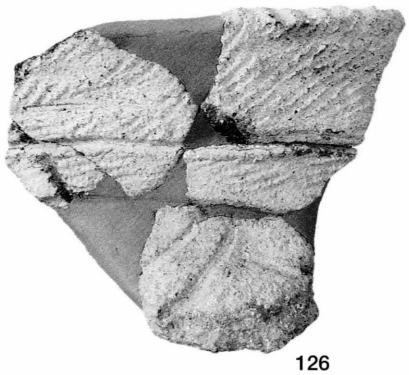
写真 11　縄文土器 1



107

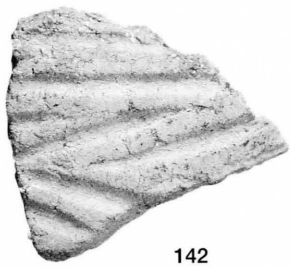


124



126

(8)　後期前葉の土器（Ⅳ群）



142

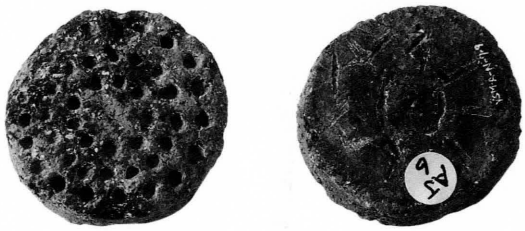
139

(9)　晩期後葉の土器（Ⅴ群 A）

152

(10)　条痕文土器（Ⅴ群 B）

写真 12　縄文土器 2



182

写真 13　土製耳飾